

法政大学 大学院

入学案内 2020





フロネーシスの世界へようこそ

法政大学総長 田中 優子

大学院とは、どのようなところでしょうか？大学院は、学問を心から楽しむ場所です。学位をとるところ、と思う人もいるかも知れませんが、それも事実です。しかし皆さんが学問の面白さと知的な興奮を少しも感じることなく、無理に修士論文や博士論文を書いても、それは誰に対しても説得力をもたないでしょう。大学院は、個々の学生が自分にとって本当に大切だと思われるテーマを発見してこそ、面白い場になるのです。どうか自分の選んだテーマをあらゆる方面から観察し、研究し、究極の研究テーマを見つけてください。それが見つかれば、皆さんの大学院生活は、人生最高の時間になります。実は私自身がそうでした。私の大学院時代は、真に忘れがたい時間です。

研究テーマと取り組むに当たって、大事にしてほしい言葉があります。それは「実践知」です。ギリシャ哲学の言葉でこれを「フロネーシス」と言います。「深い思慮」を意味します。現実社会に根を張り、たとえ不都合な現実であってもそれに直面しながら、それぞれの立場で理想に向かって課題を解決していく知恵であり知性です。大学院における学びは現実の世界を基盤にし、皆さんの理想に向かって開かれてこそ価値があるのです。現実から理想へ向かう道が実践知です。フロネーシスの世界へようこそ。

「自由を生き抜く実践知」—これは法政大学の大学憲章を表す「約束の言葉」です。法政大学大学院は、1951年から69年間にわたり、先進的な大学院教育を続けてきました。最初は2研究科4専攻であった大学院も、現在では15研究科31専攻3インスティテュートを有しています。変化する時代に対応し、新しい研究領域を開拓しながら、社会にそれを開いてきました。設立の翌年には夜間の修士課程ができ、1995年にはわが国最初の夜間博士後期課程を開設し、研究者養成から高度専門職業人養成まで幅広い教育をおこなうなど、社会人のための大学院としても長い歴史をもっています。現在は「スーパー・グローバル大学創成支援」に採択された大学として、多くの留学生とともに学ぶ大学院になっています。

法政大学の大学院は実践知を核に、あらゆる市民が集い、思考力を鍛える格好の場であると言えるでしょう。ぜひ「自由という広場」法政大学で存分に能力を高め、それをキャリアにつなげ、実践知をもって社会に貢献してください。

自由を生き抜く実践知

法政大学は、近代社会の黎明期にあって、
権利の意識にめざめ、法律の知識を求める
多くの市井の人びとのために、
無名の若者たちによって設立されました。

校歌に謳うよき師よき友が集い、
人びとの権利を重んじ、多様性を認めあう「自由な学風」と、
なにものにもとらわれることなく公正な社会の実現をめざす
「進取の気象」とを、育んできました。

建学以来のこの精神を受け継ぎ、
地球社会の課題解決に貢献することこそが、本学の使命です。

その使命を全うすべく、
多様な視点と先見性をそなえた研究に取り組むとともに、
社会や人のために、真に自由な思考と行動を貫きとおす
自立した市民を輩出します。

地域から世界まで、あらゆる立場の人びとへの共感に基づく
健全な批判精神をもち、
社会の課題解決につながる「実践知」を創出しつづけ、
世界のどこでも生き抜く力を有する
あまたの卒業生たちと力を合わせて、
法政大学は持続可能な社会の未来に貢献します。



CONTENTS

法政の実践知 01 [特色]	02
02 [先端研究]	04
03 [学びのスタイル]	06
04 [研究支援]	08
05 [研究科・専攻]	10
設置課程／論文指導	12
人文科学分野	14
人文科学研究科	16
国際日本学インスティテュート	28
国際文化研究科	30
社会科学分野	32
経済学研究科	34
法学研究科	38
政治学研究科	40
社会学研究科	44
経営学研究科	48
人間社会研究科	52
政策創造研究科	58
公共政策研究科	60
キャリアデザイン学研究科	64
連帯社会インスティテュート	66
スポーツ健康学研究科	68
自然科学分野	70
情報科学研究科	72
デザイン工学研究科	74
理工学研究科	80
総合理工学インスティテュート [IIST]	94
キャリア形成	96
進路状況 [文系就職状況／理工系就職状況]	98
科目等履修生	100
協定大学院・プログラム	102
研究所・図書館	104
キャンパス・施設	106
学費と各種助成金・奨学金制度	108
入試について・入試日程	110
入試結果	115
進学相談会・公開セミナー／Q & A	116

※本文中の学生・修了生等の表記は原則として
2019年4月時点のものです。

最先端の分野がそろう多彩な知の空間

多様な研究科を設置

法政大学大学院は1951年に人文科学研究科・社会科学研究科に修士課程を設置したことに始まります。国際社会に開かれた大学院として新しい時代の最先端で活躍する人材の育成に取り組み、歴史ある研究分野から現代の社会的要請に即した研究領域まで多彩な研究科を設置してきました。現在は、15研究科・31専攻・3インスティテュートを設置しています。

社会を牽引する教授陣による少人数教育

また、「社会に開かれた大学院」を特色として打ち出し、1995年にはわが国最初の夜間博士後期課程を開設しました。各研究科では、各分野をリードする一流の教授陣が指導に当たります。授業のほとんどは少人数のゼミ形式で、すべての学生が自分の研究課題に適した指導教授について論文指導を受けることになります。

教育のグローバル化を推進

その他、人文科学研究科国際日本学インスティテュート（修士課程）では、2019年度から上海外国語大学（中国）と共同学位（ダブル・ディグリー）プログラムをスタートさせるなど、国際的な教育・研究水準の向上を目指し、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を図っています。

知の最前線であるための教学改革

経済学研究科

多様化の進展とともに、高度に専門化する21世紀のグローバル社会に対応できる人材養成を推進するための改革の一つとして、より専門的なエコノミストや研究者の養成を目的とした、修士課程・博士後期課程5年一貫の「博士5年（Ph.D.）プログラム」を2014年度よりスタートさせました。5年一貫の博士養成課程は、日本ではあまり前例のないプログラムですが、確かな研究基礎力を修得した上で、時間をかけて専門分野を選択できるというメリットがあり、欧米では多くの大学院で採用されています。また、2017年度からは「経済学研究科修士課程1年制コース」を新たに設置しています。

情報科学研究科・理工学研究科

学部から大学院修士課程までの6年間を通じて専門領域を学ぶことが高度技術者・研究者の育成に不可欠となっていることから、本大学院の工学研究科でも、6年一貫教育を行うことのできる体制を目指し、2008年の学部再編（工学部をデザイン工学部、理工学部、生命科学部に分割）をもとにした改組を実施。2013年度より工学研究科から理工学研究科へ改め、学部学科を基礎とする6つの専攻で構成しています。そして、2016年9月には情報科学研究科と理工学研究科が協働し、理系専攻分野の先端の研究を英語で学ぶ横断型大学院プログラム「総合理工学インスティテュート（IIST）」を開設しました。

法政大学大学院の歴史と伝統

1951 昭和26年	1952 昭和27年	1953 昭和28年	1954 昭和29年	1955 昭和30年	1956 昭和31年	1958 昭和33年	1964 昭和39年	1965 昭和40年	1966 昭和41年	1968 昭和43年	1985 昭和60年	1986 昭和61年	1987 昭和62年	1989 平成元年	1991 平成3年	1992 平成4年	1995 平成7年
人文科学研究科に哲学・日本文学・英文学専攻、社会科学研究科に経済学専攻の修士課程を開設	人文科学研究科に国史学専攻（夜間）と社会科学研究科に私法学専攻の修士課程を増設	人文科学研究科に地理学専攻（夜間）の修士課程を増設。大学院専用校舎53年館竣工	国史学専攻を日本史学専攻に変更	哲学・日本文学・英文学・日本史学・地理学専攻、経済学・私法学専攻に博士後期課程を開設	社会科学研究科に政治学専攻・修士課程を増設	政治学専攻に博士後期課程を増設	社会科学研究科に社会学専攻・修士課程を増設	工学研究科を設置し、修士課程に機械工学・電気工学・建設工学専攻を開設	社会学専攻に博士後期課程を増設	電気工学専攻に博士後期課程を増設	工学部大学院棟竣工	工学研究科機械工学・建設工学専攻に博士後期課程を増設	工学研究科にシステム工学専攻・修士課程を増設	工学研究科にシステム工学専攻に博士後期課程を増設	私法学専攻を法律学専攻へ名称変更	経営学専攻に経済学専攻から分離独立させ、経営学専攻に修士・博士後期課程を開設。経済学・経営学専攻の修士課程で昼夜開講制を実施。大学院専用棟92年館（現大学院棟）竣工	経営学専攻・博士後期課程で昼夜開講制を実施

個々の環境に対応できる開講時間と3つのキャンパス

本大学院では、昼間開講・昼夜開講・夜間開講の3つの時間帯をそろえ、社会人や留学生など学びたい人たちの生活や環境に対応することが可能になっているため、幅広い層の学生の受け入れを実現しています。

また、学期は春学期と秋学期の2期制（2セメスター制）を実施（一部の専攻・科目では4期制）。さらにビジネスシーンで役立つ実地研修や専門家によるワークショップなどに定評があります。

｜ 選択できる3つの開講時間 ｜

【昼間開講☀️】

科目は昼間に配置され、主に研究者養成を目的とした構成になります。授業は昼間のみで昼間に通学できる人が対象です。

【昼夜開講🌄】

研究者を目指す方から生涯教育として入学を希望される方まで広く門戸を開いています。1時限～7時限に科目を配置しており、自分に適した時間配分で履修することが可能です。

【夜間開講🌙】

昼間勤務しながら学べ、平日2～3日の夜間通学与土曜通学（昼・夜）の受講によって修了できるカリキュラムとなっています。場所は、仕事を持ちながらの通学に便な「市ヶ谷キャンパス」。市ヶ谷・飯田橋の各駅から徒歩で通える立地です。

授 業 時 間		市ヶ谷キャンパス	多摩キャンパス	小金井キャンパス
昼間	1 時 限	8:50～10:30	9:25～11:05	9:00～10:40
	2 時 限	10:40～12:20	11:15～12:55	10:50～12:30
	3 時 限	13:00～14:40	13:45～15:25	13:20～15:00
	4 時 限	15:00～16:40	15:35～17:15	15:10～16:50
	5 時 限	16:50～18:30	17:25～19:05	17:00～18:40
夜間	6 時 限	18:35～20:15		
	7 時 限	20:20～22:00		

※授業時間について変更が生じた場合はHPで発表します。

市ヶ谷キャンパス



多摩キャンパス



小金井キャンパス



1998 平成 10 年	2000 平成 12 年	2001 平成 13 年	2002 平成 14 年	2003 平成 15 年	2004 平成 16 年	2005 平成 17 年	2006 平成 18 年	2008 平成 20 年	2010 平成 22 年	2011 平成 23 年	2012 平成 24 年	2013 平成 25 年	2015 平成 27 年	2016 平成 28 年	2017 平成 29 年	2019 平成 31 年
・法学専攻・修士課程に法曹コースを開講し、従来のものを研究コースとした。政治学専攻・修士課程で昼夜開講制を実施	・工学研究科に物質化学・情報電子工学専攻の修士・博士後期課程を増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。	・工学研究科に物質化学・情報電子工学専攻の修士・博士後期課程を増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。	・工学研究科に物質化学・情報電子工学専攻の修士・博士後期課程を増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。	・工学研究科に物質化学・情報電子工学専攻の修士・博士後期課程を増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。	・工学研究科に物質化学・情報電子工学専攻の修士・博士後期課程を増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。	・工学研究科に物質化学・情報電子工学専攻の修士・博士後期課程を増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。	・工学研究科に物質化学・情報電子工学専攻の修士・博士後期課程を増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。	・工学研究科に物質化学・情報電子工学専攻の修士・博士後期課程を増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。	・工学研究科に物質化学・情報電子工学専攻の修士・博士後期課程を増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。	・工学研究科に物質化学・情報電子工学専攻の修士・博士後期課程を増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。	・工学研究科に物質化学・情報電子工学専攻の修士・博士後期課程を増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。	・工学研究科に物質化学・情報電子工学専攻の修士・博士後期課程を増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。	・工学研究科に物質化学・情報電子工学専攻の修士・博士後期課程を増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。	・工学研究科に物質化学・情報電子工学専攻の修士・博士後期課程を増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。	・工学研究科に物質化学・情報電子工学専攻の修士・博士後期課程を増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。	・工学研究科に物質化学・情報電子工学専攻の修士・博士後期課程を増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。電気工学専攻・修士課程に1年制の1年制コースを増設。

ファイナンスは実践的な学術領域であり、社会に直結している学問です。
金融のグローバルスタンダードを学び、現場で活躍することを望んでいます。

経営学研究科
経営学専攻
山崎 輝
教授

PROFILE

学歴: 1996年 東京理科大学 理学部 数学科卒業、1998年 東京工業大学大学院 総合理工学研究科 知能システム科学専攻 修士課程修了(修士(理学))、2012年 東京大学大学院 経済学研究科 金融システム専攻 博士課程修了(博士(経済学))

職歴: 1998年 東京三菱銀行(現 三菱UFJ銀行) 入行、日本銀行金融研究所、みずほ第一フィナンシャルテクノロジーを経て、2012年 法政大学 経営学部及び同大学院 経営学研究科に着任

laboratory information

研究科全体の特長は、学生の研究の質が高いことにあると自負しています。社会人大学院の修士課程でも論文提出は必須であり、論文審査を経て修士号を取得することになります。厳しい環境の中で問題意識を持ち真摯に研究に打ち込む学生が多く、非常に良い環境だと感じています。そうして得た知識を現場に持ち帰り、活用してください。自分の研究成果を社会に還元し、日本の金融業界に変化をもたらせる人材に成長していくことを望んでいます。



ファイナンスとテクノロジーの学際領域を専門としております。ファイナンスは証券投資や金融資産価格とそのリスクの評価、企業の資金調達などを研究する学問です。金融市場や金融取引では、お金や金利、外国為替レートなどが数値で表されるため、高度な数学やコンピュータとの相性の良さがファイナンスの特長としてあげられます。現在、金融業界は大きな変革期にあり、ビジネスの手法が根本から変わることが予想されています。その背景には、昨今の人工知能や非数値データの解析力の向上、コンピュータの計算処理の高速化などテクノロジーの発展があげられ、さまざまな最新のテクノロジーが金融ビジネスに活用されようとしています。いわゆる以前の「金融工学」や「数理ファイナンス」と呼ばれるイメージでは捉えきれないほど進化していることから、私の専門領域は「フィナンシャル・テクノロジー」と呼ぶ方が適切だと考えています。

一方で、日本の金融ビジネスは欧米に比べ、遅れをとっていることを認識しなければなりません。日本の金融業界は革新的な技術や発想が生まれにくい土壌であることを自覚するとともに、ファイナンスを指導する立場としては、金融を身近なものと感じてもらうことが重要だと考えています。授業で

は、身近な企業を例に出し、学生が興味を抱きやすい講義を行っています。私自身が金融機関に勤めていた経験から感じたことでもあります。金融は社会の構成要素の一つだと意識し、あらゆるビジネスにつながっている業界であると感じることが重要です。法政大学大学院でグローバルスタンダードの知識や理論を身につけ、現場で活かす。第一線で働く場からファイナンスの考え方を啓蒙することが日本の金融ビジネスを変化させる一助になるでしょう。

研究室では、主に社会人大学院生の教育を担当しております。社会人経験を経て実務に根ざした問題意識を持って活動している学生が多く、学術的、実務的な議論が多様に行われています。また、ファイナンスの学会は都内で開催されることが多く、アクセスのしやすさから多忙な社会人でも集まりやすい市ヶ谷という場所のメリットは大きいでしょう。そういった恵まれた土地であることも存分に活用し、学術的視点からファイナンスを学び、率先して多くのつながりを持ち、情報交換などを行ってください。お互いに切磋琢磨しあえる環境で成長し知性と気概を持って社会で活躍してくれることを期待しています。

研究だけでなく成果物を作り上げる手法も習熟してください。

大学院での経験を自身の糧とし成長してほしい。



田中 豊
教授
デザイン工学研究科
システムデザイン専攻

PROFILE

1985年東京工業大学大学院総合理工学研究科精密機械システム専攻修士課程修了。その後東工大精密工学研究所助手を経て、1991年法政大学専任講師、1992年同助教授、2002年同教授。2014年から法政大学情報メディア教育研究センター所長を兼務、現在に至る。工学博士（1991年・東京工業大学）

研究室のテーマは大きく4つの分野に分かれ、「グリーンフルードパワー」、「次世代モーションメカニズム」、「マイクロメカトロデバイス」、「感性とインターフェースデザイン」と幅広いデザイン工学分野を研究テーマに設定しています。どのテーマも空気や水、油、機能性流体などのさまざまな流体をパワーや信号の伝達に用いるため、自動車や飛行機、建設機械、娯楽施設から医療福祉、マイクロマシンにいたる幅広い分野で利用されており、まさに社会の基盤を支える技術といえるでしょう。

社会に根付いた技術を学ぶことは社会的な要請が強く、民間企業など外部の方々とこのコンタクトの多さも魅力として挙げられます。具体例として「フルードパワー」の研究では、自動車メーカーと駆動系の動力伝達の仕組みを産官学連携し次世代の高圧油圧システムの開発や問題解決に向けて取り組んでいます。平成22年度には「油中気泡除去技術の開発」が、補助金支援テーマに採択されるなど国が舵取りを進めております。「感性とインターフェースデザイン」の

研究では、福祉・介護士の方々の一つひとつの動作を解析し、負担がかかる工程を分析することで、負担軽減の一助を目指すなど、超高齢社会である日本において必需の研究であると言えるでしょう。

大学院では、学生が外部の方と触れ合い自身の研究を不特定多数の方に見てもらうことが重要であると考えています。展示会で使用するパネルの制作や学会で発表する資料の準備などは学生に任せることで、一連の流れを学生が経験し、より自身の研究であると自覚を持ち意欲的に行動する自信がつくとともに、同じ研究者の目が入ることによって質疑が生まれ、新しい気づきや展開が望めます。この研究を進める工程はあらゆる企業で役に立つ普遍的な経験になるでしょう。課題の発見や解決方法を議論することに加え、到達地点を定め、スケジュールを設定し進めていく手法を知れることは、直接的に研究内容と業務が結びつかなくとも多岐にわたる知識と技術の融合により、社会で活躍する人材への育成、学生の財産になると確信しています。

laboratory information

私の研究室では、大学院生が常に自ら考えて行動し、課題に挑戦するための知的好奇心を育み、研究を遂行する自主性を養えるように指導しています。そのために、研究成果を積極的に国内外の学会で発表することを義務付け、研究室での成果は毎年モーションエンジニアリング展で公開し、外部の方々との関わりを持たせるなど刺激ある研究を推進しています。今後も企業との連携を重視し、社会で活躍する人材を育てることを目指していきます。



学びのスタイル

大学院で専門性を
高めることにより
自分が進みたい道を
決めることができました

デザイン工学研究科

都市環境デザイン 工学専攻

修士課程2017年度修了
日本工営株式会社 勤務



学部卒業生

渡部 瑠依子

大学院での研究が自分のやりたいことを知るきっかけになりました。診断士や技術士の資格取得を目指し、将来的にはドクターコースも視野に入れています。

私がコンクリートに興味を持ち始めたのは、学部生時代に受講した溝渕利明教授の講義がきっかけです。コンクリート材料学の基礎知識の習得から、現場環境下に合わせた配合設計を行いました。溝渕教授が講義中に話していた「コンクリートは生きているんだ」という言葉は大変印象的です。講義を受講する中で、コンクリート構造物の維持管理に興味を持ち、大学院では、維持管理に欠かさない非破壊検査法に関する研究を行いました。コンクリートは生きているからこそ、定期的な検査を行い、状態を把握し適切な対策や措置をとる必要があるんだということに気づき、コンクリートのお医者さんという気持ちで、朝から晩まで研究に励みました。

また大学院生活では、国内だけでなく海外での学会発表、研究室の後輩指導、講義のTA等、学部生ではできなかった多くの経験を積むことができ、人として大きく成長できました。

大学院を卒業し社会人になった今は、仕事として、コンクリート構造物の調査・点検業務に携わっています。大学院に進学し、溝渕教授のもとで研究を行ったからこそ、心から楽しいと思える仕事に出会えた、日々感謝しながら過ごしています。

履修モデル < 昼間開講（修士課程） >

		1年次	2年次
月	春学期	都市環境デザイン工学基礎2	
	秋学期	流水域マネジメント	
火	春学期	ライフサイクルマネジメント	構造解析と設計
	秋学期	空間情報デザイン ライフサイクルマネジメント	
水	春学期	水循環システムの概論 耐久性力学	
	秋学期	水域環境の保全	
木	春学期		
	秋学期	自然・環境デザイン	
金	春学期	景観デザイン概論 都市環境デザイン工学基礎2	
	秋学期	水循環システムの概論 耐久性力学	
土	春学期		
	秋学期		
通年		都市環境デザイン工学研究1・2	都市環境デザイン工学研究3・4 修士論文

MY LABORATORY INFORMATION



RUIKO'S
RECOMMENDED

コンクリート材料 研究室

コンクリートのひび割れのメカニズムの解明や、コンクリート構造物の経年劣化の予測技術、非破壊によるコンクリート内部の診断技術等に関する研究を行っています。コンクリートの練りやフィールド調査等、身体を動かすことの多い研究室です。



HOUU'S
RECOMMENDED

人文科学研究科 博士後期課程

旅行好きで多くの港を訪れました。港は経済が活発なところが多く、どのように発展していったのか興味を持ち始めたことが経済地理学に出会ったきっかけです。研究室では、現地研究やフィールド調査で多彩な土地に行くことも多く活発な活動が多いことも魅力ですね。



YASUO'S
RECOMMENDED

経営学研究科 博士後期課程

戦前期の日本の会計について研究していますが、先生からは、戦前期の日本の会計を知る上で必要な、英国、ドイツ、アメリカの会計規制についても指導を受けています。ただ、研究に生きているのは実は先生の昔話かもしれません。当時を知る上でのヒントをいただいています。



履修モデル <昼夜開講（修士課程）>

		1年次	2年次
月	通年	地理学現地研究Ⅰ、Ⅱ	地理学現地研究Ⅱ
	秋学期	日本の思想・西欧の思想Ⅱ	
火	春学期	Academic E (Effect W) A Academic E (Oral Pro) A 社会経済地理学研究Ⅰ	修士論文
	秋学期	Academic E (Effect W) B Academic E (Oral Pro) B 日本の産業風土Ⅱ	
水	春学期	日本語論文作成基礎 AⅠ	
	秋学期	日本語論文作成基礎 AⅢ	
木	通年		
	春学期	日本語論文作成基礎 AⅡ 日本の環境論Ⅰ 国際日本学演習Ⅰ	日本の環境論Ⅰ 国際日本学演習Ⅰ
	秋学期	日本語論文作成基礎 AⅣ 日本の環境論Ⅱ 国際日本学演習Ⅱ	日本の環境論Ⅱ 国際日本学演習Ⅱ
土	通年	国際日本学合同演習	国際日本学合同演習

法政大学大学院への進学を決意した理由は、出身校である中国四川外国語大学と法政大学が提携しているため、学部生の頃から説明会や実際の講義を体験できたことが要因です。私の専門は経済地理学ですが、フィールドワークが多く、現地研究のためさまざまな地域に足を運びました。福岡の久留米市での調査では衝撃を覚え、一番印象深く覚えていますね。現地では先生から「カップの調査をする」と言われ、最初は地理学と土着や民俗学がどうしても自分の中でつながらずとも驚きました。しかし、調査を進めていくうちに、土地の風土や歴史が地理学と重なる部分もあり、研究するためには、一方の視点だけでなく別の視点からも俯瞰する重要性を実感できました。

現在は、中国の民間企業の本社を対象に経済的中枢管理機能について研究しています。中国の沿岸部は経済特区でもあり、発展が進んでいる反面、都市研究（特に本社を中心とする「総部経済」についての研究）は2002年から始まるなど比較的新しい分野であり、余地が多分にあります。しかし、調べなければならないことが大変多く、しっかりと分析を進めるために、日々現状把握を行う毎日です。法政大学は学部生、院生とも留学生が多く、国際色豊かな雰囲気が魅力。文化背景の違う仲間たちとの会話は新しい気づきとともに刺激を与えてくれます。

留学生

毛 鳳雨

中国四川外国語大学卒業後、法政大学大学院入学。

人文科学研究科

国際日本学インスティテュート 地理学専攻

博士後期課程在学中
（修士課程2017年度修了）

見聞が広がりました。
将来は大学教員が目標

現地研究の繰り返しで

楽しみがある

クリエイティブな

開拓であり

時代の最先端の研究は、

経営学研究科

経営学専攻

博士後期課程在学中
（修士課程2016年度修了）

社会人

高野 裕郎

経営学専攻修士課程（アカウンティング・ファイナンスコース）で得られた知識と経験が、仕事の基礎力を向上させたと感じています。

会計を深く学びたいと思い立ち、大学院を探しはじめましたが、平日夜・土曜日に講義が行われていることに加えて、コース制と修士論文を通じて特定の分野を深く勉強できることから、法政大学大学院を選びました。

講義は、各分野の基礎的な内容を理論的に学ぶことに加えて、実務家である同じ学生のコメンツも有益でした。また、別コースの講義も履修することで視野が広がりました。さらに、修士論文の執筆では、知識を得るだけでなく、専門書・論文等を調べる力、構造的な文章を組み立てる力を養えました。このように修士課程では、想像以上に広い範囲の力をつけることができたという手応えがあります。

博士後期課程に進学した現在は、戦前期における日本の会計制度について研究しています。毎日の仕事がある中で研究を進めることは大変ですが、新たな知識と気づきを得られるのはやはり楽しいです。

履修モデル <夜間開講（修士課程）>

		1年次	2年次
月	春学期	会計学基礎 経営学基礎	
	秋学期	国際会計論	
火	春学期		企業家史
	秋学期		
水	春学期		
	秋学期		
木	春学期		WS（アカウンティング・ファイナンス）
	秋学期		アカウンティング・ファイナンス特殊研究
金	秋学期	財務戦略論	
土	春学期	ミクロ経済学A	地域経済研究 アカウンティング・ファイナンス演習
	秋学期		経営組織論 アカウンティング・ファイナンス演習
通年	秋学期		修士論文

研究支援

多くの研究活動を支える、
多彩なバックアップ制度。



修学支援制度

大学院生の修学に対し、経済的な支援を目的とした制度です。
2019年度より、従来の制度を見直し以下のとおり実施します。

修士課程

■法政大学100周年記念大学院修士課程奨学金

修士課程に在籍する大学院生への修学支援として、経済的支援を行うことを目的としています。

本制度は、2019年度より従来の「法政大学100周年記念大学院特別奨学金」と「法政大学大学院奨学金」を統合し、修士課程学生を対象とし、応募資格を有する申請者の中から選考の上、200,000円が支給されます。



留学・研究奨励制度

本学では、学生の海外留学や学会発表による学術研究を奨励し、研究力や資質の向上を目的とした制度を設けています。2010年度より進めている大学院改革の流れを受け、より制度の有効活用を図るため、従来の制度を見直し2019年度から以下のとおり実施します。

■法政大学大学院海外留学補助金

〔2019年度〕

海外留学による学術研究を奨励し、資質の向上を図ることを目的とします。留学した大学等において履修した科目のうち、専攻が適当と認めたものは、本学大学院の課程修了に必要な単位・科目として認定されます。

〔2020年度〕

上記の大学院海外留学補助金と政治学研究科国際政治学専攻特別海外留学奨学金を統合して拡充し、より大学院生の海外留学を促進します。2019年度に募集を行います。

■法政大学大学院学生論文掲載料補助

国内・国外での学術論文発表を奨励するため、100,000円を上限にかかった費用を補助します。

■法政大学大学院学会等発表補助金

法政大学大学院学生学会発表奨励金及び法政大学大学院海外における研究活動補助を見直し、国内30,000円、国外70,000円を上限

※2019年度実施予定の制度です。制度の対象はP.108をご覧ください。

博士後期課程

法政大学大学院博士後期課程研究助成金

博士後期課程に在籍する大学院生への修学支援として、学術活動を奨励し高度な研究能力と豊かな学識を有する若手研究者を育成するため、経済的な支援を行うことを目的としています。

本制度は、2019年度より従来の「博士後期課程研究助成金(A)」と「博士後期課程研究助成金(B)」を統合し、より拡充され、文系研究科300,000円、理系研究科450,000円が支給されます。

なお、本助成金は、原則として応募資格を有する申請者全員に給付されます。

に実費を補助することにより、学会等での発表を奨励します。

法政大学大学院現地調査実施費用補助

市ヶ谷、多摩キャンパスで開設している研究科の学生を対象に、国内30,000円、国外70,000円を上限に実費を補助します。

法政大学大学院諸外国語による論文等校閲補助

国内外の学会発表や研究論文を、英語をはじめとする母語以外の諸外国語で執筆する際に、外国語で執筆した研究論文などの校閲費用について、100,000円を上限に実費を補助します。

法政大学大学院学生研究補助金

大学院生の研究を支援するため、各専攻の学生研究に要する書籍、消耗品、印刷費等の費用を補助します。

法政大学大学院優秀博士論文出版助成金

優秀な博士論文の出版費用を補助することで、博士学位取得者の研究者としてのキャリア形成、研究実績の蓄積を支援します。審査の上1,000,000円を上限に出版に要した費用を助成します。

VOICE

私が利用した制度

※2018年度までの奨学金・研究助成制度を利用された方の紹介です。

目標だったカンボジア留学を経験 現地の文化に触れ、第二の故郷ができました



高田 風花

人文科学研究科史学専攻
修士課程 2017年度修了

東洋考古学を専攻しており、特にカンボジアを中心に現地の文化や時代背景を研究していました。カンボジアへの留学を一つの目標に大学院への進学を選択し、実際の留学では海外保険や航空券などまとまった金額が必要になるため「大学院学生海外留学補助金」を利用しました。補助金として100万円程度が支給され、振込が一括で行われることは大きなメリットでした。留学先では、博物館や寺院を巡ったことを印象深く覚えています。カンボジアでは、日々のお参りが日常になっているだけでなく、子どもたちや学生が寺院の寄宿舎で生活するなど、仏教が人々の生活に密接に関わっています。けれど、ナーガと呼ばれる蛇神の信仰も厚く土着と仏教の信仰が混じるなど興味深い文化が形成されており、現地の風土を肌で感じられる良い経験ができました。留学は、知らない世界に自分の身を置くことです。それはとても勇気のいる行動ですが、価値観が広がり、人として成長できます。何よりも第二の故郷ができることは留学ならではの魅力であり、カンボジアに帰る場所ができたことは私の精神面の支えとなっています。

奨学金制度のおかげで 深く研究に専事することができました



ディラワリドリケン

理工学研究科
システム理工学専攻
博士後期課程 2017年度修了
JIPテクノサイエンス株式会社勤務
日本学術振興会(JSPS)特別研究員
(法政大学理工学部PD)

エコ分散システムの構築からサーバの消費電力を低減できる情報システムの省電力化に取り組んだ研究をしています。学部生の頃から通信技術を学んでいましたが、私が通っていた大学の多くの先生が日本への留学を経験されており、話を伺っているうちに日本の大学院への進学を目指すようになりました。中でもコンピュータネットワークの分野で国際的に著名である滝沢誠先生に師事したいと考えたことが法政大学大学院を選択した一番の要因です。

一方で、私費留学生だったため、生活費をアルバイトで得なければならず、研究に費やす時間が足りないと感じていました。そこで、外国人留学生に対して適応される学費減免の制度を調べ、奨学金・研究助成金制度を申請し利用しました。おかげで財政的負担が軽減され、研究に打ち込む時間が増加したとともに金銭面での不安がなくなることによって精神的に余裕ができ、研究効率が上がるなど好循環が生まれました。法政大学大学院はグローバルな環境にあり、制度が整っています。どのようなことでも一度先生に相談することをおすすめします。

研究科・専攻

インデックス

大学院

分野	研究科名	専攻名	概要
人文科学分野	人文科学研究科	哲学専攻	古代ギリシア哲学、近代ヨーロッパ哲学、現代哲学、論理学などにより、西洋哲学を中心に教育研究を進めています。
		日本文学専攻	古代から近代まで各時代の文学、言語、芸能を探究。文芸批評、中国・沖縄文学などの関連科目を幅広く配置しています。
		英文学専攻	英米文学、演劇、英語学、言語科学などの専門教育を行います。学内または提携大学院の豊富な科目も選択できます。
		史学専攻	日本・東洋・西洋史の3分野の広範な授業を開講。伝統的な研究方法を重んじながら、最前線の研究成果も取り入れています。
		地理学専攻	自然地理と人文地理の2本柱で、幅広く複合的な領域をカバーします。どちらかに重心を置きつつ、個別の研究を進めます。
		心理学専攻	知覚・睡眠・発達・発達臨床・言語・教育・行動分析・犯罪・社会・記憶・学習・音声学といった多様な領域を指導します。
		国際日本学インスティテュート	人文科学研究科を横断する形で設置・運営され、専攻にとらわれない多彩な授業が展開されています。
	国際文化研究科	国際文化専攻	文化の「国際性」と「情報性」を研究し、インターカルチュラル・コミュニケーションを探究します。
社会科学分野	経済学研究科	経済学専攻	経済学、統計学、経済史などの基本科目から経済地理や社会政策など幅広く選択でき、上級レベルの経済理論（ミクロ・マクロ）も開講しています。
	法学研究科	法学専攻	現代社会の多様な問題を法的に分析し、法的な思考過程を経て最善の解答を生み出す能力を養成します。
	政治学研究科	政治学専攻	オーソドックスな政治学から、都市政策、フェミニズムやジェンダー論など新領域の独創的な科目まで幅広く解説します。
		国際政治学専攻	時代の要請に応える、世界政治、国際開発、地球環境、平和構築、人間の安全保障などの諸分野の研究教育が充実しています。
	社会学研究科	社会学専攻	日本だけでなく、世界で問われている21世紀の社会的課題を認識し説明するために、「人間論的関心を柱にした社会問題の社会学」を中心に、隣接する諸科目を配して研究活動を行います。
	経営学研究科	経営学専攻	経営の基礎から応用までの理論的なアプローチに加え、現実の企業活動や社会現象を実証的に分析するためのさまざまな手法が学べます。
	人間社会研究科	福祉社会専攻	「福祉」や「まちづくり」に関する高度職業人（ソーシャルワーカー、政策立案者など）、研究者の養成を目的としています。
		臨床心理学専攻	心理臨床の分野で活躍する高度職業人（公認心理師、臨床心理士）と、臨床心理学の実践と科学に関わる研究者の養成を目的としています。
		人間福祉専攻	次代の人間福祉を総合的に実現するための理論的かつ実践的研究者を養成することを目的としています。
	政策創造研究科	政策創造専攻	豊かで持続可能な地域社会を実現する革新的な政策を研究・デザインし、それらを実現できる人材を育成します。
	公共政策研究科	公共政策学専攻	グローバル化・知識基盤社会、人口減少社会における総合的な政策提言能力を身に付けた高度職業人、研究者を養成します。
		サステナビリティ学専攻	持続可能な循環型社会の構築に貢献できる人材を養成します。
	キャリアデザイン学研究科	キャリアデザイン学専攻	最先端のキャリアデザイン学分野を体系的に学べる日本で初めての研究科です。
	連帯社会インスティテュート	連帯社会インスティテュート	新しい地域社会や国づくりの発展に貢献できる「新しい公共」の担い手を養成します。
	スポーツ健康学研究科	スポーツ健康学専攻	人文社会から自然科学まで、多面的なスポーツ・健康について教育研究を進めています。
自然科学分野	情報科学研究科	情報科学専攻	ITを通じ、情報化社会、知識社会と呼ばれる、これからの新しい時代を築く人材を養成します。
	デザイン工学研究科	建築学専攻	建築に関わる7つの項目の素養や能力を養い、建築と都市に関わる専門職業人、教育・指導者、研究者を養成します。
		都市環境デザイン工学専攻	社会基盤などを設計・建設・整備する手法を習得し、環境を保全・再生していくことのできる技術者を養成します。
		システムデザイン専攻	さまざまな側面から総合的にユーザビリティを追究。複雑な社会に存在する諸問題に対応できる技術者や研究者を育成します。
	理工学研究科	機械工学専攻	材料力学、熱力学、水力学などの専門科目や、機能性材料、宇宙工学、環境エネルギー工学など先端的研究指導を行います。
		電気電子工学専攻	電気電子工学分野に重点を置き、最新設備を利用しながら現代の科学技術を支える先端技術の基礎から応用まで研究します。
		応用情報工学専攻	ICT、クラウド、ユビキタスネットワークなど高度情報化社会を支える実用的かつ高度な最先端システムを研究分野にしています。
		システム理工学専攻 創生科学系	理工学の基幹をなす物理科学、情報学の社会基盤である知能科学、融合領域の人間科学について研究を行います。
		システム理工学専攻 経営システム系	数理、人間を要素として、これらをつなぎ、付加価値の高いシステム構築法を研究します。
		応用化学専攻	幅広い産業界において化学の専門的な知識を生かして持続的・社会的構築に貢献できる人材養成を行います。
		生命機能学専攻	生命機能学と植物医学の2つの領域、ゲノム、タンパク質、細胞、生命システム、基盤植物医科、実践植物医科の6分野について研究します。
	総合理工学インスティテュート	総合理工学インスティテュート (IIST)	グローバル社会において総合理工学分野のリーダーとして活躍することができる人材を養成します。

専門職大学院

研究科名	専攻名	概要
法務研究科（法科大学院）	法務専攻	現代社会に生じる多様な法律問題に対して適正かつ迅速に対応できる、創造的応用力を備えた市民のための法曹を養成します。
イノベーション・マネジメント研究科	イノベーション・マネジメント専攻	基礎・専門・応用に分かれた高密度カリキュラムと、実践力を備え、革新を起こすことができるビジネスのプロフェッショナルを育てます。

Practical Wisdom for Freedom

法政の実践知 05 / 研究科・専攻インデックス

課程			授与学位		キャンパス	掲載ページ	
修士課程		博士後期課程		修士(哲学)	博士(哲学)	市ケ谷	P 16
修士課程		博士後期課程		修士(文学)	博士(文学)		P 18
修士課程		博士後期課程		修士(文学)	博士(文学)		P 20
修士課程		博士後期課程		修士(歴史学)	博士(歴史学)		P 22
修士課程		博士後期課程		修士(地理学)	博士(地理学)		P 24
修士課程	 ※一部夜間開講	博士後期課程	 ※一部夜間開講	修士(心理学)	博士(心理学)		P 26
修士課程		博士後期課程		修士(学術)	博士(学術)		P 28
修士課程		博士後期課程		修士(国際文化)	博士(国際文化)	市ケ谷	P 30
修士課程		博士後期課程		修士(経済学)	博士(経済学)	市ケ谷・多摩	P 34
修士課程		博士後期課程		修士(法学)	博士(法学)	市ケ谷	P 38
修士課程	 ※一部夜間開講	博士後期課程		修士(政治学)	博士(政治学)	市ケ谷	P 40
修士課程		――	――	修士(国際政治学)	――		P 42
修士課程	社会学コース 	博士後期課程		修士(社会学)	博士(社会学)	多摩・市ケ谷	P 44
修士課程	メディアコース 	博士後期課程				市ケ谷	
修士課程		博士後期課程		修士(経営学)	博士(経営学)	市ケ谷	P 48
修士課程		博士後期課程					
修士課程	 ※一部夜間開講	――	――	修士(福祉社会又は学術)	――	多摩・市ケ谷	P 52
修士課程		――	――	修士(臨床心理学)	――	多摩	P 54
――	――	博士後期課程		――	博士(人間福祉又は学術)		P 56
修士課程		博士後期課程		修士(政策学)	博士(政策学又は学術)	市ケ谷	P 58
修士課程		博士後期課程		修士(公共政策学)	博士(公共政策学)	市ケ谷	P 60
修士課程		博士後期課程		修士(サステイナビリティ学)	博士(サステイナビリティ学)		P 62
修士課程		――	――	修士(キャリアデザイン学)	――	市ケ谷	P 64
修士課程		――	――	修士(学術)	――	市ケ谷	P 66
修士課程		――	――	修士(スポーツ健康学)	――	多摩	P 68
修士課程		博士後期課程		修士(理学)	博士(理学)	小金井	P 72
修士課程		博士後期課程		修士(工学)	博士(工学)	市ケ谷	P 74
修士課程		博士後期課程		修士(工学)	博士(工学)		P 76
修士課程		博士後期課程		修士(工学)	博士(工学)		P 78
修士課程		博士後期課程		修士(工学)	博士(工学)	小金井	P 80
修士課程		博士後期課程		修士(工学)	博士(工学)		P 82
修士課程		博士後期課程		修士(工学)	博士(工学)		P 84
修士課程		博士後期課程		修士(工学)	博士(工学)		P 86
修士課程		博士後期課程		修士(工学)	博士(工学)		P 88
修士課程		博士後期課程		修士(理工学)	博士(理工学)		P 90
修士課程		博士後期課程		修士(生命科学)	博士(生命科学)		P 92
修士課程		博士後期課程		所属専攻による			P 94

課程	授与学位	キャンパス
専門職学位課程	法務博士(専門職)	市ケ谷
専門職学位課程	経営管理修士(専門職)又は経営情報修士(専門職)	市ケ谷

設置課程

本大学院では、修士課程（博士前期課程）と博士後期課程の正規学生のほか、特別学生の受け入れを行っています。

また、首都大学院コンソーシアムをはじめとした国内の多くの大学院との相互聴講や海外大学院への留学などにより、より広い範囲での研究が可能となる道も開かれています。

正規学生

■ 修士課程（博士前期課程）

広い視野に立って、深く学識を授け、専門分野における研究能力、または高度な専門性を要する職業に必要な能力を養うことを目的としています。

【受験資格】

原則として、大学卒業見込みの者、大学を卒業した者、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者が対象となりますが、詳細は各研究科により異なります。必ず最新の入試要項でご確認ください。

【修了要件】（参考）

修士課程の修了には、2年以上在学し、指導教員の指導のもとに授業科目より30単位（専攻により最低修得単位数は異なります）以上を修得し、修士論文の審査ならびに最終試験に合格しなければなりません。その他、専攻により修了要件が異なりますので、詳細は入学後にお渡しする書類でご確認ください。

■ 博士後期課程

専門分野について、研究者として自立した研究を行い、また専門的業務に必要な高度な研究能力および学識を養うことを目的としています。

【受験資格】

原則として、修士課程修了見込みの者、修士の学位を有する者、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本大学院に認められた者が対象となりますが、詳細は各研究科により異なります。必ず最新の入試要項でご確認ください。

【修了要件】（参考）

博士後期課程の修了には、3年以上在学し、指導教員の指導により専攻に示された授業科目を履修または単位を修得し（専攻により修了所要単位数は異なります）、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査ならびに最終試験に合格しなければなりません。

※経済学研究科では2014年度より修士課程、博士後期課程5年一貫の博士5年（Ph.D.）プログラムを導入しています。修了要件は経済学専攻ページ（P.35）をご確認ください。

■ 長期履修制度

長期履修制度は仕事と両立しながら学業にじっくり取り組みたい社会人に配慮した制度です。この制度を活用した場合、年度当たりの授業料負担を下記のとおり軽減することができます。

修士課程の場合 通常の修了年限（2年）に必要な授業料を3年または4年に分納可能

博士後期課程の場合 通常の修了年限（3年）に必要な授業料を4年、5年または6年に分納可能

実施研究科

- ☐ 人文科学研究科（修士課程・博士後期課程）
- ☐ 国際文化研究科（修士課程）
- ☐ 社会学研究科（修士課程）
- ☐ 人間社会研究科 福祉社会専攻（修士課程）
- ☐ 政策創造研究科（修士課程）
- ☐ 公共政策研究科（修士課程・博士後期課程）
- ☐ キャリアデザイン学研究科（修士課程）

■ 科目等履修生 詳細は、P.100、101をご覧ください。

本大学院では正規の学生の学修を妨げない限り、選考の上「科目等履修生」として修士課程の科目を履修することができます。履修できる単位は年間12単位までとなっています。

また、科目等履修生として単位修得後、正規生として入学した場合、本人の申請に基づき、教授会の承認により、10単位を上限に正規生の修了所要単位として認められます。

出願期間／3月中旬・8月下旬の2回 | 案内配布／12月下旬・6月下旬頃大学院HPに情報を掲載（シラバス・時間割は3月中旬）

■ 研修生・委託研修生・特別研修生

学士の学位を得た方が大学院の授業科目の履修および特定の主題による研究指導を希望するときに受けられる制度です。

※在留資格「留学」を有する外国人留学生の場合、週10時間以上の履修が求められます。

【研修生】

大学卒業後に本大学院修士課程への進学を目指し、その準備教育として入学を希望する方が対象です。研修生試験の結果から各研究科の基準に従って研究科長が入学を許可します。
期間は1年です（1年に限り延長可）。

【委託研修生】

公共団体またはその他の機関から委託を受け、各研究科の審査を経た後、入学を許可されます。

【特別研修生】

国外の大学との協定などにより、修士課程への入学を許可され、事前研修を義務付けられた方を受け入れる制度です。

■ 研究生・研究員

修士の学位を有する方が対象です。指導教員による個別指導が中心となります。所定の書類を提出し、研究科教授会を経て研究科長の許可が必要です。いずれも期間は1年です（1年に限り延長可）。

【研究生】

修士の学位を得た方で本大学院博士後期課程の進学を目指し、その準備教育として入学を希望する方、または博士後期課程を退学した方で、さらに研究を継続し、本学の施設の利用を希望する方が対象です。

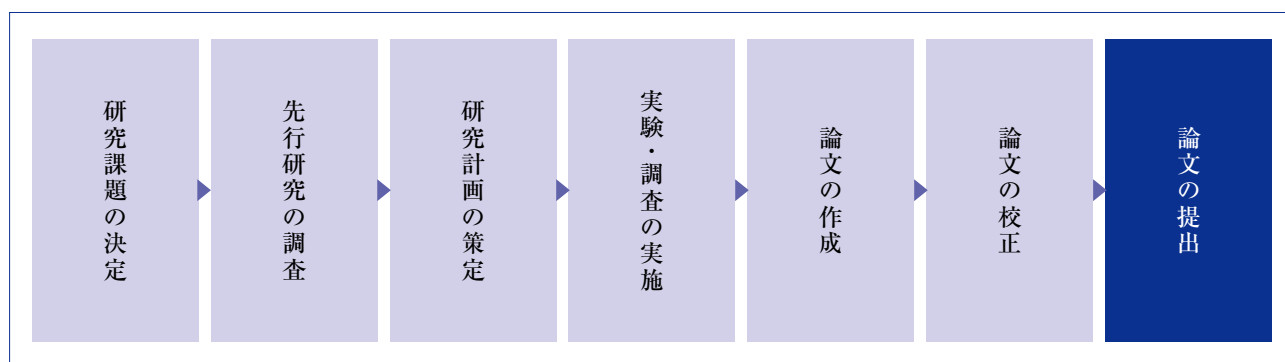
【研究員】

国内外の大学・研究所その他の機関から特定のテーマによる研修を委託された方が対象です。

特別学生

論文指導

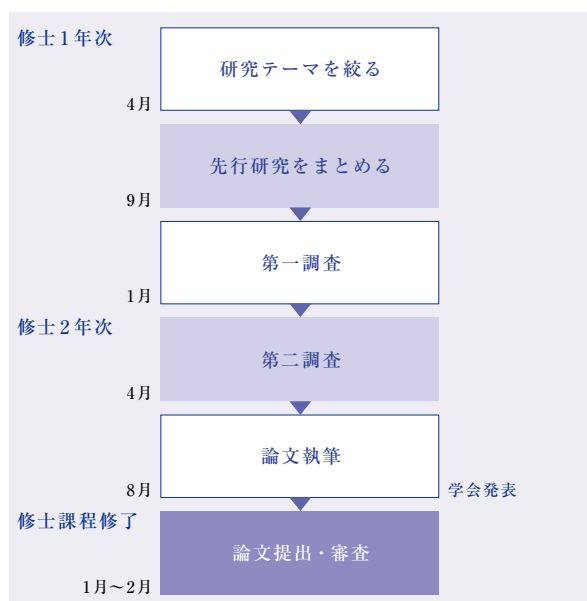
大学院の学びにおいて、論文を作成することは最も重要な目標の一つです。具体的な進め方や内容は各研究科・専攻、指導教員によって異なりますが、一般的に下記のようなプロセスを経て、修士課程であれば在学中の2年間で1編以上の論文を完成させます。論文作成では、高度な専門知識に加え、文献の検索方法、論文の解析など、作成に必要な知識も自ら獲得していくことが必要となり、論理的思考力やプレゼンテーション能力の向上に加え、海外文献も含む専門書を読みこなすことで身に付く読解力、語学力、論述するための文章表現力も身に付けます。より充実した論文作成のためには、指導教員とコミュニケーションを取りながら進めていくことが大切です。



人文科学分野

A研究室の場合〈参考〉

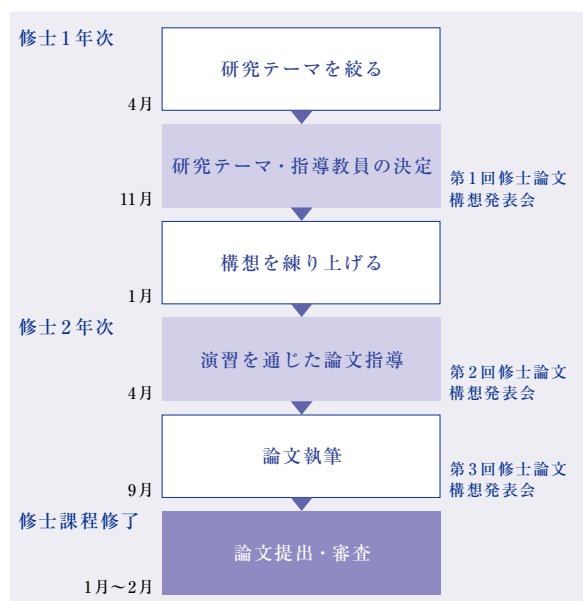
指導教員と相談しながら修士1年次の7、8月頃までに研究テーマを決定します。冬休み前までに同テーマにおける先行研究をまとめ、年明けから第一調査を行います。1年次修了までにそれをまとめ、2年次からは第二調査を実施。それまでの成果を、夏に開催される学会で発表することを目指します。その後、1月の論文提出時期までに約半年をかけて論文を執筆します。2年間を通じて毎月1～2回、指導教員のもと、研究室の修士課程と博士後期課程の学生全員でミーティングを実施。その他にもメールや空き時間を利用した学生からの質問や相談に、指導教員が随時対応。きめ細かな指導に努めています。



社会科学分野

B研究室の場合〈参考〉

入学直後、新入生ガイダンスと同日に行われる2年生対象の修士論文構想発表会に参加し、論文執筆に向けた準備過程などを学びます。そこから授業を通じた学習を踏まえ、11月に行われる第1回修士論文構想発表会で、修士論文のテーマ・研究方法を発表。その上で、12月下旬頃までに研究テーマと指導教員を決定します。決定した指導教員の指導のもと、構想をさらに練り上げ、修士2年次4月の第2回修士論文構想発表会で発表します。以降、演習を通じた論文指導を受け、9月の第3回修士論文構想発表会で研究の目的・方法・分析結果・結論の概要を発表。引き続き指導教員からの指導を受け、論文完成を目指します。3回の修士論文構想発表会はいずれも、プログラムごとに専任教員と学生が一堂に会し、各自の発表への質問・コメントをもとに議論を行います。



国際文化研究科

國際文化專攻 P 30

詳細は大学院HPをご参照ください。

| 015 |



知の探究 知の根源から知の最先端へ

古代ギリシアから、近代を経て現代に至るヨーロッパ(ドイツ、フランス、イギリス)の哲学全般を網羅する科目群が設置されています。哲学一般、さらに、論理学、倫理学、美学・芸術学などを通じて、真善美など哲学知の根源を探究することができます。また、現象学・解釈学、心の哲学、言語哲学、科学哲学、法哲学、社会哲学、比較思想など、知の最先端の研究を通じて、現代社会の諸問題に哲学的な仕方であプローチすることができます。

昼夜開講制により、社会人院生を含む各院生は、それぞれの研究目的、スケジュールに合わせて柔軟な学習計画を立てることができます。また、留学制度や海外の大学との連携も充実しています。

「博士後期課程在籍者発表会」(写真参照)や「修士論文構想発表会」を開いています。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
安孫子 信 教授	フランス哲学・フランス思想史	人間と科学技術、オーギュスト・コント、ベルクソン研究	科学哲学研究Ⅰ１・２／Ⅱ１・２
安東 祐希 教授	数理論理学	証明論(演繹体系における正規化手続き)	論理学研究Ⅰ１・２
奥田 和夫 教授	古代ギリシア哲学	現在の持続的テーマはプラトンの政治哲学	古代哲学史研究Ⅰ１・２／Ⅱ１・２
笠原 賢介 教授	ドイツ近・現代思想、比較文化	20世紀ドイツ哲学・思想、18世紀ドイツ思想、近代日本思想の再検討	比較思想研究Ⅰ１・２、 哲学ドイツ語研究１・２
酒井 健 教授	ジョルジュ・バタイユ研究、 ゴシック文化史、西洋美術史	ジョルジュ・バタイユ研究、芸術論、西欧美術史	近代フランス哲学史研究Ⅰ１・２／Ⅱ１・２ 哲学フランス語研究１・２
菅沢 龍文 教授	カント哲学、西洋近代思想	近代ドイツ思想、カントの道徳哲学	近代倫理学史研究Ⅰ１・２／Ⅱ１・２
内藤 淳 教授	法哲学	人権や憲法の基礎についての研究、進化心理学に基づく人間本性の研究	法哲学研究１・２
中釜 浩一 教授	言語哲学・科学哲学	言語哲学・科学哲学・イギリス経験論	言語分析哲学研究Ⅰ１・２／Ⅱ１・２
山口 誠一 教授	ドイツ近現代哲学(特にヘーゲル とニーチェ)	ヘーゲルからニーチェにいたるドイツ近現代哲学	実践哲学研究Ⅰ１・２
君嶋 泰明 専任講師	現象学、解釈学	ハイデガーの西洋哲学史観の批判検討	現象学研究Ⅰ１・２
西塚 俊太 専任講師	日本思想史、日本近代哲学、 倫理学	京都学派の哲学研究、日本倫理思想の研究	日本思想史研究Ⅰ１・２／Ⅱ１・２

[2019年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

研究室紹介

内藤 淳 教授

法哲学研究

人間本性と「正しい社会」



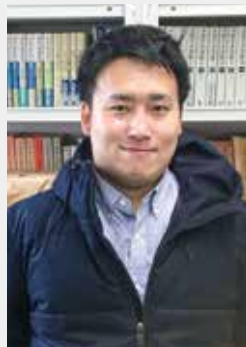
立憲的憲法をはじめとする社会的な規範や制度の正当化根拠を探る研究を進めています。授業では、ジェレミー・ベンサムやジョン・ステュアート・ミルに代表される功利主義に関する英語の論考を精読しながら、「人間の本性とは?」「道徳に客観的基礎があるか?」「正しい社会や法のあり方とは?」といった問題を議論しています。古典的・基本的な哲学理論を踏まえつつ、ゲーム理論、進化理論などの現代的な知見も取り込んだ多角的な検討を行うのが特徴で、受講生には、広い視野に立って学問的な洞察を深めてほしいと思います。

学生・修了生の声

服部 悠

博士後期課程 在学中

研究における対話を通じて、
一方だけでなく多角的な
視野の下、ものごとを考える
姿勢が養われました



私の研究

ヘーゲル哲学における行為の概念をテーマに研究しています。授業は、先生方からの問いやアドバイスを踏まえて、学生がお互いの解釈を検討し合う対話ベースです。論文を書くには哲学書と自分ひとりで向き合う熟考も必要ですが、そのための力が授業の場で得られると実感しています。一方で、十分に熟考した上で臨めた時ほど授業での対話が腑に落ちることが多く、そうした連動を日々感じながら学んでいます。

学んだこと・身についたこと

自分の中での常識を疑うようになりました。大学院ではさまざまな時代や国、地域の哲学者の書物を歴史的、思想史的な文脈を踏まえて読んでいます。そうした文脈の知識を拡げ深めることで、同じ書物を読んだとしても以前の自分とは異なった捉え方をするようになりました。この学びのおかげで日常生活を送る上で人や社会の文脈をよく捉えようという姿勢が育まれましたね。

研究テーマ

哲学研究は多くの観点に触れることが大切。ヘーゲル哲学における行為の概念をテーマに学んでいます。

設置科目〔修士課程〕

言語分析哲学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
形而上学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
古代哲学史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
論理学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
近代倫理学史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
実践哲学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
日本思想史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
近代ドイツ哲学史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
現代哲学研究Ⅰ1・2(各2)
科学哲学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
比較思想研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
近代西洋哲学研究Ⅰ1・2(各2)
近代フランス哲学史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
超越論哲学研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
現象学研究Ⅰ1・2(各2)
ヨーロッパ精神史研究Ⅰ1・2/Ⅱ1・2(各2)
法哲学研究Ⅰ1・2(各2)
哲学ドイツ語研究Ⅰ1・2(各2)
哲学フランス語研究Ⅰ1・2(各2)
哲学基礎研究Ⅰ/Ⅱ(各2)

設置科目〔博士後期課程〕

哲学特殊研究1/2(各2)
言語分析哲学特殊講義1/2(各2)
古代哲学史特殊講義1/2(各2)
論理学特殊講義1/2(各2)
近代倫理学史特殊講義1/2(各2)
実践哲学特殊講義1/2(各2)
近代ドイツ哲学史特殊講義1/2(各2)
科学哲学特殊講義1/2(各2)
比較思想特殊講義1/2(各2)
近代フランス哲学史特殊講義1/2(各2)
超越論哲学特殊講座講義1/2(各2)
法哲学特殊講義1/2(各2)
現象学特殊講義1/2(各2)
日本思想史特殊講義1/2(各2)

〔2019年度〕※開講科目は年度により異なります。()＝単位数

修了生の研究テーマ

- ・機械論に抗うベルクソン
ー「試論」における因果性と自由の議論を中心にー
- ・ジョルジュ・バタイユの言語表現について
- ・カントの最高善と信
ー最高善を促進する義務の根拠
- ・プラトン「国家」におけるディアノイアの対象
ー教育とのかかわりー
- ・デカルト哲学における神の観念の認識についての考察
- ・マックス・シェーラーの倫理思想における愛と人格
についてー自己と他者との相互性をめぐってー
- ・様相論理S5における自然演繹体系とヒルベルト流
体系との同等性

日本文学専攻

募集人員…修士課程20名／博士後期課程2名
 開講形態…昼夜開講 キャンパス…市ヶ谷
 長期履修制度…有（修士・博士後期課程）
 主な進路…学術・教育関連（教員）、出版編集など

日本文学を中心に、
豊かな教養と高度な研究能力を修得

古代から現代までの各時代の文学・言語・芸能に関する科目を中心に学びます。また、文芸批評・中国文学・沖縄文学・国語教育などの関連科目を幅広く配置しています。

2011年度より「文芸創作研究プログラム」を創設。実際に創作を行い、その作品を修士論文の代替として提出できます。プログラムでは、文芸作品が社会で評価されるまでの仕組みを「社会と表現」「編集理論」などの講座で学習。また、「文芸創作研究」「作家特殊研究」などの講座では文芸創作そのものについて学んでいきます。このほか、能楽研究所と連携した「能楽研究者育成プログラム」では、能楽に関する最高水準の大学院教育で展開しています。また、国際日本学インスティテュートとの合同科目を多く開設し、外国人留学生と学ぶ場が多いのも本専攻の特徴です。本専攻では、研究者や教員、学芸員、文芸創作に関わる専門家、専門能力をさまざまな分野で生かせる社会人の育成を幅広く行っています。

研究室紹介

中沢 けい 教授

文学表現を支える社会的事象について研究します

年度により研究テーマを選んでいきます。



2018年度は「フェイクニュース」をテーマといたしました。IT技術の登場はグーテンベルク以来の大改革と言われました。従来の活字からデジタル技術によるネット配信への変化は、言論形成や文学表現の分野にも大きな変化をもたらしています。この変化を日常的な報道から拾い上げ検討を加えて行きます。2019年度のテーマは「フェイクニュースと言論形成」を考えていますが、受講生の希望で修正変更もあります。

学生・修了生の声

杉本 裕樹 修士課程 在学中

研究を進める中で、柔軟な思考力が養われました。
 近年のテレビ番組などへの関心も深まります



学んだこと・身につけたこと

研究を進め、日本文学への知識を深めたことで、現代のテレビドラマやラジオ番組の構成やストーリー展開にも関心を持つようになりました。文豪が近年のドラマを執筆したらどうなるかといったアプローチ方法を思考するなど、柔軟な手法を考えられるようになりました。

大学院の魅力

法政大学大学院は学費やアクセスなど入学への様々な敷居が低く、先生方も親身になって指導してくれます。研究資料が豊富に揃っており、学びやすい環境です。能楽作品研究や文芸創作研究、日本近代文芸演習Ⅰといった講義も多く、研究の幅が多角的に広がりました。

研究テーマ

戦間期日本におけるモダニズム文学としての探偵小説

作家特殊研究紹介



「作家特殊研究」は文芸創作研究プログラムの基幹科目で、毎年、現代文学の最前線で活躍する気鋭の文芸作家を招聘し、受講生が本人を前にしてその作家の作品について研究するという、きわめてユニークな科目です。

どの作品について研究するか、どんなことを作家に語ってもらうかは、学生たちと作家が対話することによって、毎年違うかたちで展開されていきます。そこでは作家についての理解を深めるだけではなく、文学研究全般についての新しい視点を手に入れる学生もいれば、自らの文芸創作への貴重なヒントをもらう学生もいます。

また、そうして学んだ研究の成果は、秋学期に冊子としてまとめます。毎年、目次にはオーソドックスな作品研究・作家研究のみならず、図像や表を駆使した文学研究から文芸創作にいたるまで、多様な記事が並びます。こうして受講生が授業を通して学んだことを言語化した冊子は、その作家についての最新の研究成果であると同時に、手に入れた文学的な知についての実践的な報告になります。

さまざまな興味・関心をもつ学生たちと作家の出会いによって、つねに清新な現代文学の息吹が感じられる授業です。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
阿部 真弓 教授	中世文学	日記文学、物語、和歌	日本中世文芸原典研究 A・B
伊海 孝充 教授	中世文学（特に能楽）	古典演劇の能研究 （能の作品研究・謡本研究）	日本中世文芸演習 A・B
尾谷 昌則 教授	言語学	認知言語学から見た意味拡張、 文法化、構文ネットワーク	日本語学演習 A・B
加藤 昌嘉 教授	古代文学（後期）	平安時代の物語 （『源氏物語』など）	日本古代文芸演習 A・B
小秋元 段 教授	中世文学	軍記物語、史論、説話、 お伽草子、近世初期出版文化	日本文芸特殊研究Ⅱ A・B
小林 ふみ子 教授	近世文芸	大田南畝・江戸狂歌を 中心とする近世中期文学・ 文化研究	日本近世文芸原典研究 A・B、 日本文芸特殊研究Ⅲ A・B
坂本 勝 教授	古代文学（前期）	『古事記』『万葉集』を 中心とする上代文学研究	日本文芸特殊研究Ⅰ A・B、 日本古代文芸原典研究 A・B
スティーヴン・ ネルソン 教授	日本音楽史学	雅楽・仏教音楽・平家語り、 古典文学作品と音楽	日本文芸特講Ⅰ A・B （文芸と音楽） 日本文芸特殊研究Ⅳ A・B
田中 和生 教授	近・現代文学、文芸批評	日本の近代文学の特質を 明らかにすること、 そこから現代文学の条件を 考えること	日本文芸批評史 A・B
中沢 けい 教授	文芸創作	小説、評論、随筆の執筆	日本文芸特講Ⅱ A・B （アートマネジメント研究）
中丸 宣明 教授	近・現代文学	明治・大正の作家・作品研究	日本近代文芸原典研究 A・B
藤村 耕治 教授	近・現代文学	昭和以降の文学、特に戦後文学 およびその継承者による 現代文学の作家・作品研究	日本近代文芸演習Ⅰ A・B
間宮 厚司 教授	日本古典語学	『万葉集』や『おもしろさうし』 などの語学的研究	日本文学原典研究 A・B
宮本 圭造 教授	芸能史	能の歴史研究、中世芸能史	能楽資料研究 A・B
山中 玲子 教授	能楽研究	能の作品研究・演出研究、 能の所作研究	能楽作品研究 A・B、 現代能楽論
遠藤 星希 専任講師	中国古典文学	主に唐詩、唐代伝奇および 幕末期を中心とした 日本漢詩の研究	中国文学 A・B

〔2019年度〕※年度により授業を持たない場合があります。

設置科目〔修士課程〕

日本文芸学 A・B（各2）
 日本文芸批評史 A・B（各2）
 日本古代文芸原典研究 A・B（各2）
 日本古代文芸演習 A・B（各2）
 日本古代文芸特講 A・B（各2）
 日本中世文芸原典研究 A・B（各2）
 日本中世文芸演習 A・B（各2）
 日本近世文芸原典研究 A・B（各2）
 日本近世文芸演習 A・B（各2）
 日本近代文芸原典研究 A・B（各2）
 日本近代文芸演習Ⅰ A・B/Ⅱ A・B（各2）
 日本語学原典研究 A・B（各2）
 日本語学演習 A・B（各2）
 日本語学特講 A・B（各2）
 沖縄文芸史 A・B（各2）
 中国文学 A・B（各2）
 日本文芸特講Ⅰ A・B（文芸と音楽）（各2）
 日本文芸特講Ⅱ A・B
 （アートマネジメント研究）（各2）
 国語と文芸教育法 A・B（各2）
 女性文学 A・B（各2）
 文芸と視聴覚芸術 A・B（各2）
 学際的文学論（文学の境界領域、
文学と宗教等） A・B（各2）
 文学と風土 A・B（各2）
 能楽作品研究 A・B（各2）
 能楽資料研究 A・B（各2）
 現代能楽論（2）
 日本語・日本文学の基礎 A・B（各2）
 歴史と文学論 A・B（各2）
 表現と社会（2）
 編集理論（2）
 作家特殊研究 A・B（各2）
 文芸創作研究 A・B（各2）
 日本文芸特殊研究
 Ⅰ A・B/Ⅱ A・B/Ⅲ A・B/Ⅳ A・B（各2）
 日本文学・国際日本学基礎演習（2）
 日本文学・国際日本学論文作成基礎実習（2）

設置科目〔博士後期課程〕

日本文学特殊演習 A・B（各2）
 日本文学特殊研究 A・B（各2）
 日本文芸批評史特殊研究 A・B（各2）
 日本古代文芸特殊研究 A・B（各2）
 日本中世文芸特殊研究 A・B（各2）
 日本近世文芸特殊研究 A・B（各2）
 日本近代文芸特殊研究 A・B（各2）
 日本語学特殊研究 A・B（各2）

〔2019年度〕※開講科目は年度により異なります。（）＝単位数

修士生の研究テーマ

- ・ 現『伊勢物語』本文形成過程
- ・ 古活字本『保元物語』本文考
- ・ 『方丈記』の文末表現研究
- ・ 世阿弥作夢幻能における脇役の工夫
- ・ 澁澤龍彦後期小説論
- ・ 視覚表現（漫画）と文章表現（小説）の違い
- ・ カタカナ表記語の語用論的特徴

英文学専攻

募集人員…修士課程20名／博士後期課程2名
開講形態…昼夜開講 キャンパス…市ヶ谷
長期規修制度…有（修士・博士後期課程）
主な進路…学術・教育関連（教員等）、製造など



少人数教育による、
文学・言語科学の専門的訓練

英米の文学、英語学、言語科学などの専門教育を行います。
教育の目標は「英米文学・英語学・言語科学の研究者の養成」「言語関連の幅広い知見を生かせる中学・高校英語教員の養成と、科学的訓練による再教育」「幅広い学歴・職歴・年齢層の人への再学習機会の提供」です。そのため社会人入試も実施しています。
開講科目はすべて、少人数のゼミ方式の授業であり、学生のニーズに応じて柔軟かつ丁寧な指導に努めています。また、自由度の高いカリキュラムも大きな魅力です。専任教員と相談しながら、専攻内・研究科内・学内または提携大学院(2018年時点、11校)の豊富な科目の中から、自分独自のカリキュラムを編成することができます。

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針) 入学が期待されているのは、文学に強い興味を持つ人、外国語教育や言語理論の研究のために科学的思考を養いたいと考える人です。社会人は、基本的な思考力があれば年齢・性別・職歴を問わず勉学意欲のある方を社会人入試という形で積極的に受け入れています。また、基礎学力と勉学意欲、日本語と英語の能力がある外国人学生も積極的に受け入れています。一般入試に加え、本専攻の専任教員の推薦を得た人(学内者とは限らない)を推薦入試という形式で積極的に受け入れます。	カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針) 文学系の教育課程では、少人数制の強みを生かしたきめ細かい指導を実施し、学生各自の興味やテーマについて、当該する専門分野の研究会や学会で一定レベルの研究発表ができるよう指導しています。言語系の教育課程では、修士に入学した段階で、科学方法論・統計学・実験法などの方法論やスキルの入門講座を実施します。各自の研究テーマに必要なスキルについては、個々の授業科目において習得します。	ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) 修士の学位は、各自の選んだ研究テーマに必要な研究方法論を身に付け、そのテーマの成果や結果についての知識を十分に習得したと、修士論文によって判断された場合に授与します。博士の学位は、修士の授与基準に加えて、当該分野に新たな知見を加え、その研究分野に独自の貢献をしたと、博士論文によって判断された場合に授与します。
--	---	--

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
石川 潔 教授	理論言語学(統語論・意味論)、 心理言語学(音声知覚、文理解)	音素や音節の知覚、アスペクトの実時間処理など	言語科学方法論A、 言語学特殊研究(理論言語学・認知科学)B
ブライアン・ ウィスナー 教授	応用言語学(第二言語習得理論、 英語教育学)	第二言語習得におけるメタ言語的知識の役割、 言語テストの妥当性など	言語科学方法論B、理論言語学・認知科学A
大沢 ふよう 教授	英語学(統語論)	英語の統語構造の通時的变化を、統語理論を使って分析 する	英語学演習(英語史・言語変化理論)A/B
川崎 貴子 教授	理論言語学(音韻論、第二言語 習得理論)	音韻対比の音声的影響、第二言語学習者の音韻習得など	言語学演習(応用言語学)A/B
椎名 美智 教授	英語学(文体論、語用論、 社会言語学、 コミュニケーション論)	近代英語期口語表現の歴史語用論的研究	英語学特殊研究第一(英文法・文体論・語用 論)A/B
丹治 愛 教授	イギリス文学	19世紀および20世紀イギリス小説	英米文学演習第三(British Fiction)A/B、 英文学特殊研究第一(British Fiction)A/B
利根川 真紀 教授	アメリカ文学	アメリカ南部文学、女性文学、ジェンダー研究	米文学特殊研究第一A/B
日中 鎮朗 教授	ドイツ文学、比較文学	比較文化、F.カフカ、P.オースターの文学、文学理論、 比較芸術	※今年度は、特定の科目を担当しません
宮川 雅 教授	アメリカ文学	アメリカ文学史と宗教と神秘学、小説の語りと技法	英米文学演習第二(American Fiction)A/B、 Fiction演習 I A/B
山下 敦 教授	ドイツ語圏の文学と芸術	19・20世紀転換期におけるヨーロッパ文化の伝統と 近代	比較文学研究A/B

〔2019年度〕※年度により授業を持たない場合があります。

研究室紹介

大沢 ふよう 教授

言語の統語構造の変化を理論的に
解明する、史的統語論

言語能力の解明は、
人間とは何かを解明すること
言語学は科学です



言語の変化全般を念頭に置きながら、実際に扱うのは英語が中心となります。現代英語に存在する義務的な冠詞、多様な助動詞、仮主語として学習してきた虚辞のitやthereなどは古英語においては存在しませんでした。なぜこれらのシステムが英語に登場して来たのかを考えることは、言語の変化の方向性を考えるにあたって大変重要な手掛かりを与えてくれます。今の姿を当然のものとして受け入れるのではなく、科学者として言語のあり方を分析する視点を養えるように学んでほしいと考えて、またそのように指導しています。英語を教える場合にも絶対必要な知識を蓄えてほしいと考えています。

※本専攻には、このほかに英米文学や英語学・言語学などの分野を扱う、全部で11の研究室があります。

学生・修了生の声

木村 奈央

博士後期課程 在学中

シェークスピアの英語が
きっかけで
近現代英語の歴史的変遷に
魅せられました



私の研究

英語の歴史的変化、特にbe完了形とhave完了形の歴史について研究しています。近現代の英語は、大きな変遷を遂げている言語です。授業の分野は幅広く、言語史はもちろん、英語の発音に関わる音声学まで、自身の志向に合わせて自由にカリキュラムを組み、研究を進めることができます。

英文学専攻の魅力

少人数形式の授業は密度が高く、疑問点はすぐに質問することができ、教授や他の学生とのディスカッションによって、専門的な知識を深められます。また、英文学専攻には他大学の授業を受けられる制度が設けられており、学外との交流を通して、多角的な思考法を身に付けることができます。

研究テーマ

完了形の歴史的推移
ー be完了形、have完了形の比較を中心としてー

設置科目〔修士課程〕

英文学思潮研究第一(文学方法論) A/B(各2)
英文学思潮研究第二(文化研究) A/B(各2)
米文学思潮研究第一
(American Drama) A/B(各2)
米文学思潮研究第二
(American Poetry) A/B(各2)
英文学特殊研究第一
(British Fiction) A/B(各2)
英文学特殊研究第二
(British Drama) A/B(各2)
米文学特殊研究第一(文学史) A/B(各2)
米文学特殊研究第二(小説論) A/B(各2)
英米文学演習第一
(Shakespeare) A/B(各2)
英米文学演習第二
(American Fiction) A/B(各2)
英米文学演習第三
(British Fiction) A/B(各2)
英米文学演習第四
(British Poetry) A/B(各2)
英語学演習(英語史・言語変化理論) A/B(各2)
言語学演習(応用言語学) A/B(各2)
英語学特殊研究第一
(英文法・文体論・語用論) A/B(各2)
英語学特殊研究第二
(英語リーディングの科学) A/B(各2)
言語学特殊研究
(理論言語学・認知科学) A/B(各2)
英語教育学研究 A/B(各2)
英語発音法 A/B(各2)
英語表現演習 A/B(各2)
Fiction演習 I A/B(各2)
Poetry演習 I A/B(各2)
Drama演習 I A/B(各2)
文学方法論 A/B(各2)
英語音声・応用研究 A/B(各2)
理論言語学・認知科学 A/B(各2)
応用言語学・理論研究 A/B(各2)
英語科教授法・教材研究 A/B(各2)
言語科学方法論 A/B(各2)
音声言語科学特論(2)
音声言語科学演習(2)
比較文学研究 A/B(各2)
Issues in Japanese Studies I/II(各2)
Academic English
(Effective Writing) A・B(各2)
Academic English
(Oral Presentation) A・B(各2)

設置科目〔博士後期課程〕

英米文学特殊演習 I A/B(各2)
言語学特殊演習 I A/B(各2)
文学方法論特講 A/B(各2)
言語科学方法論特講 A/B(各2)
英米文学特講 I～V A/B(各2)
言語科学特講 I～V A/B(各2)

[2019年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修了生の研究テーマ

- ・ Re-visioning the Ending of *The Secret Garden*: The Author's Dream-Fulfilled World
- ・ Aspects of Madness in *Gulliver's Travels*
- ・ Neil Simon's Formula: How He Transforms Real-Life Models into Fictional Characters
- ・ A Relevance-Theoretic Approach to Impoliteness
- ・ The Relationship Between Self-Regulated Vocabulary Learning Strategies and Vocabulary Size
- ・ Willa Cather's *My Ántonia*: In Memory of Her Precious Past
- ・ *Nineteen Eighty-Four* から読みとるユートピア(ディストピア)とモダニズムの関連——矛盾対立する概念の共存
- ・ The Effects of Test Anxiety on Japanese University Students' Phonetic Knowledge and Performance
- ・ 言語間における非対格性の普遍性——日英語の比較を通じて
- ・ The Maxson Family's Struggles in *Fences*
- ・ Nella Larsen's *Passing* におけるヒロインの正体——バッシングによって失ったもの
- ・ 第二言語における読みにくさと学習効果の関係性について
- ・ The Effects of Listening Repetition and Word Categories on L2 Dictation

史学専攻

募集人員：修士課程15名／博士後期課程2名
 開講形態：昼夜開講 キャンパス：市ヶ谷
 長期履修制度：有（修士・博士後期課程）
 主な進路：教員、公務員など



日々進化する歴史学。 あなたの眼で歴史を発見しよう

日本史（考古学・古代史・中世史・近世史・近現代史の5領域）、東洋史、西洋史の3分野にわたる多彩な授業を展開しています。歴史学は長い伝統を持ち、日々、学説の前進・更新・進化が続く学問です。近年、歴史学は人類史的視点により一層進化しました。本専攻は、史資料批判を通して自ら歴史像を再構成するという伝統的な研究方法を重んじ、同時に最新の研究方法・成果も取り入れています。そして、歴史学の発展に寄与することを目指しています。本専攻の修了者は、大学・高校・中学の教員、博物館の学芸員、資料館・文書館の専門職員（アーキビスト）、図書館の司書、都道府県史・市町村史の編纂員、文化財保護事業の専門職員などの諸分野で活躍しています。

	専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
日本史分野	小倉 淳一 教授	日本考古学	日本考古学、特に東日本の弥生時代社会の研究	日本考古学演習Ⅰ／Ⅱ、 日本考古学特殊研究Ⅲ／Ⅳ
	小口 雅史 教授	日本古代史、東アジア比較 法制史、日本北方史	日本古代社会経済史、日中比較律令法（土地法）史、 蝦夷論、敦煌・吐魯番学	日本古代史演習Ⅰ～Ⅳ
	大塚 紀弘 専任講師	日本中世史	中世の対外関係および仏教に関する研究	日本史学原典研究Ⅰ／Ⅱ、 日本中世史演習Ⅰ／Ⅱ、 日本古文書学研究Ⅰ／Ⅱ
	松本剣志郎 専任講師	日本近世史	近世都市論	日本近世史演習Ⅰ／Ⅱ、 日本近世史科学研究Ⅰ／Ⅱ
	長井 純市 教授	日本近現代史	日本近現代史における政治指導、明治国家における 地方制度整備をめぐる政治過程	日本近代史特殊研究Ⅰ／Ⅱ、日本近代史演習Ⅰ／Ⅱ 日本近代史研究Ⅰ／Ⅱ
東洋史分野	塩沢 裕仁 教授	中国史・物質資料学	漢・魏晉南北朝・隋唐の都城考古学	東洋史学特殊研究Ⅰ／Ⅱ
	齋藤 勝 准教授	中国史・文献史料学	唐代の社会・民族・文化の研究	東洋史学演習Ⅰ／Ⅱ、東洋古代史研究Ⅰ／Ⅱ、 文書館管理研究Ⅱ
西洋史分野	中村 純 教授	西洋古代史	古典期アテネの政治と社会	西洋史学演習Ⅴ／Ⅵ
	後藤 篤子 教授	西洋史	ローマ帝国の歴史と社会および西洋古代末期における 社会・文化の連続と変容	西洋史学演習Ⅰ／Ⅱ、西洋古代史研究Ⅰ／Ⅱ
	高澤 紀恵 教授	西洋史	近世フランス社会史・都市史	西洋史学演習Ⅲ／Ⅳ、 ヨーロッパ近現代政治史研究Ⅰ／Ⅱ

〔2019年度〕※年度により授業を持たない場合があります。

研究室紹介

小倉 淳一 教授

日本考古学、特に東日本の
弥生時代社会の研究

物質資料に語らせる
考古学の魅力



研究室には先史考古学から歴史考古学までさまざまな時代と資料を研究する院生が所属し、発表や議論を行っています。考古学資料はそれ自身では情報を発しませんが、さまざまな角度から光を当ててやることで、知られざる側面をいくつも見せはじめます。その手法や手続きについて相互に検討し、資料に物語らせながら立論することで自己研究を深めていくことを期待しています。私自身は弥生時代社会に関する研究を土器や集落の面から進めており、文献史料に表れない人間集団の選択や動向をつかんでいくことを目指しています。研究室では所蔵する資料の整理も実習的に進めており、考古学資料からいかに情報を引き出しまとめるかについて、実践的な検討も行っています。

※本専攻には、日本考古学から日本近現代史、あるいは東洋史や西洋史分野を扱う、全部で10の研究室があります。

設置科目〔修士課程〕

日本史学研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
日本史学原典研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
日本古代史特殊研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
日本中世史特殊研究Ⅰ～Ⅳ（各2）
日本近世史特殊研究Ⅰ～Ⅳ（各2）
日本近代史特殊研究Ⅰ～Ⅳ（各2）
日本考古学特殊研究Ⅰ～Ⅳ（各2）
日本古代史演習Ⅰ～Ⅳ（各2）
日本中世史演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
日本近世史演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
日本近代史演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
日本考古学演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
日本古文書学研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
日本古代史研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
日本古代史料研究（2）
日本中世史研究（2）
日本近世史料学研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
日本近代史研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
沖縄学入門Ⅰ／Ⅱ（各2）
東洋史学特殊研究Ⅰ～Ⅳ（各2）
東洋史学演習Ⅰ～Ⅵ（各2）
東洋古代史研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
東洋中世史研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
東洋近代史研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
西洋史学特殊研究Ⅰ～Ⅵ（各2）
西洋史学演習Ⅰ～Ⅵ（各2）
西洋古代史研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
西洋中世史研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
ヨーロッパ近現代政治史研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
アーカイブズ学Ⅰ／Ⅱ（各2）
文書館管理研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
記録史料学研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
記録史料学演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
外書講読Ⅰ／Ⅱ（各2）

学生・修了生の声

田上 慎一

修士課程 2014年度修了／株式会社アトラス

太平洋戦争という
大きな課題に挑戦。
ここで得た知識や成果を社会に
還元することが目標



私の研究

日本近代史を専攻し、特に昭和戦前・戦中期における政治状況を地域の視点から重視しながら研究しました。「なぜ太平洋戦争は起こったのか？」という大きな研究課題を考える上で、私は国家を底辺で支える地域とそこに暮らす人びとの視点が重要だと考えました。そこで、長野県で地域に根ざして活動していた政治家を対象として、この時期の政治状況を研究しました。

将来の目標

大学院で得られた知識や技術、成果を社会に還元することが将来の目標です。ここ数年、歴史学に対する社会的な関心が高まっていると感じます。自分や自分の先祖がどのような軌跡を歩んだかをまとめたい、防災を目的に過去の土地利用を学びたいなど、その動機はさまざまだと思います。私は、こうした「学びたい、知りたい」という想いを支える活動を起こしたいと考えています。

研究テーマ

昭和戦前・戦中期における中央政界と地方の動向

設置科目〔博士後期課程〕

史学特殊演習AⅠ／Ⅱ・BⅠ／Ⅱ（各2）
日本史学特殊講義AⅠ／Ⅱ～EⅠ／Ⅱ（各2）
東洋史学特殊講義AⅠ／Ⅱ・BⅠ／Ⅱ（各2）
西洋史学特殊講義AⅠ／Ⅱ～CⅠ／Ⅱ（各2）

〔2019年度〕※開講科目は年度により異なります。（）＝単位数

修了生の研究テーマ

- ・日本古代の勸農について
―律令国家による勸農の成立から終焉へ―
- ・大正・昭和戦前期における貴族院改革運動
- ・クラウディウス帝を通してうかがう帝政初期の皇帝に期待された資質について
―貨幣上の図像及び銘の分析による考察―
- ・極東国際軍事裁判における海軍大佐豊田隼雄の果たした役割に関する一考察
- ・律令国家における中央貴族の仏教事業
―藤原豊成・仲麻呂兄弟の比較から―
- ・2世紀のキリスト教徒迫害と皇帝崇拝の関係についての一考察
- ・九州南朝の軍勢指揮者の活動と権限

地理学専攻

募集人員…修士課程15名／博士後期課程2名
 開講形態…昼夜開講 キャンパス…市ヶ谷
 長期履修制度…有（修士・博士後期課程）
 主な進路…教育関連（教員）やコンサル分野など



世界の多様さ、自然環境の多様さ、 人間社会の多様さを科学的に解明

自然地理と人文地理の2本柱でカリキュラムを構成しています。その幅広く複合的な領域をバランス良くカバーする教育体制が整っています。地理学は地域の科学、あるいは空間の科学ともいわれます。地理学という地域（空間）とは、身近なミクロの範囲から、国・大陸・地球規模と、さまざまな規模を含んでいます。地球規模の環境問題に直面する現代、現場のフィールドワークをもとに、地表付近で起こる時空間的現象にアプローチする地理学は、社会的にもその重要性を増しています。本専攻では、学生は自然地理・人文地理のどちらかに重心を置きつつ、個別の研究テーマを設けて研究を進めます。養成する人材は、地理学研究者、中学・高校教員、公務員、社会に貢献する人材などです。また、社会人入試制度により現職の教員や有識者の再学習にも力を注いでいます。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
伊藤 達也 教授	経済地理学、資源・環境研究	水資源研究、環境問題研究、地域経済・地域社会研究	人文地理学研究Ⅰ／Ⅱ、 人文地理学演習Ⅰ／Ⅱ
米家 志乃布 教授	歴史地理学、日本北方・ロシア地域研究	蝦夷地・北海道の歴史地理学、シベリア・極東の地図史研究	歴史地理学研究Ⅰ・Ⅱ、 歴史地理学演習Ⅰ・Ⅱ
中俣 均 教授	文化地理学、島嶼の地理学	沖縄地域研究	文化地理学研究Ⅰ／Ⅱ、 文化地理学演習Ⅰ／Ⅱ
前空 英明 教授	自然地理学、地形学、第四紀学	地殻変動および環境変動に関する地形・地質学的研究	地形学研究Ⅰ／Ⅱ、 地形学演習Ⅰ／Ⅱ
吉田 智 教授	原子核物理学	平均場理論による原子核構造の研究	※今年度は、特定の科目を担当しません
小原 文明 准教授	都市地理学、都市開発論	都市開発の空間的・社会的意義、土地所有から見た都市形成・変容	社会経済地理学研究Ⅰ・Ⅱ、 社会経済地理学演習Ⅰ・Ⅱ
片岡 義晴 准教授	農業経済地理学	現代の農業労働力問題、集落共同化	地域社会論研究Ⅰ／Ⅱ、 地域社会論演習Ⅰ／Ⅱ
小寺 浩二 准教授	自然地理学（水文学）、海洋陸水学	水循環に伴う物質循環に関する研究、河川流域の水環境保全と管理に関する研究	水文学研究Ⅰ／Ⅱ、水文学演習Ⅰ／Ⅱ
山口 隆子 准教授	自然地理学、気候学・生気象学	都市気候研究、都市緑化研究、自然地誌研究	気候学研究Ⅰ／Ⅱ、気候学演習Ⅰ／Ⅱ

〔2019年度〕※年度により授業を持たない場合があります。

研究室紹介

山口 隆子 准教授

気候学・生気象学

気候変動から身近な 気候現象の実態解明まで



自然地理学の中でも、気候学・生気象学を専攻し、気候変動が人間や自然環境に及ぼす影響を研究しています。生気象学はヨーロッパを中心に研究が行われていますが、日本では数少ない研究室の一つとなっています。

現在、在籍している院生は、「伊豆諸島における島曇りの発生条件の統計的推定」をテーマとしていますが、現地研究で訪問した韓国密陽近郊のオルムゴルでの気象観測結果についても学会で発表するなど、幅広く研究に取り組んでいます。また、ヒートアイランド現象をはじめとした都市気候や都市緑化技術、熱中症などの研究や風穴・結氷等の気象観測、東京の自然環境（多摩部や島しょ）に関する研究も行っています。

設置科目〔修士課程〕

地形学研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
地形学演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
気候学研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
気候学演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
水文学研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
水文学演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
第四紀学研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
自然地理学文献講読Ⅰ／Ⅱ（各2）
自然地理学総合演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
自然地理学特殊講義Ⅰ／Ⅱ（各2）
人文地理学研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
人文地理学演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
社会経済地理学研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
社会経済地理学演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
文化地理学研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
文化地理学演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
地域社会論研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
地域社会論演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
歴史地理学研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
歴史地理学演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
空間構成論研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
人文地理学文献講読Ⅰ／Ⅱ（各2）
人文地理学特殊講義Ⅰ／Ⅱ（各2）
地理学現地研究Ⅰ／Ⅱ（各1）

設置科目〔博士後期課程〕

地理学特別演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
自然地理学特別講義Ⅰ～Ⅳ（各2）
人文地理学特別講義Ⅰ～Ⅳ（各2）
地誌学特別講義Ⅰ～Ⅳ（各2）

〔2019年度〕※開講科目は年度により異なります。（）＝単位数

修士生の研究テーマ

- ・日本の夏季におけるWBGT(湿球黒球温度)の分布に関する総観気候学的考察
- ・東京首都圏における北西方向への気温の縦断分布とその季節的变化
- ・グローバル・アライアンスを活用した日系航空会社の国際戦略 ―全日本空輸・日本航空を事例に―
- ・クリプトテフラの同定による南海トラフ大地震に伴う津波発生年代の解明
- ・台風通過に伴う関東地方の降水量分布と地形との対応
- ・日本社会の影響における在日新華僑・華人の変容 ―池袋チャイナタウンを中心に―
- ・重慶市における日系コンビニの店舗運営の実態とその立地の特徴 ―ローソンを事例に―
- ・半乾燥地域における塩湖及び集水域諸河川・地下水の水文化特性 ―中央アジア・キルギス：イシククル湖を事例に―
- ・中国における流域ガバナンスの住民参加の現状と問題点 ―小南海水力発電所を対象に―
- ・中国における使用済み自動車の解体業に関する研究 ―重慶市における解体企業の考察を中心に―
- ・現代の不安定居住者層集中地域の特性による影響 ―大田区蒲田を中心に―

学生・修士生の声

吉原 圭佑

修士課程 2016年度修了

研究意欲の高い院生や留学生との
交流が大きな刺激に。
恵まれた環境がビジネスや
海外への関心を広げてくれた



専攻の魅力

学内・学外を問わず例えば経済地理学分野における第一人者の教授方から教授して頂け、少人数のゼミ形式での講義では院生からの疑問も議論の中でお答えくださいます。修士論文に関しては指導教員が否かを問わず厳しく鋭い指摘をしてくださいます。また、研究意欲の高い日本人院生や留学生と交流でき、全く色の異なる各々の研究テーマや異文化から大きな刺激や新たな視座を得られます。

学んだこと、身に付いたこと

恵まれた環境で研究に進進できました。一流の教授方や豊富な蔵書、研究補助金、専攻室、他大学院との単位互換制度を擁しており、キャンパスは都心に立地するため国立国会図書館や現地調査へも至便です。普段から留学生や社会人院生と共に学び研究し、現地研究では海外に赴くこともあるため、日本人院生同士での交流では生まれない刺激を受け、ビジネスや海外へも関心事の範囲が拡大しました。

研究テーマ

グローバル・アライアンス（多社間連携）を活用した
日系航空会社の国際戦略

心理学専攻



心の機能を認知と発達を柱に考える、とある授業風景 — なぜ、2、3歳のときの記憶って思い出せないのか —

特定の領域に偏らず、心理学のさまざまな領域を学びます。そのため、知覚・睡眠・発達・発達臨床・言語・教育・行動分析・犯罪・社会・記憶・学習・音声学・スポーツ・健康といった多様な領域のエキスパートによる集団指導体制をとっています。また、実験・検査・面接、調査や統計など、心理学の研究法に関する技術を修得できるようにカリキュラムを編成しています。心理学の研究法を修得しながら高度なコンピュータ・リテラシー、文章表現力、プレゼンテーション能力が身に付きます。さらに、所定の条件を満たすことにより学校心理士あるいは学校心理士補の受験資格を取得できます。学内のライフスキル教育研究所とも連携し、エビデンスに基づいた研究実践を展開します。

主なアドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)	主なカリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)	主なディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)
○心理学研究への強い意欲と心理学の各分野における学部卒業レベルの知識。 ○修士論文・博士論文研究の実施と論文執筆のために必要となる英文読解力や批判的読解力、論理的思考力、データ分析力、プレゼンテーション能力、およびITリテラシー。	○年に2回の研究発表会では専任教員全員で集団指導。 ○グループ討論や発表機会、情報技術を活用する課題の設定。	○観察・実験・調査を通して、人の認知や発達について科学的に理解できる。 ○国内外の先行研究や社会的要請をふまえ、自ら課題を設定できる。 ○研究・学習目標を達成するために他者と協働でき、成果を的確に他者に伝えられる。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
高橋 敏治 教授	生理心理学、睡眠科学、 精神保健学	時差症候群とシフト勤務に係る精神作業能力やP300の変化、サーカディアンリズム睡眠障害	精神保健特論、精神生理特論、 精神生理特殊講義
吉村 浩一 教授	知覚・認知心理学、心理学研究法	逆さめがね着用などによる変換された視覚世界への順応過程の研究、心理学研究法、アニメーションにおける動きの研究	知覚運動論演習、心理研究法特論、 知覚認知心理学特殊講義
渡辺 弥生 教授	発達心理学、発達臨床心理学、 学校心理学	社会性や道德性の発達メカニズムの解明・いじめなどの対人関係における問題の予防と心理教育プログラムの開発・展開	発達心理特論、学校カウンセリング演習、 発達心理学特殊講義
福田 由紀 教授	言語心理学、教育心理学	浅い処理から見た文章理解モデル、 コミュニケーションにおける言語活動の役割	言語心理特論、言語心理演習、 言語心理学特殊講義
島宗 理 教授	行動分析学、産業組織心理学	パフォーマンス・マネジメント、インストラクショナルデザイン、組織行動マネジメントや消費者行動に関する研究	発達行動特論、学校コンサルテーション特論 行動分析学特殊講義
藤田 哲也 教授	認知心理学、教育心理学	人間の記憶を中心とした認知メカニズムに関する基礎研究と、学習場面における動機づけと学習方略との関連を中心とした教育への応用研究	学習心理特論、学習指導特論、 認知学習過程演習、大学教員心理学基礎講座
越智 啓太 教授	犯罪心理学、社会心理学	犯罪心理学、特に犯罪捜査における心理学の応用についての研究	社会心理特論、犯罪心理特論、 犯罪心理学特殊講義
田嶋 圭一 教授	音声学、言語学、言語心理学、 認知科学	音声言語の知覚・産出・学習に関する実証的研究	音声言語科学演習、音声言語科学特論 心理学英語論文作成指導
荒井 弘和 教授	スポーツ心理学	アスリートに対する心理サポート、 ソーシャルマーケティングによる生涯スポーツの普及	スポーツ心理特論

[2019年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

主要な研究設備

- NIRS(脳血流量測定装置): 全脳型1台、前頭型2台。
- 脳波計: 据置型1台、携帯型2台、P300などの事象関連電位測定。
- ポリグラフ: 脳波、筋電図、呼吸運動、心電図、指尖脈波、耳栓型温度、皮膚活動電位などが測定可能。
- その他、サーモグラフィー、アイカメラ、呼吸代謝測定機器、事象関連電位や周波数、3次元動作や自律神経系の解析ソフト、防音室など。

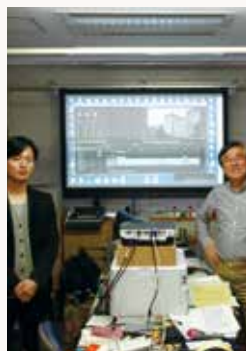
募集人員: 修士課程10名/博士後期課程3名
開講形態: 昼間開講(一部夜間開講) キャンパス: 市ヶ谷
長期履修制度: 有(修士・博士後期課程)
主な進路: 教職、公務員(家庭裁判所調査官、各県心理職、各県警科、学捜査研究所、法務省)、発達支援、情報通信、リサーチ会社、博士後期課程への進学、大学や研究機関など

研究室紹介

吉村 浩一 教授

錯覚や見間違いも、見ることの法則性
が生み出す心の法則

古くて新しい問題を知覚する
ことから始まる人の
認知の解明



「認知」とは、身の周りにあるものを知覚することから始まり、それを記憶し、それらを材料に思考・推理していく心の働きです。私たちの心理学専攻では、この「認知」を、もう一つの柱である「発達」とともに、心理学にとって重要で中心的な研究対象として、さまざまな角度から解明することを目指しています。中でも「知覚」は、身の周りの映像や音、香りや振動などの物理的刺激が心に届く入口部分を担当する研究分野で、科学的検討が行いやすい領域です。例えばアニメーションは、静止画を次々に素早く見せているのに滑らかな動きと知覚されます。物理的事実と心理的知覚物の間にあるこのようなズレを科学的にかつ法則的に捉えることを私たちは目指しています。

※本専攻には、このほかに精神生理・知覚・言語・音声・発達・犯罪・行動分析・スポーツなどの分野を扱う、全部で9の研究室があります。

設置科目〔修士課程〕

心理学研究法演習Ⅰ／Ⅱ（各1）
学習心理特論（2）
音声言語科学特論（2）
社会心理特論（2）
読書心理特論（2）
教育心理特論（2）
犯罪心理特論（2）
学習指導特論（2）
知覚運動論演習（2）
音声言語科学演習（2）
精神生理特論（2）
認知学習過程演習（2）
臨床心理特論（2）
発達心理特論（2）
障害児心理特論（2）
人格心理特論（2）
言語心理特論（2）
精神保健特論（2）
学校カウンセリング演習（2）
発達行動特論（2）
生徒指導特論（2）
言語心理演習（2）
学校コンサルテーション特論（2）
心理教育アセスメント特論（2）
心理教育アセスメント演習（2）
スポーツ心理特論（2）
健康心理特論（2）
心理研究法特論（2）
応用心理統計Ⅰ／Ⅱ（各2）
言語分析哲学研究Ⅱ 1・2（各2）
古代哲学史研究Ⅱ 1・2（各2）
近代倫理学史研究Ⅱ 1・2（各2）
実践哲学研究Ⅱ 1・2（各2）
科学哲学研究Ⅱ 1・2（各2）
超越論哲学研究Ⅱ 1・2（各2）

学生・修了生の声

太田 碧

博士後期課程 在学中

数少ない心理学的なアニメや
キャラクターの研究成果を
実際のアニメ制作などの
現場に還元したい



私の研究

私は、アニメーションキャラクターについての研究をしています。特にキャラクターの顔の魅力や、実際の人間との違いに注目し、認知に差があるのかを実験と統計を用いて明らかにする研究に取り組んでいます。現在、アニメやキャラクターについての心理学的研究は少ないため、研究において得られる結果は、この分野においてとても有益であると考えています。

将来の目標

研究を続けていきたいと考えています。心理学的なアニメやキャラクターの研究はまだ数が少ないので、数を積み重ねて新たな発見をしていきたいです。また、研究の成果を実際の現場に生きる形に変化させていくことが目標です。魅力的なキャラクターの作成や、実写化に際して原作の魅力を損なわないようなシステムの開発を行いたいと考えています。

研究テーマ

アニメーションキャラクターの顔、魅力について

設置科目〔博士後期課程〕

心理学特殊研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
大学教員心理学基礎講座（2）
心理学英語論文作成指導（2）
知覚認知心理学特殊講義（2）
精神生理学特殊講義（2）
発達心理学特殊講義（2）
言語心理学特殊講義（2）
行動分析学特殊講義（2）
犯罪心理学特殊講義（2）

〔2019年度〕※開講科目は年度により異なります。()＝単位数

修了生の研究テーマ

- ・不安喚起の差異からみた入眠期の脳波・自律神経活動による精神生理学的検討
- ・子どもの発達に関する知識が育児ストレスに及ぼす影響
- ・商品名に含まれる音相の違いが購買意欲、商品画像の選択に与える影響
- ・人物同定再認における幸福顔優位性の生起因－再認の二過程説による検討－
- ・漢字・ひらがな・カタカナの書き分けと印象の違いについて－日本語表記に関する実証的研究－
- ・空間的運動情報が時間知覚に与える影響－S効果における等速運動仮説の検証－
- ・オノマトペの感覚関連性および表記形態が意味理解に与える影響－感覚情報を測定する評価用語への応用を目指して－
- ・パートナーに対する暴力のメカニズム－Dark Triadと生活史戦略による個人差に対するアプローチ－
- ・アニメーションによる物語理解過程の心理学的検討



日本の環境論



「国際日本学会合同演習」で狂言を学ぶ

「学際」と「国際」——学問領域の枠を超え、国境を超え、世界の中の日本を視る

国際日本学インスティテュートは、哲学・日本文学・英文学・史学・地理学の5専攻が共同で開設する、日本研究に特化した教育研究プログラムです。思想・サブカル・芸術・文学・言語・歴史・民俗・生活文化・地理・環境・経済などを切り口に、日本について深く探究することを目指します。一言で「日本」といっても、そこには多様な側面が存在しています。例えば、沖縄からアイヌ民族、そして在日外国人とともに作り上げてきた日本文化や、これまで必ずしも学術的な対象として捉えられてこなかったサブカルチャーなど、日本研究の領域には広がりがあります。従来の分野に収まりきれないテーマや広い視野で日本を研究したいと願っている学生や社会人、外国人留学生にとって最適な専攻です。国際日本学インスティテュートでは「学際性」と「国際性」を重視して研究を進めます。一つの学問領域を研究しているだけでは得られない知見を、専攻横断的なカリキュラムを通じて獲得することができます。また、世界各国の留学生と日本人が集まり、交流する場として、海外からの視点や比較の視点による研究も実現することができます。多様な日本を、多様な背景と関心を持った仲間が学び合う、新たな知的探究の場がここにはあります。

研究室紹介

スティーヴン・ネルソン 教授

東アジアとの関係を踏まえた、日本の音楽・古典芸能に関する歴史的研究

日本の音楽や古典芸能を、東アジアという枠組みの中で捉え、その歴史的な変遷を考察



日本の音楽文化は、海外（主にアジア大陸）からの影響を受ける時期と、それを消化し日本的なものに変容させていく時期との推移の中で形成されてきました。こうした歴史的経緯を踏まえて、音楽史学の方法論の可能性を考えながら研究しています。狭義の音楽文献史料（楽譜や楽書）に加え、一般的な文献史料（日記などの記録）や文学作品の中の音楽描写場面にも着目し、音楽史を探る材料として読み解きます。楽器などの物的史料も、また日本に豊富に現存する音楽・古典芸能の生きた演奏伝承も研究対象とします。文化における音楽の不変性と可変性を探りながら、「日本的なもの」を明らかにしていきます。

学生・修了生の声

黄 逸雋 博士後期課程 在学中

自分の興味をそのまま研究テーマにできるのが魅力の一つ。サブカルチャーも研究テーマになる



専攻の魅力

なんといっても研究テーマの幅広さが魅力です。語学、文学、芸術、宗教、社会、環境、サブカルチャーなどなど、驚かされるほどです。色々な国の出身の人々が、様々な視点から「日本」に焦点を当てているからこそ、このように多種多様な研究も可能になったのでしょう。進学前の大学院案内にあった「自分が興味を持つ分野を、自由に研究できるところ」という一節は、今でも強く印象に残っています。

私の研究

私が今研究している演歌は、自分の趣味でもあります。演歌に関心を持っている一方、それにもみられる不思議なところにも気づき始め、演歌を巡る謎を自分なりに明かしてみたいと思うようになりました。演歌は専攻分野において比較的に分類しにくいテーマでもあると思います。サブカルチャーに近い演歌を取り上げたかった私にとって、多様な研究が行われている国際日本学インスティテュートは非常に魅力的でした。

研究テーマ

日本における現代歌謡文化 —演歌を中心に—

	専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
哲学専攻	安孫子 信 専担教授	思想史	ヨーロッパと近代日本	国際日本学演習Ⅰ／Ⅱ、 日本の思想・西欧の思想Ⅰ／Ⅱ
	西塚 俊太 専担専任講師	日本思想史・日本近代哲学・ 倫理学	京都学派の哲学の研究・日本倫理 思想の研究	国際日本学演習Ⅰ／Ⅱ
日本文学専攻	伊海 孝充 専担教授	日本文学	能楽を中心とした古典芸能・民 俗芸能	国際日本学演習Ⅰ／Ⅱ
	小秋元 段 専担教授	日本文学	日本中世文学、中世・近世初期 出版文化、和漢比較文学	国際日本学演習Ⅰ／Ⅱ
	小林 ふみ子 専担教授	日本文学	江戸時代文化、 文芸（漢文戯作や狂詩含む）、 絵本、浮世絵など	国際日本学演習Ⅰ／Ⅱ、 江戸の文芸と文化Ⅰ／Ⅱ
	坂本 勝 専担教授	上代文学	古事記・万葉集を中心とする 上代文学研究	国際日本学演習Ⅰ／Ⅱ、 神話と歌Ⅰ／Ⅱ
	島田 雅彦 専担教授	創作、小説論、文学史、 戦後史、サブカルチャー	日本学、比較文化学、 サブカルチャー諸ジャンル	国際日本学演習Ⅰ／Ⅱ
	ステイヴン・ ネルソン 専担教授	日本音楽史学	音楽・古典芸能の歴史、 古典文学作品と音楽	国際日本学演習Ⅰ／Ⅱ、 国際日本学論文作成実習（英 語）Ⅰ／Ⅱ
	遠藤 星希 専担専任講師	中国文学	中国唐代文学、 江戸・明治期を中心とした日本 漢文学	国際日本学演習Ⅰ／Ⅱ
	尾谷 昌則 専担教授	言語学	若者言葉、意味論、文法論、 認知言語学	国際日本学演習Ⅰ／Ⅱ
	間宮 厚司 専担教授	言語学	日本語の意味・表記・ 流行語の変化	国際日本学演習Ⅰ／Ⅱ、 日本語の歴史と現在Ⅰ／Ⅱ
	川崎 貴子 専担教授	言語学	言語習得、音韻論、心理言語学、 学習者に注目した第二言語教 育	国際日本学演習Ⅰ／Ⅱ
英文学専攻	椎名 美智 専担教授	言語学	社会言語学、語用論、文体論、 談話分析	国際日本学演習Ⅰ／Ⅱ
	小口 雅史 専担教授	古代日中比較文化論、 日本古代中世北方史	日中比較律令法史・土税法史、 蝦夷論、日本古代社会経済史	国際日本学演習Ⅰ／Ⅱ、 東アジアの律令文化Ⅰ／Ⅱ
史学専攻	謝 荔 専担教授	中国漢族社会の文化人類学 的研究	中国・日本社会の生活文化の比 較	国際日本学演習Ⅰ／Ⅱ
	水野 和夫 専担教授	マクロ経済学、 現代日本経済論、 資本主義経済史	デフレ・ゼロ金利下における日 本経済の課題、 資本主義経済の課題と将来展 望	国際日本学演習Ⅰ／Ⅱ
	松本 剣志郎 専担専任講師	日本近世史	城下町江戸の空間と社会	国際日本学演習Ⅰ／Ⅱ
地理学専攻	伊藤 達也 専担教授	地理学、 地域社会・地域経済研究	日本から東アジアにかけての 水資源問題、環境問題	国際日本学演習Ⅰ／Ⅱ、 日本の環境論Ⅰ／Ⅱ、 国際日本学合同演習
	米家 志乃布 専担教授	日本の歴史地理学、 日本とロシアの地図史	画像史料を用いた日本研究、 日本における歴史的町並み保 存	国際日本学演習Ⅰ／Ⅱ、 地図の文化誌Ⅰ／Ⅱ
	小原 文明 専担准教授	地理学、 都市に関わる社会的・経済 的な事象	日本における都市の形成・変容 および開発に関する研究	国際日本学演習Ⅰ／Ⅱ、 日本の産業風土Ⅰ／Ⅱ
	片岡 義晴 専担准教授	地理学	農業共同化、 雇用型農業と外国人労働力	国際日本学演習Ⅰ／Ⅱ

〔2019年度〕※年度により授業を持たない場合があります。

設置科目〔修士課程〕

【必修科目・国際日本学演習】
国際日本学演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
国際日本学合同演習（2）

【国際日本学基幹科目】
世界の日本論と日本学Ⅰ／Ⅱ（各2）
アジアと日本Ⅰ／Ⅱ（各2）
国際日本学論文作成実習（英語）Ⅰ／Ⅱ（各2）
日本語論文作成実習Ⅰ／Ⅱ（各2）
日本語論文作成基礎AⅠ～Ⅳ（各1）
日本語論文作成基礎BⅠ～Ⅳ（各1）
日本語の性格Ⅰ／Ⅱ（各2）
伝統文化と民衆世界Ⅰ／Ⅱ（各2）
日本の思想・西欧の思想Ⅰ／Ⅱ（各2）
日本の思想Ⅰ／Ⅱ（各2）
史料から読む琉球とアジアⅠ／Ⅱ（各2）
戦後沖縄と対外関係Ⅰ／Ⅱ（各2）
仏教思想と仏教美術Ⅰ／Ⅱ（各2）
越境時代の日本文化Ⅰ／Ⅱ（各2）
データ分析法Ⅰ／Ⅱ（各2）
サブカルチャー論Ⅰ／Ⅱ（各2）

【国際日本学関連科目・文学と言語】
日本文学・国際日本学基礎演習（2）
日本文学・国際日本学論文作成基礎実習（2）
近代の文芸批評Ⅰ／Ⅱ（各2）
神話と歌Ⅰ／Ⅱ（各2）
平安時代の物語Ⅰ／Ⅱ（各2）
書誌学と文献学Ⅰ／Ⅱ（各2）
能と楽劇Ⅰ／Ⅱ（各2）
江戸の文芸と文化Ⅰ／Ⅱ（各2）
江戸の思想史Ⅰ／Ⅱ（各2）
日本語の歴史と現在Ⅰ／Ⅱ（各2）
現代日本語のしくみⅠ／Ⅱ（各2）
沖縄文芸史Ⅰ／Ⅱ（各2）
中国文学Ⅰ／Ⅱ（各2）
女性文学Ⅰ／Ⅱ（各2）
文学と映画Ⅰ／Ⅱ（各2）
文学と風土Ⅰ／Ⅱ（各2）
表現と社会（2）
編集理論（2）
英語発音法Ⅰ／Ⅱ（各2）
行動科学方法論Ⅰ（2）
西欧比較文学Ⅰ／Ⅱ（各2）
Issues in Japanese StudiesⅠ／Ⅱ（各2）

【国際日本学関連科目・歴史と思想】
西欧の思想Ⅰ／Ⅱ（各2）
東北アジアの文化伝播Ⅰ1・2／Ⅱ1・2／Ⅲ1・2（各2）
東アジアの律令文化Ⅰ1・2／Ⅱ1・2（各2）
王権の政治文化Ⅰ／Ⅱ（各2）
天皇制と地方支配―王権の諸相―Ⅰ／Ⅱ（各2）
日本の歴史と宗教（2）
古文書から読む江戸社会・入門編Ⅰ／Ⅱ（各2）
江戸の地方文化Ⅰ／Ⅱ（各2）
日本文化と西洋文化Ⅰ／Ⅱ（各2）
日本の近代と国際社会Ⅰ／Ⅱ（各2）
沖縄学入門Ⅰ／Ⅱ（各2）
アーカイブズ学Ⅰ／Ⅱ（各2）
文書館管理研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
記録史料科学研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
記録史料学演習Ⅰ／Ⅱ（各2）

【国際日本学関連科目・風土と民族】
日本の環境論Ⅰ／Ⅱ（各2）
日本の産業風土Ⅰ／Ⅱ（各2）
地図の文化誌Ⅰ／Ⅱ（各2）

設置科目〔博士後期課程〕

国際日本学研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
国際日本学特殊講義AⅠ・JⅠ・KⅠ（各2）
国際日本学特殊講義B～H、LⅠ／Ⅱ（各2）

〔2019年度〕※開講科目は年度により異なります。（）＝単位数

修士生の研究テーマ

- ・映画を通じて日本の百合文化の現状について考察する
- ・中国における死を主題とする絵本 ―日本から受容された作品と中国の作品との比較―
- ・オペラ《蝶々夫人》における東洋的表象
- ・現代日本語における「頭」の意味について
- ・天気表現のメタファーに関する日中対照研究
- ・現代における妖怪文化の伝承に関する考察 ―サブカルチャー作品に登場するキャラクターを中心に―
- ・沖縄シーサーの成立過程 ―シーサーの種類の起源と狛犬から
- ・横浜みなとみらい21地区におけるオフィス立地の変容 ―経済的中枢管理機能を中心に―
- ・観光からみた農村空間の商品化による地域活性化 ―青森県田舎館村における取組と地域活性化の可能性―

国際文化専攻

異文化との交流によって成立する
「国際文化」を探究

グローバル化・情報化が進展する世界を、既存の主権国家の枠組みだけではなく、異文化間の理解と交流によって成立する「国際文化」として捉え研究することが本専攻の目的です。そのため、本専攻では主に3つの研究領域に科目を配置しています。第一に「国際社会に存在する多様な地域文化間の相関関係」を扱う「異文化相関関係研究」、第二に「多文化・多民族社会での共生」を扱う「多文化共生研究」、第三に「様々なメディアが介在する情報化社会における文化交流・認識」を扱う「多文化情報空間研究」です。

様々な文化が共有する問題と構造に関する重層的な研究や文化を中心に政治・経済も加えた広い視野による国際社会の考察、どのような文化にも存在する「内なる他者」「内なる異文化」の解明、国際文化における日本文化の相対化、更には情報空間に成立する文化に対する国際文化学としての理解などに取り組んでいます。

異なる文化がせめぎ合い、かつ多様な文化情報がインターネット等を通して行き交う国際社会において、そこから生じる諸問題を主体的、自立的かつ創造的に研究し、問題解決につなげられる柔軟な知性としての「実践知」を備えた人材を育成します。

アドミッション・ポリシー
(学生受け入れ方針)

一般入試、学内入試、社会人入試、外国人入試を通して、研究に必要な外国語（非母語）能力、研究の基盤となる学問分野の基本文献の理解、文献への論理的で批判的な思考力、主体的に研究・実践する意欲、自文化の枠にとらわれず通文化的かつ複眼的な視点を備えている者を受け入れる。博士後期課程では、これらに加え、研究基盤となる知識と方法論、先行研究の体系的理解、一次資料を発掘する一定程度の能力を有している者を受け入れる。

カリキュラム・ポリシー
(教育課程の編成・実施方針)

修士課程では「国際文化研究」「国際文化共同研究」を必ず履修し、国際文化学の学際性・専門性・方法論を身につける。3つの研究領域の科目を横断的に受講することを促すとともに、毎年1度以上の研究発表を課して異なる研究領域の教員が指導する。異文化間の理解や交流に関わる実務的な課題に取り組む科目によって「実践知」を身につける。博士後期課程では2017年度導入のコースワークを通して研究者としてだけでなく教育者としての研鑽を積む。外国人学生は日本語論文指導を受けることができる。

ディプロマ・ポリシー
(学位授与の方針)

修士課程修了時には、3つの研究領域の基盤的な知識と方法論を十分備え、異文化間で生じる課題に対して、先行研究・事例を批判的に評価する一方で、現実の問題発見や実務的な問題解決に結びつけられるようになる。質的・量的調査を通して一次資料を発掘し、独創的な視点を見出すことができ、研究結果を口頭表現や文章表現、あるいはICT等を活用して論理的に伝えることができるようになる。そして博士後期課程修了時には、研究成果を単著として発表できる独立した研究者、また実践知を尊重する後進を育成できる教育者となる。

研究室紹介

松本 悟 教授

開発や国際協力の研究は深く楽しい！

「それ以外でもありえる」知＝
フロネーシスの醍醐味

この研究室の特徴は3つのismです。Academism—私は学部で経済学、修士で地理学、博士で国際協力学を修め学際的な研究を重視しています。Activism—NGO職員として、東南アジアでの草の根協力や調査に基づくアドボカシー活動に15年余り関わってきました。Journalism—放送記者として5年余り、警察、行政、選挙、農業、原発、アイヌ民族、旧ソ連などを取材しました。これらの経験をもとにフロネーシス（実践知）を大切に研究する研究室です。修士課程では広い意味での開発や国際協力を、博士課程では特に開発や国際協力の機能に着目した研究を志す院生を歓迎します。その上で、方法論を重視し、事象を多角的に分析できる力を備えた高度職業人や研究者を育てます。



学生・修了生の声

汪 牧耘 (オウ マキウン) 修士課程 2017年度修了・東京大学大学院博士課程在籍中

知的刺激と周囲の人々の支えの中で、
国際文化という学問全般への関心を深めています

大学院の魅力

自らの研究領域だけでなく、国際協力や表象文化といった他分野についても勉強できる環境で、国際文化という学問全般への関心を深めることができました。国際性にあふれたカリキュラムにより、多彩な視座とアプローチで異文化間の交流・理解を考察し、異なる地域や時代における、人々の生き方を学ぶことができます。

将来の目標

研究を通して、国際開発・援助に役立つことを目指しています。授業や国内外のフィールドワークに参加した経験は、貧困や資源について興味を抱ききっかけとなりました。経済発展の下で作られた、人と人、人と自然の関係や、世界各地における問題をより深く問い直すために、博士課程に進学しています。



研究テーマ

中国・石門坎の観光資源化 —異なるアクターが見出す価値のせめぎ合い—

募集人員…修士課程15名／博士後期課程3名
開講形態…昼夜開講 キャンパス…市ヶ谷
長期履修制度…有（修士課程）
主な進路…研究職、教員、公務員、旅行業界、出版印刷業界、広告業界、
青年海外協力隊など

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
浅川 希洋志 教授	心理学、人間発達学	フロー経験 (flow experience) と精神的健康・Well-beingとの関連について	異文化社会論Ⅱ A・B
今泉 裕美子 教授	国際関係学、太平洋島嶼国際関係史、ミクロネシア研究、沖縄研究	アジアや太平洋島嶼を中心に世界諸地域の植民地政策、そこでの人々の暮らし、社会、諸運動、移動、脱植民地化を分析し、現代世界の諸問題との関係性を追究する	異文化社会論Ⅰ A・B
大嶋 良明 教授	デジタル・メディア処理、音声情報処理	我々の知的活動や芸術的表現の手段、媒体としてコンピュータやインターネットを取り上げ、諸問題を検討する	国際文化研究B、多文化情報メディア論Ⅰ A・B
大中 一彌 教授	政治学、政治思想史 (近現代のフランスを中心に)	ヨーロッパ連合地域の政治・経済・文化を公共空間とグローバル化の関係を軸に検討する	多言語社会論 A・B
甲 洋介 教授	ヒューマンインターフェース	道具の使いやすさ (usability) を実現するための設計方法論、日常生活を豊かにする情報空間と人工物のデザイン	※今年度は、特定の科目を担当しません
熊田 泰章 教授	テキスト論、文化記号論	文化の表出原理を、言語と言語以外のテキストについての理論的考察を通して解明する	※今年度は、特定の科目を担当しません
興石 哲哉 教授	英語学、言語学	英語の形態論、英語史、辞書学、対照言語学。英語の語を中心とした領域が他の領域にどのように関わるか、さまざまな角度から検討する	多言語相関論Ⅲ A・B
佐々木 一恵 教授	歴史学、ジェンダー研究、異文化接触論、帝国主義研究	20世紀初頭のアメリカにおける帝国的国民主義と歴史意識とジェンダーの関係	国際文化共同研究A、多文化相関論Ⅲ、ジェンダー論
佐藤 千登勢 教授	20世紀ロシア文学、文学理論、ロシア(ソ連)映画	日常批判・社会批判の装置として、また人間の内的世界の縮図として、文学や映画のテキストを捉え直し、その多義性・重層的構造を分析する	多文化芸術論Ⅰ
重定 如彦 教授	情報科学	ユビキタスコンピューティング、分散OS	多文化情報メディア論Ⅱ
曾 士才 教授	文化人類学、中国民族学	華南少数民族のエスニシティ、日本華僑の文化の再構築とアイデンティティ	国際文化共同研究B マイノリティ社会論 A・B
高柳 俊男 教授	朝鮮近現代史、在日朝鮮人史研究、伊那谷地域研究	在日朝鮮人(広義)の歴史や文化を多面的に描き出し、新しい時代に合わせた等身大の在日像と、日本社会のあるべき姿を考察すること	多民族共生論Ⅱ A・B
中島 成久 教授	文化人類学、ポスト・コロニアリズム研究	文化の理論、ナショナリズム・エスニシティに関する理論、コロニアル・スタディ、開発と文化、インドネシア(東南アジア)研究	ナショナリズム/エスニシティ論 A・B
松本 悟 教授	開発研究、国際協力、東南アジア地域研究	国際協力が引き起こす諸問題について、関わる主体(国家、国際機関、NGOなど)に着目して社会科学的な分析をする	多民族共生論Ⅰ A・B、国際協力論
森村 修 教授	現代哲学、現代アートの哲学、応用倫理学、近代日本哲学	現象学研究、「こころ・魂・身体」の哲学研究。「死者」と「亡霊」を含む「他者」概念に基づく、現象学的他者論の構築	多文化情報空間論Ⅰ A・B
リービ 英雄 教授	日本文学	戦後から現代までの文学の名作を読んで、時代の最先端のテーマを幅広くバイリンガルに読解する	多言語相関論Ⅱ A・B
栗飯原 文子 准教授	アフリカ文学	アフリカ現代文学(特に小説)、およびアフリカの映画・音楽を中心とする文化の研究	多言語相関論Ⅰ A・B
和泉 順子 准教授	インターネット上の情報流通に関する研究	主にITSや移動体通信などが扱う実空間情報を軸にしたインターネット上の情報流通と、情報技術の普及や社会性に関する問題に取り組む	多文化情報ネットワーク論 A・B
岩川 ありさ 専任講師	日本現代文学、クィア・スタディーズ、サブカルチャー研究	日本現代文学やサブカルチャーを対象としたジェンダー、セクシャリティとトラウマの研究。文芸創作などクリエティブ・ライティング。	多文化相関論Ⅰ A・B
廣松 勲 専任講師	フランス語圏文学、文学理論	カリブ海域文学およびハイチ系ケベック文学に関する、ポスト・コロニアリズム論およびメランコリー論に基づいた地域研究	国際文化研究A 多文化芸術論Ⅱ

[2019年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

設置科目 [修士課程]

国際文化研究A/B(各2)
 国際文化共同研究A/B(各2)
 多言語相関論Ⅰ A・B/Ⅱ A・B/Ⅲ A・B(各2)
 多文化相関論Ⅰ A・B/Ⅱ A・B/Ⅲ(各2)
 多文化芸術論Ⅰ/Ⅱ(各2)
 異文化社会論Ⅰ A・B/Ⅱ A・B(各2)
 ナショナリズム/エスニシティ論A/B(各2)
 マイノリティ社会論A/B(各2)
 ジェンダー論(2)
 多言語社会論A/B(各2)
 多民族共生論Ⅰ A・B/Ⅱ A・B(各2)
 トランスナショナリズム論(2)
 国際ジャーナリズム論(2)
 国際文化交流論Ⅰ/Ⅱ A・B(各2)
 比較宗教文明論(2)
 多文化情報空間論Ⅰ A・B/Ⅱ A・B(各2)
 多文化情報メディア論Ⅰ A・B/Ⅱ(各2)
 Thesis WritingA/B(各2)
 Oral Presentation(2)
 国際協力論(2)
 国際人権論(2)
 多文化情報ネットワーク論A/B(各2)
 国際文化研究日本語論文演習A/B/C(各2)
 修士論文演習A/B(各2)

設置科目 [博士後期課程]

博士論文演習Ⅰ A・B/Ⅱ A・B/Ⅲ A・B(各2)
 博士ワークショップⅠ A・B/Ⅱ A・B/Ⅲ A・B(各1)

[2019年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数



社会科学分野

経済学研究科

経済学専攻 P 34

法学研究科

法律学専攻 P 38

政治学研究科

政治学専攻 P 40

国際政治学専攻 P 42

社会学研究科

社会学専攻 P 44

経営学研究科

経営学専攻 P 48

人間社会研究科

福祉社会専攻 P 52

臨床心理学専攻 P 54

人間福祉専攻 P 56

政策創造研究科

政策創造専攻 P 58

公共政策研究科

公共政策学専攻 P 60

サステナビリティ学専攻 P 62

キャリアデザイン学研究科

キャリアデザイン学専攻 P 64

連帯社会インスティテュート

連帯社会インスティテュート P 66

スポーツ健康学研究科

スポーツ健康学専攻 P 68

※各専攻ページに掲載の「開講形態」は原則として修士課程に特化した内容です。

※各専攻の「アドミッション・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「ディプロマ・ポリシー」は要約したものです。詳細は大学院HPをご参照ください。

在籍者男女比率			在籍者属性比率			
在籍者数	男性	女性	在籍者数	一般	留学生	社会人
697名	58.5%	41.5%	697名	38.6%	8.9%	52.5%



経済学専攻

QE（博士論文研究基礎力審査）を導入した世界標準のカリキュラムで専門研究者、応用エコノミストを養成

経済学研究科は、1951年の創立以来、一流の教授陣のもと、多くの優れたエコノミスト、研究者を輩出してきました。1992年には他大学に先駆けて夜間社会人大学院を設置し、2003年には博士後期課程を昼夜開講制にするなど、常に時代や社会の新しいニーズに応え続けてきました。2014年度からは、多様化の進展とともに高度に専門化する21世紀のグローバル社会に対応できる人材養成をこれまで以上に推し進めるために、昼夜開講制の「修士（M.A.）プログラム」と「博士5年（Ph.D.）プログラム」に抜本的に制度変更し、より質の高い教育プログラムを提供していきます。2017年度より、「経済学研究科修士課程1年制コース」も併せて設置されています。

研究室紹介

明城 聡 准教授

実証産業組織論、計量経済学

規制緩和による自由化は機能するのか？

ミクロ的視野に基づいた統計モデルが政策評価には不可欠



前年度の電力市場に続き、2017年にはガスの小売市場も参入が自由化されました。明城ゼミでは競争政策の観点から規制産業での財・サービスについて効率的な資源配分が行われているのか、外部性を含めた政策評価を行っています。実証産業組織と呼ばれる研究領域ですが、ゲーム理論から導かれる理論モデルに企業や消費者のデータを当てはめる構造推定と呼ばれる統計手法を用いることで、理論と実証の両面から市場分析に取り組んでいます。研究に必要なスキルはミクロ経済学、計量経済学、プログラミング言語など多岐にわたりますが、ゼミでは更に論文を書く際の基本的な知識や技術についても学んでもらいたいと考えています。

学生・修了生の声

原 一樹

博士後期課程 在学中
株式会社格付投資情報センター格付本部チーフアナリスト2007年2月入社

諸外国のソブリンの信用リスク評価業務を通じて直面した疑問について、経済学の理論を踏まえた研究を行うとともに、自分の専門性を高めたい



学んだこと、身に付いたこと

大学院では、ソブリンの信用リスクに対する市場の認識と財政及び政治過程の関係についての研究を行っています。これまでアナリストという視点で見てきた経済・財政面での問題を、より理論的に捉える思考力がついてきたことは大きなプラスです。特に仕事で専門家の方々と議論をすることも、そうした場面で、大学院で身に付けつつある思考力が大いに役立っています。

将来の目標

現在行っている研究を学術論文に投稿し、最終的には博士号を取得することが当面の目標となります。長期的には、仕事を通じて直面した疑問を理論的に研究する、また研究成果を実務に活かすといった形で、格付アナリストと研究を両立しながら自分の専門性を高めていきたいと思っています。

研究テーマ

ソブリンの信用リスクに対する市場の認識と財政及び政治過程の関係

募集人員…修士課程50名／博士後期課程10名
開講形態…昼夜開講 キャンパス…市ヶ谷
（一部に多摩で開講される科目があります）
主な進路…専門研究者（大学・シンクタンク）、金融、商社、製造、公務員など

■ 修士(M.A.)プログラム 昼夜開講制

「修士(M.A.)プログラム」は、経済学研究科修士課程の教育目標である「新しい経済社会を創り出す知性と意欲を持った『応用エコノミスト』や『高度職業人』、また生涯学習における『高度教養人』を養成する」ための修士課程プログラムです。プログラムの履修要件を満たし、修士論文を提出して口述試験に合格することで修士号が授与されます。

※修士(M.A.)プログラムでは、指導教員の指導・了解の下、「リサーチペーパー」をもって修士論文に代えることができます。その場合、34単位以上が修了要件となります。

※修士課程1年間で修了所要単位をすべて修得し、修士論文を提出して口述試験に合格することで修士号が授与されるプログラム、すなわち「修士(M.A.)プログラム1年制コース」も出願時に選ぶことができます。

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)

教育目標に掲げる人材の資質に適合する、旺盛な勉学意欲と研究志向を併せ持つ人材の国内外、学部新卒・社会人からの受け入れ。

カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)

国際的に通用する質保証制度を伴った教育課程をコアに、修士課程の教育目標、ディプロマ・ポリシーの実現を目指す科目編成と教育内容・方法の実践。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

各々の分野における「応用エコノミスト」「高度職業人」「高度教養人」としての経済学の研究基礎力と自立的な研究能力の達成。

修士(M.A.)プログラム 修了要件

導入科目群、基本科目群……………12単位以上

「論文指導Ⅰ」「論文指導Ⅱ」「修士ワークショップ」… 4単位以上

専門科目群…………… 4単位以上

修士論文

合計…………… 30単位以上



■ 博士5年(Ph.D.)プログラム 昼夜開講制

「博士5年(Ph.D.)プログラム」は、経済学研究科博士後期課程の教育目標である「国際社会が直面する諸問題の解決に挑戦する意欲的な専門研究者養成」のための修士課程・博士後期課程5年一貫の教育プログラムです。プログラムの履修要件(修士課程分)を満たし「博士論文研究基礎力審査(QE)」に合格することで博士後期課程に進学し、研究プロジェクトと内外での研究発表・公表を進め、博士論文を執筆します。

※博士後期課程に進学と同時に修士号が授与されます。

※「修士1年制コース」では、1年で修士取得+3年の博士後期課程で「博士4年プログラム」になります。

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)

教育目標に掲げる国際社会に発信力のある専門研究者の資質に適合する、経済学に対する非常に旺盛な勉学意欲を持ち、経済学の諸分野についての強い研究志向を持つ人材の国内外、学部新卒、社会人からの受け入れ。

カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)

国際的に通用する質保証制度を伴った教育課程をコアに、先端的研究遂行能力を含めた博士後期課程の教育目標・ディプロマ・ポリシーの実現を目指す科目編成と教育内容・方法の実践。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

各々の分野における「応用エコノミスト」「高度職業人」「高度教養人」としての経済学の研究基礎力と自立的な研究能力の達成。

博士5年(Ph.D.)プログラム 修了要件

〔修士課程〕

導入科目群・基本科目群(QE筆記試験コースワークを含む) … 12単位以上

専門科目群(専攻分野コースワーク) …… 12単位以上

博士論文研究基礎力審査(QE)*

修士課程合計 …… 30単位以上

※QE筆記試験(2科目)、QE口述試験の合格が、修士課程修了と博士後期課程進学に必要となります。

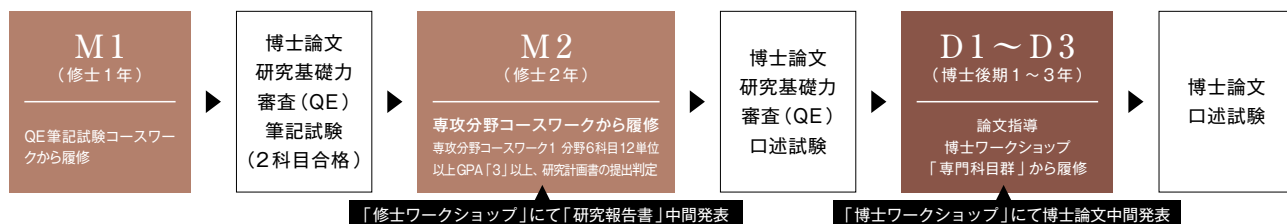
〔博士後期課程〕

「論文指導Ⅲ～Ⅴ」「修士ワークショップⅠ～Ⅲ」 …… 8単位以上

専門科目群 …… 4単位以上

博士論文

博士後期課程合計 …… 16単位以上



経済学研究科博士後期課程修了者対象助教採用制度

修士号取得者には、経済学部助教採用(4年任期)の可能性あります。

※経済学部の採用枠内の募集によります。採用には教授会による審議・承認が必要となります。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
池上 宗信 教授	開発経済学	家計の異時点間の意思決定と貧困動学、東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険	応用ミクロ経済学A、開発経済論A
梅津 亮子 教授	管理会計、原価計算論	管理会計、コストマネジメントの諸問題について考察する	※今年度は、特定の科目を担当しません
奥山 利幸 教授	理論経済学	景気・成長の動学・ミクロ・ゲーム理論分析	※今年度は、特定の科目を担当しません
小黑 一正 教授	財政学、公共経済学	人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析	財政学A/B
小沢 和浩 教授	情報処理論	ソフトコンピューティングによるデータ解析手法	※今年度は、特定の科目を担当しません
河村 哲二 教授	アメリカ経済論、世界経済論、理論経済学	現代アメリカ経済とそのグローバル・インパクト・パックス・アメリカナの再編と転換	地域経済論Ⅰ A/B
河村 真 教授	産業組織論	産業やマクロ経済のデータを用いた統計学的分析	実証経済学基礎B
菊池 道樹 教授	中国経済論	中国経済の現状、成長要因の日中比較	※今年度は、特定の科目を担当しません
岸 牧人 教授	監査論	企業財務と公認会計士監査	※今年度は、特定の科目を担当しません
後藤 浩子 教授	イギリス社会思想史	グローバリゼーションのもとでの国民国家の変容	ジェンダー経済論A/B
小林 克也 教授	地方財政論・ミクロ経済学の応用	政府間関係の分析や政府組織についての理論分析	※今年度は、特定の科目を担当しません
近藤 章夫 教授	経済地理学、地理情報システム論	都市・産業集積と経済発展、立地と分業の国際比較、イノベーションの空間経済分析	※今年度は、特定の科目を担当しません
酒井 正 教授	労働経済論	社会保障制度と就業との関係についての実証分析	※今年度は、特定の科目を担当しません
佐柄 信純 教授	数理経済学、関数解析学	最適成長論、協力ゲーム理論	ミクロ経済学B、応用ミクロ経済学B
佐藤 良一 教授	社会経済学	ラディカル派経済学の理論的展開過程を検討しつつ、新たな経済学の可能性を探る	社会経済学A
篠原 隆介 教授	公共経済学・ゲーム理論・ミクロ経済学	公共財供給、戦略的協力ゲーム理論	ミクロ経済学A
胥 鵬 教授	金融ファイナンス、法と経済学	企業金融、国際金融、企業統治	金融ファイナンス基礎A/B
進藤 理香子 教授	ドイツ近現代史、西洋経済史、ヨーロッパ経済政策	ヴァイマル時代における東プロイセン、リトアニアおよびソビエト連邦	※今年度は、特定の科目を担当しません
菅 富美枝 教授	民法（契約法）、消費者法	契約当事者間における交渉力の格差や非良心的取引をめぐる法的諸問題の分析	法と経済学A
菅 幹雄 教授	経済統計	ビジネスレジスター、経済センサス、産業連関表	※今年度は、特定の科目を担当しません
菅原 琢磨 教授	経済政策、社会政策、医療経済	医療・福祉・介護政策、医療品・医療機器産業の分析	※今年度は、特定の科目を担当しません
杉浦 未樹 教授	世界経済史	中近世都市における流通と消費	※今年度は、特定の科目を担当しません
鈴木 豊 教授	契約理論、企業の理論、制度の契約理論分析	ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論によるアプローチ	※今年度は、特定の科目を担当しません
砂田 充 教授	経済学、企業経済論	産業組織論、企業経済学、応用ミクロ経済学	企業経済学A
竹口 圭輔 教授	財務会計論	ストック・オプションを中心とする株式報酬の会計	※今年度は、特定の科目を担当しません
武田 浩一 教授	金融論	金融の応用ミクロ経済分析	※今年度は、特定の科目を担当しません
竹田 茂夫 教授	理論経済学	経済学の批判的検討「法と経済学」	※今年度は、特定の科目を担当しません
武智 一貴 教授	国際経済学	距離と貿易コストの関係の実証分析	※今年度は、特定の科目を担当しません
田村 晶子 教授	国際経済、マクロ経済学	国際経済の理論と実証分析	国際貿易論A/B
長原 豊 教授	経済史、日本経済史、経済理論、経済学方法論	日本経済史、経済理論、経済学方法論（「レント資本主義論」を主題にしています）	経済史B
西澤 栄一郎 教授	環境政策論	欧米の環境政策、環境保全型農業・農村の構築	※今年度は、特定の科目を担当しません
朴 倬玄 教授	都市地理学	文化産業と企業行動のグローバル化と国際的都市システム	※今年度は、特定の科目を担当しません
馬場 敏幸 教授	アジア経済、技術移転、技術経営、高等教育	アジアの発展と日本の役割、技術変遷が経済に与えたインパクトについて	※今年度は、特定の科目を担当しません

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
原 伸子 教授	社会経済学、経済学史	福祉国家の変容と家族、ジェンダーの政治経済学	社会経済学B、ジェンダー経済論A/B
廣川 みどり 教授	社会選択論、公共経済学	制度の形成についてのミクロ経済学的基礎	経済数学A/B
ブー・トウン・カイ 教授	国際マクロ経済学の理論と実証	アジア諸国の経済成長、貿易、為替制度	※今年度は、特定の科目を担当しません
牧野 文夫 教授	日本経済、経済発展	中国の経済発展と教育に関する実証研究、東アジア諸国の経済発展の比較	経済史A
松波 淳也 教授	環境経済学	循環型社会形成に向けた社会経済システム	環境経済論A/B
宮崎 憲治 教授	計量経済学	マクロ経済学の計量経済学	マクロ経済学B
宮脇 典彦 教授	経営統計学、経営科学、データ解析	経営分析と情報、統計学とその応用	※今年度は、特定の科目を担当しません
山本 真鳥 教授	文化人類学、経済人類学	互酬性と市場交換－経済人類学のパースペクティブ、グローバリゼーションと文化	ジェンダー経済論A/B
湯前 祥二 教授	ファイナンス	リスク管理、コンピューテーション・ファイナンス	※今年度は、特定の科目を担当しません
ジェス・ダイヤモンド 准教授	マクロ経済学、ファイナンス、労働経済学	投資、インフレーション、コーポレートファイナンス	※今年度は、特定の科目を担当しません
高橋 秀朋 准教授	ファイナンス	株式市場の効率性の検証、マーケット・マイクロストラクチャー	※今年度は、特定の科目を担当しません
田中 優希 准教授	財務会計論、環境会計	企業の環境情報開示	※今年度は、特定の科目を担当しません
倪 彬 准教授	国際経済学、開発経済学、応用計量経済学	国際貿易、外国直接投資、開発経済、環境経済	開発経済論B
濱秋 純哉 准教授	公共経済学、応用計量経済学	社会保障、租税、労働分野のミクロ計量分析	計量経済学B、実証経済学基礎A
平瀬 友樹 准教授	経済理論形成史	戦間期におけるマクロ経済分析の再評価	※今年度は、特定の科目を担当しません
明城 聡 准教授	公共経済学、応用計量経済学	社会保障、租税、労働分野のミクロ計量分析	計量経済学A、ミクロ計量分析A/B
森田 裕史 准教授	マクロ経済学、時系列分析	金融財政政策の効果に関する実証分析	マクロ経済学A、応用マクロ経済学A

〔2019年度〕※年度により授業を持たない場合があります。

設置科目〔修士課程〕			設置科目〔博士後期課程〕
【導入科目群】 ●リカレント教育用科目 経済学基礎A/B(各2) 経済数学A/B(各2) 金融ファイナンス基礎A/B(各2) 実証経済学基礎A/B(各2) 統計学基礎A/B(各2)	日本経済論A/B(各2) ジェンダー経済論A/B(各2) 法と経済学A/B(各2) 経済学史A/B(各2) 金融システム論A/B(各2) 財政学A/B(各2) 開発経済論A/B(各2) 地域経済論ⅠA/ⅠB(各2) 地域経済論ⅡA/ⅡB(各2)	統計学A/B(各2) 環境経済論A/B(各2) 環境政策論A/B(各2) 経済政策A/B(各2) 財政学A/B(各2) 公共経済学A/B(各2) 社会保障論A/B(各2) 都市経済政策論A/B(各2) 経済地理学A/B(各2) 労働経済学A/B(各2)	◆応用ミクロ・応用マクロ・計量 応用ミクロ経済学A/B(各2) 応用マクロ経済学A/B(各2) 統計学A/B(各2) 上級ミクロ経済学A/B(各2) 上級マクロ経済学A/B(各2) ミクロ計量分析A/B(各2) 労働経済学A/B(各2) 日本経済論A/B(各2) 法と経済学A/B(各2) 企業経済学A/B(各2) 経済と会計A/B(各2) 公共経済学A/B(各2)
【基本科目群】 ●研究基礎力 (QE筆記試験コースワーク科目) 社会経済学A/B(各2) 経済史A/B(各2) ミクロ経済学A/B(各2) マクロ経済学A/B(各2) 計量経済学A/B(各2)	◆金融・企業 応用ミクロ経済学A/B(各2) 応用マクロ経済学A/B(各2) 統計学A/B(各2) 金融経済学A/B(各2) 金融システム論A/B(各2) 実証ファイナンスA/B(各2) 企業経済学A/B(各2) 経済と会計A/B(各2) 国際金融論A/B(各2)	◆国際・地域 応用ミクロ経済学A/B(各2) 応用マクロ経済学A/B(各2) 統計学A/B(各2) 国際貿易論A/B(各2) 国際金融論A/B(各2) 開発経済論A/B(各2) 経済地理学A/B(各2) 地域経済論ⅠA/ⅠB(各2) 地域経済論ⅡA/ⅡB(各2) 日本経済論A/B(各2)	【研究指導科目群】 論文指導ⅢA/B(各1)[1年次] 論文指導ⅣA/B(各1)[2年次] 論文指導ⅤA/B(各1)[3年次] 博士ワークショップⅠA/B(各1)[1年次] 博士ワークショップⅡA/B(各1)[2年次] 博士ワークショップⅢA/B(各1)[3年次] 【専門科目群】 ●研究応用力 (専攻分野コースワーク科目) ◆歴史・思想・制度 応用ミクロ経済学A/B(各2) 応用マクロ経済学A/B(各2) 統計学A/B(各2)
【専門科目群】 ●研究応用力 (専攻分野コースワーク科目) ◆歴史・思想・制度 応用ミクロ経済学A/B(各2) 応用マクロ経済学A/B(各2) 統計学A/B(各2)	◆政策・環境 応用ミクロ経済学A/B(各2) 応用マクロ経済学A/B(各2)		【専門科目群】 修士課程と合同で行われます

〔2019年度〕※開講科目は年度により異なります。()＝単位数

「修士(M.A.)プログラム・履修科目例(A/Bは省略)

「公共政策」「社会保障」をテーマにして、修士論文を執筆する方の履修科目例	
M1(修士1年)	「経済数学」「実証経済学基礎」
	「ミクロ経済学」「マクロ経済学」
	「論文指導Ⅰ」
M2(修士2年)	「公共経済学」「社会保障論」
	「論文指導Ⅱ」「修士ワークショップ」

※「修士ワークショップ」において修士論文中間発表

※「プログラム」とは、履修上の区分であり、修士課程のみで修了しようとする方は「修士(M.A.)プログラム」に沿った履修を、修士課程から博士後期課程に進学しようとする方は「博士5年(Ph.D.)プログラム」に沿った履修を行います。
※修士課程入学前に科目等履修生として「導入科目群」あるいは「基本科目群」のいくつかを履修することも可能です。科目等履修生として履修した科目は、修士課程入学後、申請・審査の上、10単位まで単位認定されます。

「博士5年(Ph.D.)プログラム」修士課程・履修科目例(A/Bは省略)

「金融」「ファイナンス」を研究テーマにして博士後期課程を目指す方の履修科目例	
Ph.D.1(修士1年)	「金融ファイナンス基礎」
	「マクロ経済学」「計量経済学」
	「論文指導Ⅰ」
Ph.D.2(修士2年)	「応用マクロ経済学」「金融経済学」「実証ファイナンス」
	「論文指導Ⅱ」「修士ワークショップ」

※「修士ワークショップ」において「研究報告書」中間発表

※この履修例は「修士(M.A.)プログラム」の履修要件も満たす

法学専攻

募集人員…修士課程20名／博士後期課程5名
 開講形態…昼間開講
 キャンパス…市ヶ谷
 主な進路…公務員、金融、情報通信、サービスなど

高度な専門性と柔軟な法的思考

少子高齢化・グローバル化など、私たちを取り巻く環境が大きな転換期を迎えた今日、大学院における法律学研究の社会的な意義や役割もまた、多様化の時代を迎えています。

かつては、やがて法律学の研究者・教育者として巣立っていくことを目指す人たちの学びの場としての機能が大半を占めていました。しかしながら今日では、社会人経験を持つ方が実体験の中から獲得した法律上の疑問点等について考究する場として、あるいは外国からの留学生の方が母国の法と日本法との比較法研究を行った上で、母国や日本で両国の架け橋となるような研究や仕事に就くための学びの場としても機能することが、大いに期待されるようになっていきます。私たちはこのような多様なニーズに応えるべく、一般入試に加え社会人入試や外国人入試を実施し、幅広い学生を受け入れています。

その上で、コースワーク科目によって外国文献の読み方・理解の仕方の修得や、各法分野の専門的・体系的知識の獲得を促す一方、リサーチ科目によって各自の研究テーマ・問題関心の深化を図るとともに、法学論文を執筆するための様々な手法・作法等を教授しています。本専攻での学びを通じて、物事を多様な観点から法的に分析し、説得力のある法理論に基づいて法律を解釈し、あるいは法制度設計を行う能力を身につけていただくことを、教員一同心から期待しています。

研究室紹介

潘 阿憲 教授

現代企業経営における M&A 取引とその法規制

企業買収と防衛策



近年、中小企業においては、少子高齢化の進展に伴う後継者不足から、合併や事業譲渡などを中心とした企業間の M & A 取引が活発化してきている一方、上場企業をはじめとする大企業においては、海外市場を開拓する上での事業基盤として海外企業との間で M&A を行う事例や、逆に、米国や中国などの海外企業が日本における市場獲得のために日本企業に対して M&A を行う事例も増えてきている。そうした中で、いわゆる敵対的な M&A に対抗する手段として防衛策を発動するケースも少なくないが、本研究室では、そのような敵対的な企業買収に対する防衛策に関する法規制のあり方を分析・検討している。

学生・修了生の声

三田 旭 博士後期課程 在学中

特定行政書士制度の施行をきっかけに
行政法の学習を決意。

苦手な語学も克服し、より理解が深まった。



好きな授業・演習

私が履修している「行政法特殊講義」は、海外から来日した一流大学の教授により英語で実施されています。入学時には外国語に対する自信が無かったのですが、私のレベルに合わせて忍耐強く指導してくださるので、苦手意識を克服することにつながりました。法学の研究には外国語の能力がある程度求められるため、将来の研究にも有益であると確信しています。

進学のきっかけ

2016 年より特定行政書士制度（一定の条件を満たした行政書士が、行政不服申立ての手続きにおいて代理人となることができる制度）が始まり、行政手続法や行政不服審査法に対する深い理解が求められるようになりました。この機会に、行政法について今一度体系的に学習したいと考え、入学を決意しました。

研究テーマ

オーストラリアにおける行政不服審査制度の研究

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
荒谷 裕子 教授	商法、金融商品取引法	金融商品取引法上の諸問題の研究。株式会社の機関に関する研究	商法特殊講義Ⅳ
大澤 彩 教授	民法、消費者法、医事法	消費者法との関係から見た現代における民法典の意義、フランス契約法・消費法研究	民法特殊講義Ⅴ／Ⅵ、 民法論文指導Ⅰ／Ⅱ
大野 達司 教授	法哲学	法の妥当性、法の動態、自治、ドイツ法・国家思想	法律学原典研究（独語）Ⅰ、 法哲学特殊講義Ⅰ
小山田 朋子 教授	英米法	医療をめぐる法規制を中心とした日米比較	英米法特殊講義Ⅰ／Ⅱ
金子 匡良 教授	憲法、人権政策	国及び自治体の人権救済制度、国内人権機関	憲法特殊講義Ⅲ／Ⅳ、 憲法論文指導Ⅰ／Ⅱ
神谷 高保 教授	会社法・商法・海商法・保険法・信託法・法と経済学	取締役の責任・内部統制など、利得禁止原則・新保険法、共同海損など、信託法・医療と法など、商事法制史、法学（大学・古典）教育	※今年度は、特定の科目を担当しません
川口 由彦 教授	日本法制史	日本近代の土地法制、日本近代法史の通史、村落制度と行政村の関係について	法制史論文指導Ⅰ～Ⅳ
川村 洋子 教授	民法の所有権法と契約法	契約損害賠償制度を軸とする日本民法の約束保障制度の比較法研究	民法演習Ⅰ／Ⅱ、 民法特研演習Ⅰ／Ⅱ
倉部 真由美 教授	民事訴訟法・倒産法	民事再生手続や会社更生手続のような再建型倒産手続における保護の処遇	倒産法特殊講義Ⅰ／Ⅱ
國分 典子 教授	憲法、韓国法	日韓の比較憲法思想史的研究、韓国の違憲審査制度についての研究	憲法演習Ⅰ／Ⅱ
杉本 和士 教授	民事手続法・倒産法	民事実体法と手続法の交錯、倒産手続における優先権の処遇	※今年度は、特定の科目を担当しません
須藤 純正 教授	刑事法	民事と交錯する刑法犯、犯罪収益の剥奪と犯罪被害の回復、事前規制型から事後チェック型社会への移行と罰則対応	刑法演習Ⅲ／Ⅳ、 刑事政策特研演習Ⅴ／Ⅵ
高 友希子 教授	西洋法制史	エクィティによるコモン・ロー・システム拡充プロセスに関する研究。英国法の日本民法典への影響	法制史特殊講義Ⅲ／Ⅳ、 法制史論文指導Ⅰ／Ⅱ
高橋 滋 教授	行政法、環境法	行政法、環境法	行政法特殊講義Ⅱ、 行政法論文指導Ⅰ／Ⅱ
武生 昌士 教授	知的財産法	先使用概念／先使用権制度に関する研究	※今年度は、特定の科目を担当しません
建石真公子 教授	憲法	憲法と条約の関係、フランスの基本権に対するヨーロッパ人権条約の影響、「家族形成権」と「生命に対する権利」における「個人の尊重」	憲法特殊講義Ⅰ／Ⅱ、 憲法論文指導Ⅲ／Ⅳ
田中 利幸 教授	刑事法	国際法の国内法化と国内法の国際法化、法人犯罪・経済犯罪の規制の在り方、行政刑事立法・解釈の在り方	刑法演習Ⅰ／Ⅱ、 刑事法特殊研究Ⅰ／Ⅱ
椛川 泰史 教授	商法・会社法・有価証券法・決済取引法	決済取引の法的問題	商法特殊講義Ⅰ／Ⅱ、 商法論文指導Ⅰ～Ⅳ
西田 幸介 教授	行政法	行政計画、私人間の協定、土地法、アメリカ土地利用法	※今年度は、特定の科目を担当しません
沼田 雅之 教授	社会保障法、労働法	有期労働契約、労働者派遣、非正規労働者の社会保険加入など、非正規労働者の労働法・社会保障法上の課題研究	社会保障法演習Ⅰ／Ⅱ、 労働法論文指導Ⅰ／Ⅱ
浜村 彰 教授	労働法	労働者代表制、労働者派遣法、労働契約法など	労働法論文指導Ⅰ／Ⅱ、 労働法特研演習Ⅲ／Ⅳ
潘 阿憲 教授	会社法、保険法、金融商品取引法	会社の運営管理機構等に関する研究	民事法特殊研究Ⅰ／Ⅱ、 商法特研演習Ⅰ／Ⅱ
藤本 茂 教授	労働法	雇用平等法、労働契約法	労働法特殊講義Ⅰ／Ⅱ、 社会法特殊研究Ⅰ／Ⅱ
宮本 健蔵 教授	民法	契約責任の研究、安全配慮義務、付随義務違反と契約の解除	民法特殊講義Ⅰ／Ⅱ、 民法論文指導Ⅰ～Ⅳ
森田 章夫 教授	国際法	国際コントロール、国際海洋法、国家管轄権の域外適用	※今年度は、特定の科目を担当しません
和田 幹彦 教授	民法（特に親族・相続法）・民事法立法史・法と遺伝学	家族法解釈学・立法史、法と生命倫理、法と遺伝学、法と進化生物学・進化心理学	※今年度は、特定の科目を担当しません
佐藤 輝幸 准教授	刑事法	危険犯論、社会的法益に対する罪	刑法特殊講義Ⅰ／Ⅱ、 刑事政策演習Ⅰ
田中 佐代子 准教授	国際法	国際法上の緊急避難、自衛権	国際法演習Ⅰ／Ⅱ、 国際法論文指導Ⅰ／Ⅱ

〔2019年度〕※年度により授業を持たない場合があります。

修士課程

リーガル・リサーチ（2）
 法律学原典研究（英語）Ⅰ／Ⅱ（各2）
 法律学原典研究（独語）Ⅰ／Ⅱ（各2）
 法律学原典研究（仏語）Ⅰ／Ⅱ（各2）
 法律学特殊講義A～C（各4）
 法哲学特殊講義Ⅰ／Ⅱ（各2）
 法制史特殊講義Ⅰ～Ⅳ（各2）
 比較法特殊講義Ⅰ／Ⅱ（各2）
 英米法特殊講義Ⅰ／Ⅱ（各2）
 基礎法特殊講義A/B（各4）
 憲法特殊講義Ⅰ～Ⅳ（各2）
 行政法特殊講義Ⅰ／Ⅱ（各2）
 国際法特殊講義Ⅰ／Ⅱ（各2）
 国際人権法特殊講義Ⅰ／Ⅱ（各2）
 公法特殊講義A～C（各4）
 民法特殊講義Ⅰ～Ⅵ（各2）
 商法特殊講義Ⅰ～Ⅵ（各2）
 経済法特殊講義Ⅰ／Ⅱ（各2）
 知的財産法特殊講義Ⅰ／Ⅱ（各2）
 民事訴訟法特殊講義Ⅰ／Ⅱ（各2）
 倒産法特殊講義Ⅰ／Ⅱ（各2）
 国際私法特殊講義Ⅰ／Ⅱ（各2）
 民事法特殊講義A～C（各4）
 労働法特殊講義Ⅰ～Ⅳ（各2）
 社会保障法特殊講義Ⅰ／Ⅱ（各2）
 教育法特殊講義Ⅰ／Ⅱ（各2）
 社会法特殊講義A/B（各4）
 刑法特殊講義Ⅰ～Ⅳ（各2）
 刑事訴訟法特殊講義Ⅰ／Ⅱ（各2）
 刑事政策特殊講義Ⅰ／Ⅱ（各2）
 刑事法特殊講義A～C（各4）
 法哲学演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
 法制史演習Ⅰ～Ⅳ（各2）
 英米法演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
 法哲学論文指導Ⅰ～Ⅳ（各2）
 法制史論文指導Ⅰ～Ⅳ（各2）
 英米法論文指導Ⅰ～Ⅳ（各2）
 憲法演習Ⅰ～Ⅳ（各2）
 行政法演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
 国際法演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
 憲法論文指導Ⅰ～Ⅳ（各2）
 行政法論文指導Ⅰ～Ⅳ（各2）
 国際法論文指導Ⅰ～Ⅳ（各2）
 民法演習Ⅰ～Ⅵ（各2）
 商法演習Ⅰ～Ⅵ（各2）
 経済法演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
 知的財産法演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
 民事訴訟法演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
 倒産法演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
 民法論文指導Ⅰ～Ⅳ（各2）
 商法論文指導Ⅰ～Ⅳ（各2）
 経済法論文指導Ⅰ～Ⅳ（各2）
 知的財産法論文指導Ⅰ～Ⅳ（各2）
 民事訴訟法論文指導Ⅰ～Ⅳ（各2）
 倒産法論文指導Ⅰ～Ⅳ（各2）
 労働法演習Ⅰ～Ⅳ（各2）
 社会保障法演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
 労働法論文指導Ⅰ～Ⅳ（各2）
 社会保障法論文指導Ⅰ～Ⅳ（各2）
 刑法演習Ⅰ～Ⅳ（各2）
 刑事訴訟法演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
 刑事政策演習Ⅰ／Ⅱ（各2）
 刑法論文指導Ⅰ～Ⅳ（各2）
 刑事訴訟法論文指導Ⅰ～Ⅳ（各2）
 刑事政策論文指導Ⅰ～Ⅳ（各2）

博士後期課程

基礎法特殊研究Ⅰ～Ⅳ（各2）
 基礎法特殊研究A～C（各4）
 公法特殊研究Ⅰ～Ⅳ（各2）
 公法特殊研究A～C（各4）
 民事法特殊研究Ⅰ～Ⅳ（各2）
 民事法特殊研究A～C（各4）
 社会法特殊研究Ⅰ～Ⅳ（各2）
 社会法特殊研究A～C（各4）
 刑事法特殊研究Ⅰ～Ⅳ（各2）
 刑事法特殊研究A～C（各4）
 法哲学特研演習Ⅰ～Ⅵ（各2）
 法制史特研演習Ⅰ～Ⅵ（各2）
 英米法特研演習Ⅰ～Ⅵ（各2）
 基礎法特研演習Ⅰ～Ⅵ（各2）
 憲法特研演習Ⅰ～Ⅵ（各2）
 行政法特研演習Ⅰ～Ⅵ（各2）
 国際法特研演習Ⅰ～Ⅵ（各2）
 公法特研演習Ⅰ～Ⅵ（各2）
 民法特研演習Ⅰ～Ⅵ（各2）
 商法特研演習Ⅰ～Ⅵ（各2）
 民事訴訟法特研演習Ⅰ～Ⅵ（各2）
 倒産法特研演習Ⅰ～Ⅵ（各2）
 経済法特研演習Ⅰ～Ⅵ（各2）
 知的財産法特研演習Ⅰ～Ⅵ（各2）
 民事法特研演習Ⅰ～Ⅵ（各2）
 労働法特研演習Ⅰ～Ⅵ（各2）
 社会保障法特研演習Ⅰ～Ⅵ（各2）
 社会法特研演習Ⅰ～Ⅵ（各2）
 刑法特研演習Ⅰ～Ⅵ（各2）
 刑事訴訟法特研演習Ⅰ～Ⅵ（各2）
 刑事政策特研演習Ⅰ～Ⅵ（各2）
 刑事法特研演習Ⅰ～Ⅵ（各2）

〔2019年度〕※開講科目は年度により異なります。（）＝単位数

政治学専攻

今日の政治問題を
規範的かつ経験的に解明

● 私たちが目指すもの

政治学専攻は、人間の共存の技術としての政治を、空間的な広がりと時間的な流れに留意しながら、規範的かつ経験的に研究できる能力を持った研究者の養成とともに、政治的現実に関与し、実践を担うことのできる人材の育成を目指している。この理念の下、第一に規範論的な研究を追求し、第二に、こうした規範論を踏まえつつ、具体的な現実政治に即した実証研究を行う。すなわち、政治思想史・政治理論、政治史・政治過程論などのアプローチに複合的に取り組む。

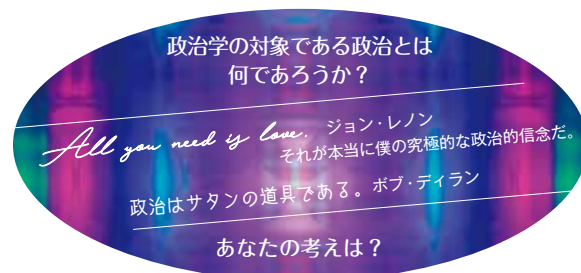
● みなさんへの要望

政治とは何かを自問自答しながら、自らの政治的関心を主体的に探求してください。

● 本学大学院出身の専任教員

● 明田川融教授からのメッセージ

私はこの大学院で、何より権力に対する批判精神と、より自由になるための構想力こそ政治学の生命線であることを教わりました。それから四半世紀がたち、研究者となっても、その教えが研究活動の駆動力であることに変わりはありません。



専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
明田川 融 教授	日本政治外交史	米軍基地および日米地位協定をめぐる日米外交史	政治学特殊演習Ⅰ/Ⅱ、 日本政治史研究Ⅰ/Ⅱ
犬塚 元 教授	政治学史、政治思想史	初期近代ヨーロッパの政治思想史	政治思想史研究Ⅰ/Ⅱ
衛藤 幹子 教授	ジェンダー政治、政策研究	女性の政治代表に関する国際比較研究、 ジェンダーと市民社会、ジェンダーと民主主義	ジェンダー政治研究Ⅰ/Ⅱ
木村 正俊 教授	国際政治とその歴史、現代中東政治	中東における国家形成と国際政治システムの形成・変容、 パレスチナ問題	※今年度は、特定の科目を担当しません
新川 敏光 教授	比較政治学	福祉国家再編論・ポスト福祉国家の政治に関する比較研究	※今年度は、特定の科目を担当しません
杉田 敦 教授	政治理論	権力論、デモクラシー論	博士論文演習Ⅱ A / B
塚本 元 教授	現代台湾政治、近代中国政治外交史	現代台湾の選挙・中台関係	※今年度は、特定の科目を担当しません
中野 勝郎 教授	アメリカ政治史・思想史	建国期の政治思想、戦後アメリカの保守主義	※今年度は、特定の科目を担当しません
細井 保 教授	政治体制論	政治体制を制度と理念の両面から考察	※今年度は、特定の科目を担当しません
宮崎 伸光 教授	自治体学	自治行政制度・消防行政・自治体議会・自治体政策	※今年度は、特定の科目を担当しません
山口 二郎 教授	政治過程論	現代政治、議会政治、政党政治	政治過程研究Ⅰ/Ⅱ
山本 卓 教授	英国を中心とする福祉国家史、比較福祉国家	英国福祉国家の生成・発展・再編、福祉国家の国際比較	※今年度は、特定の科目を担当しません

【2019年度】※年度により授業を持たない場合があります。

募集人員…修士課程10名／博士後期課程5名
開講形態…昼間開講（一部夜間開講）
キャンパス…市ヶ谷
主な進路…教育関連（教員）、公務、出版、商社、金融、進学（博士後期課程）など

研究室紹介

宮崎 伸光 教授

自治行政制度・自治体政策・
消防行政・自治体議会

自治体を公共政策課題解決
装置と把握し考究
地域社会の現実から理論や
制度を考える



ヒトは独りでは生命を維持し得ず、必ず社会を構成する。自治体の契機は、その領域性の断面に現れる。私はそう理解するが、かような考察を起点に置くだけで「通説」や「常識」と呼ばれる轍を外れる。「多数説」を学習することは大切だが、研究はより自由であって良い。ただし、目的および手段を誤ってはいけない。短期的利得の追求に身をやつした近年の世情の下で、地域社会には生活に関わる数多くの深刻な問題が発生した。せめて風潮に距離を置き、奥深い難問の真相究明に迫りたい。そうした問題意識を持って幅広い観点から公共政策課題への接近を試みている。

※本専攻には、このほかにジェンダー政治や政治過程論などのさまざまな分野を扱う研究室があります。

学生・修了生の声

谷本 純一

博士後期課程 2008年度修了／福岡教育大学 教育学部 講師

「知識人」と「エリート」との
関係について分析し、
こうした概念そのものを
止揚することの必要性を探究



私の研究

私の大学院博士後期課程における研究テーマは、「知識人」と「エリート」との関係について分析することでした。大衆社会状況における伝統的な「知識人」や「エリート」への不信感が高まる中、アントニオ・グラムシの思想を中心に両概念を分析し直し、大衆と「知識人」や「エリート」を単に対置するのではなく、こうした概念そのものを弁証法的に止揚することの必要性を論じました。

大学院の魅力

大学院の魅力とは、一言でいえば「深い探究」です。学部において自らが関心を持ったテーマを、さらに深めることができます。しかしそれだけに、自発的な研究活動が求められ、研究目標をその都度達成していくという態度が必要です。先生方も、有能かつ経験豊富な方々であり、指導教員可否かを問わず、研究の意志のある人には多くの援助を惜しまず、指導いただけます。

研究テーマ

政治思想史、知識人論

修士課程

政治学特殊演習 1/2 (各2)
政治理論研究 1/2 (各2)
政治理論演習 1/2 (各2)
政治制度研究 1/2 (各2)
行政学研究 (2)
政治史研究 1/2 (各2)
日本政治史研究 1/2 (各2)
政治思想史研究 1/2 (各2)
政治思想史演習 1/2 (各2)
公共哲学研究 1/2 (各2)
コミュニティ論研究 1/2 (各2)
フェミニズム研究 1/2 (各2)
マスコミ研究 1/2 (各2)
公共政策研究 1/2 (各2)
国際刑事裁判研究 1/2 (各2)
政治過程研究 1/2 (各2)
行政理論研究 1/2 (各2)
政策学研究 1/2 (各2)
都市思想史 1/2 (各2)
権力論 (2)
政治と科学技術 (2)
政治権力論 (2)
比較政治論 1/2 (各2)
連帯社会とサードセクター (4)
立法学研究 1/2 (各2)
公共事業研究 1/2 (各2)
自治体研究 1/2 (各2)
行政改革研究 (2)
自治制度研究 (2)
公務員制度研究 (2)
都市政策特別セミナー 1/2 (各2)
高齢社会の政治と政策 1/2 (各2)
雇用・労働政策研究 (2)
政策法務論 (2)
防災危機管理研究 (2)
市民自治と憲法 (2)
情報政策研究 (2)
ジェンダー政治研究 1/2 (各2)
自治体福祉政策論 (2)
自治体議会論 (2)
NPO論 1/2 (各2)
市民社会論 (2)
シンクタンク論 (2)
公共政策と非営利セクター (2)
社会運動論 (2)
国際NGO概論 (2)
国際政治の基礎理論 1/2 (各2)
Asian and Global Politics (2)
国際政治理論研究 1/2 (各2)
国際開発政策研究 1/2 (各2)
国際政治史研究 1/2 (各2)
政治体制論研究 1/2 (各2)
外交政策研究 1/2 (各2)
国際地域研究 1/2 (各2)
東アジア政治研究基礎 1/2 (各2)
アメリカ政治研究 1/2 (各2)
アメリカ外交研究 1/2 (各2)
日中関係政策論 1/2 (各2)
平和軍事研究 1/2 (各2)
国連・平和構築研究 1/2 (各2)
自治体国際政策研究 1/2 (各2)
安全保障政策研究 (2)
国際情報論1 (開発とメディア) (2)
国際情報論2 (援助とメディア) (2)
国際情勢分析論 1/2 (各2)
国際行政研究 1/2 (各2)

博士後期課程

博士論文演習ⅠA・B/ⅡA・B/ⅢA・B (各2)
政治学特別講義 1/2 (各2)
国際政治特別講義 1/2 (各2)

[2019年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

国際政治学専攻

募集人員…修士課程10名
開講形態…昼間開講
キャンパス…市ヶ谷
主な進路…教育関係、金融、建設業、進学（博士後期課程）など

国際政治の本質を見極められる 冷静な国際人を養成する

世界の至るところで、グローバリゼーション（世界標準の伝播）とジオポリティクス（個別特殊性の発揮）のせめぎあいや対立が見られます。新しい時代には、これに見合う問題解決とコミュニケーションの能力が求められます。わが国にとって、国際政治の諸分野における専門性に裏打ちされた構想力・交渉力・実行力を持つ人材の育成は緊急課題です。本研究科では、こうした時代の要請に応える、国際政治、開発協力、地球環境、平和構築、人間の安全保障、アジアのガバナンス（政治と外交）等のグローバル・ガバナンスおよびアジア国際政治分野の研究・教育実績を有する専任教員を有しています。これまでの蓄積をさらに発展させながら、「国際政治学専攻」(Graduate School of Global and Asian Politics:G-GAP)においては、国際的に通用する高度専門職業人や研究者の養成を目指します。

アドミッション・ポリシー

1. 国際政治に関する専門知識や英語力を身につけ、国際的に通用する高度専門職業人、あるいは国際政治を専門とする研究者を目指す強い意欲が具体的に認められる人材を求める。
2. 大学学部レベルの政治学ないし関連諸学についての既修・未修は問わない。大学における学部教育の未修者であっても、社会的経験と問題意識ないし学問的意欲において大学卒と同等かそれ以上の学力が認められる人材を求める。
3. 上記の条件を満たしているかどうかを入学試験により判定する。一般入試においては、専門科目と外国語の筆記試験、研究計画等についての口述試験、そして提出書類の審査により、外国人入試においては、専門科目と日本語の筆記試験、研究計画等についての口述試験、そして提出書類の審査により、社会人入試においては、研究計画等についての口述試験、そして提出書類の審査により判定を行う。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
浅見 靖仁 教授	比較政治学、開発学、東南アジア研究	東南アジアの政治経済、開発研究、アジア諸国の社会福祉制度	国際地域研究（東南アジア）(1)/(2)
権 鎬淵 教授	平和軍事研究、政軍関係	日本の防衛政策、日本の対外政策、東北アジアの安全保障問題	国際地域研究（朝鮮半島）(1)/(2)
坂根 徹 教授	国際公共政策、国連研究、行政学等	国際公共政策、国連システムの調達行政、国際行政等	国際公共政策研究1/2、国際公共調達研究1/2
高橋 和宏 教授	日本外交史、経済外交論、国際関係史	冷戦期の日米関係、国際経済秩序をめぐる日本外交	日本政治外交研究1/2
菱田 雅晴 教授	政治社会学、現代中国論	中国研究（国家・社会論、中南海研究、廉政研究）	対外政策研究（中国）(1)/(2)、国際地域研究（中国）(1)/(2)
福田 円 教授	国際政治、中国外交、中台関係	中国と台湾の関係史および現状分析、中国外交と国際環境の相互作用	アジア国際政治史、アジア統合論、グローバル政治経済特別セミナー
本多 美樹 教授	国際関係論、国際機構論、伝統的・非伝統的安全保障研究、国連研究	国際社会による平和のための協働と確執、アジア太平洋地域の安全保障	非伝統的安全保障研究、地球規模課題政策研究、総合講座・外交総合講座
溝口 修平 教授	比較政治学、旧ソ連地域研究	旧ソ連諸国の政治体制、現代ロシア政治外交	ロシア政治外交研究1/2
宮下 雄一郎 教授	国際関係論、国際関係史、戦争史	フランス外交史、日仏関係史、ヨーロッパ統合論	国際地域研究（ヨーロッパ）(1)/(2)
森 聡 教授	国際政治、アメリカ外交	アメリカのアジア戦略、東アジアにおける安全保障、国際システムにおける「平和的変更」の可能性と限界	国際政治理論、アメリカ外交史、戦略と政策、アメリカの対外政策
弓削 昭子 教授	国連の開発活動と平和構築	国連システムにおける開発活動と平和構築	国連・平和構築研究1（国連組織）、国連・平和構築研究2（平和構築）、持続可能な開発のための教育（ESD）、開発援助運営論：JICA講座

〔2019年度〕※年度により授業を持たない場合があります。

研究室紹介

宮下 雄一郎 教授

ヨーロッパ国際関係史
—「戦争と平和」をめぐる政治

大国間の権力政治と
国際秩序の変動



国際関係論（国際政治学）といっても、その内実は様々な学問分野の「寄り合い所帯」であり、研究を遂行するにあたっての方法論也多岐にわたる。政治学、歴史学、哲学、そして経済学はもちろんのこと、知識人などを研究対象とする場合には文学などの素養も求められる。研究テーマを設定し、それに取り組むための方法論を見つけるには、相応の知見が求められる。

本研究室では、歴史的なアプローチに基づき、ヨーロッパの国際関係に関する様々な問題を扱う。歴史上の出来事から「政治」を抽出し、それを分析することが目的である。外交文書などの一次史料を渉猟し、そこから戦争と平和をめぐる問題を探るための材料を抽出しなければならない。

学生・修了生の声

松永 和成

修士課程 2015年度修了 / 株式会社日本リサーチセンター

海外市場調査員として世界中を
飛び回りたい。
海外で通用するリサーチャーに
なることを目標に
国際政治学を専攻



専攻の魅力

教授との距離が近く、論文の指導が密に行われるところが魅力だと思う。英語で行われる講義はディスカッション含め実践的であり、将来グローバルに働くうえでの力になる。海外特別奨学金制度を利用し1年間英国の大学院で学ぶ貴重な機会を頂いた。

将来の目標

現在海外市場調査をアシスタントの立場で担当している。今後、海外市場調査を主担当として成功に導くことが目先の目標である。将来は新興国諸国を対象に新規案件を増やし、世界中を飛び回りたい。ゆくゆくは会社ではなく、自分の名前で仕事を任せられるようリサーチャーになりたい。

研究テーマ

グローバルヘルスガバナンスに関する一考察
—ビルゲイツ財団の事業活動分析

修士課程

●基礎理論科目

国際政治理論(2)
アメリカ外交史(2)
政治理論研究1/2(各2)
国際政治史研究1/2(各2)
アジア国際政治史(2)
国際公共政策研究1/2(各2)
国際協力政策研究1/2(各2)
非伝統的安全保障研究(2)

●国際政治専門英語科目

Academic Reading(初級)(2)
Academic Reading(上級)(2)
Thesis Writing(初級)(2)
Thesis Writing(上級)(2)
Presentation & Debate(初級)(2)
Presentation & Debate(上級)(2)

●グローバル・イシュー科目

国連・平和構築研究1(国連組織)(2)
国連・平和構築研究2(平和構築)(2)
国際公共調達研究1/2(各2)
地球環境政治論(2)
持続可能な開発のための教育(ESD)(2)
市民社会組織ネットワーク論(2)
グローバル・メディア研究(2)
国際金融政策論(2)
国際食糧資源エネルギー政策(2)
グローバル・ビジネス研究(2)
プロジェクト評価手法(2)
国際開発プロジェクト・
マネジメント手法(2)
地球規模課題政策研究(2)

●アジア国際政治科目

アジア比較政治(2)
アジア統合論(2)
アジア平和軍事研究(2)
戦略と政策(2)
アメリカの対外政策(2)
対外政策研究(中国)(1)/(2)(各2)
対外政策研究(朝鮮半島)(1)/(2)(各2)
ロシア政治外交研究1/2(各2)
国際地域研究(中国)(1)/(2)(各2)
国際地域研究(朝鮮半島)(1)/(2)(各2)
国際地域研究
(ロシア・中央アジア)(1)/(2)(各2)
国際地域研究(東南アジア)(1)/(2)(各2)
国際地域研究(ヨーロッパ)(1)/(2)(各2)
日本政治外交研究1/2(各2)

●実践講座科目

グローバル政治経済特別セミナー(2)
開発援助運営論: JICA 講座(2)
国際機関講座(2)
総合講座・外交総合講座(2)
総合講座・国際協力講座(2)

[2019年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

社会学専攻



「社会学コース」と「メディアコース」 現代社会の諸課題に応える知的技法の修得

人間は一人で生きることができません。そして、人間が集まると社会が生まれます。その人間と社会をめぐるさまざまな営みが、社会学という学問の対象です。とはいえ、人間も社会も常に変化しています。インターネットの普及、グローバル化が進み人々は国境を越えて移動、家族や夫婦の形も急速に変わりつつあります。社会学専攻では、「社会学コース」と「メディアコース」の2コースにおいて、社会学、メディア論、国際社会論をはじめ、隣接する人文・社会諸科学の成果を学ぶことによって、現代社会の諸問題を系統的に認識・解明する高度な学術研究の遂行能力を有する人材の育成を目指します。

「社会学コース」では、院生が調査研究を行う中心的な土台に社会学を据え、その他の社会科学諸分野の知見も取り入れながら多様な社会問題に取り組む研究者を養成します。「社会学コース」は多摩と市ヶ谷の2キャンパスで昼間授業を開講します。「メディアコース」では、メディア分野の高度専門職業人や研究者に求められる、メディア理論と調査法、メディアの歴史と思想、そして調査報道やメディアテクノロジー等の実践までを学ぶことができます。「メディアコース」は平日夜と土曜日に市ヶ谷キャンパスで授業を開講し、社会人が学びやすい環境を用意します。

社会学専攻の修了生は、大学など研究機関をはじめ、国内外の様々なメディア企業・国際機関・一般企業で活躍しています。

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)

社会学研究科では、社会学、隣接する社会諸科学、人文諸科学の分野に強い学問的関心を持つ、つぎのような人材を広く求める。

1. 社会学、メディア論、国際社会論の領域で、社会の諸問題をめぐって独立した研究能力を形成する意欲のある人材。
2. 社会についての豊かで深い学識を備え、メディア企業・国際機関・一般企業などで働く専門的職業人を目指す人材。
3. 社会人としての経験をもとに、社会をめぐる豊かで深い学識を形成し、実践的に課題の解決に向かおうとする人材。

カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)

社会学研究科における教育研究は、現代社会の諸問題をそのなかで生きる人間のあり方に注目して解明し、目標にすべき価値と多様な社会生活の場でそれを実現する方法を探究することを、基本的な特徴としている。教育課程の編成と実施にあたっては、社会学を基本としながら、それに隣接する社会諸科学、人文諸科学の科目を配することによって、現代社会の諸問題と、そのなかで生きる人間のあり方に注目した教育研究を進める。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

社会学研究科は、所定の単位の修得、および学位論文の審査によって、つぎに示す能力を有すると認められた者にたいして、修士課程にあつては「修士(社会学)」の、博士後期課程にあつては「博士(社会学)」の学位を授与する。

社会学、メディア論、国際社会論はもとより、隣接する社会諸科学、人文諸科学の成果に基づいて現代社会の諸問題をみずからの研究課題として系統的に認識、解明し、それに実践的に向き合う高度な学術研究の遂行能力を有する。

研究室紹介

津田 正太郎 教授

メディアの役割や限界を理解するために、
その歴史的、社会的文脈を探る

プロパガンダはなぜ「失敗」するのか

近代化または現代化の過程において、メディアは重要な役割を果たしてきました。国民形成や戦争プロパガンダの手段として、メディアはいまも活用され続けています。ただしそれは、メディアが人びとを自由自在に操れるということではありません。様々な歴史的、社会的要因により、統合や説得の失敗もまた頻繁に生じます。つまり、メディアの内容や技術だけをみるのでは不十分なのであり、その役割や限界を理解するためには社会の文脈にも目を向ける必要があるのです。本研究科でメディアを学ぶ人には、そうした幅広い問題関心をもって研究に取り組んでほしいと思います。



募集人員…修士課程20名／博士後期課程5名
開講形態…社会学コース(昼間開講)／メディアコース(夜間開講)
キャンパス…多摩・市ヶ谷(社会学コース)／市ヶ谷(メディアコース)
長期履修制度…有(修士課程) 主な資格…専門社会調査士
主な就職先および勤務先…教育、医療福祉、情報通信、出版、印刷など

柱となる2コース

- ・2つのコースにはそれぞれ基礎演習を入りに個別領域のテーマにつながる講義・演習があります。
- ・これらの科目の多くは半期2単位科目ですから、修士課程2年間の間に計画的に履修できます。
- ・指導教員による論文指導のほか、総合演習を通じて複数の教員が修士論文作成に向けてアドバイスします。

社会学コース

「社会学基礎演習」で社会学理論・社会問題の基本概念を修得したあと、「理論社会学」でより深く個別の社会学理論を学びます。また、環境、家族、階層などに関する社会学研究の広がりを選び、実習を通じ社会調査の方法論を身に付けてもらいます。

社会学基礎演習

社会学の研究法に関する
基本的知識の修得

理論的基礎

理論社会学

(ミクロ・マクロアプローチ、
学説史、認識論的基礎)

個別領域

社会学特殊研究

(都市、産業、労働、家族、環境、
福祉、医療、文化などに関する
社会学研究)

方法

統計分析法

社会調査実習

調査研究法

質的資料分析法

専門社会調査士資格(〔社〕社会調査協会認定)が取得できます。

ただし、社会調査士資格未取得の場合には、他専攻科目として開講されている科目を履修する必要があります。

メディアコース

「メディア社会学基礎演習」では基礎的なメディアの理論と歴史を学び、「メディア理論」で歴史・倫理・テクノロジーに関する理解を深めていきます。「メディア特殊研究」では広告、ソーシャルメディア、メディア文化などの個別領域を研究するとともに、「取材文章実習」、「調査報道実習」などでメディア分野の実践知を高めていきます。

メディア社会学 基礎演習

基礎的なメディアの理論と歴史、
メディア産業論、
オーディエンス論の修得

理論

メディア理論

(歴史・倫理・テクノロジー)

個別領域

メディア特殊研究

(広告、知的財産、メディア経営、
ソーシャルメディア、メディア
文化)

方法

取材文章実習

調査報道実習

オーディエンス調査実習

学生・修了生の声

兼子 諭 2018年9月 博士学位取得

研究を深め、
大変ながらも有意義な学究生活

私の研究

コミュニティや市民社会のあり方について学修し、将来的にも社会的な研究に従事したいと考えたことから大学院に進学しました。現在は、法政大学社会学部の兼任講師を勤めています。大学院生時代を振り返ると社会学だけでなく、社会科学や社会思想、哲学についての研究にも努めていました。法政大学大学院では、現代社会における諸現象に関して、理論だけでなく実証も視野に入れているため両面からの研究アプローチが可能であり、研究を深めるには適切な環境が整っています。大変ながらも楽しく、有意義な学究生活を送ることができました。

研究テーマ

社会学理論 文化社会学 市民社会論



専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
青木 貞茂 教授	広告論、ブランド論	効果的なブランド広告表現の開発・立案方法について	メディア特殊研究 1
荒井 容子 教授	社会教育学	社会教育実践研究、社会教育法制度研究、成人教育・社会教育運動研究、公民館研究	社会学特殊研究 4
稲増 龍夫 教授	メディア文化論	現代メディア文化とコンテンツ産業の分析	メディア社会学特殊研究 2
宇野 齊 教授	組織行動科学、社会ネットワーク論、経営学	社会ネットワーク論、組織論、意思決定論	学際研究 4
大崎 雄二 教授	現代中国における国民統合・民族政策	現代中国（東アジア）地域研究	社会科学研究法 1 / 2
岡野内 正 教授	社会理論、国際政治経済学、平和学、国際開発学、中東研究	国際社会の人権・平和問題とベーシック・インカム研究	理論社会学 4
金井 明人 教授	認知科学・人工知能と映像の修辞学	映像に関する情報物語論	学際研究 2
金原 瑞人 教授	英語圏のエスニック文化	創作（クリエイティヴライティング）。小説や詩の創作を通じて、表現力の向上を図る	※今年度は、特定の科目を担当しません
上林 千恵子 教授	産業社会学	日本の移民政策：外国人労働者と高度技能移民の受け入れ	社会学特殊研究 1、外国書講読 1 / 2（英語）
菊澤 佐江子 教授	家族社会学	家族とライフコースに関する計量社会学的研究	社会学特殊研究 3
小林 直毅 教授	メディア文化研究、テレビ・アーカイブ研究	メディア環境における「記録と記憶」の研究	メディア社会学基礎演習 2、メディア理論 1、社会学原典講読（修士）、社会学原典研究 2（博士）
斎藤 友里子 教授	理論社会学・数理社会学・社会意識論	ただしさの社会学	統計分析法（修士）、社会調査法 2（博士）
佐藤 成基 教授	社会学理論、比較ナショナリズム研究	ナショナリズムと国民国家の歴史と現在（ドイツを中心にして）	理論社会学 3
愼 蒼宇 教授	近現代史	朝鮮近現代史、日朝関係史、植民地研究、在日朝鮮人史研究	※今年度は、特定の科目を担当しません
鈴木 智之 教授	社会学理論、文化社会学	物語言説の社会学的分析。特に自己と他者をめぐる語りとその社会的条件の研究	理論社会学 2
鈴木 宗徳 教授	社会学史、理論社会学	現代における批判的社会理論の課題	社会学基礎演習 2、理論社会学 5、外国書講読 1 / 2（英語）
田嶋 淳子 教授	国際社会学、移民・エスニシティ研究	中国系移住者をめぐる文化的市民権と移住二世世代	社会学特殊研究 1、社会調査実習
津田 正太郎 教授	マスコミュニケーション論、政治社会学	近現代社会におけるメディアの役割に関する政治社会学的研究	メディア社会学基礎演習 1 / 3
徳安 彰 教授	社会システム論	社会現象を人間と社会システムの 2 つの視点から見る	理論社会学基礎 1 / 2、社会学原典講読（修士）、社会学原典研究 1（博士）
樋口 明彦 教授	コミュニティ政策論	社会的排除 / 社会的包摂、若者論、NPO / NGO、働き方の多様化	社会学特殊研究 2
平塚 眞樹 教授	教育学、若年移行期研究	若者支援における youthwork と social pedagogy の意味	※今年度は、特定の科目を担当しません
藤田 真文 教授	コミュニケーション論、メディア論	マス・メディア（テレビ）のテキスト（内容）分析	※今年度は、特定の科目を担当しません
二村 まどか 教授	国際関係論、平和構築論	紛争後の社会における正義追求のあり方について（移行期正義・国際刑事裁判）	学際研究 1
別府 三奈子 教授	ジャーナリズム規範の国際比較研究、写真研究	負の遺産とジャーナリズムの記録の連関に関する調査と分析	メディア理論 3
堀川 三郎 教授	環境社会学、都市社会学	歴史的環境保存の日米比較、まちづくり、住民運動、公害被害地の追跡調査	社会学特殊研究 3

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
三井 さよ 教授	臨床社会学、ケア・支援論	医療・福祉をめぐる社会問題への相互行為論的アプローチ	質的資料分析法（修士）、社会調査法3（博士）
吉村 真子 教授	アジア研究、東南アジア地域研究	国際社会 / 東南アジア（マレーシア）地域研究	※今年度は、特定の科目を担当しません
堅田 香緒里 准教授	社会福祉学、福祉社会学	貧困研究、批判的社会政策論、ジェンダー・スタディーズ	社会学特殊研究2
高 美智 准教授	映画・表象文化研究	日本映画におけるマイノリティ、ナショナリズム、多文化、ジェンダー表象、アダプテーション映画	メディア理論2
白田 秀彰 准教授	情報法、知的財産権法	情報化社会と情報発信についての研究	メディア特殊研究3
鈴木 智道 准教授	歴史社会学、教育社会学	教育の歴史社会学、歴史社会学方法論	社会学基礎演習1/3、社会学特殊研究4
多喜 弘文 准教授	社会階層論、教育社会学、比較社会学	教育・労働の格差に関する比較社会学的研究	理論社会学1
土倉 英志 准教授	社会心理学、認知科学、質的心理学	創造性、経験による学習・創造による学習、コミュニティデザイン	外国書講読1/2（英語）
土橋 臣吾 准教授	メディア論、コミュニケーション論	デジタルメディアの実践的研究	オーディエンス調査実習
藤代 裕之 准教授	ジャーナリズム論、ソーシャルメディア論	ソーシャルメディア時代のジャーナリズムやメディアのあり方 / Entrepreneurial Journalism	メディア特殊研究4
諸上 茂光 准教授	消費者心理学、計算論的脳科学	市場における消費者の心理及び行動の分析とモデル化	メディア社会学特殊研究1
橋爪 絢子 専任講師	ユーザ工学、ユーザ中心設計	実文脈におけるユーザの状況や行動の調査と分析	※今年度は、特定の科目を担当しません

〔2019年度〕※年度により授業を持たない場合があります。

設置科目【修士課程】

社会学基礎演習1～3（各2）
 メディア社会学基礎演習1～3（各2）
 理論社会学1～5（各2）
 メディア理論1～5（各2）
 理論社会学基礎1/2（各2）
 社会学特殊研究1～6（各2）
 メディア特殊研究1～4（各2）
 メディア社会学特殊研究1/2（各2）
 学際研究1～5（各2）
 統計分析法（2）
 社会調査実習（4）
 調査研究法（2）
 質的資料分析法（2）
 取材文章実習（2）
 調査報道実習1/2（各2）
 オーディエンス調査実習（2）
 メディアテクノロジー実習（2）
 社会科学研究法1/2（各2）
 外国書講読1/2（各2）
 社会学原典講読（2）
 論文指導1/2（各2）

〔2019年度〕※開講科目は年度により異なります。（）＝単位数

設置科目【博士後期課程】

社会学総合演習A/B（各2）
 社会学研究1～3（各2）
 社会調査法1～3（各2）
 社会学原典研究1/2（各2）
 博士論文指導ⅠA/B（各2）
 博士論文指導ⅡA/B（各2）
 博士論文指導ⅢA/B（各2）

修士生の研究テーマ

- ・みえにくい問題経験をやりくりするー「生きづらさ」を手掛かりとした調査から
- ・人口を統制することー日本社会における人口概念の展開ー
- ・リチャード・セネットにおける「公共的なもの」の概念
- ・今日において就学運動を振り返る意義ーその「関係」観/「ニーズ」観からの検討ー
- ・非正規雇用の基幹化と働き方への影響ー劣悪な働き方の再生産メカニズムー
- ・日本における外国人の社会統合に関する研究ー自治体レベルの取り組みに着目してー
- ・ニューカマーズとしての中国系移住者のエスニック・コミュニティに関する一考察
- ・核の表象と経験、そして記憶ーテレビの記録と技術としてのアーカイヴー
- ・「聖地」奈良への勤員ー“建国神話の体現者たち”ー
- ・本屋大賞のブランディング分析
- ・日本の新聞における中国の環境問題報道
- ・日本のテレビにおける「八月ジャーナリズム」ー戦後70年を中心にー
- ・原発震災と「3月ジャーナリズム」の課題と可能性
- ・「普通である」ための技法ーセクマイ・コミュニティと「当事者である/ない」ことをめぐってー
- ・近代朝鮮における教育改革と書堂（1876-1905）ーその重層的把握への試みー
- ・内モンゴル農村地域におけるモンゴル族男性の結婚難問題に関する研究ー通遼市ホルチン左翼後旗の7つの村を中心にー

経営学専攻

よい循環づくりで
経営と経営学の人材を養成

経営学研究科では、企業組織及び企業の諸活動、企業とそれを取り巻く環境との関連を研究しています。修士課程、博士後期課程ともに、昼間コースと夜間コース（社会人向け）を設けて、学問と実務のよい循環をつくりつつ、多様な人材を育成しています。特に、日本の私立大学の中でも設立の早かった社会人向け修士課程は、1992年設立以来、1,000名を超える修了生を輩出しています。

現実と理論との相互作用を図る多様な授業が用意されています。たとえば、企業の第一線で活躍される多様なゲストスピーカーをお招きして、現場の生の情報、最新の企業経営動向、最先端の事業動向をお聞きし、ディスカッションする「ワークショップ」を各コースで提供しています。また、現実と学問との間の流れを理解し、現実の問題がその知的な流れのどこに位置するかを把握し、理論と鋭い知見をもって企業経営の現実を分析する能力を徹底的に鍛える種々の授業も提供しています。

修士・博士論文の執筆を通じ、本格的な学術論文を作成する機会も設けられています。論文指導では、指導教員は丁寧な指導を心がけており、少人数教育の強みを最大限生かして、教員と学生間に濃密なコミュニケーションが行われています。

なお、経営学研究科では、教員と在学生だけでなく修了生も加わったよい循環づくりをめざしています。修了生がワークショップ授業のゲストスピーカーとして登壇して、生の情報や経験談を在学生と共有したり、教員になった修了生が在学生に知的な還元を行ったりする例も少なくありません。

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)	ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)
経営学研究科では、専門知識と経営学研究への意欲を有し、次のキャリアビジョンを持つ人材を広く求める。昼間・修士課程においては、優れた成果を上げられる研究・教育職、国際職業人の人材を求める。夜間・修士課程においては、企業やその他団体等で高度な経営課題に応えられる経営管理職・専門職の人材を求める。博士後期課程においては、研究者養成のための修士課程だけでなく、高度職業人養成のための修士課程の修了生を含め、独創性に富む専門研究者をめざす人材を求める。	昼間・修士課程では経営学（関連分野を含む）の研究に必要な方法論等を自主的により深く学べること、また修士論文を作成できるようにすることを配慮して開講科目を設定する。夜間・修士課程では、複数の専門分野別のコースを設け、それぞれの専門分野にふさわしい独自の選択必修科目群を設置する。また、学生のバックグラウンドやニーズが多様であることから、経営学および関連分野の基礎的な科目を設置するとともに、他コースの科目も自由に履修できるようにする。さらに、少人数制による論文指導、コースレベルでの集団指導等を行い、実務経験と適切な理論、方法論を融合した修士論文作成をめざす。博士後期課程では、ステップ制を運営、実施すると共に、指導教員・副指導教員による研究指導と博士コースワークショップを充実化する。	所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「修士（経営学）」、あるいは「博士（経営学）」を授与する。修士課程では、経営学分野（関連分野を含む）の多様な授業と、個別指導及びコース別集団指導に基づく修士論文の準備・作成によって、経営学分野（関連分野を含む）の研究能力、または高度の専門性を要する職業等に必要の能力を有する。博士後期課程においては、研究者として自立して研究活動を行い、またはその他の専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を十分備えている。



■ 昼間コース

経営学の基礎から応用までの理論的なアプローチに加え、現実の企業活動や社会現象を実証的に分析するためのさまざまな手法が学べます。また、個別指導を重視した教育を行っています。組織、人事、戦略、アカウントティング、ファイナンス、国際経営、マーケティング、経営史など企業経営の諸側面について幅広く研究できます。また、経済学や統計学に関する科目も開講。総合的に企業経営を捉える視点を養うことが可能です。高度な知識・理論を講義やディスカッションを通して習得、さらに、細やかな個別指導のもとで質の高い修士論文や博士論文を作成します。

■ 夜間コース

経営学専攻夜間コース（法政ビジネススクール：略称HBS）は、日本におけるビジネススクールの先駆けとして1992年に設置。実務に関するさまざまな理論が学べる5つのコースがあります。他コースや他専攻、他研究科の科目も履修可能。専門性と幅広い知識を同時に習得できます。

HBSでは、理論と実証に必要な知識を基礎から応用まで、少人数・双方向型の講義で習得。また、ゲストスピーカーを交えたワークショップで、企業経営の最先端の動向と実践的な知識やスキルを身に付けられます。修士論文の作成が必修であることもHBSの大きな特徴です。これまでの実務経験やHBSで学んだ知識は、修士論文を書き上げる過程で、真に学生の血となり肉となっていくます。

募集人員：修士課程60名／博士後期課程10名
開講形態：（昼間コース）昼間開講／（夜間コース）夜間開講
キャンパス：市ヶ谷
入学者の職域：製造、情報通信、金融、不動産、技術サービス、教育、医療福祉、サービスなど

■ コース制（夜間コースのみ）

企業家養成コース

創業を志す人、社内企業家、後継経営者、企業家の支援に携わる人の養成を目的としたコースです。多彩な科目のほか、実際の企業家を招いてのワークショップを開講。企業や事業を起こして直面した経営上の問題点や課題、その解決方法などをお話いただき、その後は、教員や学生を交えて活発なディスカッションを展開しています。

人材・組織マネジメントコース

人事と組織に関わるトピックスを幅広く学べます。また、実証研究を重視し、組織のデータの発掘や職場の事例研究、面接調査、企業・従業員などへの聴取、アンケート調査や統計データの解析など研究目的に応じた研究手法を指導します。実務家による講義、ケーススタディーも行っています。

アカウンティング・ファイナンスコース

2つのサブ・コースを立てて、企業会計とファイナンスの先端的知識を体系的に学びます。アカウンティング・サブコースでは、経理人の再教育とレベルアップを主眼に会計とその関連領域を学びます。ファイナンス・サブコースでは、企業財務および証券投資に関する理論とその応用手法を学びます。

国際経営コース

国際的な観点から経営の理解を深めたいビジネスパーソンを対象としたコースです。国際経営論・国際金融論・国際物流論・国際人事・国際マーケティング・国際会計論などの科目や、アジア・アメリカ・EUといった地域研究の科目を開講。国際ビジネスの第一線で活躍する実務家を招いた講義では、国際経営に関する具体的な事例を学ぶことができます。

マーケティングコース

講義と討議を中心としたマーケティング理論の学習と、実習を併用した定量的・定性的なデータ分析手法の習得をバランス良く配置。他大学院には見られない独自性があります。マーケティングの全体像を知るためのプログラムとして、また、現場体験と実務の知識を再構築する機会として活用できます。

詳細は、経営学専攻（夜間）ホームページ

<http://hbs.ws.hosei.ac.jp/> をご参照ください。

研究室紹介

新倉 貴士 教授

消費者の認知・感情・行動を起点とした マーケティング戦略の研究

消費者の認知的情報処理に基づくマーケティング研究

コモディティ化、サービタイゼーション、オムニチャネル、モバイルアプリ等々、マーケティングをめぐる様々な事柄が日々進展しています。ただ、こうした進展は今に始まったことではありません。マーケティングは常に、こうした進展にうまく対応しながら進化を続けています。そのためには何が必要でしょうか。そうです、こうした進展に対応できる「確固たる基盤」です。本研究室では、マーケティングの根幹となる「消費者ニーズ」を捉える消費者の認知メカニズムをその基盤としています。ゼミでは常に、“Get Back to the Basics!” の精神です。毎回、「消費者ニーズはいかにあるか」を問い続けています。



学生・修了生の声

加藤 琢也 修士課程 2018年度修了

経営学に関して学んだ広範な知識が 変化が起こる自動車業界で生かしていきたい

好きな授業

もともと理工系出身で、自動車会社に所属しながら、統計学や線形代数に関する授業に加え、学術的な観点の経営学を学んでいます。ものづくりに必要な会計やファイナンスの他、「企業家活動」「イノベーション概論」「企業間関係論」などの質の高い授業からは、分野を横断した知見を得ることができます。

将来の夢

授業を通して、経営者の意思・思考に関心を抱くようになり、来年には哲学の授業を履修する予定です。今後は博士課程に進み、最終的には自動車メーカーでの経験や経営学に関する知識を、自動運転や電気自動車、カーシェアリングといった変化が起こっている自動車業界で生かしていきたいです。



研究テーマ

商用車メーカーにおけるサプライヤーの型投資と技術力のトレードオフ

	専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
企業家養成コース	稲垣 京輔 教授	経営組織論、事業創造論	企業家活動と事業創造・中小企業経営における経営者の実践	※今年度は、特定の科目を担当しません
	金 容度 教授	日本経営論、日本経営史、企業間関係論	日米の企業システムの比較研究、企業間関係論	企業家養成演習、ワークショップ(企業家養成)、博士演習Ⅱ A・B、博士演習Ⅲ A・B
	近能 善範 教授	イノベーション・マネジメント	企業間関係とイノベーション、自動車産業のサプライヤー・システム	経営学演習、企業家養成演習、イノベーション・マネジメント概論
	福島 英史 教授	戦略的意思決定論	企業戦略と組織、技術革新に関する研究	企業家養成演習、経営学基礎
	吉田 健二 教授	経営戦略論	経営戦略の策定と実行	企業家養成演習、経営戦略論
	二階堂 行宣 准教授	日本経営史、日本経済史	日本の鉄道事業経営・運輸政策に関する歴史的研究	企業家養成演習、企業家史
国際経営コース	安藤 直紀 教授	国際経営戦略論	海外子会社の経営戦略、新興経済での経営戦略	※今年度は、特定の科目を担当しません
	高橋 理香 教授	国際経済学、理論経済学	貿易政策に関する理論および実証研究	国際経済学、国際経営演習
	藤澤 利治 教授	ヨーロッパ経済論、ドイツ経済論	EU における通貨経済統合の分析、ドイツ統一の経済分析、ドイツ産業の史的分析	国際経営演習
	洞口 治夫 教授	国際経営論、経営戦略論	日本企業の海外直接投資、多国籍企業の経営戦略、イノベーションとクラスター、FTAの理論的・実証的研究	国際経営演習、経営学演習、国際経営論、博士演習Ⅲ A・B
	横内 正雄 教授	金融史・国際金融論	イギリス系国際銀行の東アジアにおける活動の歴史的研究、国際通貨危機に関する実証的研究、香港の金融システムに関する研究	博士演習Ⅲ A・B
	李 瑞雪 教授	ロジスティクス論、国際経営論	新興国市場におけるロジスティクス戦略と新興国物流産業の高度化	経営戦略特論、国際経営演習、経営学演習、ワークショップ(国際経営)、博士演習Ⅲ A・B
人材・組織マネジメントコース	小川 憲彦 教授	経営管理論、組織行動論、キャリア論	個人の組織適応、組織の適応施策、組織適応と組織変革	人材・組織マネジメント演習、経営学演習、経営組織特論
	奥西 好夫 教授	労働経済学、人事・組織の経済学	人事制度、雇用システムの統計分析、国際比較	人材・組織マネジメント演習、人事制度論
	岸 真理子 教授	経営情報論、経営組織論	組織能力と情報技術、組織コミュニケーションとメディア、組織ネットワークと意味形成	人材・組織マネジメント演習、経営情報論
	佐野 哲 教授	労働市場論、雇用政策、経営社会政策	人材ビジネスなど労働需給システムに関する研究、国際労働移動ならびに外国人労働者受け入れ問題に関する研究、雇用・労働分野の規制緩和政策に関する研究	※今年度は、特定の科目を担当しません
	佐野 嘉秀 教授	人的資源管理論、産業社会学	雇用区分の組み合わせと人材マネジメント、非典型雇用の働き方とキャリア	人材・組織マネジメント演習、人的資源管理論
	長岡 健 教授	組織社会学、経営学習論	組織エスノグラフィー、ワークプレイスにおける学習	人材・組織マネジメント演習、ワークショップ(人材・組織マネジメント)、博士演習Ⅲ A・B
	西川 真規子 教授	組織行動論、経済社会学	就労意識、ジェンダーと労働、労働と生活	経営学演習、人材・組織マネジメント演習、組織行動論
マーケティングコース	永山 晋 准教授	組織論	組織における創造性のマネジメント	人材・組織マネジメント演習
	木村 純子 教授	サービス・マネジメント論	地理的表示法、農作物マーケティング、地域活性化	マーケティング演習
	竹内 淑恵 教授	マーケティング論、広告論	マーケティング・コミュニケーション効果、ブランド・マネジメント、ソーシャルメディアにおけるコミュニケーション効果	博士演習Ⅱ A・B、博士演習Ⅲ A・B
	田路 則子 教授	製品開発論	ハイテク産業におけるイノベーション・マネジメント、ハイテク・スタートアップの成長プロセス	※今年度は、特定の科目を担当しません
	新倉 貴士 教授	消費者行動論	消費者情報処理モデル、消費者認知、ブランドマーケティング	マーケティング演習、経営学演習、消費者行動論、博士演習Ⅲ A・B
	西川 英彦 教授	マーケティング・リサーチ論	デジタルマーケティング、ユーザーイノベーション、ソーシャルメディア	マーケティング演習、マーケティング・リサーチ論、博士演習Ⅱ A・B、博士演習Ⅲ A・B
	横山 斉理 教授	流通システム論	日本の商業と流通、小売業の顧客満足	マーケティング演習、経営学演習
アカウンティング・ファイナンスコース	長谷川 翔平 准教授	マーケティング・サイエンス	マーケティングデータの統計解析	マーケティング演習、経営学演習
	大下 勇二 教授	財務会計、国際会計、税務会計	フランス会計制度研究、税務会計における会計基準の利用問題	博士演習Ⅲ A・B
	神谷 健司 教授	財務会計	中小企業の会計基準のあり方、会計教育プログラムの研究	※今年度は、特定の科目を担当しません
	川島 健司 教授	財務会計	資産の時価測定に関する実証的研究、資産評価の会計基準分析、時価主義会計の学説研究	※今年度は、特定の科目を担当しません
	岸本 直樹 教授	ファイナンス	オプション等のデリバティブの価格理論、資産の証券化に関する経済学的分析、住宅ローンの期限前償還	※今年度は、特定の科目を担当しません

	専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
アカウンティング・ファイナンスコース	金 瑠晋 教授	ファイナンス	実証ファイナンス、企業の財務意思決定	アカウンティング・ファイナンス演習、博士演習Ⅱ A・B
	坂上 学 教授	財務会計	事象アプローチによる会計ディスクロージャーの拡張、財務数値の分布特性に関する研究	アカウンティング・ファイナンス演習、博士演習Ⅲ A・B
	高橋 美穂子 教授	財務会計	会計数値に基づく企業価値評価	※今年度は、特定の科目を担当しません
	筒井 知彦 教授	会計政策論	企業会計と利益計算	会計学基礎
	福田 淳児 教授	管理会計論、原価計算論	MCS の設計と組織学習、スタートアップ企業における MCS の発展	管理会計論
	福多 裕志 教授	経営分析	日米企業の財務位相分析	経営分析
	山 寄 輝 教授	ファイナンス	金融工学、数理ファイナンス	基礎ファイナンス
	北田 皓嗣 准教授	管理会計、社会環境会計	サステナビリティ経営戦略、エコ・プロダクツ、MFCA	経営学演習、アカウンティング・ファイナンス演習
コース共通	稲垣 保弘 教授	経営管理論、経営組織論	組織の解釈学、経営の解釈学	※今年度は、特定の科目を担当しません
	大木 良子 教授	産業組織論、法と経済学	競争政策の経済分析	産業組織論
	児玉 靖司 教授	教育工学、ソフトウェア工学	データマイニング、大規模授業配信のビジネスモデル	情報学特論
	入戸野 健 教授	計算機科学、ネットワーク技術、シミュレーション	Web データ解析と集合知、確率的シミュレーションモデル	※今年度は、特定の科目を担当しません
	林 直嗣 教授	金融論、理論経済学、応用計量経済学、経済政策論	金融とマクロ経済の理論的・実証的・政策的研究	金融論
	平田 英明 教授	日本経済論	日本の景気変動、日本の金融システム、期待形成と経済政策	※今年度は、特定の科目を担当しません
	宮澤 信二郎 教授	企業金融論、産業組織論	企業の資金調達と競争に関する戦略の相互作用について	ミクロ経済論
	高橋 慎 准教授	統計学、計量ファイナンス	金融時系列データの統計分析	統計データ解析

〔2019年度〕※年度により授業を持たない場合があります。

設置科目〔修士課程〕

経営学原理(4)
 経営管理論(4)
 経営組織論特論(4)
 組織認識論(4)
 人的資源管理特論(4)
 組織行動特論(4)
 経営戦略特論(4)
 経営史(4)
 国際経営特論(4)
 マーケティング特論(4)
 消費者行動論特論(4)
 会計理論(4)
 財務会計特論(4)
 管理会計特論(4)
 原価計算論(4)
 原価管理論(4)
 監査論(4)
 会計政策論(4)
 アメリカ会計学(4)
 国際会計基準論(4)
 租税法(4)
 ミクロ経済論(4)
 マクロ経済論(4)
 労働経済学(4)
 金融論(4)
 財政論(4)
 国際経済学(4)
 国際金融論特論(4)
 アメリカ経済論(4)

ヨーロッパ経済論(4)
 産業組織論(4)
 産業集積論(4)
 流通システム論特論(4)
 日本経済特論(4)
 企業間関係論(4)
 交通経営論(4)
 統計学(4)
 計量経済学(4)
 経営学演習(4)
 産業経済演習(4)
 会計学演習(4)
 企業家養成演習(2)
 ワークショップ(企業家養成)(4)
 企業家活動(4)
 企業家史(4)
 経営戦略論(4)
 ベンチャー・ファイナンス論(4)
 イノベーション・マネジメント概論(4)
 企業家養成特殊研究(2)
 ベンチャー・ビジネス監査論(4)
 国際経営演習(2)
 ワークショップ(国際経営)(4)
 国際経営論(4)
 地域経済研究(アメリカ)(4)
 地域経済研究(EU)(4)
 地域経済研究(アジア)(4)
 国際人事(2)
 国際マーケティング論(2)
 国際物流論(4)
 国際会計論(4)

国際金融論(4)
 国際経営特殊研究(4・2)
 人材・組織マネジメント演習(2)
 ワークショップ(人材・組織マネジメント)(4)
 人的資源管理論(4)
 人材育成論(4)
 キャリアマネジメント論(4)
 人事制度論(4)
 労働市場論(4)
 労使コミュニケーション論(4)
 経営組織論(4)
 組織行動論(4)
 経営情報論(4)
 組織と情報(4)
 人材・組織マネジメント特殊研究(4・2)
 マーケティング演習(2)
 マーケティング・サービスマネジメント演習(2)
 ワークショップ(マーケティング)(4)
 マーケティング論(4)
 消費者行動論(4)
 マーケティング・リサーチ論(4)
 製品開発論(4)
 マーケティング・サイエンス論(4)
 サービス・マネジメント論(4・2)
 流通システム論(4)
 物流政策論(4)
 マーケティング特殊研究(4・2)
 アカウンティング・ファイナンス演習(2)
 ワークショップ(アカウンティング・ファイナンス)(4)
 管理会計論(4)
 財務会計論(4)

税務会計論(4)
 会計情報論(4)
 経営分析(4)
 基礎ファイナンス(4)
 実証ファイナンス入門(4)
 インベストメント理論(4)
 コーポレート・ファイナンス(4・2)
 企業評価論(4)
 アカウンティング・ファイナンス特殊研究(4・2)
 経営学基礎(4・2)
 会計学基礎(2)
 ファイナンス入門(2)
 経済学基礎(2)
 産業基礎(2)
 日本経済論(4)
 日本経済基礎(2)
 情報学特論(2)
 情報技術特論(2)
 e-ビジネス論(2)
 統計データ解析(4)
 企業法(4)
 日本語経営学(4)
 外国語経営学特殊研究(4・2)
 外国語経営学特殊講義Ⅰ/Ⅱ(各2)

設置科目〔博士後期課程〕

博士演習Ⅰ A・B/Ⅱ A・B/Ⅲ A・B(各2)
 博士コースワークショップ
 Ⅰ A・B/Ⅱ A・B/Ⅲ A・B(各1)

〔2019年度〕※開講科目は年度により異なります。()＝単位数

福祉社会専攻

社会福祉やコミュニティマネジメントの専門知識と実践能力を修得

「社会福祉」や「コミュニティマネジメント」に関する高度専門職業人（ソーシャルワーカー、政策立案者、コミュニティプランナーなど）、研究者の養成を目的としています。社会福祉、コミュニティマネジメントの幅広い課題に応えるために、ソーシャルワーク系、システム・マネジメント系、コミュニティ・デザイン系の3領域の科目群を設置。また、社会人が学びやすいようにさまざまな制度を整えています。

授業は、昼間は主に多摩キャンパスで木曜、金曜に開講（一部土曜を含む）。夜間は市ヶ谷キャンパスで月曜、火曜に開講。単位互換制度を利用した福祉系13大学の授業の履修も可能です。

生活する人の視点に立ち、Well-being社会の創造に寄与する多様な観点やアプローチによる研究に取り組んでいます。

研究室紹介

土肥 将敦 教授

SDGs時代に求められる
企業責任とイノベーション企業の経営活動と
我々の消費活動そのものを問い直す

土肥将敦研究室の研究テーマは、社会のさまざまな問題を企業やNPO/NGOがビジネスの手法で解決に結びつける「ソーシャル・イノベーション」です。ソーシャル・イノベーションとは、「社会的課題の解決に取り組むビジネスを通して、新しい社会的価値を創出し、経済的・社会的成果をもたらす革新」を意味します。ソーシャル・イノベーションの調査・研究はまだ始まったばかりですが、土肥研究室では、理論研究を充実させるとともに、さまざまな社会的課題に対して「どのような解決策を提案できるのか？」という実践的な側面も重視しています。企業活動がグローバル化し、その社会的責任（CSR）が問われる中で、企業や消費者が果たすべき役割は何かを考えています。

学生・修了生の声

葛西 優香

修士課程 在学中

地域の防災力向上に関する
研究を進め、災害の被害者を
ゼロにすることが目標です

私の研究

地域の防災力向上のために必要な土地要素や人の行動を研究しています。防災を専門とした仕事をしているため、学術的な素養を深め、自分自身の「論」を明確にしたかったことが進学を決意した理由です。現在は学びを深める中で、防災と福祉の強い関係性を知り、この2つを両軸に知識を深めています。

将来の夢

法政大学大学院で学んだことを活用して、地域内で必要な人材、組織づくりを明確化し、行政、地域住民、企業などでそれぞれの役割を整理したいと考えています。そうして地域からの声が届きやすく、かつ防災力向上のメソッドが伝わりやすい仕組みづくりに取り組んでいき、最終的には災害時の被害者をゼロにできる地域を拡大していくことが目標です。

研究テーマ

住民防災組織の地域防災力強化に向けた組織的アプローチの研究 ～葛飾区の活動事例を通して～

アドミッション・ポリシー

（学生受け入れ方針）

〈入学前に修得しているべき能力〉

【AP1 知識】4年制大学で学ぶ社会福祉と地域づくりに関わる知識を修得している

【AP2 英文読解力】専門領域に関わる英語力を有している

【AP3 思考・判断】研究テーマに関して、論理的に思考し、判断できる

【AP4 意欲・関心】研究テーマへの強い研究意欲をもち、実践的な関心を有している

カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施方針）

〈教育課程の編成方針〉

本専攻の学位授与方針を達成するために、以下の通り教育課程を編成する。

修士（福祉社会）

【CP1】DP1専門知識、DP2読解力を養成するため、コースワークとして、福祉社会研究に共通する研究方法を修得する「専門共通科目」、福祉社会の課題と理論を3つの領域から学ぶ「専門展開科目」をおく

【CP2】DP2読解力とリサーチワークとして、修士論文に収めるよう個別指導を行う「演習科目」をおく

【CP3】DP3表現力、DP4実践能力、DP5研究力を養成するため、リサーチワークとして、修士論文に収めるよう個別指導を行う「演習科目」をおく

修士（学術）

【CP4】DP6専門知識、DP7読解力を養成するため、コースワークとして、福祉社会研究に共通する研究方法を修得する「専門共通科目」、福祉社会の課題と理論を3つの領域から学ぶ「専門展開科目」をおく

【CP5】DP7読解力とリサーチワークとして、修士論文に収めるよう個別指導を行う「演習科目」をおく

【CP6】DP8表現力、DP9実践能力、DP10研究力を養成するため、リサーチワークとして、修士論文に収めるよう個別指導を行う「演習科目」をおく

ディプロマ・ポリシー

（学位授与の方針）

福祉社会専攻では、福祉社会の形成に関わる専門知識と研究方法を習得し、それらにもとづく基礎的な研究力を、高度な職業活動や実践的な研究において生かすことが可能な、以下の知識と能力を有する院生に「修士（福祉社会）」あるいは「修士（学術）」を授与する。

修士（福祉社会）

【DP1 専門知識】福祉社会分野に関する必要な専門知識を有する

【DP2 読解力】内外の先行研究を正確に読み取ることができる

【DP3 表現力】文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる

【DP4 実践能力】職業人もしくは研究者として必要とされる実践を行なえる

【DP5 研究力】自発的に研究課題を設定し、計画的、系統的に研究を遂行できる

修士（学術）

【DP6 専門知識】社会福祉分野と地域づくり分野に関する必要な専門知識を有する

【DP7 読解力】内外の先行研究を正確に読み取ることができる

【DP8 表現力】文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる

【DP9 実践能力】職業人もしくは研究者として必要とされる実践を行なえる

【DP10 研究力】自発的に研究課題を設定し、計画的、系統的に研究を遂行できる

募集人員…修士課程15名
開講形態…昼間開講（一部夜間開講）
長期履修制度…有
主な進路…独立行政法人、福祉関連機関、まちづくり財団、NPO法人、民間企業、進学（博士後期課程）など
キャンパス…多摩／市ヶ谷

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
石井 享子 教授	保健福祉学、公衆衛生学	well-beingと人材育成、 ケアマネジメント特論	保健医療福祉システム特論、 論文研究演習、実践研究演習
伊藤 正子 教授	社会福祉方法論、異なる民族・文化的背景を持つ人々への社会福祉援助	社会的排除とソーシャルワーク、 多文化ソーシャルワーク	ソーシャルワーク理論研究特論、 論文研究演習、実践研究演習
岩崎 晋也 教授	社会福祉原理、 社会福祉思想	社会福祉 / 原理・思想	社会福祉学特論Ⅰ、論文研究演習、 実践研究演習
岩田 美香 教授	児童・家族福祉論、教育福祉論	子育て・子育ての社会的困難に関する研究、 貧困家族に対するソーシャルワーク	児童福祉特論、論文研究演習、 実践研究演習
佐藤 繭美 教授	ソーシャルワーク論（特に終末期ケアを中心として）、 当事者および家族への支援	当事者・家族への支援、 死別ケア	ソーシャルワーク特論Ⅱ、 福祉社会研究法、論文研究演習、 実践研究演習
眞保 智子 教授	若者支援論、就労支援、 障害者のキャリアデザイン	若者就労支援、障害者雇用、 企業における精神科ソーシャルワーク	障害者福祉特論、論文研究演習、 実践研究演習
関司 直也 教授	農業経済学、農山村政策論、 地域資源管理論	農山村における地域マネジメント、 外部人材と協働する地域づくり	※2019年度はサバティカル （研究専念年度）です
高取 康之 教授	異文化コミュニケーション、 英語教育、経営学（マーケティング）	多文化混在社会の今後	原書講読研究（2019年度は非担当）
土肥 将敦 教授	ソーシャルイノベーション、 社会的企業家、CSR	ソーシャルイノベーションの 創出と普及、社会的企業家研究、 CSR研究	地域経営特論Ⅰ、福祉社会研究法、 論文研究演習、実践研究演習
中村 律子 教授	高齢者福祉論、 老いの比較文化論	高齢者施設処遇史研究、 高齢者福祉制度の比較研究	高齢者福祉特論、福祉社会研究法、 論文研究演習、実践研究演習
布川 日佐史 教授	公的扶助論、 雇用政策論	就労支援と生活保障の日独比較、 生活保護自立支援プログラムの検証	社会思想史研究、論文研究演習、 実践研究演習
水野 雅男 教授	都市住宅政策論、 市民活動運営論	地域木造住宅保全システム研究、 被災地復興地域づくり研究、 創造都市研究、医療経済研究	都市・住宅政策特論Ⅱ、 福祉社会研究法、論文研究演習、 実践研究演習
宮城 孝 教授	コミュニティソーシャルワーク、 地域包括ケアなどの地域福祉方法論	コミュニティソーシャルワーク方法論、 超高齢化地域における包括的な支援策	地域福祉特論、福祉社会研究法、 論文研究演習、実践研究演習
保井 美樹 教授	都市・地域計画論、 計画行政、自治システム研究	欧米の都市環境システム論、 官民連携による地域再生研究、 コミュニティ・イノベーション やエリアマネジメントに関する研究	地方自治特論Ⅰ、論文研究演習、 実践研究演習
佐野 竜平 准教授	インクルーシブな国際協力・ アジア地域開発、障害と開発、 東南アジア	東南アジア（アセアン）地域における インクルーシブな国際協力・ 開発の理論と実践	国際協力特論、論文研究演習、 実践研究演習
野田 岳仁 准教授	環境社会学、 地域社会学、観光社会学	現場に暮らす生活者の立場からの 地域づくり、地域ツーリズムの探究	地域環境特論Ⅱ、論文研究演習、 実践研究演習
山本 五郎 准教授	コーパス言語学、 英語学、辞書学、 英語教授法（TESOL）	コーパスを用いた英語の語法研究、 英和辞典の項目執筆・編集	原書講読研究
服部 環 兼担教授（科目担当）	教育心理測定学、 心理データ解析	項目反応理論と心理データ解析に関する 理論と応用	※2019年度はサバティカル （研究専念年度）です

〔2019年度〕※年度により授業を持たない場合があります。

設置科目〔修士課程〕

福祉社会研究法（2）
 ソーシャルポリシー特論（2）
 社会思想史研究（2）
 データ分析法（2）
 原書講読研究（2）
 ソーシャルワーク特論Ⅰ／Ⅱ（各2）
 ソーシャルワーク理論研究特論（2）
 ソーシャルワーク実践研究特論（2）
 地域福祉特論（2）
 児童福祉特論（2）
 高齢者福祉特論（2）
 障害者福祉特論（2）
 精神保健福祉特論（2）
 海外社会福祉研究（2）
 生活問題特論（2）
 社会福祉学特論Ⅰ／Ⅱ（各2）
 保健医療福祉システム特論（2）
 リハビリテーション特論（2）
 ケアマネジメント特論（2）
 福祉経営特論（2）
 非営利組織特論Ⅰ／Ⅱ（各2）
 国際協力特論（2）
 都市・住宅政策特論Ⅰ／Ⅱ（各2）
 地域空間学特論Ⅰ／Ⅱ（各2）
 地域文化特論Ⅰ／Ⅱ（各2）
 地域経営特論Ⅰ／Ⅱ（各2）
 地方自治特論Ⅰ／Ⅱ（各2）
 地域環境特論Ⅰ／Ⅱ（各2）
 福祉社会特論Ⅰ～Ⅳ（各2）
 論文研究演習Ⅰ／Ⅱ（各4）
 実践研究演習Ⅰ／Ⅱ（各2）

〔2019年度〕※開講科目は年度により異なります。（）＝単位数

修士の研究テーマ

- ・精神障がいのある子どもを持つ母親の意識変容
－家族会参加による肯定的態度への変容過程－
- ・子ども・若者の「居場所」に関する研究
－食事を通じた関りに着目して－
- ・社会的養護が目指す施設と学校との連携に関する一考察
－児童自立支援施設を中心に－
- ・農山村へ向かう若者の変容
- ・東日本大震災からみるコミュニティ再生に向けた
ソーシャルワークのあり方に関する研究
－自治会会長へのインタビュー調査から－
- ・社会的に責任あるグローバル・サプライチェーンの構築
－サプライチェーン・モニタリングシステムとステイクホルダー・エンゲージメントの考察から－
- ・医療・介護の視点から見た農村地域における地域包括ケアシステムの構築
－在宅要介護高齢者への24時間ケア体制から－
- ・中国都市地域における高齢者施設の発展を阻害する要因に関する研究
－青島市の市内4区・21ヶ所の高齢者施設の責任者を対象とした調査から－
- ・エコミュージアムの理念にみる中国の生態博物館の現状と課題
－特に浙江省安吉生態博物館群の分析を通して－
- ・現代における地域コミュニティ群の機能と意義
～東京都三鷹市を事例として～
- ・外国人に対する生活保護準用の不安定性
－史的変遷からの考察－
- ・要支援・要介護高齢者における訪問介護サービス利用の要因に関する研究
- ・身体障害当事者による福祉教育の意義
－教育方法上の工夫に焦点を当てた実証的研究－
- ・軽・中度要介護高齢者の在宅ケア継続可能性に関する実証的研究
- ・村組の持続と終焉からみた地域コミュニティの変容
- ・都市の人口減少・高齢化地区における生活環境とコミュニティに関する研究
－北九州市枝光一区を事例として－

臨床心理学専攻

多彩な教授陣と実習現場を通して、理論と実践を学ぶ

社会のさまざまな心理臨床の分野で活躍する高度専門職業人（公認心理師、臨床心理士）と、臨床心理学の実践と科学に関わる研究者の養成を目的としています。

専任教員は、心理臨床、カウンセリング、精神医学等の第一線で活躍中の専門家です。広範囲な理論と実習、研究倫理に基づく修士論文の指導体制が整っています。医療・発達・教育などに関わる豊富な実習現場と、学内の臨床心理相談室における実習教育にも特色があります。

大学院修了後に公認心理師試験（公認心理師施行規則が定める科目を修めた者）と臨床心理士試験（第一種指定校）が受験できます。修了生のほぼ全員が臨床心理士資格を取得し、臨床心理関係の専門職に就いて社会で活躍しています。また、博士後期課程（人間福祉専攻）への進学も可能です。

アドミッション・ポリシー （学生受け入れ方針）	カリキュラム・ポリシー （教育課程の編成・実施方針）	ディプロマ・ポリシー （学位授与の方針）
〈入学前に修得しているべき能力〉 【AP 1 知識】4年制大学の心理学科卒業程度の臨床心理学領域を中心とした心理学に関する知識を有している 【AP 2 英文読解力】専門領域に関わる英語力を有している 【AP 3 表現力】問題状況に関する自身の見方を他者へ正確に伝達できる 【AP 4 思考・判断】研究テーマに関して、論理的に思考し、判断できる 【AP 5 意欲・関心】研究テーマへの強い研究意欲をもち、実践的な関心を有している	〈教育課程の編成方針〉 本専攻の学位授与方針を達成するために、以下の通り教育課程を編成する。 修士（臨床心理学） 【CP 1】DP 1 専門知識、DP 2 読解力を養成するため、コースワークとして、近年の臨床心理学へのニーズの多様化・高度化に応じた臨床心理学の基幹を修得する「専門基幹科目」、それらをより深く展開する「専門展開科目」をおく 【CP 2】DP 3 表現力、DP 4 実践能力、DP 5 研究力を養成するため、リサーチワークとして、臨床実践に関する「実習科目」と修士論文に収斂する「研究指導科目」をおく	臨床心理学専攻では、心のケアの専門家に必要とされる専門知識と研究方法を習得し、それらにもとづく基礎的な研究力を高度な職業活動や実践的な研究において生かすことが可能な、以下の知識と能力を有する院生に「修士（臨床心理学）」を授与する。 【DP 1 専門知識】臨床心理学に関する必要な専門知識を有する 【DP 2 読解力】内外の先行研究を正確に読み取ることができる 【DP 3 表現力】文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる 【DP 4 実践能力】職業人もしくは研究者として必要とされる実践を行なえる 【DP 5 研究力】自発的に研究課題を設定し、研究を遂行できる

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
小野 純平 教授	臨床心理学、発達臨床心理学、心理査定	被虐待の心理援助、発達障害のアセスメントと支援、臨床心理アセスメント	臨床心理査定演習Ⅱ、心理的アセスメントに関する理論と実践、論文研究指導
久保田 幹子 教授	臨床心理学、心理療法（森田療法、カウンセリングなど）、心理査定	不安症・強迫症に対する森田療法、女性の心理的危機と援助、比較心理療法など	臨床心理基礎実習、医療心理学特論、論文研究指導
末武 康弘 教授	臨床心理学、カウンセリング・心理療法	クライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）、フォーカシング指向療法の理論的・実践的研究	臨床心理基礎実習、臨床心理面接特論Ⅱ、心理支援に関する理論と実践、論文研究指導
関谷 秀子 教授	児童青年精神医学、精神分析学	思春期青年期の発達、精神分析的精神療法、親ガイダンス	力動的心理療法特論、保健医療分野に関する理論と支援の展開、論文研究指導
長山 恵一 教授	比較精神療法、精神医学	内観療法・森田療法・精神分析の臨床と研究、ヴェーバー社会学と精神科学の関連	臨床心理学研究法特論、比較心理療法特論、論文研究指導
丹羽 郁夫 教授	臨床心理学、コミュニティ心理学、子どもの心理療法	子どもの心理療法、ソーシャルサポート・ネットワーキング、コンサルテーション、移行対象	臨床心理実習Ⅱ、心理臨床演習、心理実践実習、論文研究指導
服部 環 教授	教育心理測定学、心理データ解析	項目反応理論と心理データ解析に関する理論と応用	※2019年度はサバティカル(研究専念年度)です
望月 聡 教授	神経心理学、認知行動病理学	神経心理学的症状とその発生機序・影響についての基礎研究と応用研究、心理的障害やその傾向の発生や維持に関連する機序・要因の実証的研究	認知心理学特論、教育心理学特論、論文研究指導
金築 優 准教授	認知行動療法	認知行動療法の理論（特に知覚制御理論）に関する研究	臨床心理学特論、臨床心理実習Ⅱ、心の健康教育に関する理論と実践、心理実践実習、論文研究指導
岩田 美香 兼任教授(科目担当)	児童・家族福祉論、教育福祉論	子育て・子育ての社会的困難に関する研究、貧困家族に対するソーシャルワーク	児童福祉特論
中村 律子 兼任教授(科目担当)	高齢者福祉論、老いの比較文化論	高齢者施設処遇史研究、高齢者福祉制度の比較研究	高齢者福祉特論

【2019年度】※年度により授業を持たない場合があります。

募集人員…修士課程15名
開講形態…昼間開講 キャンパス…多摩
主な進路…国家公務員（法務省、厚生労働省）、地方公務員（心理職）、
医療機関（心理職）、スクールカウンセラー、教育相談機
関（心理職）、民間企業（心理職・総合職）など

研究室紹介

金築 優 准教授

認知行動療法に関連する 理論と技法の研究

科学的心理学の研究知見を 心理臨床に活かす



不安や抑うつといった否定的な感情が、なぜ強まり、生活の質を低めるのか、そしてそれらの感情がどのように和らぐのかについて、認知行動療法の立場から研究しています。また、セルフケアとして、科学的心理学の技法を用いて、いかに健康を増進できるかにも関心があります。公認心理師と臨床心理士を目指す上で、他者のために役立ちたいという温かいスピリットと、常識的な考えを科学的かつ批判的に検討できる思考力を併せ持つことが重要であると考えています。臨床心理学専攻には、様々な学派のカウンセリング・心理療法、心理査定から基礎心理学まで、ヴァリエティ豊かな教員がいて、研究室の垣根を越えて指導を受けやすいことが特徴です。

設置科目〔修士課程〕

臨床心理基礎実習（２）
臨床心理学特論（４）
心理支援に関する理論と実践（２）
臨床心理面接特論Ⅱ（２）
心理的アセスメントに関する理論と実践（２）
臨床心理査定演習Ⅱ（２）
心理実践実習（１）
臨床心理実習Ⅱ（１）
心理学研究法特論（２）
データ分析法（２）
臨床心理学研究法特論（２）
認知心理学特論（２）
教育心理学特論（２）
発達心理学特論（２）
家族心理学特論（２）
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開（２）
保健医療分野に関する理論と支援の展開（２）
福祉分野に関する理論と支援の展開（２）
産業・労働分野に関する理論と支援の展開（２）
児童福祉特論（２）
高齢者福祉特論（２）
教育分野に関する理論と支援の展開（２）
グループ・アプローチ特論（２）
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践（２）
投影法特論（２）
心の健康教育に関する理論と実践（２）
力動的心理学特論（２）
比較心理療法特論（２）
心理臨床演習（２）
医療心理学特論（２）
論文研究指導（４）

〔2019年度〕※開講科目は年度により異なります。（）＝単位数

学生・修了生の声

下釜 穰

修士課程 在学中

相手の想いを汲み取れる 人材を目指し、 人との関わりの重要性を 研究しています



学びのきっかけ

臨床心理学を専攻した理由は、他者との何気ないやりとりの中からも相手の想いを汲み取り、寄り添えるようになりたいという思いからでした。法政大学大学院には様々な学派の先生がいることも魅力の一つです。現在は、医療や教育だけでなく福祉や産業領域の講座も取得し多彩な角度から心理を捉え学んでいます。

学んだこと・身につけたこと

研究室では、人が苦しい体験やストレスフルな状況からどのように生きる力を獲得しているのかを研究しています。特に周囲の人と関わりを持つことが本人に与える影響力は大きく、着目しています。また、講義では自身の研究テーマを発表する形式の授業が多いため、研究内容を人にわかりやすく伝える手法を考えるようになりました。

研究テーマ

日本人大学生におけるストレスフルな体験の意味づけに伴う成長感と他者との関係が生きる意味に及ぼす影響
－P-PTGとしての生きる意味の構造体について－

修了生の研究テーマ

- ・日本におけるトランスジェンダー当事者に対する非当事者の態度に関する研究
- ・自閉症スペクトラム児を持つ母親の障害受容
－障害受容促進要因に関する研究－
- ・内観療法における心理的変容のプロセス
－愛着スタイルを中心に－
- ・大学生アスリートにおける受傷体験と反すうの関連性
- ・マインドフルネスが孤独感の低減に及ぼす効果
－孤独に対する捉え方に着目して－
- ・失恋からの回復過程の検討
- ・母親の完全主義傾向とSOC（首尾一貫感覚）が育児ストレスに及ぼす影響について
- ・大学生の恥意識についての研究
－対人恐怖心性と回避的傾向、及び心理的自立との関連から－
- ・入院森田療法患者の体験分析
- ・自己受容と育児不安の関連について
－夫婦関係の観点から－
- ・フォーカシングにおけるアセスメントツールとしてのFocusability Check List (FCL) の作成及び検討
- ・コラージュを実施した際の効果とその男女間および性格傾向の差異
- ・災害ボランティアによる仮設住宅入居者への心理社会的支援に関する質的研究
－東日本大震災における長期的な活動事例から－
- ・心理学的ストレスプロセスにおけるレジリエンスが持つ効果に関する研究
- ・twitter依存とメンタルヘルスとの関連について
－愛着と自己愛からの検討－
- ・中国人留学生における日本人との対人ストレスとコーピングが精神健康に及ぼす影響
- ・外部EAP利用者における被援助行動を規定する要因
- ・青年期の発達
－子どもが両親から受ける影響の男女差－

人間福祉専攻

募集人員：博士後期課程5名
開講形態：昼間開講
キャンパス：多摩
主な進路：国立大学や私立大学の教員・研究員、独立行政法人研究員、医療機関（福祉職）、公務員など
*継続在職者を含む

トータルな人間福祉を実現できる
理論的・実践的研究者へ

21世紀の人間福祉を総合的に実現するための理論的かつ実践的研究者を養成することが本専攻の目標です。そのため、人間の「生」(Life)をトータルに捉えられるカリキュラムを構成しています。選択・必修科目として、「福祉政策系」「福祉社会系」「福祉臨床系」「地域・政策系」「地域・文化系」「臨床心理学」の多彩な特殊講義を設置しています。また、1年次から3年次までの必修科目として「人間福祉特別演習」を設置し、指導教員のほかに副指導教員による複数教員の論文指導を実施しています。

複合的な研究アプローチにより社会的に意義のある博士論文をまとめることを目指しており、開設以降、毎年課程博士を輩出していることも特色の一つです。

研究室紹介

眞保 智子 教授

障害者雇用を通じてインクルーシブな
職場環境を考える現場での実践を論理的に考察し
普遍性を見出す

大学院人間社会研究科（人間福祉専攻）では毎年、国内外の学生が博士後期課程を修了し、大学院での研究成果をいかして幅広い分野で活躍されています。博士後期課程では、すでに修士課程で研究方法の原理と方法論を学んでいることを前提として、研究者として自立した研究活動を展開できるかが問われます。国内外をフィールドとした研究活動は、教員にとっても新しい知見をとともに喜び楽しむ学びの場となっています。在学中は修士課程の院生へのチューターとして、留学生や障がいのある院生への支援にもご協力いただくなど専攻を超えた院生同士の交流も活発です。Well-being の実現に向けて、人間社会研究科の教育と研究の意義はますます重要になると考えています。

学生・修了生の声

大澤 優真

博士後期課程 在学中

恵まれた環境のもとで
研究に邁進していきます

専攻の魅力

人間福祉専攻の良いところは事務課の職員の方々です。大学院では様々な事務手続きを必要としますが、事務手続き等で困ったときに、事務課のみならず、いつも親切に対応して下さいます。相談しやすい雰囲気が魅力の一つです。

大学院の魅力

法政大学大学院に入って良かったと思うことは、より良く研究できる環境が整っていることです。特に図書館や資料室が充実しており、図書館の職員の方も資料探しのアドバイスなど丁寧に对应して下さいます。

研究テーマ

外国人と生活保護

アドミッション・ポリシー

(学生受け入れ方針)

〈入学前に修得しているべき能力〉

【AP1 知識】当研究科の福祉社会専攻または臨床心理学専攻の修了者あるいはそれと同等の専門知識を有している

【AP2 英文読解力】研究テーマに関して専門的な英語文献を理解できる英語力を有している
【AP3 思考・判断】研究テーマに関して、論理的に思考し、判断できる

【AP4 意欲・関心】研究テーマへの強い研究意欲をもち、実践的な関心を有している

【AP5 研究力】先端の研究テーマを見出し、自らの研究方法を持って、研究に取り組める

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施方針)

〈教育課程の編成方針〉

本専攻の学位授与方針を達成するために、以下の通り教育課程を編成する。

博士（人間福祉）

【CP1】DP1専門知識、DP2読解力、DP3表現力を養成するためコースワークとして、福祉系・地域系・臨床心理学の科目「特殊講義」をおく

【CP2】DP3表現力、DP4実践能力、DP5研究力を養成するため、リサーチワークとして、論文指導に重点を置いた特別演習を設ける

博士（学術）

【CP3】DP6専門知識、DP7読解力、DP8表現力を養成するためコースワークとして、福祉系・地域系・臨床心理学の科目「特殊講義」をおく

【CP4】DP8表現力、DP9実践能力、DP10研究力を養成するため、リサーチワークとして、論文指導に重点を置いた特別演習を設ける

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

人間福祉専攻では、先端の研究課題を設定し、それに対して、創造的な答えを導き出し、自立して研究を行なうことが可能な、以下の知識と能力を有する院生に「博士（人間福祉）」あるいは「博士（学術）」を授与する。

博士（人間福祉）

【DP1 専門知識】人間福祉分野の先端的研究に関する高度な専門知識を有する

【DP2 読解力】内外の先行研究を正確かつ批判的に読み取ることができる

【DP3 表現力】文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる

【DP4 実践能力】研究者として必要とされる高度な実践能力を有する

【DP5 研究力】先端の研究課題について、オリジナリティ豊かな結論を導き出し、論証できる

博士（学術）

【DP6 専門知識】社会福祉分野、臨床心理学分野および地域づくり分野の先端的研究に関する高度な専門知識を有する

【DP7 読解力】内外の先行研究を正確かつ批判的に読み取ることができる

【DP8 表現力】文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる

【DP9 実践能力】研究者として必要とされる高度な実践能力を有する

【DP10 研究力】先端の研究課題について、オリジナリティ豊かな結論を導き出し、論証できる

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
石井 享子 教授	保健福祉学、公衆衛生学	well-beingと人材育成、 ケアマネジメント特論	福祉臨床系特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習
伊藤 正子 教授	社会福祉方法論、異なる民族・文化的背景を持つ人々への社会福祉援助	社会的排除とソーシャルワーク、 多文化ソーシャルワーク	福祉臨床系特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習
岩崎 晋也 教授	社会福祉原理、 社会福祉思想	社会福祉原理・思想	福祉社会系特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習
岩田 美香 教授	児童・家族福祉論、 教育福祉論	子育て・子育ての社会的困難に関する研究、 貧困家族に対するソーシャルワーク	福祉臨床系特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習
小野 純平 教授	臨床心理学、生涯発達心理学、 心理検査学、心身障害学	被虐待の心理援助、発達障害のアセスメントと支援、 知能検査法	臨床心理学（病理・発達）特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習
久保田 幹子 教授	森田療法、比較心理療法、 心理査定	不安症・強迫症に対する森田療法、 女性の心理的危機、比較心理療法など	臨床心理学（病理・発達）特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習
佐藤 繭美 教授	ソーシャルワーク論（特に 終末期ケアを中心として）、 当事者および家族への支援	当事者・家族への支援、 死別ケア	福祉臨床系特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習
眞保 智子 教授	若者支援論、就労支援、 障害者のキャリアデザイン	若者就労支援、障害者雇用、 企業における精神科ソーシャルワーク	福祉社会系特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習
末武 康弘 教授	臨床心理学 カウンセリング・心理療法	クライアント中心療法（パーソン センタードセラピー）、フォーカ シング指向療法の理論的・実践的 研究	臨床心理学（心理・地域）特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習
図司 直也 教授	農業経済学、農山村政策論、 地域資源管理論	農山村における地域マネジメント論、 外部人材と協働する農山村の 地域づくり	※2019年度はサバティカル （研究専念年度）です
関谷 秀子 教授	児童青年精神医学、 精神分析学	思春期青年期の発達、精神分析的 精神療法、親ガイダンス	臨床心理学（病理・発達）特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習
土肥 将敦 教授	ソーシャルイノベーション、 社会的企業家、CSR	ソーシャルイノベーションの創 出と普及、社会的企業家研究、 CSR研究	地域・政策系特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習
中村 律子 教授	高齢者福祉論、 老いの社会的・文化的研究	高齢者施設処遇史研究、 高齢者福祉制度の比較研究	福祉社会系特殊講義Ⅰ・Ⅱ、人間福祉特別演習
長山 恵一 教授	比較精神療法、 精神医学	内観療法・森田療法・精神分析の 臨床と研究、ウェーバー社会学と 精神科学の関連	臨床心理学（病理・発達）特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習
丹羽 郁夫 教授	臨床心理学、 コミュニティ心理学	子どもの心理療法、 ソーシャルサポート・ネットワーキング、 コンサルテーション、移行対象	臨床心理学（心理・地域）特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習
服部 環 教授	教育心理測定学、 心理データ解析	項目反応理論と心理データ解析 に関する理論と応用	※2019年度はサバティカル （研究専念年度）です
布川 日佐史 教授	公的扶助論、 雇用政策論	就労支援と生活保障の日独比較、 生活保障自立支援プログラムの 検証	福祉政策系特殊講義Ⅰ・Ⅱ、人間福祉特別演習
水野 雅男 教授	都市住宅政策論、 市民活動運営論	地域木造住宅保全システム研究、 被災地復興地域づくり研究、 創造都市研究、医療経済研究	地域・文化系特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習
宮城 孝 教授	コミュニティソーシャル ワーク、地域包括ケアなどの 地域福祉方法論	コミュニティソーシャルワーク 方法論、超高齢化地域における 包括的な支援策	福祉臨床系特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習
望月 聡 教授	神経心理学、 認知行動病理学	神経心理学的症状とその発生機序・ 影響についての基礎研究と応用 研究、心理的障害やその傾向の 発生や維持に関連する機序・要因 の実証的研究	臨床心理学（病理・発達）特殊講義Ⅰ・Ⅱ、人間福祉特別演習
保井 美樹 教授	都市・地域計画論、 計画行政、自治システム研究	欧米の都市環境システム論、 官民連携による地域再生研究、 コミュニティ・イノベーション研究 やエリアマネジメントに関する研究	地域・政策系特殊講義Ⅰ／Ⅱ、人間福祉特別演習
金築 優 准教授	認知行動療法	認知行動療法の理論（特に知覚制 御理論）に関する研究	臨床心理学（心理・地域）特殊講義Ⅰ／Ⅱ

〔2019年度〕※年度により授業を持たない場合があります。

設置科目〔博士後期課程〕

福祉政策系特殊講義Ⅰ／Ⅱ（各2）
福祉社会系特殊講義Ⅰ／Ⅱ（各2）
福祉臨床系特殊講義Ⅰ／Ⅱ（各2）
地域・政策系特殊講義Ⅰ／Ⅱ（各2）
地域・文化系特殊講義Ⅰ／Ⅱ（各2）
臨床心理学（心理・地域）特殊講義Ⅰ／Ⅱ（各2）
臨床心理学（病理・発達）特殊講義Ⅰ／Ⅱ（各2）
人間福祉特別演習Ⅰ～Ⅲ（各4）

〔2019年度〕※開講科目は年度により異なります。()＝単位数

修士生の研究テーマ

- ・教師のメンタルヘルス規定因とバーンアウトに関する多角的研究
 - －教師 Well-being 尺度の作成－
- ・構造拘束的な体験様式と心理的距離に関する研究
- ・ジェンドリンのプロセスモデルとその臨床的意義に関する研究
- ・ソーシャルワーカーの自己生成過程における専門的自己の構築と解体
 - －中動態から生起する臨床体験－
- ・地域主義にもとづく文化財保存と活用に関する研究
 - －文化財を核としたコミュニティの生成と活動を視野に－
- ・教育相談群と病院群の思春期の子どもと母親の比較研究
 - －子どもの精神・行動症状と母親の対象関係を中心に－
- ・地域特性に応じた介護保険事業の効率性についての実証的研究
- ・重度要介護高齢者における介護者の介護負担感および在宅介護の継続との関連要因に関する研究
- ・アメリカ大都市における包括的コミュニティ開発の形成と課題
- ・日本における市民活動の形成と社会的位置に関する研究
 - －1970～80年代より活動を続ける市民活動団体に着目して－

日本の活性化を担う政策デザイン能力を養成

高度知識社会においては、国際的な視野のもとで、多様な価値観、高度な専門的知識、幅広い教養、柔軟な創造力を持ち、具体的に課題解決する能力、すなわち政策を創造する能力が要求されます。とくに、グローバルに展開される地域間競争のもとでは、「地域イノベーション」に向け、知的資源を活用した、政策創造能力が問われます。個性的な文化の振興、競争力のある産業の振興、サステイナブルな死活環境への改善、自然・都市景観の保護、そして住民や観光客に魅力的な地域空間の形成をすることが必要となります。政策創造の課題は中山間地域、過疎地域、地方の中小都市だけの特別な施策ではなく、高齢化・集中化する大都市にも存在します。

本研究科のカリキュラムの中心は、これらの課題に対応する3つの創造群・9つのプログラムからなります。総合的かつ具体的な観点から、新たな政策創造を教育研究し、問題解決能力や政策デザイン能力の養成、新しい価値観の創出、世界に向けた情報発信を担う高度専門職業人及び研究者の育成を行います。そのため、「政策研究に不可欠な知識とスキルの教授」、「当該分野における創造的な発想の醸成」、そして「政策センスの錬磨と実務的な政策形成・実施能力の育成」という三位一体の教育研究を実施します。

- 文部科学省「職業実践力育成プログラム（BP）」
政策創造研究科修士課程は、平成28年度文部科学省「職業実践力育成プログラム（BP）」に認定されました。
- 専門実践教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座
政策創造研究科修士課程は、専門実践教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座に指定されています。入学1ヶ月前までにハローワークで支給申請手続きを行い、2年間で修了すれば、最大112万円の給付を受けることが可能です。
- 平日夜間と土曜日開講
社会人学生に配慮し、都心の市ヶ谷キャンパスにおいて授業は平日夜間（18:35～）と土曜日に開講しており、仕事と学業との両立が可能です。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
石山 恒貴 教授	雇用政策論、人的資源管理論、キャリア形成支援論	雇用の変化に伴う人的資源管理の方向性の研究、職業能力開発とキャリア形成支援の研究、組織内専門人材と越境的能力開発の研究	雇用政策研究（マクロ）、人材育成論、人的資源管理論、地域雇用政策事例研究、プログラム演習、雇用政策特殊研究Ⅰ～Ⅲ
井上 善海 教授	経営戦略論、中小企業経営論	新産業創出やイノベーションに関する研究（大企業と中小企業におけるオープン・イノベーションの関係性メカニズムの解明）	中小企業論、新産業創出論、経営戦略論、商店街活性化論、プログラム演習、企業経営特殊研究Ⅰ～Ⅲ
梅溪 健児 教授	経済政策論、日本経済論	景気安定化に向けた財政政策の役割、経済再生と経済政策の研究、人口移動と東京集中の研究	経済政策論、日本経済論、実証分析入門、経済学、英語論文文献講読、プログラム演習、経済政策特殊研究Ⅰ～Ⅲ
小方 信幸 教授	社会的責任投資、ESG投資、CSR論	ESG（環境、社会、ガバナンス）要因と投資パフォーマンスの研究、企業が本業を通じて社会価値と経済価値を実現する共通価値の創造（CSV）についての研究	CSR論、CSRとマーケティング、企業活動と社会Ⅰ、政策ワークショップ、外国語文献講読、プログラム演習
上山 肇 教授	都市政策、都市計画、地区まちづくり、景観、親水工学	都市空間（親水空間など）が周辺の都市環境に及ぼす影響に関する研究、地区まちづくりの理論と実践に関する研究	都市空間論、地域社会論、比較都市事例研究、研究法、プログラム演習、都市政策特殊研究Ⅰ～Ⅲ
須藤 廣 教授	観光社会学	観光地を一つのメディアと考え、ポストモダン社会における観光のあり方、あるいは観光地の変容について、理論と実証を結びつける研究	観光社会学、観光政策論、観光開発論、プログラム演習
高尾 真紀子 教授	生活政策論	地域政策、社会保障政策、医療・介護	調査法、地域活性化システム論、生活政策論、少子高齢化と社会保障、プログラム演習、地域社会政策特殊研究Ⅰ～Ⅲ
真壁 昭夫 教授	行動経済、観光経済、金融経済	経済活動を様々な視点から分析、人々の厚生に貢献するかの研究	行動経済学、応用行動経済学、地域産業論、地域経営戦略論、プログラム演習、産業政策特殊研究Ⅰ～Ⅲ
増淵 敏之 教授	文化地理学	コンテンツツーリズム、コンテンツによる地域ブランド形成、文化・芸術による地域振興、伝統芸能の保存	現代地理学、文化資源論、フィールドワーク論、都市文化論、コンテンツツーリズム論、プログラム演習、文化政策特殊研究Ⅰ～Ⅲ

〔2019年度〕※年度により授業を持たない場合があります。

研究室紹介

増淵 敏之 教授

「文化」という切り口で
「まち」を探検してみよう。

アニメ、マンガ、
映画、小説、音楽、
食文化、ツーリズム



「文化」に関する様々な事象を研究しています。ポップカルチャー（アニメ、マンガ、映画、小説、音楽、食文化）を活用した地域文化政策、観光政策への提言を中心に学生と議論をしています。社会人と学部卒の学生が混在しており、世代を超えた議論の場はとても貴重なものだと思います。また地域に対しての提案、アドバイスも積極的に行っており、その経験を学生には可能な限り伝達することに努めています。例を挙げると南魚沼「美女旅」、札幌「札幌女ごはん」、岩見沢「氷室冴子青春文学賞」などにも深く関わっており、今後もこのような具体的な地域への貢献を続けていきたいと考えています。また議論は日本に限らず、欧米やアジアなどグローバルな視点で行っています。

学生・修了生の声

中井 朋子

修士課程 2017年度修了

充実して過ごせた
修士課程。
多種多様な学生との出会いに
刺激を受けた毎日



私の研究

街づくりや景観に興味があり、学術的な視点のもとで学びたいと考え、都市空間プログラムの修士課程に進学しました。都市空間の研究分野は幅広く、街を形作っているハード面からコミュニティの形成やゴミ問題などのソフト面までが研究の対象となり、「まちづくり」に対する認識が変わるとともに奥深さにさらなる興味が芽生えました。

学んだこと・身につけたこと

私は50歳の頃に大学院へ入学しましたが、自分より年上の方であったり、子どもと同じくらいの方もいたり老若男女、幅広い方々と同級生になることができました。海外から来られている留学生も多く、母国を離れ学んでいる姿には刺激を受け、モチベーションにもつながりましたね。2年間とても充実して過ごせ、修士課程が完了した時の達成感は一生涯の宝物です。

研究テーマ

街路空間における植栽がアイストリップと景観形成に及ぼす効果に関する研究 — 静岡駅南口石田街道を事例に —

設置科目〔修士課程〕

政策分析の基礎 (2)	観光政策論 (2)
政策ワークショップ (2)	地域ブランド論 (2)
調査・データ分析の基礎 (2)	文化社会学 (2)
調査法 (2)	コンテンツ
日本経済論 (2)	ツーリズム論 (2)
人的資源管理論 (2)	観光開発論 (2)
地域活性化システム論 (2)	フィールドワーク論 (2)
現代地理学 (2)	メディア産業論 (2)
都市空間論 (2)	イベント・フェスティバル論 (2)
地域活性化特論Ⅰ (2)	観光マーケティング論 (2)
地域活性化特論Ⅱ (2)	観光とメディア (2)
観光社会学 (2)	行動経済学 (2)
地域産業論 (2)	応用行動経済学 (2)
中小企業論 (2)	地域経営戦略論 (2)
政策デザイン	ソーシャル
事例研究 (2)	キャピタル論 (2)
少子高齢化と社会保障 (2)	地域イノベーション論 (2)
実証分析入門 (2)	流通と消費 (2)
経済政策論 (2)	サステナビリティ戦略 (2)
地方財政論 (2)	非営利組織特論 (2)
公共選択論 (2)	商店街活性化論 (2)
雇用政策研究 (マクロ) (2)	新産業創出論 (2)
雇用政策研究 (ミクロ) (2)	コミュニティビジネス論 (2)
キャリア政策研究 (2)	アントレプレナーシップ論 (2)
地域雇用政策事例研究 (2)	財務戦略論 (2)
人材育成論 (2)	事業承継論 (2)
地域コミュニティ論 (2)	経営戦略論 (2)
消費者政策・競争政策 (2)	消費者志向経営 (2)
生活政策論 (2)	CSR論 (2)
地域社会論 (2)	企業活動と社会Ⅰ (2)
都市集積論 (2)	企業活動と社会Ⅱ (2)
都市再生事例研究 (2)	CSRとマーケティング (2)
比較都市事例研究 (2)	特別講義Ⅰ / Ⅱ / Ⅳ ~ Ⅵ (各2)
文化資源論 (2)	経済学 (2)
コミュニティメディア論 (2)	社会学 (2)
都市文化論 (2)	研究法 (2)
観光文化政策論 (2)	レポートライティング (2)
	英語論文文献講読 (2)
	プログラム演習 (2)

設置科目〔博士後期課程〕

研究法 (2)
外国語文献講読 (2)
合同ゼミ (2)
経済政策特殊講義 (2)
雇用政策特殊講義 (2)
CSR特殊講義 (2)
企業経営特殊講義 (2)
都市政策特殊講義 (2)
産業政策特殊講義 (2)
文化政策特殊講義 (2)
観光政策特殊講義 (2)
地域社会政策特殊講義 (2)
経済政策特殊研究Ⅰ ~ Ⅲ (各4)
雇用政策特殊研究Ⅰ ~ Ⅲ (各4)
CSR特殊研究Ⅰ ~ Ⅲ (各4)
企業経営特殊研究Ⅰ ~ Ⅲ (各4)
都市政策特殊研究Ⅰ ~ Ⅲ (各4)
産業政策特殊研究Ⅰ ~ Ⅲ (各4)
文化政策特殊研究Ⅰ ~ Ⅲ (各4)
地域社会政策特殊研究Ⅰ ~ Ⅲ (各4)

〔2019年度〕※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

公共政策学専攻

公共政策分野における
高度専門職業人・研究者の実務家を育成

「ガバメントからガバナンスへ」「新しい公共」などの言葉で語られるように、今日では、公共的課題の担い手の多様化、政府部門に限定されない社会的な課題解決の営みを総合的な観点から研究する必要性が高まっている。公共政策学専攻では、従来の学問的枠組みでは解決が難しい社会的課題を含めた公共政策領域の諸問題に対応するため、マネジメント、ガバナンスという語をキーワードとして、以下に示す人材を育成する。

【修士課程】

- ・社会人を対象とする高度専門職業人として、公共政策に関する高度の調査分析能力、高度な政策立案能力のある人材
- ・社会の公共課題の解決を追求する分野において、公共政策の研究、教育を担うことのできる人材

【博士後期課程】

- ・高度専門職業人としての知見や経験の裏づけに基づいて、実践科学としての公共政策学の領域に関して高度な研究能力を備えた人材

アドミッション・ポリシー
(学生受け入れ方針)

現代社会の抱える諸課題に対して適切な解決手段を構想し実行できる政策能力を持つ高度専門職業人を育成することに関連し、下記の受け入れ方針を採っている。

【修士課程】一般学生も含め主として次のような社会人に広く門戸を開く。(1)公共政策分野に関わる複雑な諸課題に対して政策を模索する意欲を強く持っていること (2)統合的、学際的な視点を重視しながら政策研究を行う意欲を強く持っていること (3)課題解決のための政策立案能力を獲得し、それを実務に生かす意欲を強く持っていること

※博士後期課程については、大学院HPをご参照ください。

カリキュラム・ポリシー
(教育課程の編成・実施方針)

【修士課程】2年間の学習・研究の期間を標準として、下記4種類の科目群を配置している。(1)共通科目(理論・研究基礎)大学院における研究の出発点としての学習の始まりである理論や研究に関する基礎科目として、各コースごとに基礎科目を配置している (2)共通科目(方法論・分析技法)専門的手法を獲得するため、研究の方法論や分析に関連する法的な観点からの基礎的科目、社会調査に関する科目、政策評価・分析の科目、行政運営手法に関する科目、主として留学生向けの科目、修士論文作成のための実践的な科目を配置している (3)専門科目 修士論文を執筆するための専門分野における学習を進めるため、各コースの専門科目を配置している (4)研究指導科目 具体的かつ個別の論文指導によって、修士論文を完成させるため、1年次に履修する論文研究指導1と2年次に履修する論文研究指導2を配置する

※博士後期課程については、大学院HPをご参照ください。

ディプロマ・ポリシー
(学位授与の方針)

【修士課程】所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して、修士(公共政策学)を授与する。(1)高度な専門知識と領域を横断する柔軟性をもち、自らの専門分野を俯瞰的に捉え公共政策に関する諸課題を研究することができる (2)複雑多様化する諸問題の解決方法等を構想する論理的思考ができる (3)自ら課題を発見・設定し、その解決策を模索するなどの創造的思考ができる (4)戦略的な視野を持ちつつ高度な専門知識に裏打ちされた合理的意思決定ができる

※博士後期課程については、大学院HPをご参照ください。

専任教員		専攻	研究テーマ	主な担当科目
公共マネジメントコース	杉崎 和久 教授	都市計画、まちづくり、市民参加	地域まちづくり、まちづくり支援システム、社会的合意形成に向けたプロセスデザイン、まちづくりの現代史	市民参加の理論と実践、都市政策概論、都市政策事例研究、論文研究指導1A・B/2A・B
	名和田 是彦 教授	公共哲学、コミュニティ論、法社会学	コミュニティ政策論、日本とドイツの都市内分権制度、「市民社会」の概念史、コミュニティ・ビジネスとコミュニティ・カフェなど	公共哲学基礎、コミュニティ制度論、論文研究指導1A・B/2A・B
	廣瀬 克哉 教授	行政学、公共政策学	自治体における政治・行政関係	論文研究指導1A・B/2A・B
	渕元 初姫 教授	比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策	ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分離	政策学基礎、公共政策論文技法2、政策学研究、公共哲学研究、市民社会とコミュニティ、論文研究指導1A・B/2A・B
	武藤 博己 教授	行政学、地方自治、政策研究	現代社会と行政、公共サービスの管理、分権社会と市民自治、入札改革	論文研究指導2A・B
政策研究コース★	池田 寛二 教授	環境社会学、国際環境政策学、環境・エネルギー政策の国際比較	気候変動政策、エネルギー政策、森林・林業政策の国際比較	公共政策の社会理論、国際環境政策の社会学、論文研究指導1A・B/2A・B
	加藤 寛之 教授	産業論、地域産業論	造船産業の産業集積、ハードディスク産業の産業集積、アパレル産業の分業と産業集積	企業論、論文研究指導1A・B/2A・B
	白鳥 浩 教授	政治学、国際政治学	1.日本の現代政治、2.グローバリズムと国民国家の変容、3.地方政治研究、4.政党に関する理論、5.現代政治のデモクラシー	現代政治分析研究、公共政策とジャーナリズム、公共政策論文技法1、論文研究指導1A・B/2A・B
	関口 浩 教授	財政学、地方財政論、租税論、教育・福祉政策	財政学研究指導(地方分権時代における税財政システムおよび教育・福祉政策の研究)	財政学基礎、論文研究指導1A・B/2A・B
	中筋 直哉 教授	地域社会学、都市社会学、社会調査法	地域社会構造、近代都市空間と集合行動、コミュニティの心情と論理	社会調査法2-6、論文研究指導1A・B/2A・B
	長谷部 俊治 教授	行政法、都市法、国土・都市・地域政策、環境と開発	持続可能な都市システム、土地制度・水制度	環境・開発制度研究、まちづくり研究、論文研究指導1A・B/2A・B
	間島 正秀 教授	行政学、地方自治論、政策過程論	自治行政・自治政策研究、分権改革と政府間関係、近隣自治論	自治体経営論、論文研究指導1A・B/2A・B
	糸久 正人 准教授	イノベーションマネジメント	Webデータ解析と集合知、確率的シミュレーションモデル	イノベーション政策論、論文研究指導1A・B/2A・B

★2019年度からコース名称が変更されています。

[2019年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

募集人員…修士課程25名／博士後期課程10名
開講形態…夜間開講 キャンパス…市ヶ谷
長期履修制度…有(修士・博士後期課程)
勤務先の特徴…地方自治体・中央政府、国際協力機関・国際NGO、公益法人・NPO、民間企業、市民団体など

研究室紹介

杉崎 和久 教授

豊かな都市空間を実現するための
対話のあり方を探る

都市の多様さが都市の創造性を
高め、暮らしの豊かさとする
ための「場」を追求



都市は、私たちが働き、遊び、遊び、さまざまな活動をする舞台です。その舞台で、住民、企業、行政、さらに住民にも性別、年代、出身地などの異なる多様な人たちが活動しています。都市の担い手の多様さが都市の活力の源泉となり、都市の魅力となっていきます。とはいえ、多様な人たちが将来の都市の姿について、個々の思いを表明し、価値を共有し、実現に向けた活動をするのは容易ではありません。そこで、私は自治体や地域の人たちによる実践活動に参加し、都市空間を豊かにするための対話のデザインにおける技術、仕組み等のあり方を追求しています。研究室では、物的環境、人々の関係など都市に関わる幅広いテーマを対象とした大学院生が研究を行っています。

学生・修了生の声

渡部 朋宏

博士後期課程 在学中

仕事と研究の両立で
視野が広がり、
新しい気づきが生まれます



大学院の魅力

現在は仕事と研究の二足わらじですが、自治の現場にいる自治体職員こそ研究することが必要だと感じています。仕事をする上で発生した疑問点を研究し、投稿論文や学会発表を経験することでさらに知見が広がり、仕事にも還元されます。大学院は修学支援制度や研究奨励制度が充実していますから、費用の心配をせずに研究に専念できる環境も魅力ですね。

進学のきっかけ

修士論文のテーマは「福島原発事故における基礎自治体の連携力」でした。原発事故に伴う避難生活の長期化とともに新たな課題が発生しており、修士論文を進展させる形で博士論文を書きたいと指導教授に相談したのがきっかけです。「研究テーマで本を一冊書き上げる気持ちで突き詰めなさい」とアドバイスされたことを肝に銘じて研究を進めています。

研究テーマ

「住民」概念の研究

修士課程

【2専攻共通科目】

●理論・研究基礎
政治理論(2)
行政学基礎(2)
比較行政研究(2)
公共哲学基礎(2)
政治制度研究(2)
政策学基礎(2)
現代政治分析研究(2)
公共政策とジャーナリズム(2)
公共政策の社会理論(2)
財政学基礎(2)
経済学基礎(2)
環境哲学・倫理学(2)
環境法基礎(2)
地球環境学基礎(2)
国際政治学基礎(2)
国際協力論(2)
サステナビリティ研究入門A/B(各2)
SDGsへの招待(2)

●方法論・分析技法

政策法務論(2)
立法学研究(2)
政策評価論(2)
社会調査法1～8(各2)
政策分析評価技法(2)
市民参加の理論と実践(2)
数理モデル概論(2)
地域コンサルティング論(2)
ファンリテーション演習(2)
CSR論(2)
政策研究概論(外国語)(2)
公共政策論文技法1/2(各2)

【専門科目】

政策学研究(2)
自治制度研究(2)
自治体研究(2)
自治体議会論(2)
公務員制度研究(2)
都市政策概論(2)
都市政策事例研究(2)
政策過程研究(2)
自治体福祉政策論(2)
行政法事例研究(2)
コミュニティ制度論(2)
日本政治史研究(2)
地方自治論(2)
自治体経営論(2)
比較公務員制度研究(2)
比較自治行政研究(2)
防災危機管理研究(2)
雇用労働政策研究(2)
政策過程事例研究(2)
政策開発実践論(2)
日本の政策決定過程(2)
自治体政策実践1～3(各2)
ガバナンス研究(2)
リージョナリズムと非政府組織(2)
企業論(2)
金融システム論(2)
市民社会ガバナンス論(2)
NPO論(2)
非営利セクター研究(2)
市民社会論(2)
市民社会とコミュニティ(2)
都市ガバナンス論(2)
まちづくり研究(2)
文化政策研究(2)
シンクタンク論(2)
環境・開発制度研究(2)
環境自治体政策研究(2)
公共空間形成論(2)
ジェンダー政策研究(2)
公共哲学研究(2)
イノベーション政策論(2)
外交政策論(2)
国際環境政策の社会学(2)
地球環境生態学(2)
租税政策(2)
比較公共政策論(2)
費用便益分析(2)
経済政策(2)

【研究指導科目】

論文研究指導1A・B/2A・B(各2)

博士後期課程

公共政策学特殊研究1A/B～3A/B(各2)
公共政策ワークショップ(公共)1A/B～3A/B(各1)
公共政策ワークショップ(市民社会)1A/B～3A/B(各1)

[2019年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

サステイナビリティ学専攻

募集人員…修士課程15名／博士後期課程5名
開講形態…夜間開講
キャンパス…市ヶ谷
長期履修制度…有（修士・博士後期課程）

サステイナブル社会の構築に貢献できる 高度専門職業人を養成

サステイナビリティ学は、世界が抱える複雑で長期的な問題に対して俯瞰的・統合的にアプローチし、持続的な人間活動のあり方を探求する新しい学術体系です。本専攻では環境 (Ecology) ・社会 (Society) ・経済 (Economy) が三位一体となり、人間活動と資源・環境が調和した Sustainable Management 体系の確立を目指しています。現代社会が直面する課題へのソリューションを提供することを使命としています。諸問題の解決プロセス等を構想する論理的思考力、新たな価値を生み出す創造力、分野横断的に思考し社会にフィードバックできる実務能力を養います。本専攻では次の5つの中核分野に係る学問領域についての教育研究を行っています。

- ・サステイナブルマネジメント（環境経営・環境会計など）ESG 課題に対する最適ソリューションの探求
- ・グローバルパートナーシップ（国際協力・社会開発など）サステイナブルな国際社会の実現に寄与
- ・ローカルサステイナビリティ（地方自治・市民社会など）持続可能な地域社会の構築に寄与
- ・法と制度（環境行政法・国際法など）人々の安心した営みを実現する社会システムの探求
- ・環境サイエンス（エネルギー・公衆衛生・防災など）科学の視点から環境保全へ貢献

アドミッション・ポリシー （学生受け入れ方針）

本専攻では、サステイナビリティにかかわる複雑な諸課題に対して適切な解決手段を構想し実行できる政策能力を持つ高度専門職業人を輩出することを目的としている。そのような意欲と潜在能力を持った方に広く門戸を開いている。サステイナブル社会創造のための計画、設計、運営、計測、管理、保全などにかかわる専門的知識の修得を目指す者、人と自然、人と人との共生社会の創生に関わる根源的な課題を多様な観点から考察しようとする者などを対象にしている。

カリキュラム・ポリシー （教育課程の編成・実施方針）

5つの中核分野に係る教育研究を行うために、社会科学を基盤に自然科学および人文科学を融合させた学際的なカリキュラムを展開している。次の4つの科目群を設定し、基礎の修得から研究へ発展させるまでのプロセスを段階的に学修することができる。(1) 共通科目(理論・研究基礎)／基礎の修得と学際的研究の意義等の理解、(2) 共通科目(方法論・分析技法)／研究の方法論や分析に関する基礎の修得、(3) 専門科目／5つの中核分野に関する専門知識の修得、(4) 研究指導科目／研究を遂行するための個別指導、である。

ディプロマ・ポリシー （学位授与の方針）

修士課程では、例えば高度な専門知識と学問領域を横断する柔軟性をもち、諸問題の解決方法等を構想する論理的思考ができると認められる者に対して修士の学位を授与する。博士後期課程では、例えば次の能力を有すると認められる者に対して博士の学位を授与する。現代社会を取り巻く諸問題を高度な手法によって分析・検証することができ課題解決へ向けてより具体的に適切な政策を立案できること。行政部門、企業部門、国際機関、市民組織などの各現場において研究内容を実務にフィードバックできること。

研究室紹介

西城戸 誠 教授

3.11以降の地域社会と環境の持続可能性を考える
—地域に資する再生可能エネルギー、津波被災地の復興、原発避難者支援の社会学

「環境と社会」にかかわる

サステイナビリティ学と実践に向けて

東日本大震災と福島第一原発事故は、私たちの生活が脆弱な構造の上に成立していることや、戦後日本社会のさまざまな構造的な問題を露呈することになりました。現在、地域に資する再生可能エネルギー（コミュニティパワー）と社会的受容性、津波被災地の復興、原発避難者の支援とその体制に関する「実践」的な調査研究を行っています。また、都市農業や地域の水環境の持続可能性、生活協同組合や炭鉱主婦会などの住民、市民活動の研究も継続しています。連字符社会学としての環境社会学だけではなく、サステイナビリティ学としての「環境と社会」学として、理論と実証の往復と「実践」を念頭に置いた研究を目指したいと考えています。



学生・修了生の声

石井 修平 修士課程 2015年度修了

サステイナビリティ学の第一線で活躍する講師陣の講義が何よりも魅力的

学んだこと、身に付いたこと

国や地方公共団体と環境に関する業務を行うにあたり、基礎的なところでは環境全般の知識を有することが求められます。大学院で学べた基礎知識はとても役立っています。また、大学院で経験した研究活動や口頭発表は、セミナーの企画・開催、講演などでその経験が活かしています。

大学院の魅力

法政大学大学院の環境は裾野が広く、基礎的な環境法から国際環境法、さらには環境訴訟、環境政策などに加え、経済学、政策学、財政学など基礎知識となる分野まで広く学ぶことが可能です。まさに環境を専攻として、その全般を学ぶことができました。また、一部の授業では、その分野の第一線で活躍されている方が講師として招かれ、タイムリーなお話をきけたことは印象に残りました。



研究テーマ

鉱油類による土壌・地下水汚染問題への対処 — 日米の関連法令と規格の比較検証 —

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
岡松 暁子 教授	国際法、海洋法、 国際原子力法、 国際環境法	国際法の履行確保、原子力の平和 利用、海洋環境の保護	国際環境法、論文研究指導 1 A / B、 環境法基礎
金藤 正直 教授	経営学、会計学、地域研究	企業や地域の持続的成長を支援 するマネジメント手法（サプライ チェーン・マネジメント、産業ク ラスタ・マネジメント）	※今年度は、特定の科目を 担当しません
北川 徹哉 教授	環境流体、気象社会論、 天候デリバティブ、 流体関連振動	強風の社会への影響と対策、 金融工学的手法によるリスク回避、 数値流体解析	大気人間環境論、 論文研究指導 1 A / B、 サステナビリティ研究入門 A / B
國則 守生 教授	環境経済学	地球温暖化などの地球環境問題 に関する経済学的アプローチ	環境経済論、論文研究指導 1 A / B
小島 聡 教授	行政学、地方自治論、 自治体政策論	自治体の環境政策統合と市民参 加、都市の持続可能性、域学連携 とソーシャル・イノベーション	※今年度は、特定の科目を 担当しません
杉戸 信彦 准教授	自然地理、自然災害、 変動地形、活断層、歴史 地震、古地震	変動地形、大地震の発生パターン と地形環境変化、土地条件と災害 リスク	サステナビリティ学事例研究Ⅱ、 論文研究指導 1 A / B
高田 雅之 教授	生物多様性、自然環境政 策、自然再生、湿地生態 系、景観生態学	湿地生態系、生態系サービス、 生物多様性オフセット、 アジアの生物多様性保全	自然環境共生研究、 論文研究指導 1 A / B
高橋 五月 准教授	環境人類学、海洋人類学、 災害人類学、科学技術論、 沿岸漁業、海洋保全	漁業政策と近代化、東日本大震災 後の海洋文化、海洋科学と未来論	ヒューマン・エコロジー、 論文研究指導 1 A / B、 サステナビリティ研究入門 A / B
武貞 稔彦 教授	国際開発、途上国援助、 環境と開発、国際協力、 開発倫理	開発協力を通じた社会変容、 開発協力の自然環境・社会環境へ のインパクト	国際協力論、論文研究指導 1 A / B、 国際協力フィールドスタディ
辻 英史 教授	ドイツ近現代史	ドイツ近現代の都市史、 社会政策史、市民社会の歴史	論文研究指導 1 A / B
永野 秀雄 教授	日米比較法（環境法、労 働法、防衛法）	環境監査と法、アメリカ環境法、 軍と環境法	環境法基礎、環境私法、 論文研究指導 1 A / B
西城戸 誠 教授	環境社会学、社会運動論、 地域社会学	再生可能エネルギーと社会的受 容性、津波被災地・原発避難者の 支援とその体制、都市農業・水辺 環境と市民活動	環境社会論、 地域環境フィールドスタディ、 論文研究指導 1 A / B
長谷川 直哉 教授	サステナビリティ経営、 CSR、企業倫理、 企業家史	企業価値の形成と非財務要素、 ESG投資 / SRI（社会的責任投 資）、企業倫理の形成と思想的要因	サステナブル経営論、 論文研究指導 1 A / B
藤倉 良 教授	国際環境協力、環境シス テム科学、開発援助、 環境リスク、環境政策	ダム開発、住民移転、 環境政策過程、開発途上国、 政府開発援助	環境工学の基礎、地球環境学基礎、 国際環境協力論、論文研究指導 1 A / B
松本 倫明 教授	理論天文学、数値流体力 学、宇宙天気	星と惑星の誕生、 太陽活動と気候変動の関係	数理モデル概論
宮川 路子 教授	予防医学、公衆衛生学、 産業保健	就労者の健康問題、 メンタルヘルスケア、 分子整合栄養療法	公衆衛生研究
横内 恵 准教授	環境法、公法 （憲法・行政法）	環境リスクの法制的制御、 廃棄物処理法制	環境法基礎、 論文研究指導 1 A / B
湯澤 規子 教授	地域経済学、日本近現代 史、人文地理学	地域づくりの理論と実践、 食と農の地域経済学、 女性と家族の近現代史	環境ガバナンスⅢ、 論文研究指導 1 A / B
渡邊 誠 教授	計算科学、物性論、 非線形力学	カオス・フラクタルの数理と応用、 環境問題の熱力学的考察、 集団運動と自己組織化現象	論文研究指導 1 A / B、 サステナビリティ学事例研究Ⅲ

〔2019年度〕※年度により授業を持たない場合があります。

Global Sustainability Program

博士後期課程において、海外からの留学生のほか、国内からも国際公務員、国際 NGO、企業、市民組織などからグローバルな諸問題の解決を目指す方を受け入れ、論文指導から博士論文の作成に至る全てのカリキュラムを英語で実施し、地球規模の課題の解決に貢献できる高度専門職業人を育成する英語プログラムを提供しています。

修士課程

〔2 専攻共通科目〕
●理論・研究基礎
行政学基礎（2）
比較行政研究（2）
公共哲学基礎（2）
政策学基礎（2）
現代政治分析研究（2）
公共政策とジャーナリズム（2）
公共政策の社会理論（2）
財政学基礎（2）
経済学基礎（2）
環境哲学・倫理学（2）
環境法基礎（2）
地球環境学基礎（2）
国際政治学基礎（2）
国際協力論（2）
サステナビリティ研究入門 A / B（各2）
SDGsへの招待（2）

●方法論・分析技法
政策法務論（2）
立法学研究（2）
政策評価論（2）
社会調査法 1 ～ 8（各2）
政策分析評価技法（2）
市民参加の理論と実践（2）
数理モデル概論（2）
地域コンサルティング論（2）
ファシリテーション演習（2）
政策研究概論（外国語）（2）
公共政策論文技法 1 / 2（各2）

〔専門科目〕
●法律・行政系科目
環境行政法（2）
環境私法（2）
環境政策法務と条例（2）
国際環境法（2）
地球環境政治論（2）
国際機構論（2）
外交政策論（2）
環境ガバナンスⅡ（2）

●地域・社会系科目
環境社会論（2）

地域環境文化研究（2）
地域環境史研究（2）
地域環境フィールドスタ
ディ（2）
サステナブル地域政策
研究（2）
地域環境計画研究（2）
サステナビリティ学事
例研究Ⅰ（2）
環境ガバナンスⅠ（2）
●経済・経営系科目
環境経営論（2）
サステナビリティ・レ
ボータリング（2）
環境経済論（2）
環境と知的財産権（2）
サステナブル経営論（2）
サステナビリティ・コミュ
ニケーション論（2）
環境ガバナンスⅢ（2）

●国際協力系科目
開発経済論（2）
国際環境協力論（2）
社会開発論（2）
国際協力フィールドスタ
ディ（2）
国際 NGO・NPO 論（2）
国際開発政策研究（2）
社会起業家論（2）
国際環境政策の社会学
（2）
ヒューマン・エコロジー
（2）

●環境科学系科目
環境工学の基礎（2）
環境資源・エネルギー政
策論（2）
公衆衛生研究（2）
自然環境共生研究（2）
大気人間環境論（2）
地球環境生態学（2）
自然災害と防災（2）
サステナビリティ学事
例研究Ⅱ～Ⅲ（各2）

〔研究指導科目〕
論文研究指導 1 A・B /
2 A・B（各2）

博士後期課程

環境法基礎 D（2）
地球環境学基礎 D（2）
国際協力論 D（2）
市民参加の理論と実践 D（2）
数理モデル概論 D（2）
環境社会論 D（2）
環境経営論 D（2）
環境行政法 D（2）
環境私法 D（2）
自然環境共生研究 D（2）
地域環境フィールドスタディ D（2）
大気人間環境論 D（2）
環境工学の基礎 D（2）
自然災害と防災 D（2）
環境経済論 D（2）
サステナブル地域政策研究 D（2）
公衆衛生研究 D
サステナブル経営論 D（2）
地域環境計画研究 D（2）
国際環境法 D（2）
国際環境協力論 D（2）
国際協力フィールドスタディ D（2）
ヒューマン・エコロジー D（2）
サステナビリティ学事例研究 DⅠ～Ⅲ（各2）
環境ガバナンス DⅠ～Ⅲ（各2）
サステナビリティ特殊研究 1 A・B（各2）
サステナビリティ特殊研究 2 A・B（各2）
サステナビリティ特殊研究 3 A・B（各2）

〔2019年度〕※開講科目は年度により異なります。()＝単位数

キャリアデザイン学専攻

募集人員…修士課程20名
 開講形態…夜間開講
 長期履修制度…有
 主な進路…企業人事担当者、人材ビジネス会社経営者、経営コンサルタント、大学職員、大学教員、キャリアコンサルタント（カウンセラー）、高校教員、官庁職員、独立行政法人職員など

キャリアデザイン学を体系的に学べる 日本初の大学院

企業や公共団体、NPO、大学、高校などの人事・教育・キャリア支援担当者、キャリアコンサルタントとしてより高度な専門職を目指す方などを対象とした研究科です。経営学、教育学と、隣接する学問分野を背景に個人のキャリアを学際的に解明します。授業は2時限連続で夜間と土曜日に開講、半期で修了します。

キャリア支援や生涯学習の視点を重視する「キャリア教育・発達プログラム」と、組織の中でのキャリア形成・支援の視点を重視する「ビジネスキャリアプログラム」の2プログラムを設定。研究の基礎となる調査法を基礎科目で修得し、心理学関連科目を中心とした共通科目を学んだ上で、プログラム科目と演習科目でそれぞれの領域の専門性の涵養と研究の深化を目指します。

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)

企業や公共団体、NPO、大学・高校などの機関で人事・教育・キャリア支援などを担当する方や、キャリアコンサルタントとして、より高度な専門職を目指している方などを積極的に受け入れる。選抜は秋季・春季1回ずつ合計2回、筆記試験ならびに口述試験による選抜試験を行っている。口述試験では、「研究計画書」及び「キャリアヒストリー報告書」に基づいて丁寧な面接を行う。筆記試験ならびに口述試験の結果に基づき、上記ポリシーに即した人材の選抜を行っている。

カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)

基礎科目・共通科目をベースにキャリア教育・発達プログラム、ビジネスキャリアプログラムの2分野のプログラムを設置している。それぞれのプログラム科目には、キャリア発達科目群、キャリア・プロフェッショナル科目群、キャリア政策科目群という、ミクロ・メゾ・マクロの3分野からなる科目群を配置している。それらの科目の履修の上で演習科目において修士論文指導を行う。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

「経営学、教育学と隣接する学問分野をバックグラウンドにした個人のキャリアの学際的な解明」、「企業、公共団体、NPO、大学・高校などでキャリア支援を担う高度職業人の養成」という教育理念を踏まえ、所定の単位を修得し、修士論文の審査に合格し、以下に示す水準に達した学生に対し、「修士（キャリアデザイン学）」を授与する。
 DP 1. 学際的な専門知識を身につけている
 DP 2. 自らの職業経験を生かした研究課題を設定できる
 DP 3. 社会調査の手法を駆使した実証的な研究を遂行できる

研究室紹介

廣川 進 教授

キャリアとメンタルヘルスの統合的アプローチをめざす

現場実践に活かせる
研究の問いを立てることから

私の専門はキャリアカウンセリングと臨床心理学。研究テーマは復職支援など産業領域における心理的支援、メンタルヘルスとキャリアの統合、惨事ストレスなどです。担当授業の「キャリアカウンセリング論」では、スーパー、クランボルツ、サビカスらの理論についてのテキストを院生が分担して発表し討議します。院生が社会人である特色を活かして、それぞれの現場で起きている問題、事例検討を行い、理論モデルと具体事例の間を往還しつつ、現場で役立つ実践的な知見を得られるようにしています。修論についても、研究のための研究ではなく、自分の現場の問題から問いを立て、問題解決への糸口が見つかるような研究計画をめざしています。



学生・修了生の声

横山 礼子 修士課程 2017年度修了

大学院生活で培った手法を活かし
ダイバーシティ戦略を実行する

専攻の魅力

修士論文のゼミは、教授1人に対して学生が1、2名とほぼマンツーマンで指導いただけるという、大変贅沢な環境でした。また、1学年あたりの学生数が少人数ゆえにまとまりが良く、情報交換やディスカッションも頻繁に行われました。多様な意見を聞き、議論を重ねることにより、思考の幅を広げることにつながりました。

将来の目標

人事部員として実務でのキャリアを重ねてきましたが、学術的な視点から人と組織の成長とその支援について学びたいと思い入学を選択しました。修士課程を修了した後は、社内のダイバーシティ戦略の実行を任されています。大学院での学びを活かし、組織にあった形で展開できるように日々奮闘しています。



研究テーマ

女性営業職のキャリア意識を規定する要因に関する研究

	専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
キャリア教育・発達プログラム	上西 充子 教授	労働問題、キャリア教育	学校から職業への移行過程と初期のキャリア形成、ならびに、それに関わる支援の在り方	キャリアデザイン学演習Ⅰ／Ⅱ、キャリア教育論
	児美川 孝一郎 教授	教育学	青年期教育、キャリア教育	キャリアデザイン学演習Ⅰ／Ⅱ、キャリアガイダンス論
	笹川 孝一 教授	教育学、生涯学習学、環境学	リテラシー・学力・コンピテンス研究、持続可能な社会のための教育	キャリアデザイン学演習Ⅰ／Ⅱ、生涯学習論
	高野 良一 教授	教育行政学、学校改革論	学校イノベーションの日米比較	キャリアデザイン学演習Ⅰ／Ⅱ、教育経営論
	筒井 美紀 教授	教育社会学、労働社会学	地域就労支援政策、高校生や大学生の進路・就職、労働教育	キャリアデザイン学演習Ⅰ／Ⅱ、教育社会学
	田澤 実 准教授	教育心理学、生涯発達心理学	キャリア教育の効果測定、包括的な若者支援	キャリアデザイン学演習Ⅰ／Ⅱ、教育心理学
ビジネスキャリアプログラム	梅崎 修 教授	労働経済学、教育経済学、人事組織経済学	人材マネジメントの分析、キャリア教育の効果測定、初期キャリア形成の分析	※今年度は、特定の科目を担当しません
	木村 琢磨 教授	組織行動論、経営組織論	企業における組織内政治とパワー、非公式リーダーシップ、組織の活性化	キャリアデザイン学演習Ⅰ／Ⅱ、経営組織マネジメント論
	坂爪 洋美 教授	産業・組織心理学	ダイバーシティが進む中での管理職の役割・女性のキャリア	キャリアデザイン学演習Ⅰ／Ⅱ、産業・組織心理学
	佐藤 厚 教授	産業社会学、人的資源管理論、雇用政策論	ホワイトカラーの仕事とキャリア、労働時間管理とワークライフバランス、人材育成論	キャリアデザイン学演習Ⅰ／Ⅱ
	武石 恵美子 教授	人的資源管理論、女性労働論	働き方の多様化と人材マネジメント、女性のキャリア形成	キャリアデザイン学演習Ⅰ／Ⅱ、キャリア開発論
	松浦 民恵 教授	人的資源管理論、労働政策	働き方改革、非正規社員のキャリア形成、女性や高齢者の活躍推進、幹部候補の人材育成	キャリアデザイン学演習Ⅰ／Ⅱ、職業キャリア政策論
プログラム共通	齋藤 嘉孝 教授	社会学、社会調査、家族論	家族やそれを取り巻く社会環境と、関連する諸政策・制度	キャリアデザイン学演習Ⅰ／Ⅱ、量的調査法
	佐藤 恵 教授	社会学、社会調査	支援の社会学、社会問題の社会学、犯罪社会学	キャリアデザイン学演習Ⅰ／Ⅱ、質的調査法
	田中 研之輔 教授	ライフキャリア論、社会調査、エスノグラフィー	広く「社会集団」に関する理論的＋経験的な社会学的考察	キャリアデザイン学演習Ⅰ／Ⅱ、コミュニティとキャリア
	廣川 進 教授	臨床心理学、キャリアカウンセリング、産業心理学	メンタルとキャリアの統合	キャリアデザイン学演習Ⅰ／Ⅱ、キャリアカウンセリング論
	安田 節之 教授	プログラム評価論、コミュニティ心理学	心理教育プログラムや社会サービスの評価研究、高齢者のライフキャリア研究	キャリアデザイン学演習Ⅰ／Ⅱ、コミュニティとキャリア
	熊谷 智博 准教授	社会心理学、グループダイナミクス	集団間紛争及びその解決・和解に関する心理過程研究	キャリアデザイン学演習Ⅰ／Ⅱ、キャリア調査研究法基礎

〔2019年度〕※年度により授業を持たない場合があります。

設置科目〔修士課程〕

キャリア調査研究法基礎(2)
量的調査法(2)
質的調査法(2)
生涯発達心理学(4)
教育心理学(4)
産業・組織心理学(4)
キャリアカウンセリング論(4)
コミュニティとキャリア(4)
キャリアガイダンス論(4)
教育経営論(4)
キャリア教育論(4)
教育社会学(4)
生涯学習論(4)
キャリア開発論(4)
人的資源管理論(4)
経営組織マネジメント論(4)
人事組織経済学(4)
職業キャリア政策論(4)
キャリアデザイン学演習Ⅰ／Ⅱ(各2)

〔2019年度〕※開講科目は年度により異なります。()＝単位数

修士生の研究テーマ

- ・DMO組織における民間企業出身者のパフォーマンスに関する探索的研究
- ・食文化に携わるフリーランスのキャリア形成
- ・新入社員教育における教育担当者の改善プロセスの分析
- ・女性営業職のキャリア意識を規定する要因に関する考察 ―外資系医療機器メーカーA社の事例―
- ・学生の就職活動・就職支援の活用を阻害する要因の考察
- ・小学校教員養成課程の学生におけるキャリア形成プロセス ―学年差に注目して―
- ・女子大生に対する4年間の体系的なキャリア支援プログラムの検証 ―都内カトリック系女子大学のグローバルビジネスプログラムを事例として―
- ・入試担当職員ミドルマネジャーの職務・職能・経験学習の意識分析～専門職活用の可能性を展望して～
- ・後継者のキャリア形成が承継後の企業パフォーマンスに与える影響
- ・新入社員研修のエスノグラフィー
- ・学生・教員・職員の協働によるキャリア教育のプログラム評価研究 ―B大学における全学教育コミュニティの事例に基づいて―
- ・ミドルマネジャーのリーダーシップが所属組織への満足度に与える影響
- ・大企業中堅社員のキャリア形成に関する一考察
- ・公務員の効果的な人脈形成について
- ・保育士を目指すノンストレーターとは何者か？ ―子ども・自己・学校の「発見」―
- ・高校におけるキャリア教育の考察 ―外部資源との連携に着目して―
- ・食品メーカーA社における再雇用管理職の現状と心理的要因の分析
- ・若者の学び直し・リチャレンジにおける専門家の支援 ―専門学校生の自己マネジメント能力育成の視点から―

日本の活性化を担う政策デザイン能力を養成

今、世界では、グローバリゼーションやICT化などを背景として、市場の失敗による貧困の増大、格差拡大が経済社会の持続可能性を脅かしています。行き過ぎた市場主義的・競争経済的モデルによって不確実・不安定が日常化された現代は、公益のために連帯する人々の智慧と力と行動がもっとも必要とされている時代ともいえるのではないのでしょうか。どのような資本主義であるべきかが問われている一方で、「公」を担いうる連帯経済、社会的経済、サードセクター（市民セクター）などの構想があり、また社会的排除の問題に取り組む社会的企業に大きな関心が寄せられています。その根源は19世紀の産業革命の時代に見ることができます。政治や経済によってもたらされた悲惨な生活を改善するために、貧窮者などを救済してきた伝統的な教会や慈善組織から非営利組織が生まれました。また労働者は労働組合や協同組合などの連帯の組織を作りました。今に至っては、それぞれの組織原理や手段には自助と共助、共益と公益、政治的行動と経済的行動などの違いがありますが、連帯に基づく社会を目指している点は共通しています。

グローバル化や競争激化の中で分断された個人や組織をつなぐキーワードとして「連帯社会」の実現を掲げ、組織の壁を乗り越えて大きな連帯を目指すため「連帯社会インスティテュート」を設置しました。

本インスティテュートは、現代社会において連帯による公益の実践を目指すNPO/NGOや社会的企業、さまざまな形の協同組合や労働組合などの活動を担いうる、政策構想力と実践力を兼ね備えた連帯社会を築く人材の育成を重要な目標としています。

また、本インスティテュートの目指すところは、社会の多くの分野での活躍を志す方々にも、等しく有益なものであると考えます。現代社会における連帯と公益に関心を寄せる多くの方々に門戸を開いたインスティテュートを目指しています。

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)	ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)
本インスティテュートは、新たな公共の担い手となる人材の育成を第一義的な目的とし、そうした意欲を強く持つ社会人であり、また、潜在能力を持った人々に広く門戸を開くことを基本方針とする。	(1)本インスティテュートが目指す人材の育成には、幅広い知識が欠かせない。特に、いわゆる社会人入学に配慮し、社会科学の幅広い知識を得るため、それぞれの概論(入門講座)を専門基礎科目として配置する。(2)NPO・社会的企業研究、協同組合研究、労働組合研究の3つのプログラムを柱として、受講生の研究志向に応じた履修モデルを提示し、幅広い専門科目から受講科目を選択する際の一助とする。(3)学問的知見を踏まえつつ、プロフェSSIONALとして実際の公益に資する政策の形成・実施を担う人材を育成し、具体的な運動論や手法に関する科目を配置するとともに、実際に社会の最先端で活動する専門家と知的に交流する機会を作る。	修士課程に2年以上在学し、36単位を修得し、かつ修士論文の審査に合格した者に学位を授与する。誰もが多様な働き方を通じて社会参加し自己実現可能な民主的社会とするためにNPO/NGOや社会的企業、協同組合、福祉事業団体、労働組合などに求められる社会的役割を認識し、解決すべき課題の発見、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・発信する能力、それらを実現・解決するための人的・組織的ネットワークを形成する技能、そしてその基盤となる高い志を育成することを目指す。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
労働組合プログラム 中村 圭介 教授	労使関係論	労働組合の組織と活動、投資ファンドと労使関係、人材ポートフォリオ、生産システムの国際比較	労働組合論Ⅰ/Ⅱ、労働組合特論演習Ⅰ/Ⅱ、連帯社会とサードセクター、地域社会運動論、産別機能研究、論文指導Ⅰ/Ⅱ
協同組合プログラム 栗本 昭 教授	協同組合の組織と事業、協同組合の制度、協同組合の国際比較	協同組合法、協同組合史、社会的経済、社会的企業	協同組合概論Ⅰ/Ⅱ、協同組合特論演習Ⅰ/Ⅱ、連帯社会とサードセクター、協同組合・NPOの法制度、協同組合のガバナンスとCSR、論文指導Ⅰ/Ⅱ
NPOプログラム 柏木 宏 教授	NPO論、NPOマネジメント	日米のNPO、社会運動	NPO論(現状と課題)Ⅰ/Ⅱ、NPO特論演習Ⅰ/Ⅱ、連帯社会とサードセクター、NPOとソーシャルチェンジ、サードセクター協働論、論文指導Ⅰ/Ⅱ
中野 勝郎	アメリカ政治史		※今年度は、特定の科目を担当しません
長峰 登記夫	労使関係論		国際労使関係論
浜村 彰	労働法		労使関係法概論
淵元 初姫	比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策		政策学基礎

[2019年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

奨学金制度

について

本インスティテュートの学生を対象に、独自の奨学金を用意しています。

- (1) 名 称 連帯社会奨学金
- (2) 対 象 者 連帯社会インスティテュートの学生（一般入試、社会人入試で合格した方のみ）
- (3) 給付の内容 給付額：1年につき約30万円を給付
採用数：本インスティテュートの学生のうち、一般入試、社会人入試で合格した方
奨学金の形式：1年毎に更新し最大2年間給付（原則として返還不要）

研究室紹介

中村 圭介 教授

労使関係論、労働組合論

丹念に収集した事実から
理論(モデル)を構築し、
政策へ



仕事を通じて技術や知識をどのように身に付け、人間としていかに成長できるのか。報酬は高いのか、低いのか。それは何に対して支払われるのか、仕事の成果が能力か。仕事や報酬について発言できるのか。効果的な発言をするにはどうしたらよいのか。いずれも私の研究テーマである。最後の問いへの一つの解答は利害を等しくする者が集まることである。労働組合である。労働組合はメンバーが互いに助け合う組織＝共助の組織であるが、近年、メンバーシップの外にいる人々への支援にも乗り出すようになった。協同組合、NPOとの連携も視野に入ってくる。「共助から連帯へ」である。

学生・修了生の声

縄田 大輔

修士課程 在学中

原理や先行事例を体系的に学び、
問題を解決したい



講義の魅力

以前から、自分たちの勤務条件は適切か、適切でなければ労働組合として何をどこまでできるか、といったことに興味がありました。私の所属する労働組合プログラムの講義は、労働組合の成り立ちや給与の決め方など、各種制度の根本や歴史を理解することから出発します。また、オムニバス講義では、労働組合の他、関係の深い協同組合やNPO等の現場で活躍されている外部講師の方の生の声を聴くことができ、理論と同時に、常に実践的な手法を学ぶことができます。

社会人として学ぶことの意義と目標

社会に出ると、仕事や職場環境の問題など、様々な問題に直面します。講義で学ぶ理論や事例を、現実にも自ら抱える問題に関連付けながら解釈していくことは、社会人学生にしかできないことだと考えています。また、違う環境であっても、同じような問題を抱えている仲間に出会えることも、社会人学生が多い大学院の魅力です。ジョージ・ボリアの『いかにして問題をとくか』の解決手法リストの中に、「似た問題を知っているか」という有名な文句があります。似た問題への対処方法を知り、職場や自分たちを取り巻く諸問題を解決していくことが目標です。

研究テーマ

人事委員会における公民給与比較方法の検証

修士課程

〔3プログラム共通科目〕

●基礎科目(必修)
労働組合論Ⅰ(2)
協同組合概論Ⅰ(2)
NPO論(現状と課題)Ⅰ(2)
連帯社会とサードセクター(※)(4)
(※はオムニバス授業)

●選択必修

地域社会運動論(2)
ユニオン・イノベーション(2)
産別機能研究(2)
比較社会労働運動史(2)
協同組合・NPOの法制度(2)
協同組合・NPOの会計(2)
協同組合のステークホルダー参加(2)
協同組合のガバナンスとCSR(2)
NPOとソーシャルチェンジ(2)
NPOと事業創造(2)
NPOとヒューマンリソース(2)
NPOの資金環境(2)

●選択科目

政治学概論(2)
社会調査法4(2)
社会調査法5(2)
政策学基礎(2)
行政学基礎(2)
国際労使関係論(2)
自治体論(2)
雇用労働政策研究(2)
労使関係法概論(2)
労働契約法・労働基準法概論(2)
人事制度論(4)
人的資源管理論(4)
経済学基礎A/B(各2)
ジェンダー経済論A/B(各2)
公務員制度研究(2)
労働市場論(4)
市民社会論(2)
国際NGO・NPO論(2)
シンクタンク論(2)
CSR論(2)
サードセクター労働論(2)

〔労働組合プログラム〕

●専門科目(必修)
労働組合論Ⅱ(2)
労働組合特論演習Ⅰ・Ⅱ(1年次)(各2)
論文指導Ⅰ・Ⅱ(2年次)(各2)
〔協同組合プログラム〕
●専門科目(必修)
協同組合概論Ⅱ(2)
協同組合特論演習Ⅰ・Ⅱ(1年次)(各2)
論文指導Ⅰ・Ⅱ(2年次)(各2)

〔NPOプログラム〕

●専門科目(必修)
NPO論(現状と課題)Ⅱ(2)
NPO特論演習Ⅰ・Ⅱ(1年次)(各2)
論文指導Ⅰ・Ⅱ(2年次)(各2)

〔2019年度〕※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修了要件
36 単位以上

=

基礎科目(必修)
10 単位

専門科目(必修)
10 単位
※所属するプログラムの
科目を履修

選択必修科目
4 単位以上
(協同組合プログラムは
6 単位以上)

所属する専攻
4 単位以上

選択科目
8 単位以上
(協同組合プログラムは
6 単位以上)

スポーツ健康学専攻

健康の維持・増進とスポーツの発展に関わる
多様な領域に寄与できる高度専門的職業人を養成する

法政大学スポーツ健康学研究科が目的とするのは、スポーツ健康の分野において現代社会が期待する多面的な高度専門的職業人の養成です。これを実現させるためには「スポーツ健康学」分野において、ある特定の専門分野を深化させるだけではなく、関連する分野を総合的に学んでいくことが必要です。具体的には、幅広いスポーツ健康学に関わる基礎知識をベースに、スポーツと健康づくりに関わる各種の教育や事業を企画・立案、管理・運営、実践・指導、点検・評価することのできる高い専門知識と技能を身に付けるための学びです。これらを提供するために、スポーツ健康学研究科は「スポーツ健康学」を教育研究の土台としながらも、これまでの枠組みに縛られることなく、最新のスポーツ科学と健康科学を「総合的」に展開します。これにより、実践力の高い人材を育成し、健康の維持・増進とスポーツ発展に関わる多様な領域で社会に貢献していきます。

アドミッション・ポリシー
(学生受け入れ方針)

- AP 1 人間性と社会性を支える教養を身に付けている。(知識・理解)
 AP 2 「スポーツ」と「健康」に関する基礎的な知識と技能を有している。(知識・理解)
 AP 3 自ら課題を発見することができる。(思考・判断・表現)
 AP 4 自ら設定した課題について、わかりやすく他者に伝えることができる。(思考・判断・表現)
 AP 5 スポーツ健康学に関心があり、学ぶ意欲がある。(関心・意欲・態度)
 AP 6 スポーツと健康づくりに関わる各種の教育や事業を計画・立案することができる。(技能)

カリキュラム・ポリシー
(教育課程の編成・実施方針)

スポーツ健康学に関する基礎的かつ俯瞰的な知識と思考力を修得するための「基礎科目」としての「スポーツ健康学特論」等および、修了後のキャリアを見据えた高度で専門的な知識と技能を修得するための「展開科目」としてのヘルスプロモーション科目群、スポーツコーチング科目群、スポーツマネジメント科目群によってカリキュラムを編成しています。

ディプロマ・ポリシー
(学位授与の方針)

- DP1 豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身に付けている。(知識・理解)
 DP2 「スポーツ」と「健康」およびそれらをとりまく「社会環境」について体系的に理解している。(知識・理解)
 DP3 高度で専門的な知識を有している。(知識・理解)
 DP4 自ら設定した課題について、適切な研究方法を用いて考察することができる。(思考・判断・表現)
 DP5 自ら設定した課題について、論理的に説明することができる。(思考・判断・表現)
 DP6 スポーツ健康学の知を探究し、社会に貢献する意欲がある。(関心・意欲・態度)
 DP7 スポーツと健康づくりに関わる各種の教育や事業を企画・立案、管理・運営、実践・指導、点検・評価することができる。(技能)

研究室紹介

泉 重樹 教授

アスレティックトレーニングとは

常にスポーツ現場のことを考え、研究に取り組む

私の専門分野は、スポーツ医学・アスレティックトレーニングです。アスレティックトレーニングとはアスレティックトレーナーがカバーする分野のすべてが研究領域になります。スポーツ現場における外傷・障害の予防、救急処置、アスレティックリハビリテーション、コンディショニング、検査・測定評価など、領域は多岐にわたります。ですが最も大切なことは、アスリート達が大好きなスポーツを安全に行えること、そして最高のパフォーマンスを出すための準備に貢献することです。常にスポーツ現場のことを考えて研究に取り組む。そんな研究室です。



学生・修了生の声

大走 渚 修士課程 在学中

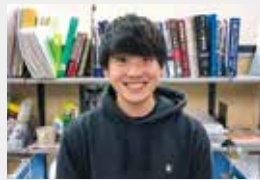
実務を経験することで研究の重要性を知る。
 将来は実務と研究を両立させることが目標

進学のかきかけ

進学前からトレーナーとして活動していました。スポーツ現場では「エビデンス」を活用する能力を求められていると強く実感し、大学院で研究活動を行うことで知識の向上だけでなくエビデンス活用のトレーニングになればと進学を決意しました。

将来の目標

現在の研究テーマは「瞬間的な力発揮能力改善を目指したトレーニング」と「Cross Education」です。修士課程修了後には博士課程に進学し、トレーニング効果について中枢神経系に着目して検証を続けていきたいと考えています。そしてスポーツ現場と研究活動、両方の面を熟知した研究者になることが目標です。



研究テーマ

「瞬間的な力発揮能力改善を目指したトレーニング」「Cross Education」

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
安藤 正志 教授	リハビリテーション医学	運動学、運動療法	運動器疾患特論、 スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
泉 重樹 教授	アスレティックトレーニング、スポーツ医学、鍼灸学	体幹（腰部）の動作とエクササイズ評価、スポーツ外傷・障害に対する鍼治療	アスレティックトレーニング特別演習、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
荻部 俊二 教授	スポーツコーチング学、スポーツ心理学	身体運動と言語イメージ	スポーツコーチング学特論、 スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
鬼頭 英明 教授	学校保健、健康教育、公衆衛生	喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育、性教育、医薬品教育、健康教育	公衆衛生学特論、学校保健学特論、 保健体育科教育法特別演習、 スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
木下 訓光 教授	スポーツ医学、循環器病学	スポーツ心臓、エネルギー代謝、心肺運動負荷試験、生活習慣病の運動療法	スポーツ健康学特論Ⅱ（自然科学）、 スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
高見 京太 教授	発育発達学、運動生理学	子供の運動や生活習慣と体力・健康づくり、身体活動のエネルギー消費量	※2019年度はサバティカル（研究専念年度）です。
永木 耕介 教授	スポーツ教育学	教材文化論、武道教育論	スポーツ教育学特論、 保健体育科教育法特別演習、 スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
中澤 史 教授	スポーツ心理学	アスリートの心理サポート（スポーツメンタルトレーニング・スポーツカウンセリング）、体育授業・運動部活動の心理学	スポーツ健康学特論Ⅰ（心身科学）、 スポーツメンタルトレーニング演習、 スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
平野 裕一 教授	スポーツバイオメカニクス、トレーニング科学	投打動作の分析、瞬発的なパワー発揮を向上させるための筋力トレーニング	スポーツ運動学特論、スポーツバイオメカニクス特論、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
山本 浩 教授	コミュニケーション論、ジャーナリズム論	スポーツシーンのコミュニケーション、スポーツ実況論	スポーツジャーナリズム特論、 スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
伊藤 真紀 准教授	スポーツマネジメント、女性スポーツ	スポーツにおけるリーダーシップ、アスリートのキャリア構築	スポーツ組織行動特論、 スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
瀬戸 宏明 准教授	スポーツ医学、整形外科	運動器損傷に対する予防と再生について	スポーツ健康学特論Ⅱ（自然科学）
林 容市 准教授	応用健康科学、生理心理学	身体活動・スポーツ動作の感覚認知と運動制御、生理的状態と心理的情報との対応、種々の身体パフォーマンスに関する体力の測定・評価	※2019年度はサバティカル（研究専念年度）です。
吉田 政幸 准教授	スポーツマーケティング、スポーツ消費者行動	スポーツイベントにおける集客、スポーツファン、スポーツレガシー、スポーツの社会的効果	スポーツマネジメント特論、スポーツ消費者行動特論、スポーツフィールドスタディー演習、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
井上 尊寛 専任講師	スポーツ産業学、スポーツマーケティング	スポーツ観戦者の観戦行動、プロ・スポーツクラブのマーケティング戦略	スポーツ産業学特論、 スポーツマーケティングリサーチ演習、スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
ネメシュ ローランド 専任講師	コーチング学、ハンドボールコーチング、体育学	GCA (Game Centered Approach)	スポーツトレーニング学特論、 スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

〔2019年度〕※年度により授業を持たない場合があります。

修士課程

●基礎科目
研究デザイン・フィロソフィー
スポーツ健康学特論Ⅰ（心身科学）
スポーツ健康学特論Ⅱ（自然科学）
スポーツ健康学特論Ⅲ（人文社会科学）

●展開科目
〔スポーツコーチング科目群〕
スポーツコーチング学特論
スポーツ運動学特論
スポーツバイオメカニクス特論
スポーツトレーニング学特論
発育発達学特論
スポーツ教育学特論
アスレティックトレーニング特別演習
スポーツメンタルトレーニング演習
チームビルディング演習
保健体育科教育法特別演習

〔ヘルスプロモーション科目群〕
健康体力学特論
健康心理学特論
運動器疾患特論
スポーツ栄養学特論
公衆衛生学特論
学校保健学特論
体力・機能測定評価演習
運動疫学演習

〔スポーツマネジメント科目群〕
スポーツマネジメント特論
スポーツ産業学特論
スポーツメディア特論
スポーツ健康政策学特論
スポーツジャーナリズム特論
スポーツ組織行動特論
スポーツ消費者行動特論
スポーツフィールドスタディー演習
スポーツマーケティングリサーチ演習

●研究指導科目
スポーツ健康学演習Ⅰ
スポーツ健康学演習Ⅱ
スポーツ健康学演習Ⅲ
スポーツ健康学演習Ⅳ

〔2019年度〕※開講科目は年度により異なります。すべて2単位

About el ghilj, linn oagasta weyye
 T gihlenn oagasta weyye... About
 ghilj linn oagasta weyye about...
 About el ghilj, linn oagasta weyye
 linn oagasta weyye
 About el ghilj, linn oagasta weyye
 About el ghilj, linn oagasta weyye
 About el ghilj, linn oagasta weyye
 T gihlenn oagasta weyye... About
 ghilj linn oagasta weyye about...
 About el ghilj, linn oagasta weyye
 linn oagasta weyye
 About el ghilj, linn oagasta weyye
 About el ghilj, linn oagasta weyye

99

12

ABCD

自然科学分野

情報科学研究科

情報科学専攻 P 72

デザイン工学研究科

建築学専攻 P 74

都市環境デザイン工学専攻 P 76

システムデザイン専攻 P 78

理工学研究科

機械工学専攻 P 80

電気電子工学専攻 P 82

応用情報工学専攻 P 84

システム理工学専攻 創生科学系 P 86

システム理工学専攻 経営システム系 P 88

応用化学専攻 P 90

生命機能学専攻 P 92

総合理工学インスティテュート

総合理工学インスティテュート P 94

※各専攻ページに掲載の「開講形態」は原則として修士課程に特化した内容です。

※各専攻の「アドミッション・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「ディプロマ・ポリシー」は要約したものです。

詳細は大学院HPをご参照ください。

在籍者男女比率			在籍者属性比率			
在籍者数	男性	女性	在籍者数	一般	留学生	社会人
768名	83.9%	16.1%	768名	91.4%	5.9%	2.7%

情報科学専攻

国際的に活躍できる創造性あふれる
専門技術者、研究者を育成

デジタルメディア技術、ITソフトウェア技術によって、異なるハードウェア、文化、教育など社会のこれまでにあったさまざまな障壁を突き崩し、まさに国際化時代、ボーダーレスな競争化時代に突入した感があります。

このような時代では、自分で考えたアイデアをシステム概念としてまとめ、実際に動くもの、見えるものにする実現技術まで、自己完結した高い専門能力・専門技術の修得が求められています。このような時代の変化に対応できる幅広い人材を育成するため、本研究科では専攻内に3つの研究領域（コンピュータ基礎、情報システム、メディア科学）を設けそれぞれに充実した教授陣を配置し、最先端の教育・研究体制を整えています。また、第4の研究領域として、国際化対応情報科学を設け、英語のみで修士・博士の学位が取得できる教育・研究環境を提供しています。留学生や国際化を意識する日本人学生からも高い評価を受けており、国際的に通用する優れた人材育成の一助になっています。2011年度から開始した中国模範的ソフトウェア学院連盟とのダブルディグリープログラムにおいても順調に修了生を送り出すなど大きな成果を上げており、今後のさらなる発展が期待されています。

研究室紹介

尾花 賢 教授

サイバー攻撃に強い暗号技術の研究開発

暗号技術の研究開発を通して
安心・安全にクラウドを利用できる
世界の実現に貢献します



サイバー攻撃に強い暗号技術の研究開発を通して、ユーザが安心してクラウドを利用できる世界の実現を目指しています。研究テーマのひとつである秘密分散は、保護したい情報を複数の部分情報に分割して保存し、そのうちのいくつかを集めない限り元の情報を完全に隠すことができる技術です。秘密分散を用いてデータをクラウドに保存することにより、サイバー攻撃でいくつかの部分情報が漏れいしたとしても、攻撃者は元の情報を全く得ることができません。研究室で学生と開発したいいくつかの秘密分散は、部分情報サイズの世界最小記録を達成しています。秘密分散に限らず、これからも学生とともに世界記録を達成する研究開発を進めていきます。

学生・修了生の声

ミットリング マッツ

博士後期課程 在学中

人工知能を用いた音声適応の
研究のために情報科学を専攻
自分のアイデアを世界に発信していきたい



専攻の魅力

情報科学研究科には、色々な専門領域や経験を持つ先生が在籍しており、多様な考え方や幅広いフィードバックを得ることができるので、新しい知識の獲得に繋がっています。ゼミでは自分の研究について仲間や先生とディスカッションをしながら、他の学生の発表を聞くことも含めて、自分の研究を進める上で大変役に立っています。

将来の目標

学部生の時はゲームプログラマーになりたいと考えていました。今もゲームを作りたい夢がありますが、それに加えて、世界に通用する技術をもっと真面目に考えてみたいと思います。自分の研究テーマに近い技術は世の中にはまだ少ないので、良い結果に繋がる新しいアイデアを早く提案し、私が考えた技術をいつか世の中に出せたら嬉しいです。

研究テーマ

人工知能を用いた音声適応の研究と
そのための技術開発

アドミッション・ポリシー

（学生受け入れ方針）

修士課程では、情報科学分野を希望し、開講科目を受講するのに必要な知識を有する志願者を広く受け入れる。博士後期課程では、修士課程に求める人材像に加えて、修士課程から現在に至る研究実績を持ち、博士後期課程の学生として相応しい研究遂行能力を有する志願者を受け入れる。

カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施方針）

修士課程では、専攻分野の周辺をカバーしつつ、国際社会で通用する高度な知識・技術を獲得できるよう、カリキュラムを編成する。具体的には以下の項目を考慮してカリキュラムを編成する。

1. 分野を複数の研究領域に分類し、それぞれの領域で最新の教育が行われるようにカリキュラムを編成する。
 2. 研究タイプと開発タイプのそれぞれを目指す学生に対して、適切な教育を提供できるようにカリキュラムを編成する。
 3. 学部課程で情報科学・技術を専門としていない入学者に対しては、情報科学・技術の主要な学部科目を履修できるよう柔軟なカリキュラムを編成する。
 4. 国際化に対応したカリキュラムを編成する。
- 博士後期課程では、情報科学の分野全般を網羅する高度な知識・技術を獲得できるようコースワークを課す。また、研究や開発のプロジェクトにおいて指導力を発揮できる自立した研究者あるいは技術者としての資質を養うため、特別研究・特別演習を通して博士論文指導を実施する。

ディプロマ・ポリシー

（学位授与の方針）

修士課程では、所定の単位を修得し、修士論文の審査に合格した者に「修士（理学）」を授与する。この場合の審査は、独創性や創造性を要求する研究タイプと、高度な情報科学技術を駆使してプロジェクトを遂行できる能力を要求する開発タイプの両者を考慮する。研究タイプは、新規性のある概念等を構成できることを基準とし、開発タイプは、既存の概念を組み合わせる有用な成果物を生み出す技術力を有することを基準とする。

博士後期課程では、所定の単位を修得し、博士論文の審査に合格した者に「博士（理学）」を授与する。審査にあたっては、上記の修士課程の基準に加えて、情報科学の分野全般で高度な素養をもち、新しい研究領域あるいは新しい応用領域の開拓を行う能力を有すること、新しい手法を提案した実績、あるいは、従来の手法の性能を著しく高めた実績を有することを基準とする。

募集人員…修士課程 30名／博士後期課程 5名
開講形態…昼間開講 キャンパス…小金井
主な進路…NTTメディアインテリジェンス研究所、
野村総合研究所、フジテレビジョン、ヤフー、
富士ゼロックス、特許庁ほか

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
赤石 美奈 教授	知能工学	物語構造に基づく情報編纂基盤技術、知識メディアの管理・検索・視覚化技術、歴史知識学など	データマイニング特論、情報科学特別研究 1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習 1A/1B/2A/2B
伊藤 克亘 教授	音声認識、マルチモーダル対話システム、音声インタフェース	音声認識、マルチモーダル対話システム、音声インタフェース、情報検索	音声・言語処理特論、情報科学特別研究 1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習 1A/1B/2A/2B
尾花 賢 教授	暗号、情報セキュリティ	秘密分散法、秘匿計算などの暗号プロトコル	暗号理論、情報科学特別研究 1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習 1A/1B/2A/2B
小池 崇文 教授	三次元映像技術、コンピュータグラフィックス、拡張現実感	実世界指向メディア、光線情報処理、フィジカルコンピューティング、リアルタイムレンダリング、コンピュテーショナルフォトグラフィ	3次元映像技術特論、情報科学特別研究 1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習 1A/1B/2A/2B
小西 克巳 教授	数理モデリング	スパースセンシング、データ駆動モデリング、信号修復、制御工学	線形システム特論、情報科学特別研究 1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習 1A/1B/2A/2B
佐々木 晃 教授	プログラミング言語処理系、ドメイン特化型言語、属性文法	プログラム言語処理系の実装技術や理論について	プログラミング言語処理系特論、情報科学特別研究 1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習 1A/1B/2A/2B
佐藤 裕二 教授	インテリジェントコンピューティング、群知能	進化計算を用いた多目的最適化と並列高速化、群知能による多峰性問題の解法、インテリジェントコンピューティングによる強化学習	進化システム論、情報科学特別研究 1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習 1A/1B/2A/2B
善甫 康成 教授	計算材料科学、大規模並列計算 (HPC)	光学材料解析技術の開発、高効率大規模並列計算アルゴリズムの開発	科学技術シミュレーション、情報科学特別研究 1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習 1A/1B/2A/2B
西島 利尚 教授	符号理論、情報理論	代数的誤り訂正符号の構成とその漸近的能力に関する研究	デジタル情報の符号化と復号化、情報科学特別研究 1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習 1A/1B/2A/2B
花泉 弘 教授	画像処理・認識、リモートセンシング、画像計測	リモートセンシング、医用画像処理、顔認識	多次元信号画像処理、情報科学特別研究 1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習 1A/1B/2A/2B
日高 宗一郎 教授	プログラミング言語、基盤ソフトウェア	プログラミング言語、プログラム変換、双方向変換とモデル駆動工学への応用	データベースプログラミング言語、情報科学特別研究 1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習 1A/1B/2A/2B
廣津 登志夫 教授	インターネット、オペレーティングシステム、ユビキタスコンピューティング	散飯想ルータのための動的中継点制御機構	インターネットアーキテクチャ、仮想化技術特論、情報科学特別研究 1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習 1A/1B/2A/2B
黄 潤和 教授	人工知能、携帯コンピューティング、ユビキタスシステムソフトウェア	Intelligence sharing in smart service systems, Empathetic healthcare service system, Individual human modeling	人工知能特論、情報科学特別研究 1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習 1A/1B/2A/2B
藤田 悟 教授	XML 高速処理、Web サービス、サービス指向ソフトウェア	サービス戦略のモデリング、社会のシミュレーション分析、サービス社会を支える XML や Web サービスの実行基盤技術	オブジェクト指向言語、Web システム構築、情報科学特別研究 1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習 1A/1B/2A/2B
細部 博史 教授	ユーザインタフェース、情報可視化、コンピュータグラフィックス、制約プログラミング	数理的アプローチによる視覚的・対話的システムの構築法	可視化特論、情報科学特別研究 1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習 1A/1B/2A/2B
馬 建華 教授	ユビキタスネットワークとコンピューティング	MobileServices, Internet of Things, Smart Things, SocialNetwork, UserModeling, Cyber-Individual, DigitalClone	先端網とコンピューティング、情報科学特別研究 1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習 1A/1B/2A/2B
雪田 修一 教授	幾何学的・抽象的数学的概念の可視化	ダイアグラムなどを用いた抽象概念の可視化	関数型言語と圏論、情報科学特別研究 1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習 1A/1B/2A/2B
李 亜民 教授	Computer Architecture, High-performance CPU Design, Parallel and Distributed Processing	High-performance Interconnection Networks for Super-computers	コンピュータアーキテクチャ特論、並列及び分散システム、情報科学特別研究 1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習 1A/1B/2A/2B
劉 少英 教授	ソフトウェア工学、ソフトウェア開発の形式工学手法、知的ソフトウェア工学環境	ソフトウェアモデリング、検査、テストのための形式工学手法 SOFL の発展	高信頼ソフトウェア開発の形式工学手法、ソフトウェア検証と確認、情報科学特別研究 1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習 1A/1B/2A/2B
若原 徹 教授	文字・画像認識、パターン認識	情景内文字認識、ジェスチャ認識、移動物体追跡、ヒューマンインタラクション	パターン認識特論、情報科学特別研究 1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習 1A/1B/2A/2B
相島 健助 准教授	数値計算	数値シミュレーション、並列計算アルゴリズム、データ解析、統計処理、信号処理、逆問題	数理モデリング特論、情報科学特別研究 1A/1B/2A/2B、情報科学特別演習 1A/1B/2A/2B

修士課程	博士後期課程
3次元映像技術特論(2) Javaによるビジネスアプリケーションシステム開発(2) Rails 環境の WEB システム開発(2) Ruby 言語によるオブジェクト指向 WEB 設計(2) Web システム構築(2) インターネットアーキテクチャ(2) オブジェクト指向言語(2) コンピュータアーキテクチャ特論(2) セキュアシステム開発のための CSP(2) ソフトウェアプロセス及び品質保証(2) ソフトウェア技術者の為の技術英語の書き方(2) ソフトウェア検証と確認(2) ソフトウェア要求仕様記述と分析の技術(2) デジタル情報の符号化と復号化(2) データベースプログラミング言語(2) データマイニング特論(2) パターン認識特論(2) プログラミング言語処理系特論(2)	暗号理論(2) 音声・言語処理特論(2) 仮想化技術特論(2) 可視化特論(2) 科学技術シミュレーション(2) 関数型言語と圏論(2) 企業システム構築のためのソフトウェア基盤(2) 機械翻訳:理論と実践(2) 形状モデリング(2) 高信頼ソフトウェア開発の形式工学手法(2) 高性能コンピューティング(2) 進化システム論(2) 人工知能特論(2) 数理モデリング特論(2) 線形システム特論(2) 先端網とコンピューティング(2) 多次元信号画像処理(2) 日本語理解 1(2) ※
日本語理解 2(2) ※ 並列及び分散システム(2) 論文の書き方と発表技術(2) 情報科学特別講義 1(アルゴリズムとデータ構造)(2) 情報科学特別講義 2(画像認識特論)(2) 情報科学特別講義 3(オペレーティングシステム)(2) 情報科学特別講義 4(知能メディア処理)(2) 情報科学特別講義 5(音声・音楽処理特論)(2) 情報科学特別講義 6(テキストマイニング特論)(2) 情報科学特別研究 1A/2A(各1) 情報科学特別研究 1B/2B(各2) 情報科学特別演習 1A/1B/2A/2B(各1) 情報科学オープンセミナー 1/2(各2) CIS グローバルセミナー(2) グローバル CIS 特別講義 1/2/3/4(各2) インターンシップ(2)	コンピュータ基礎プロジェクト(2) 情報システムプロジェクト(2) メディア科学プロジェクト(2) 国際インターンシップ(2) コンピュータ基礎特別研究 1A/2A/3A(各1) コンピュータ基礎特別研究 1B/2B/3B(各2) コンピュータ基礎特別演習 1A/1B/2A/2B/3A/3B(各1) 情報システム特別研究 1A/2A/3A(各1) 情報システム特別研究 1B/2B/3B(各2) 情報システム特別演習 1A/1B/2A/2B/3A/3B(各1) メディア科学特別研究 1A/2A/3A(各1) メディア科学特別研究 1B/2B/3B(各2) メディア科学特別演習 1A/1B/2A/2B/3A/3B(各1)

※日本語理解 1、2 は原則留学生対象の授業です。また、日本語理解 1、2 は修了単位 (30 単位) には含まれません。 [2019年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

建築学専攻

募集人員…修士課程55名／博士後期課程2名
開講形態…昼間開講 キャンパス…市ヶ谷
主な進路…建設会社、設計事務所、公務員、住宅建設・生産、不動産・
建物管理、建築材料・設備機器メーカー、建築関係のソフト開発・出版・広告各社、研究所、博士後期課程進学

学際的視点に立った
建築と都市の総合デザイン学を開拓

専門知識と先端技術をベースに、学際的視点による建築と都市の総合デザイン学を追究します。建築デザイン、建築・都市史、建築構造、建築環境、建築構法、という5つの分野をバランス良く網羅しています。学部からの進学率が高く、さらに他大からの入学者が多いのも特徴の一つ。規模と実績のある専攻として、長年にわたり多くの人材を社会に送り出しています。また2013年度には、UIA（国際建築家連合）の求める5～6年間の一貫した建築教育に対応したJABEE（日本技術者教育認定機構）建築系学士修士課程の認定を受けました。

本専攻では、建築と都市に関わる専門職業人（建築家・建築技術者）、教育者・指導者、研究者を養成するため、次の7項目の学習・教育到達目標を掲げています。

1. 総合デザイン(Holistic Design)力
2. 建築・都市に関する歴史・文化的知見
3. 持続可能な社会を目指す職業倫理
4. 安心・安全・快適を実現する専門技術
5. 技術と芸術を統合する視点
6. 高度なIT能力
7. 国際的なコミュニケーション能力

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)	ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)
専門分野に特化した人材、キャリア形成による幅広い人材の育成と、社会人のリカレント教育を重視。これらに対応して修士課程に3コースを設け、それぞれに相応しい人材を受け入れる。1. 選抜1年コース(実績・リカレント対応)、2. 総合2年コース(筆記重視型・作品評価型の両入試方式による専門特化)、3. キャリア3年コース(非建築系卒業者対応)。博士後期課程では学位論文作成に必要な語学力と専門能力を有する適切な人材を受け入れる。	学生が自ら問題を見だし、解決策を探索、創造できるよう、以下のコースとカリキュラムを編成。1. 学部・大学院の教育一貫性(学部生先取り履修、大学院生学部履修、学部・大学院科目の連番配当)、2. 修士3コースに2系のカリキュラム(技術者・研究者養成のラボ系、建築デザイナー養成のスタジオ系)、3. アーキテクトマインドを育む充実したデザインスタジオ教育、4. 豊富な学内外実習科目、5. 自主的活動に対する単位認定、6. 博士にコースワーク設定、7. 成績評価の公正化・公開制、8. 海外交換プログラム。	各課程において所定の単位とコースワークを履修し、かつ必要な研究指導を受けた上、論文の審査と最終試験に合格した者に、修士課程では修士(工学)、博士後期課程では博士(工学)の学位を授与する。これにより、修士課程では総合デザイン力を身に付けた建築・都市デザインに関する高度な専門職業人、博士後期課程ではさらに高度な企画開発能力を有する教育者、研究者、指導者(専門特化型人材)として相応しい学識と人格が涵養されたことを証する。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
赤松 佳珠子 教授	建築設計、意匠	建築空間は、人々の活動を支えると同時に、さまざまな行為を誘発する場でもあります。建築や都市空間をさまざまなフルイド(流動的要素)を通して捉え、新しい時代に向けての建築空間の在り方を探ります。	デザインスタジオ3/9/11、デザインスタジオX、建築インターシップ、海外研修プログラム1、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2
網野 禎昭 教授	建築構法、木造デザイン	建木材の創造的活用	デザインスタジオX、建築インターンシップ、海外研修プログラム2、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2、建築学博士プロジェクト1/2/3、建築学博士研修1/2/3
安藤 直見 教授	建築計画、都市計画	さまざまな建築・都市(例えば、広場とか街路とか)の形態と、その形態が現象させる空間の特質・特性	空間解析特論、建築計画分野研究論考、デザインスタジオ11、建築のしくみ、デザインスタジオX、建築インターンシップ、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2、建築学博士プロジェクト1/2/3、建築学博士研修1/2/3
岩佐 明彦 教授	建築計画	建築・都市空間の使われ方やそこでの人の振る舞いに着目し、場所の持つ機能や魅力を高める手法を研究・実践する	建築計画学概論、デザインスタジオ3/4/9、デザインスタジオX、建築インターンシップ、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2、建築学博士プロジェクト1/2/3、建築学博士研修1/2/3
川久保 俊 准教授	建築環境工学、都市環境工学	サステナブル建築の普及促進方策の検討、公開統計情報に基づく世界の都市の環境性能評価	特殊環境特論、デザインスタジオX、建築インターンシップ、建築学修士研修1、建築学修士プロジェクト1
北山 恒 教授	建築設計、都市デザイン	建築デザイン、都市のリサイクル、脆弱市街地研究	デザインスタジオX、建築インターンシップ、建築学修士研修1、建築学修士プロジェクト1、デザインスタジオ8
下吹越 武人 教授	建築設計、意匠	建築や都市に内在する人間的・文化的現象を解析し、未来を指向する持続性を備えた建築デザインの手法を探索する	デザインスタジオ4/10/11、デザインスタジオX、建築プロフェッショナル総合演習1/2、建築インターンシップ、海外研修プログラム1、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2、建築学博士プロジェクト1/2/3、建築学博士研修1/2/3
高村 雅彦 教授	建築史、都市史	日本を含むアジアの都市史および建築史研究。詳細は以下の研究室ホームページへ。 http://takamura-lab.sakura.ne.jp/	空都市解読方法特論、近現代建築史、建築史分野研究論考、デザインスタジオ11、デザインスタジオX、建築インターンシップ、建築学修士研修1/2、日本建築史風土と建築、建築学修士プロジェクト1/2、建築学博士プロジェクト1/2/3、建築学博士研修1/2/3
出口 清孝 教授	建築環境工学、建築設備	エコロジカルな建築の創造	設備計画概論、建築設備特論、デザインスタジオ8、光・視環境、建築環境分野研究論考、サステナブルデザインデザインスタジオX、建築インターンシップ、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2、建築学博士プロジェクト1/2/3、建築学博士研修1/2/3
浜田 英明 准教授	建築構造学、構造設計	包括的な構造設計手法や理念の探求	デザインスタジオX、建築構造設計演習、建築インターンシップ、建築構造デザイン、海外研修プログラム2、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2
宮田 雄二郎 講師	建築構造	建築構造工学研究室:循環型社会を目指し、環境負荷低減と自然との共生を実現するため、木質構造を研究する。中大規模、高層木造を実現するため、耐震設計法を探究し、また木質材料と鉄骨、鉄筋コンクリートとのハイブリッド構造の有効性を研究する。	建築インターンシップ、デザインスタジオX、建築学修士プロジェクト1/2
吉田 長行 教授	建築構造学、地震工学	建物と地盤系における動的相互作用・波動伝播・動的崩壊・耐震安全性	地震工学概論、構造解析特論、建築構造分野研究論考、材料の力学、デザインスタジオX、建築インターンシップ、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2、建築学博士プロジェクト1/2/3、建築学博士研修1/2/3
渡邊 眞理 教授	建築設計、都市デザイン	現実の建築空間や都市空間は人間の行為と密接に関連している。リアルな建築、リアルな都市から学ぶことでデザインの可能性を広げたい	建築設計特論、アーバンイズム、デザインスタジオ10/11、海外研修プログラム1、海外研修プログラム2、建築計画分野研究論考、デザインスタジオX、建築インターンシップ、建築学修士研修1/2、建築学修士プロジェクト1/2、建築学博士プロジェクト1/2/3、建築学博士研修1/2/3

【2019年度】※年度により授業を持たない場合があります。

研究室紹介

赤松 佳珠子 教授

建築や都市空間をさまざまな要素を通して捉え、新しい時代に向けての建築空間の在り方をさぐります

建築や都市空間をアクティビティ・光・風・音など、さまざまな要素を通して捉えます



建築空間は、人々の活動を支えると同時に、さまざまな行為を誘発する場でもあります。建築の内外を取り巻く環境や空間をアクティビティ（人々の活動）・時間・光・風・音…など、さまざまなフルイド（流動的要素）を通して捉えます。建築とは「もの」から生まれる「こと」と「ひと」との関係を考えること。建築とは「もの」ではなく、「出来事である」という考え方をベースにさまざまな研究や活動を行っています。学生たち自身がどのように建築や社会と関わっていくのか。何をテーマに具体化していくのか。学生自らが主体となってさまざまな課題を設定し取り組んでいます。

※本専攻には、このほかに建築デザイン、建築構造、建築環境、建築構法などの分野を扱う、全部で13の研究室があります。

学生・修了生の声

三浦 康平

修士課程 2017年度修了

学部生の頃から
研究し続けていた
内容を活かし
都市整備に携わっています



進学のかきわけ

学部生の頃に、2020年の東京オリンピック開催に伴う新国立競技場建設問題や、東日本大震災の復興活動など建築と都市の関係性について考えなければならぬ問題がメディアなどで大きく取り上げられ、建築と周辺の都市環境の変化について深く学修したいと思ったことが進学を決意したきっかけです。

現在の業務

現在は住民と行政などの間に立ち、まちづくりを支援する業務についています。まちづくりは、住民の多様な意向を把握しながら、その方向性をまとめていくことが重要です。まちの課題を発見し、地域独自のルールを策定して行くことは、街の新しい魅力を見出すことにもつながり、やりがいがあります。

研究テーマ

団地とその周辺地域を包括的に再生するための手法

修士課程

建築計画学概論(2)
近現代デザイン概論(2)
環境工学概論(2)
景観デザイン概論(2)
地域・都市再生概論(2)
環境技術英語(2)
知的財産権論(2)
現代産業論(2)
海外研修プログラム1(3)
海外研修プログラム2(3)
設備計画概論(2)
建築史概論(2)
地震工学概論(2)
鉄筋コンクリート構造概論(2)
建築構造力学特論(2)
曲面構造特論(2)
構造解析特論(2)
特殊環境特論(2)
建築設備特論(2)
都市解説方法特論(2)
建築設計特論(2)
建築思潮特論(2)
空間解析特論(2)
住宅計画特論(2)
都市形成史特論(2)
デザインスタジオ8~11(各6)
デザインスタジオX(2)
建築プロフェッショナル総合演習1/2(各4)
建築インターンシップ(8)
建築構造デザイン(4)
建築学修士研修1/2(各2)
建築学修士プロジェクト1/2(各3)
特別研究(2)

※この他に、修士課程キャリア3年コースに学部合併科目20科目を設置。

※デザインスタジオ11:飯田善彦大学院客員教授が主に担当する修士設計のためのスタジオ系科目。

博士後期課程

建築構造分野研究論考(2)
建築環境分野研究論考(2)
建築計画分野研究論考(2)
建築史分野研究論考(2)
建築学博士研修1/2(各2)
建築学博士研修3(3)
建築学博士プロジェクト1/2(各2)
建築学博士プロジェクト3(3)

[2019年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修了生の研究テーマ

- ・日欧に観る水の聖地
—信仰・建築・都市からの複合的考察—
- ・これからの地域圏を想像してみる
—大玉村での活動と建築計画案—
- ・街に顕れる修学の環
—遊戯道路を指標とした人間のための街路の構築—
- ・土地所有形態から考察する都市のリサイクル
—東京の木造住宅密集地域におけるケーススタディー—
- ・木ダボ接合によるBrettstapelの挙動解明と解析モデルの提案
- ・RCシェルの高剛性化を目的とした異方性CFRP板の最適補強配置

自然と共生する、 持続可能な都市をデザインする

近年、わが国では社会の基盤整備が進んできたとはいえ、東日本大震災のような未曾有の災害に対するハード・ソフト面でのバランスの取れた対応策はまだまだ不十分な段階にとどまっています。また、建設関連の分野で技術者として要求される資質にも大きな変化が生じてきています。すなわち、地球規模の環境保全、自然や生態系と共生できる都市づくり、循環型・低炭素かつレジリエントな社会の構築など、多面的な課題対応が求められているのです。

本専攻では、従来型の「ものづくり」の枠組みを超え、「総合デザイン力」に根ざした広い視野と豊かな感性による新しい時代の都市デザイン能力を養成します。専門領域を「都市プランニング」「環境システム」「施設デザイン」の3分野に大別し、さまざまな問題点を高い視点から捉えて解決する力を養うためのカリキュラムを用意。国際性を身に付ける外国語科目も重点的に配置しています。また、社会活動や設計・制作の実践力を高める「スタジオ科目」も用意しています。

社会基盤などを設計・建設・整備・管理する最先端の手法を習得し、生活を守る防災技術や自然生態系などとの調和を図りながら環境を保全・再生していくことのできる技術者の養成を目指します。

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)	ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)
建設・環境分野の業態が多様化、国際化している現在、専門に特化した人材のみならず、幅広い能力を持つ人材が求められています。また、急速な技術革新に適応するためには社会人に対するリカレント教育も必要です。こうした要請に応えるため、修士課程に、一般入学制度のほか、一般推薦・社会人特別・外国人学生特別、さらにキャリア3年コースなどの多様な入学制度を設けています。博士後期課程では、学位論文作成に必要な語学力と専門能力を有していることを評価します。	従来型の単なる「ものづくり」の能力という枠組みを超え、新しい時代にふさわしい都市をデザインする、広い視野と豊かな感性を備えた人材を養成することを目指します。このためには、さまざまな問題点を高い視点からの確に捉え、解決する力が必要となるため、修士・博士後期課程とも、専門領域を「都市プランニング」「環境システム」「施設デザイン」の3分野に大別し、高度な能力を持つ技術者・研究者を育てるためのバランスに配慮したカリキュラムを配置しています。	各課程において、所定の単位とプロジェクト科目を履修し、論文の審査ならびに最終試験に合格した者に、修士課程では修士(工学)、博士後期課程では博士(工学)の学位を授与します。修士課程では、都市環境デザイン分野の専門性と創造性、表現力を身に付けた「総合デザイン力」を審査の基準とし、博士後期課程では、都市環境デザイン分野の先端的な研究者あるいは高度な専門技術者としての自立性を審査の基準とします。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
今井 龍一 准教授	都市交通計画、土木情報学	社会空間情報研究室：安心・安全で快適な生活を送るには、都市経営をどのように推進すればよいか？を支援するため、国土空間や都市活動の現状を知る、潜在する事象を発見する、将来を予測する、諸課題への対策を講ずる技術やマネジメント手法を研究する	交通計画、測量学、都市環境デザイン工学研究1/2/3/4
内田 大介 准教授	鋼構造、メンテナンス工学	鋼構造物の長寿命化と維持管理	鋼構造の疲労、都市環境デザイン工学研究1/2/3/4
酒井 久和 教授	地盤地震工学、減災工学	限られた予算内で効率的に地震被害を軽減する方法を研究する	地盤・地下水環境保全学、都市環境デザイン工学基礎2、地盤と環境1、環境システム論、都市環境デザイン工学研究1/2/3/4、都市環境デザイン、工学特別研究1/2/3/4/5/6
鈴木 善晴 教授	水文気象学、水文環境学	集中豪雨などの降水現象の解明とその工学・防災への応用、温暖化や大気汚染を中心とした地球環境問題の影響評価	都市環境デザイン工学基礎1、応用水文学、流域水文学、都市環境デザイン工学研究1/2/3/4、都市環境デザイン特別研究1/2/3/4/5/6
高見 公雄 教授	都市設計、都市デザイン	美しく、ふさわしいまちづくりの追求。気候風土や地形的要素などと都市基盤、土地利用の調和	地域・都市再生概論、サステナブル都市デザイン、都市環境デザイン工学基礎2、都市プランニング論、国土・地域概論、都市環境デザイン工学研究1/2/3/4、デザインスタジオ1/2(都市)、都市環境デザイン工学特別研究1/2/3/4/5/6
福井 恒明 教授	景観計画、景観設計、社会基盤構造物・空間のデザイン	公共空間や構造物のデザイン、景観計画や関連制度のプランニング・マネジメント、景観の認識・評価・歴史など、良好な地域景観の創出・保全の考え方や手法について研究する	都市計画法と政策、景観デザイン概論、都市環境デザイン工学研究1/2/3/4、都市環境デザイン工学特別研究1/2/3/4/5/6
溝渕 利明 教授	コンクリート材料学、構造物診断技術	コンクリートの一生を考える	材料科学概論、耐久性力学、都市環境デザイン工学基礎1、施設デザイン論、コンクリート工学、都市環境デザイン工学研究1/2/3/4、都市環境デザイン工学特別研究1/2/3/4/5/6
道奥 康治 教授	環境水理学、河川工学	河川と流域の水質水理学	流域水マネジメント、環境システム論、都市環境デザイン工学研究1/2/3/4、都市環境デザイン工学特別研究1/2/3/4/5/6
渡邊 竜一 講師	構造デザイン	公共空間・インフラストラクチャーのデザイン	空間情報デザイン、都市環境デザイン工学研究1/2/3/4

〔2019年度〕※年度により授業を持たない場合があります。

研究室紹介

福井 恒明 教授

都市・地域景観の創出や
保全についての
考え方・手法・成果に関する研究

良好な都市・地域景観とは何かを
現場で考え、その創出・保全の
考え方や手法を研究する



拡大・成長の時代が終わり、都市や地域の姿がそれを支える仕組みとともに危機に瀕している現在、都市計画や公共事業に対するニーズは都市の活力の維持や新たな魅力の創出、顕在化へと向いています。これに対応するには、個別地域の歴史や現状を丁寧に理解すると同時に、その特質を生かす戦略や方法を総合的に考える視点が必要です。そうした問題意識に基づき、公共空間や構造物のデザイン、景観計画や関連制度などのプランニング・マネジメント、景観の認識・評価・歴史など、良好な地域景観の創出・保全の考え方や手法について研究し、自治体との協働も行っています。

※本専攻には、このほかに都市プランニング、環境システム、施設デザインの分野を扱う、全部で9の研究室があります。

学生・修了生の声

岩田 峻

修士課程 在学中

研究の専門性を高めながら、
“苦手”を克服できる環境です



私の研究

江戸城外濠の水質を解析するモデルの解析精度の向上に取り組んでいます。この研究を進めることで、現在も問題になっている外濠の水質悪化を改善するための知見を養うなど、現代社会にもつなげることができるのは魅力ですね。データ解析に必要なプログラミング知識も学び始めるなど、今後より専門性を高めていきたいと考えています。

大学院の魅力

学生同士のディスカッションが多く、少人数制での発表が授業の中心になっているため、意見交換や相談がしやすい環境が整っています。僕自身、人前で発表することに苦手意識を持っていましたが、友人との議論や口頭発表を重ねることで少しずつ克服しました。専門性の高い知識を学ぶことだけでなく、様々な刺激を受けて成長できることが大学院の魅力です。

研究テーマ

江戸城外濠における生態系モデルの構築と水質改善策に関する研究

修士課程

建築計画学概論(2)
近現代デザイン概論(2)
環境工学概論(2)
景観デザイン概論(2)
地域・都市再生概論(2)
環境技術英語(2)
知的財産権論(2)
現代産業論(2)
海外研修プログラム1/2(3)
都市環境デザイン工学基礎1/2(各2)
災害リスクマネジメント概論(2)
沿岸防災工学(2)
材料科学概論(2)
都市交通マネジメント(2)
空間情報デザイン(2)
比較都市環境デザイン(2)
自然・環境デザイン(2)
流域水マネジメント(2)
水域環境の保全(2)
応用水文学(2)
自身減災工学(2)
鋼構造の疲労(2)
地盤・地下水環境保全学(2)
社会基盤施設の資産管理(2)
鋼橋の点検・診断・対策技術(2)
複合材料構造解析(2)
ライフサイクルエンジニアリング(2)
耐久性力学(2)
景観とデザイン(2)
計画の可視化(2)
河川環境工学(2)
国土・地域概論(2)
コンクリート工学及演習(2)
鋼構造学及演習(2)
構造力学2(2)
都市計画法と政策(2)
交通計画(2)
地盤環境工学(2)
水理学2(2)
水資源工学(2)
デザインスタジオ(都市)(各3)
耐震工学(2)
プロジェクトスタジオ(2)
流域水文学(2)
有限要素法基礎(2)
測量学(2)
サステナブル都市デザイン(2)
水環境デザイン(2)
構造解析と設計(2)
都市環境デザイン工学研究1/2(各2)
都市環境デザイン工学研究3/4(各3)

博士後期課程

都市プランニング論(2)
環境システム論(2)
施設デザイン論(2)
都市環境デザイン工学特別研究1/2/3/4(各2)
都市環境デザイン工学特別研究5/6(各3)

[2019年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修了生の研究テーマ

・重要文化的景観における生業の実態に関する研究—
「葛飾柴又の文化的景観」を対象として—
・石積み擁壁に対する大変形 SPH-DEM 解析法の開発
・万力林を対象とした水防林の洪水制御機能に関する
水理・流砂解析
・丸太打設によるせん断変形抑制を考慮した液状化対策
効果の検討
・江戸名所図会の挿絵に描かれた江戸の景観構造
・神田神保町における古書店街と教育機関の変遷
—不完全情報による時空間表現手法の検討—

モノづくり、システムづくりの 創生プロセスを総合研究

クリエイションとテクノロジー、マネジメントの融合を目指した新しい概念の創出を目的とした専攻です。工業製品のデザインや機能など、総合的なモノづくりやシステムづくりの創生プロセスを対象に、研究と教育を行っています。プロダクトデザイン、知能機械、シミュレーション、プロジェクトマネジメントなど、さまざまな側面から総合的にユーザビリティを追究します。新しい時代を切り開く分野を担っていくために、一つの専門に偏った研究者ではなく、複雑な社会に存在する諸問題を、多面的に、俯瞰的に見ることのできる技術者や研究者を育成します。

修士課程にはプロジェクト・ベースド・ラーニング(PBL)科目など、新しい教育方法を導入しています。また、高度職業人の育成にも力を入れています。実務経験を持つ社会人が、その経験を生かして高度職業人としての高度な能力を身に付けられるよう、夜間授業や土曜授業を開講し、社会に開かれた大学院を目指しています。

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)	ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)
人文科学・社会科学、自然科学、工学などの知性に基づく合理と、人間の感性に依拠した美との融合を目指す「総合デザイン(Holistic Design)」を志向する人材を幅広く求める。そのため、修士課程では、一般入試、社会人入試、自己推薦入試などによって、その適性、論文や作品の作成能力を評価する。博士後期課程では、学位論文作成に必要な語学力と専門能力を有していることを評価する。	「総合デザイン力」を身に付けた高度専門職、研究者を養成するために、修士課程では、共通基盤科目、基盤科目、専門科目から構成する科目を配置し、幅広い知識の習得が可能である。修士の専門科目は、クリエイション、テクノロジー、マネジメント分野からなり、それぞれの特徴に合わせた履修が可能。また、昼夜開講の専攻として、夜間と土曜日での履修に配慮。博士後期課程では、論文指導や研究だけでなく、専門領域の講義科目を配置し、幅広い視点での問題解決能力の習得を目指す。	修士課程では、所定の単位とプロジェクト科目を履修し、論文の審査ならびに最終試験に合格した者に、修士(工学)の学位を授与する。システムデザイン分野の専門性と創造性、表現力を身に付けた「総合デザイン力」を審査の基準とする。博士後期課程では、所定の講義科目とプロジェクト科目を履修し、論文の審査ならびに最終試験に合格した者に、博士(工学)の学位を授与する。システムデザイン分野の専門性、創造性、新規性を持った研究能力を審査の基準とする。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
安積 伸 教授	インダストリアルデザイン	生活・文化に関する考察、分析を起点とし、社会に新たな価値を問うデザインの研究	コンセプトデザイン論、ヒューマンティデザイン論、デザイン創生学特論、システムデザイン修士研修1/2/3/4、システムデザイン修士プロジェクト1/4、システムデザイン研修プロジェクト2/3、システムデザイン博士研修1/2/3/4/5、システムデザイン博士プロジェクト1/2/3/4/5/6
岩月 正見 教授	スマートマシンデザイン	映像を利用した新しい機能をもつデバイスの設計に関する研究	知能情報技術論、知能システムデザイン特論、システムデザイン修士研修1/2/3/4、システムデザイン修士プロジェクト1/4、システムデザイン研修プロジェクト2/3、システムデザイン博士研修1/2/3/4/5、システムデザイン博士プロジェクト1/2/3/4/5/6
小林 尚登 教授	ロボット工学、メカトロニクス	ウェルビーイングデザインのコンセプトに沿う形で、インテリジェンスメカトロシステムを用いて高度な機能を実現する研究	マンマシンデザイン論、知能システムデザイン特論、システムデザイン修士研修1/2/3/4、システムデザイン修士プロジェクト1/4、システムデザイン研修プロジェクト2/3、システムデザイン博士研修1/2/3/4/5、システムデザイン博士プロジェクト1/2/3/4/5/6
佐藤 康三 教授	インダストリアルデザイン	新しい社会の「質」を生み出すデザイン創造力、デザインにおける人間と「もの」との関係についての研究	インダストリアルデザイン論、システムデザインワークショップ(PBL)、デザイン創生学特論、システムデザイン修士研修1/2/3/4、システムデザイン修士プロジェクト1/4、システムデザイン研修プロジェクト2/3、システムデザイン博士研修1/2/3/4/5、システムデザイン博士プロジェクト1/2/3/4/5/6
竹内 則雄 教授	計算工学	人と環境にやさしく、安全な「もの」や「社会基盤システム」をデザインするための新しい技術の研究	構造デザイン論、シミュレーションデザイン特論、システムデザイン修士研修1/2/3/4、システムデザイン修士プロジェクト1/4、システムデザイン研修プロジェクト2/3、システムデザイン博士研修1/2/3/4/5、システムデザイン博士プロジェクト1/2/3/4/5/6
田中 豊 教授	メカトロニクス	人や環境と調和した次世代の高機能なメカトロシステムをデザインするため、「人」と「もの」と「コンピュータ」を結びつけるメカニズムやアクチュエータに関する研究	知能機械デザイン論、システムデザインワークショップ(PBL)、システムデザイン特別講義、知能システムデザイン特論、システムデザイン修士研修1/2/3/4、システムデザイン修士プロジェクト1/4、システムデザイン研修プロジェクト2/3、システムデザイン博士研修1/2/3/4/5、システムデザイン博士プロジェクト1/2/3/4/5/6
土屋 雅人 教授	インタフェースデザイン	高度な感性価値の実現を目指す次世代ヒューマンインタフェースのデザイン研究	インタフェースデザイン論、デザイン創生学特論、システムデザイン修士研修1/2/3/4、システムデザイン修士プロジェクト1/4、システムデザイン研修プロジェクト2/3、システムデザイン博士研修1/2/3/4/5、システムデザイン博士プロジェクト1/2/3/4/5/6
西岡 靖之 教授	知識工学、情報工学、生産工学	製造業のIT利活用、生産計画や製品設計とスケジューリングを統合させるAPS(先進的計画スケジューリング)に関する研究	プロダクションデザイン論、システムデザインワークショップ(PBL)、システムマネジメント特論、システムデザイン修士研修1/2/3/4、システムデザイン修士プロジェクト1/4、システムデザイン研修プロジェクト2/3、システムデザイン博士研修1/2/3/4/5、システムデザイン博士プロジェクト1/2/3/4/5/6
野々部 宏司 教授	オペレーションズ・リサーチ、組合せ最適化	問題解決のための最適化手法の開発とその応用に関する研究	マネジメントサイエンス論、システムマネジメント特論、システムデザイン修士研修1/2/3/4、システムデザイン修士プロジェクト1/4、システムデザイン研修プロジェクト2/3、システムデザイン博士研修1/2/3/4/5、システムデザイン博士プロジェクト1/2/3/4/5/6

【2019年度】※年度により授業を持たない場合があります。

研究室紹介

佐藤 康三 教授

プロダクトデザインの造形研究
(製品意匠設計)、言語と造形の関係

プロダクトデザインを
創出する言語から見える
新たなモノ・コトの
あり方を研究する



プロダクトデザインは感性、思惟、形象という基本的な知的思考なしには制作できません。モノ、コト(各種事象)は単独では存立しません。全てのモノ、コトはそれらを取り巻く他との関係によって初めてそのものの存在意義・価値が見出されていきます。また、人間とそれらの関係は、時代と共にたえず変化しています。特に今日、時代の価値観は大きく変貌し始めています。人間とモノ、コトとの新しい関係の創出を目指し、新しい「美」、新しい「技術」、そして新しい社会の「質と価値」を生み出すための仮説を可視化し、新時代に求められるさまざまな解決策をプロダクトデザインの思想より研究していきます。

※本専攻には、このほかにテクノロジーやマネジメントなどの分野を扱う、全部で9の研究室があります。

学生・修了生の声

近藤 瞳

修士課程 2012年度修了

技術や知識の探求は
もちろん、業務を円滑に
行うための手法も
身につきました



学んだこと・身についたこと

他大学との交流、学会参加を通して、他者とのコミュニケーションや自分の意見のまとめ方、伝え方が身につきました。特に教授からの論文の赤字添削やプレゼンテーションのフィードバックは、現在の業務でもある複数部署との連携した議論やその準備に活かされていると実感しています。技術や知識だけでなく業務を円滑に進める手法を身につけられたことは良い経験だと感じています。

法政大学大学院を目指す方へのメッセージ

将来どのような人になりたいか、どのような仕事を行いたいかといった目標を持つことが大切です。私も研究がうまく進まないタイミングもありましたが、周りにいる教授や研究室の仲間と意見を交換することで、新たな気づきにつながり、前に進むことができました。大学院での研究活動は知識の探求だけでなく、多くの方々と触れ合いを通じて貴重な経験ができることが魅力ですよ。

研究テーマ

静圧空気軸受を用いた平面アクチュエータによる三脚
パラレルメカニズムの特性評価

修士課程

建築計画学概論(2)
近現代デザイン概論(2)
環境工学概論(2)
景観デザイン概論(2)
地域・都市再生概論(2)
環境技術英語(2)
知的財産権論(2)
現代産業論(2)
海外研修プログラム2(3)
技術英語演習(3)
テクニカルライティング(2)
プレゼンテーション技法(2)
ヒューマンサイエンス論(2)
コンピュータサイエンス論(2)
生態系デザイン論(2)
身体表現論(2)
システムデザイン特別講義(2)
ソシオシステムデザイン論(2)
インダストリアルデザイン論(2)
ヒューマニティデザイン論(2)
インタフェースデザイン論(2)
製品デザイン原論(2)
マンマシンデザイン論(2)
知能機械デザイン論(2)
知能情報技術論(2)
構造デザイン論(2)
生産システム経営論(2)
プロダクションデザイン論(2)
マネジメントサイエンス論(2)
システム工学論(2)
品質マネジメント論(2)
システムデザインワークショップ(PBL)(2)
システムデザイン修士研修1/2/3/4(各1)
システムデザイン修士プロジェクト1/4(各2)
システムデザイン修士プロジェクト2/3(各1)
システムデザイン修士研修1/2/3/4(各1)

博士後期課程

デザイン創生学特論(2)
知能システムデザイン特論(2)
シミュレーションデザイン特論(2)
システムマネジメント特論(2)
システムデザイン博士研修1/2/3/4/5(各1)
システムデザイン博士プロジェクト
1/2/3/4/5/6(各1)

[2019年度] ※開講科目は年度により異なります。(1) = 単位数

修了生の研究テーマ

- ・粒子法による波浪解析のための造波システムに関する基礎的研究
- ・音楽によるストレス自己制御の可能性について
- ・トラヒックを活用した「役に立たない情報端末」の制作について
- ・機械学習を用いた画像判別システムによる梨農家の品質管理の研究
- ・歩行感覚提示のための足底刺激デバイスに関する研究
- ・光の揺らめきを用いたアンビエントライトの制作
- ・深層学習を用いた話者特定システムの検討
- ・パラレルメカニズムを用いたステージ可動式プリンタに関する研究 一皿のような立体形状への彩色
- ・弓道所作を取り入れた照明器具の制作
- ・弓道精神解釈による表現手法の創出について
- ・睡眠時の無侵襲測定装置の開発と引き込み現象を用いた深い眠りへの誘導

機械工学専攻

募集人員…修士課程50名／博士後期課程2名
開講形態…昼間開講 キャンパス…小金井
主な進路…トヨタ自動車、日本車両、IHII、SUBARU、
住友重機械工業など

いつの時代も
キー・テクノロジーであり続ける機械工学

今、産業界はめざましく変化しています。しかし、時代が変化しても、機械工学が産業を支えるキー・テクノロジーであり続けることに変わりはありません。本専攻では、機械工学の柱となる材料力学、機械力学、熱力学、水力学などの専門科目に加えて、機能性材料、宇宙工学、環境エネルギー工学などの先端的な講義や研究指導を行っています。また、時代に対応して、常にかリキュラムを革新しています。

修士課程においては、高度な研究・開発を担うことのできる能力を、博士後期課程においては、独創的な研究能力を備え、より高度な研究・開発を担うことのできる能力を養成することが目標です。

幅広い視野を持ち、21世紀の産業と市民社会の期待に応え得る、技術のプロフェッショナルの育成を目指しています。

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)	ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)
機械工学に関する高度な専門知識を有し、かつ先端的、学際的な分野にも対応し得る技術者および研究者の育成を目的とする。そのため、自然科学の知識を基礎にして、機械工学の専門分野を構成する諸分野の基礎知識を全般的に習得し、機械工学の発展に貢献することを強く望む学生を受け入れている。また、特別入試制度により、科学技術の急速な発展に順応すべく再教育を望む社会人や、グローバル化の中で日本の先進技術の習得を望む外国人も受け入れている。	機械工学分野を構成する各専門分野の、高度で最先端の内容の講義科目を設置。さらに各分野で著名な学外からの講師の協力も得て、複数の専門分野を相互に応用した学際的領域の科目を多数用意している。これらの科目を修士課程(博士前期課程)で履修すると同時に、修士論文につながる専門性の高い研究に取り組む。また、博士後期課程では、機械工学分野の研究者として自立した環境の中で研究に取り組み、さらに学内外の研究活動を通じて豊かな学識を養う。	機械工学分野を中心とした研究能力、または高度の専門性を要する職業などに必要な能力を身に付けた人材の養成を目的としている。修士課程(博士前期課程)では、すべてのものづくりの基盤となる機械工学に関する高度な専門知識を有し、かつ先端的、学際的な分野にも対応し得る柔軟で幅広い視野を持った技術者を育成する。さらに博士後期課程では、独創的な研究能力を備え、高度な研究、開発を担うことのできる機械技術者や研究者を養成する。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
新井 和吉 教授	複合材料、宇宙構造材料、材料強度学、化学装置材料、数値解析	耐スペースデブリ用軽量小型複合パンパの開発、野球用ヘルメットとバットの耐衝撃性能	複合材料特論、機械工学特別研究1/2、機械工学特別実験1/2
石井 千春 教授	制御工学、ロボット工学	内視鏡手術ロボットや筋電義手・パワーアシストスーツなどの医療・福祉工学に関連するロボットの研究・開発	機械力学特論、機械工学特別研究1/2、機械工学特別実験1/2
大澤 泰明 教授	先端材料工学	Al、Ti、Mg、Li合金などの軽量金属板材の加工技術開発	応用塑性学特論、機械工学特別研究1/2、機械工学特別実験1/2
川上 忠重 教授	燃焼工学、エネルギー変換工学	小型ディーゼル機関の植物油系混合燃料による燃焼生成物低減に関する研究	燃焼工学特論、応用熱力学特論、環境エネルギー技術戦略特論、機械工学特別研究1/2、機械工学特別実験1/2
崎野 清憲 教授	材料強度学、衝撃工学、破壊力学、材料物性	構造材料の衝撃変形特性(金属、非金属の高速変形機構)、高分子系複合材料の衝撃損傷(損傷箇所の超音波深傷)	衝撃破壊工学特論、機械工学特別研究1/2、機械工学特別実験1/2
チャピ ゲンツイ 教授	制御工学、ロボット工学	人間支援ロボティクス、知的制御システムの研究・開発	制御工学特論、機械工学特別研究1/2、機械工学特別実験1/2
塚本 英明 教授	耐熱材料、金属工学、マイクロメカニクス	新構造・機能性材料の開発、傾斜機能材料、ヘテロ構造体の高温変形、マイクロメカニクスに基づく多相材料設計、塑性加工を活かした新材料開発	弾性学特論、機械工学特別研究1/2、機械工学特別実験1/2
辻田 星歩 教授	数値流体工学、流体機械	モデル流路によるターボ機械内部流れの損失生成機構の解明、高負荷タービン翼列内の流れの解析、遠心圧縮機羽根車内の流れの数値解析	流体力学特論1、機械工学特別研究1/2、機械工学特別実験1/2
平野 元久 教授	デジタルエンジニアリング、設計基礎論	摩擦の原子論、設計科学シミュレーション	摩擦の原子論特論、機械工学特別研究1/2、機械工学特別実験1/2
御法川 学 教授	音響工学、流体工学	小型ファンの静音化および音質向上、サイレンサの性能向上、超小型ターボ機械の開発、小型航空機に関する研究など	機械音響工学特論、航空機設計特論、機械工学特別研究1/2、機械工学特別実験1/2
吉田 一郎 教授	設計工学、計測工学、トライボロジー、製品開発工学、生産技術	表面性状・粗さ解析、精密計測ロボット、画像認識、画像処理、知能機械学、エモーショナルデザイン、生産管理に関する研究	精密工学特論、機械工学特別研究1/2、機械工学特別実験1/2
相原 建人 准教授	機械力学、機構学	自動車用ねじり振動低減装置に関する研究、遊星歯車の高効率化・静粛化に関する研究、非線形振動に対する理論解析法の構築	機械振動学特論、機械工学特別研究1/2、機械工学特別実験1/2

〔2019年度〕※年度により授業を持たない場合があります。

研究室紹介

辻田 星歩 教授

ターボ形流体機械の
空気力学的性能の向上に
関する研究

航空用や発電用のガスタービン
を構成する翼列内の複雑な流れ
の挙動を解明

現代人の生活に欠かせない電気を作り出すガスタービンや、航空機の推進力を生むジェットエンジンは、化石燃料の枯渇化や二酸化炭素排出量削減などの環境問題に対処するために、さらなる性能の向上が急務とされています。当研究室では、これらを構成する圧縮機やタービン翼列の空気力学的性能の向上を目的に、その内部の複雑な流れの挙動を実験と数値解析により解明し、損失を低減させる方法を調査しています。また、自然災害時などの非常用電源や分散型発電システムとして、燃料多様性に富んだマイクロガスタービンは非常に有効であり、ガスタービンの小型化を目指した研究も行っています。



学生・修了生の声

西口 誠人

博士後期課程 2014年度修了
千代田化工建設株式会社

大学院で培った自主性と
研究に対する責任感、
将来は世界のエネルギー産業の
第一人者を目指す



学んだこと、身に付いたこと

大学院では自由な時間が多くなり、学ぶゆとりと選択肢が多いことに魅力を感じました。私の例では先生にインターンシップ先を紹介していただき、実務を通してプレゼンテーション技術など仕事に必要なスキルを習得したり、騒音関係の国家資格取得を通して専門性を身に付けることができました。その他にも海外留学などの選択肢もありますので、自身の目標に対し真っすぐに進める環境が整っているのが魅力です。

将来の目標

現在は千代田化工建設株式会社にエネルギーや化学関係のプラントを中心に振動問題のコンサルティングを仕事にしています。海外顧客を対象とすることも多く、文化や人間性の違いまで考慮して業務にあたることに苦労しますが、同時に世界中のエネルギー産業に大きく貢献できているやりがいも感じています。将来は世界中で仕事する技術コンサルタントになり、この業界の第一人者になりたいと考えています。

研究テーマ

小型軸流ファンの音質評価に関する研究

修士課程

弾性学特論(2)
応力解析特論(2)
金属材料学特論(2)
耐熱材料特論(2)
応用塑性学特論(2)
材料強度学特論(2)
非金属材料特論(2)
複合材料特論(2)
精密機械特論(2)
制御工学特論(2)
機械音響工学特論(2)
熱動力特論(2)
燃焼工学特論(2)
伝熱工学特論(2)
応用熱力学特論(2)
流体力学特論1/2(各2)
流体機械特論1/2(各2)
衝撃破壊工学特論(2)
鉄鋼材料工学特論(2)
機械技術英語特論(2)
人間・感性工学特論(2)
航空機設計特論(2)
宇宙飛行体特論(2)
資源環境物理学特論(2)
極地環境学特論(2)
環境エネルギー技術戦略特論(2)
機械力学特論(2)
熱・反応流体特論(2)
航空宇宙材料特論(2)
数値解析法特論(2)
プロセス制御特論(2)
摩擦の原子論特論(2)
機械振動学特論(2)
精密工学特論(2)
機械工学特別研究1/2(各3)
機械工学特別実験1/2(各2)

博士後期課程

ヒューマンロボティクス
特別研究1/2/3(各3)
ヒューマンロボティクス
特別実験1/2/3(各2)
マテリアルプロセッシング
特別研究1/2/3(各3)
マテリアルプロセッシング
特別実験1/2/3(各2)
環境・エネルギー特別研究1/2/3(各3)
環境・エネルギー特別実験1/2/3(各2)
航空宇宙熱流体特別研究1/2/3(各3)
航空宇宙熱流体特別実験1/2/3(各2)
材料物性・強度特別研究1/2/3(各3)
材料物性・強度特別実験1/2/3(各2)
デジタルエンジニアリング
特別研究1/2/3(各3)
デジタルエンジニアリング
特別実験1/2/3(各2)
機械工学発展ゼミナール(2)

【2019年度】※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

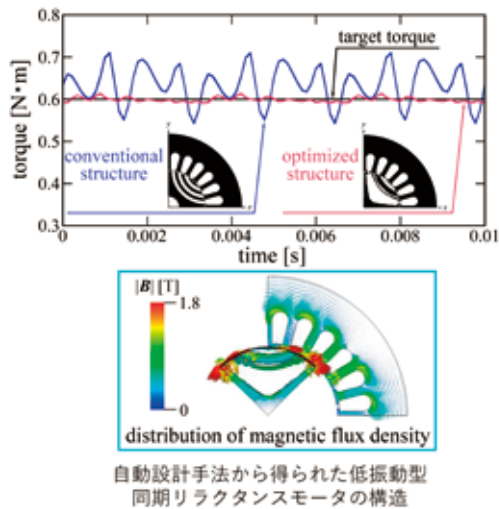
修了論文の研究テーマ例

- ・軽量金属製中空構造体のRB/GIFによる製作
- ・静的引張りを付加した繰返しねじり下における環状切欠き材のひずみ集中評価法
- ・バードストライクにおける擬似鳥材料とCFRP損傷機構の検討
- ・HCCI機関の燃焼改善に関する研究
ー特に燃料性状の影響についてー
- ・6自由度マニピュレータによる作業物体の3次元非把持搬送
- ・スモールファンの最適設計手法に関する研究
- ・SS400の高ひずみ速度域における変形応力のひずみ速度依存性
- ・超高負荷タービン円環翼列の空力性能評価

現代の科学技術を支える先端技術を、 基礎から応用まで

マルチメディア、携帯端末、新世代コンピュータ、人工知能、ロボティクス、マイクロマシン、ナノエレクトロニクス、ニューマテリアル、地球にやさしいエネルギー、これらのキーワードはすべて電気電子工学と関連しています。

本専攻では、回路、通信、エネルギー、制御、電子材料、電子物性などの電気電子工学分野に重点をおき、マイクロ・ナノテクノロジー研究センターなどの最新設備を利用しながら、現代の科学技術を支える先端技術の基礎から応用までの研究・教育を行っています。修士課程では、深い学識と、高度専門技術者に必要な能力を養うことを目標とし、社会に有益な先端技術として還元する能力を有する人材を育成します。博士後期課程では、豊かな学識を実際の研究成果に結実させることにより研究者養成を目標としています。毎年、国内外で数多くの論文を発表し、研究成果が社会に有益な技術として還元されることを目指しています。



専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
伊藤 一之 教授	知覚情報処理・知能ロボティクス、 知能機械学・機械システム、 システム工学	強化学習の汎化に関する研究、操作性を考慮したレスキューロボットの開発、生態心理学の自律ロボットへの応用	知能ロボット特論、知的制御特論、電気電子工学特別研究1/2、電気電子工学特別実験1/2
岡本 吉史 教授	電気機器工学	有限要素法等による電磁界数値解析手法の開発、トポロジー最適化手法の確立と電気機器設計への応用、マルチフィジクス連成解析、高速大規模電磁界解析を目的とした並列アルゴリズムの研究	応用電磁気学特論、電気電子工学特別研究1/2、電気電子工学特別実験1/2
斎藤 利通 教授	非線形回路、ニューラルネット、 群知能、パワーエレクトロニクス	スパイクニューラルネットの動作解析と信号処理への応用、再生可能エネルギー供給回路の現象解析と動作最適化、リコンフィギュラブル多機能デジタル回路の合成、カオス発生回路の合成と分岐現象の解析	回路工学特論2、 電気電子工学特別研究1/2、 電気電子工学特別実験1/2
里 周二 教授	電力エネルギー工学、 高電圧工学、数値電界解析	高電圧・大電流計測のための国際規格の設立及び改訂、インパルス波形のデジタル計測と波形パラメータ解析	電磁力学特論、電力システム工学特論1/2、 電気電子工学特別研究1/2、 電気電子工学特別実験1/2
柴山 純 教授	機能素子工学	テラヘルツデバイス、センサデバイスの開発、 高効率差分時間領域法	情報通信工学特論、 電気電子工学特別研究1/2、 電気電子工学特別実験1/2
鳥飼 弘幸 教授	複雑システム工学、 知能システム工学	生物模倣ハードウェア、脳型コンピュータ、 神経補綴デバイス、人工内耳デバイス、 ゲノム医療支援用大規模シミュレータ	電気電子工学特別研究1/2、 電気電子工学特別実験1/2
安田 彰 教授	電子回路工学、制御工学	通信・情報処理機能やインターフェイス機能等を半導体上に集積するための基礎技術および応用技術についての研究、スピーカ、モータ等アクチュエータのデジタル直接駆動方式の基礎技術および半導体を用いた実装技術の研究	回路工学特論1、 電気電子工学特別研究1/2、 電気電子工学特別実験1/2
山内 潤治 教授	通信伝送工学、電磁波伝送工学	光波伝送工学、サブ波長光学素子の開発、表面波伝送素子のアンテナへの応用、光ナノアンテナ、メタサーフェスの電磁波通信システムへの応用	通信伝送工学特論1/2、 電気電子工学特別研究1/2、 電気電子工学特別実験1/2
川口 悠子 准教授	米国現代史・日本現代史	第二次世界大戦（特に広島原爆被害）をめぐる歴史認識	科学技術文技法
中村 壮亮 准教授	知覚情報処理・知能ロボティクス、 無線送電・電力工学、 システム工学	人間拡張ロボティクスに関する研究（VR身体への没入感向上、個人適合型のヘルスケア、ライフログによる知能増幅、科学的スポーツトレーニング）とその電源となる無線送電に関する研究（可変形コイル、漏洩磁界抑制、送電ロボット）	知能システム化技術特論、 電気電子工学特別研究1/2、 電気電子工学特別実験1/2
中村 俊博 准教授	ナノ光物性工学	次世代発光デバイスへの応用に向けた半導体ナノ材料、半導体ランダムレーザー、プラズモニクス発光制御、無機蛍光体材料に関する研究	電子物性工学特論1/2、 電気電子工学特別研究1/2、 電気電子工学特別実験1/2
西村 征也 准教授	プラズマ物理学、核融合工学	核融合プラズマにおける電磁流体力学的不安定性に関する研究、地球磁気圏におけるプラズマ波動とオーロラに関する研究	電磁力学特論、電気電子工学特別研究1/2、 電気電子工学特別実験1/2

[2019年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

電気電子工学専攻

Graduate School of Science and Engineering Major in Electrical and Electronic Engineering

募集人員…修士課程50名／博士後期課程5名
開講形態…昼間開講 キャンパス…小金井
主な進路…日本電気、本田技研工業、日立製作所、トヨタ自動車、
富士通、三菱電機、NTT、セイコーエプソン

研究室紹介

中村 俊博 准教授

ナノ光物性工学

次世代発光デバイスへの 応用に向けた ナノ光物性 工学に関する研究



本研究室では、半導体ナノ材料などの新奇材料と光の相互作用に基づくユニークな光物理現象（ナノ光物性）の工学的応用を目指した研究を行っています。主に、超低コストレーザ光源の実現に向けた半導体ランダム構造を用いたレーザの開発、環境に優しい発光デバイスの実現を目指した半導体ナノ結晶発光材料の開発とその光物性の評価、白色LED・放射線センサなどへの応用に向けた無機蛍光体の開発、発光デバイスの効率改善に資する金属ナノ構造の表面プラズモン現象を利用した光材料の発光制御などに取り組んでいます。以上に関する研究成果は、著名な国際雑誌に掲載されており世界的に評価されています。

学生・修了生の声

望月 典樹

博士後期課程 在学中

VRの社会インフラ化を 目標に「VRと人間拡張」の 研究領域で成果を上げて いきたいです



私の研究

バーチャルリアリティでは、アバターや遠隔ロボット等の操作対象の形状が自身と異なる場合に、その操作性が低下します。この問題を解決するために、人間の脳の可塑性に着目し、身体形状を記憶する脳内イメージを通常の身体からバーチャルな身体へと変更する手法を提案し、有効性の検証を行っています。

将来の目標

VRの社会インフラ化を目標に、実環境との差異が少なく、誰もが快適に利用できるVRシステムの研究開発に着手したいと考えています。そのために、分野を横断した先端的な技術を身に付け、人間のメカニズムについての知識を深めつつ、「VRと人間拡張」の研究領域において成果を上げていきたいです。

研究テーマ

VRと人間拡張：身体図式の制御によるバーチャル
身体の実操作性最適化

修士課程

回路工学特論 1/2 (各2)
電磁波通信工学特論 1/2 (各2)
通信伝送工学特論 1/2 (各2)
応用電磁気学特論 (2)
電磁力学特論 (2)
半導体デバイス工学特論 1/2 (各2)
電子材料工学特論 1/2 (各2)
電子物性工学特論 1/2 (各2)
知能ロボット特論 (2)
知的制御特論 (2)
集積回路特論 1/2 (各2)
半導体工学特論 (2)
半導体プロセス工学特論 1 (各2)
イオンビーム応用工学特論 (2)
電力システム工学特論 1/2 (各2)
パワーエレクトロニクス特論 (2)
制御工学特論 1/2 (各2)
情報伝送工学特論 1/2 (各2)
応用数学特論 (2)
コンピュータ・グラフィックス特論 (2)
通信機器工学特論 1/2 (各2)
集積化光エレクトロニクス工学特論 (2)
オペレーティングシステム特論 (2)
マイクロ波トランジスタ工学特論 (2)
知能システム化技術特論 (2)
ロボティクスシミュレーション特論 (2)
電気機器の数理最適化特論 (2)
ナノ材料工学特論 (2)
機械学習特論 (2)
光電変換デバイス工学特論 1/2 (各2)
電気化学エネルギー工学特論 (2)
生体センシングエレクトロニクス特論 (2)
マルチメディア通信特論 (2)
情報通信工学特論 (2)
有機エレクトロニクス工学 (2)
電子材料プロセス (2)
電気電子工学特別研究 1/2 (各3)
電気電子工学特別実験 1/2 (各2)

博士後期課程

回路工学特別研究 1/2/3 (各3)
回路工学特別実験 1/2/3 (各2)
通信工学特別研究 1/2/3 (各3)
通信工学特別実験 1/2/3 (各2)
プラズマ工学特別研究 1/2/3 (各3)
プラズマ工学特別実験 1/2/3 (各2)
電子材料工学特別研究 1/2/3 (各3)
電子材料工学特別実験 1/2/3 (各2)
電子物性工学特別研究 1/2/3 (各3)
電子物性工学特別実験 1/2/3 (各2)
制御工学特別研究 1/2/3 (各3)
制御工学特別実験 1/2/3 (各2)
エネルギー工学特別研究 1/2/3 (各3)
エネルギー工学特別実験 1/2/3 (各2)
回路工学コアスタディ (2)
通信工学コアスタディ (2)
マイクロ・ナノ工学コアスタディ (2)
エネルギー工学コアスタディ (2)
制御工学コアスタディ (2)
プラズマ工学コアスタディ (2)

[2019年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修士論文の研究テーマ例

- ・拡散符号を用いたデジタル直接駆動スピーカにおけるEMI低減手法
- ・高電圧マルチレベル圧電セラミック駆動CMOS回路の高性能化
- ・動的バイナリニューラルネットの学習と応用
- ・操作性を考慮した半自立ヘビ型レスキューロボットの開発
- ・蟻の採餌行動に基づく献立検索アルゴリズムの開発
- ・サブ波長三角形孔配列を用いた偏波変換器の透過特性
- ・金属メッシュを用いたTHz波センシング高効率FDTD法の開発
- ・トポロジー最適化手法によるIPMモータのフラックスバリア設計
- ・磁気ヒステリシス現象の測定とモデリング
- ・半導体ナノ結晶の新奇創製レーザプロセスの開発と発光物性の評価
- ・酸化物半導体のプラズモニクス発光制御

応用情報工学専攻

募集人員…修士課程50名／博士後期課程4名
開講形態…昼間開講 キャンパス…小金井
主な進路…トヨタ自動車、NTT東日本、NEC、NTTコミュニケーションズ、リコー、NTTデータ、ソフトバンク、オリンパス、日本ビュレレット・バックカード、セコム、オービック、京セラ

情報化社会の第一線を担う、高度な技術者・研究者に

情報通信技術は、インターネットの爆発的な普及、それを支えるワイヤレス&ブロードバンドネットワークにより、急速に発展し続けています。この技術は進歩が非常に速く、特に最近はクラウドコンピューティングによるイノベーション、デバイスの高性能化、小型化によるIoT (Internet of Things) の普及、さらにはヒューマンインタフェースや画像処理応用技術の高度化が急激に進行中です。本専攻はこのような技術を対象としており、「計算機工学」「情報ネットワーク工学」「情報処理工学」「人間情報工学」の4つの分野から構成されます。「計算機工学」では、重要な基盤領域である計算機の高速度化、効率化、知能化を目指したアーキテクチャや、アルゴリズムおよびプログラミングが、「情報ネットワーク工学」では、インターネットに代表される多数の計算機がネットワークを介して結合しWebなどを通じて情報処理を行う高度なネットワーク技術が研究対象です。「情報処理工学」では、計算機やネットワークを利用した応用には欠かせない画像処理や知能処理などの情報処理技術を、「人間情報工学」では、計算機をより使いやすく身近なものにするための人間と計算をつなぐ技術を研究対象としています。本専攻では、応用情報工学分野の多彩な教授陣を有し、学会誌や国際会議での論文発表なども活発です。昨今、マーケティング分野からの消費スタイルに合わせた場(=コト)づくりの重要性が指摘されています。「コトづくり」に適した「モノづくり」に携わるための幅広い専門基礎学力と独創的能力を持ち、技術の発展に指導的役割を担う技術者・研究者の育成を目的としています。

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)	ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)
応用情報工学は、高度情報社会を支える重要な基盤技術である。この基盤技術の基礎を学んだ応用情報工学系の学部卒業生、この分野で一定の勤務実績がある社会人、および留学生などを受け入れる。社会人、留学生に対しては特別入学試験制度を設けている。	研究分野は「計算機工学」「情報ネットワーク工学」「情報処理工学」「人間情報工学」から構成されており、応用情報工学において実用的かつ高度なハードウェアやシステムの開発の知識や技術を習得し、研究能力を高められるように構成されている。修士課程、博士後期課程ともに、国内外の学会での研究発表、論文執筆を積極的に奨励し、最先端かつ実践的な活動を通じて指導を行っている。	修士課程では、応用情報工学における学問的な基礎だけでなく応用力やシステム開発力を重視し、産業分野で実際に活用するための広い視野に立った学識と高い研究能力を有することを基本方針としている。博士後期課程では、自立して世界最先端かつ創造的な研究活動を行うことができる高度な研究能力と実践で通用する広い応用力を有することを学位授与の方針としている。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
赤松 茂 教授	画像認識・生成、感性情報学	画像認識・生成技術に応用したヒトに優しいヒューマンインタフェースの開発、視覚に関わるヒトの感性情報処理の計測とモデル化によるヒューマンコミュニケーションメカニズムの解明、とくに、画像工学を応用してヒトによる顔認知のメカニズムを探る	感性情報処理システム特論1/2、 応用情報工学特別研究1/2、 応用情報工学特別実験1/2
彌富 仁 教授	知的情報処理、画像認識・解析、医用工学	機械学習、認識・理解 (deeplearning)、医用工学、ネットワークをベースとした新しい価値の創造	知的情報処理特論1/2、科学技術文技法、 応用情報工学特別研究1/2、 応用情報工学特別実験1/2
尾川 浩一 教授	画像工学	医学および工業への応用を目的としたトモグラフィー理論および画像工学理論の展開	画像工学特論1/2、 応用情報工学特別研究1/2、 応用情報工学特別実験1/2
金井 敦 教授	情報ネットワーク、セキュリティ	安心安全で便利なネットワークサービス技術の創出を目的とした情報セキュリティ、ネットワークセキュリティ、ネットワークサービス等の研究	通信ネットワーク特論1/2、 応用情報工学特別研究1/2、 応用情報工学特別実験1/2
品川 満 教授	情報通信工学、ユビキタス	人にも地球環境にもやさしいユビキタスネットワークの実現に向けた情報通信技術の研究	無線ネットワーク特論1/2、 応用情報工学特別研究1/2、 応用情報工学特別実験1/2
藤井 章博 教授	分散システム設計論	ソフトウェア工学、ネットワークサービス技術、電子商取引、インターネットイノベーション、科学技術政策	分散処理システム特論1/2、 応用情報工学特別研究1/2、 応用情報工学特別実験1/2
八名 和夫 教授	生体信号処理、 時系列信号処理・パターン認識	心拍変動による自律神経状態推定、 心電図による突然死リスク評価、 ネットワークトラフィック需要予測	情報信号処理工学特論1/2、 応用情報工学特別研究1/2、 応用情報工学特別実験1/2
李 磊 教授	コンピュータサイエンス	高速アルゴリズム、並列アルゴリズム、遺伝的アルゴリズム、ニューロコンピューティング、強化学習アルゴリズム等の設計、解析及び応用	離散アルゴリズム特論1/2、 科学技術文技法、応用情報工学特別研究1/2、 応用情報工学特別実験1/2
和田 幸一 教授	理論計算機科学	故障耐性の優れた並列分散システムの効率的設計、 並列分散アルゴリズム、教育支援システム	計算機システム工学特論1/2、 応用情報工学特別研究1/2、 応用情報工学特別実験1/2
平原 誠 准教授	脳情報処理、視覚心理、最適化	運動視や記憶に関する工学的および心理学的研究、 組合せ最適化(メタヒューリスティクス)	脳情報処理特論1/2、 応用情報工学特別研究1/2、 応用情報工学特別実験1/2
宮本 健司 准教授	コンピュータソフトウェア	セマンティックWebによるプログラム開発支援、 投影映像による仮想世界インタフェース	形式的設計特論1/2、 科学技術文技法、応用情報工学特別研究1/2、 応用情報工学特別実験1/2

[2019年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

研究室紹介

品川 満 教授

光と電気の融合による 革新的なネットワークの実現

人のからだを通信路とする 新たなインタフェース技術



人にも地球環境にもやさしい空間を実現するために、光と電気を融合した革新的なネットワーク技術を研究しています。人のからだは通信ケーブルになり、コンピュータとの新たなインタフェースになることを知っていますか？

人のからだは通信ケーブルになると、握手しただけで自動的に名刺データが交換されたり、カードを取り出さずに歩くだけでゲートを通過できたり、不思議で便利なサービスが実現されます。この技術を用いてフラップゲートのない近未来型ウォークスルー改札を企業が開発中であり、品川研では基礎研究の面からその開発をサポートしています。企業との共同研究により、スキルアップだけでなく、自然に社会人力も身につく研究室です。

学生・修了生の声

脇 綾汰

修士課程 2018年度修了

課題をチームで解決する 経験は、研究への モチベーションに つながります



学んだこと・身についたこと

研究を通して、課題を明確化し、解決に向けて実行する能力が養われたと実感しています。応用情報工学は汎用性が高いため共同研究も多く、チームで研究することもしばしば。仲間と議論を加え、課題発見から解決までの道筋を経験できたことは“相手に伝える力”を学ぶ上でもとても良い経験ができたと感じています。

私の研究

昔から使用されている、いわゆる基盤技術から最先端の技術まで幅広く学んでいます。新しい知識を得ることは単純に興味深く、また課題解決の一助を経験したときの達成感は大きくさらなる知識欲を刺激され、挑戦心のモチベーションにもつながりますね。今後も多くのことに挑戦し、さらなる知見を広げたいと思います。

研究テーマ

風評判定を自動化するシステムの構築

修士課程

離散アルゴリズム特論1(2)
離散アルゴリズム特論2(2)
形式的設計特論1(2)
形式的設計特論2(2)
計算機システム工学特論1(2)
計算機システム工学特論2(2)
通信ネットワーク特論1(2)
通信ネットワーク特論2(2)
分散処理システム特論1(2)
分散処理システム特論2(2)
無線ネットワーク特論1(2)
無線ネットワーク特論2(2)
情報信号処理工学特論1(2)
情報信号処理工学特論2(2)
画像工学特論1(2)
画像工学特論2(2)
知的情報処理特論1(2)
知的情報処理特論2(2)
感性情報処理システム特論1(2)
感性情報処理システム特論2(2)
脳情報処理特論1(2)
脳情報処理特論2(2)
画像解析特論(2)
応用信号処理特論(2)
学習アルゴリズム特論(2)
データマイニング特論(2)
計算幾何学特論(2)
自然言語処理特論(2)
プログラム意味論特論(2)
Webサービス技術特論(2)
センサーネット特論(2)
インターネットとイノベーション特論(2)
感覚・感性センシング特論(2)
3次元モデリング特論(2)
視覚環境認識・理解特論(2)
ヒューマンインタラクション特論(2)
マルチモーダル情報処理特論(2)
科学技術文技法(2)
ニューラルネットワークの理論と応用(2)
深層学習の効果的処理(2)
応用情報工学特別研究1/2(各3)
応用情報工学特別実験1/2(各2)

博士後期課程

計算機工学特別研究1/2/3(各3)
計算機工学特別実験1/2/3(各2)
情報ネットワーク
工学特別研究1/2/3(各3)
情報ネットワーク
工学特別実験1/2/3(各2)
情報処理工学特別研究1/2/3(各3)
情報処理工学特別実験1/2/3(各2)
人間情報工学特別研究1/2/3(各3)
人間情報工学特別実験1/2/3(各2)
応用情報工学プロジェクト(2)

[2019年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修了論文の研究テーマ例

- ・ビッグデータ処理に対する効率的なアルゴリズム
- ・セマンティック情報を伴う公開情報の効果的な活用に関する研究
- ・モーションキャプチャで計測される顔面のスパースな3次元情報による表情の違いの識別能力
- ・異なる印象判断時の顔画像観察における眼球運動比較一停留点と停留時間の分析
- ・両眼視環境下における第1次視覚野コラム形成の神経回路モデル
- ・マルチエージェント環境に適応させたAHP強化学習
- ・媒質同定を可能にする光子計数CTの開発、半導体検出器を用いたガンマ線イメージングシステムの開発
- ・ファジィ推論ニューラルネットワークを用いたメラノーマ(皮膚がん)自動識別システム
- ・融合現実における身体的インタフェースの研究
- ・秘密分散によるマルチクラウド高度利用方式
- ・セキュリティレベル動的に変化プロトコルの提案
- ・心拍変動・心電図分析による心臓突然死リスク評価

システム理工学専攻「創生科学系」

融合領域のシステムが未来を拓く

システム理工学専攻創生科学系には、物理学、知能科学、人文社会科学の3つの科学系の最先端の領域、および各領域を体系的に関連付ける新たな枠組がある。創生科学系は理学、工学、人文社会科学の分野に貢献できる人材の育成を目的とする。学生は制御工学・通信工学・電気工学などの工学に基づいて科学技術原理を体系的に習得する。更に、数学・物理学・天文学等の理学的な視点、言語学・経済学・社会学・心理学等の人文科学的な視点を有する。幅広い視点に基づいた問題解決型の技術者・研究者を育成する。物理学系では宇宙や物質の普遍性を追求する電波天文学、重力波物理学、銀河天文学、原子物質物理学などを学ぶ。知能科学系では、理学と工学の研究成果を豊かな人間社会への還元を目的とする科学技術である人間工学、ソフトウェア工学、シミュレーション工学、ロボット工学、人工知能、情報工学、データ工学、ネットワーク工学などを習得する。更に、人間科学系では、人間を中心に据えた文系として科学する臨床心理学、応用経済学、文化人類学、言語学、英語教育法などを学ぶ。

アドミッション・ポリシー
(学生受け入れ方針)

システム理工学専攻の修士課程においては、理学、工学、人文社会科学など幅広い分野の学識の習得を通じて、複雑な現象をシステムとして捉え、現実的な解を求める能力を持った人材を育成することを目標としている。そのため、数学、物理学、電気工学、情報学など、広範な専門基礎学力の素養を備え、かつそれらを応用するシステム理工学分野、具体的には、物理学、知能科学、人間科学などの分野で、未知の課題を積極的に解決できる専門的应用能力を有し、社会の発展および自然環境との共生を重視する高度な専門技術者・研究者を目指す学生を広く求める。

カリキュラム・ポリシー
(教育課程の編成・実施方針)

システム理工学専攻創生科学系では、現象をシステムとして捉える能力を持つ技術者や研究者および社会などの現実の複雑な系を対象に、計算機の力を用いて現実的な解を求めることができる技術者や研究者の育成を目指している。そのために教育課程の編成には、物理学、知能科学、人間科学に関して効果的に学べるようにカリキュラムを有機的に配置し、実施している。

ディプロマ・ポリシー
(学位授与の方針)

システム理工学専攻創生科学系では、修士課程では、物理学、知能科学、人間科学などの幅広い分野の学識の習得を通じて、複雑な現象をシステムとして捉え、現実的な解を求める能力を持つ高度な職業人としての教養と専門应用能力を身に付けたと判断できる者に対し、学位を授与する。また、博士後期課程では、修士課程の能力に加え、システム理工学的なアプローチで高度な研究・開発を遂行できる能力および独創性を持ち、研究者として自立して研究活動を行う素養を持つと判断できる者に対し、学位を授与する。

研究室紹介

松尾 由賀利 教授

液体ヘリウムに原子を閉じ込める

レーザーの光で原子を調べ
物質の基本や宇宙の根元に迫る

物理学は基幹となる原理から物ごとを説明する「物(もの)の理(ことわり)」です。中でもレーザー分光学は現代科学において、おそらく最も有効桁数の高い測定を行える学問です。光の色を分けることに始まる分光学ですが、究極の分光技術は原子・原子核といった物質の基本や宇宙の根元に迫る有力なツールになります。私たちは、原子を液体ヘリウムなどの高密度な媒質に閉じ込め逃がさないようにしてからレーザーで観測することにより、人工的に生成された微量な原子や原子核の性質を調べることができる方法を開発しています。また、瞬間的に強いレーザー光で物質を原子レベルにバラバラにするレーザーアブレレーション法にも取り組んでいます。



学生・修了生の声

大間 龍司 修士課程 在学中

国際会議を通じて世界で活躍している研究者との
意見交換は有意義であり刺激的です

大学院の魅力

国際会議に参加するための補助金を受けられるので、積極的に国際論文を執筆し、研究発表を行うことができるのは、大学院ならではの魅力だと感じています。また、国際会議への参加、発表を通じて海外の第一線の研究者と意見交換・議論ができ、とても刺激にあふれています。

将来の目標

現在学んでいる情報工学の知識や技術を使いこなせるエンジニアになることが目標です。そのために、研究に関する知識だけでなく、サーバ、ネットワーク、データベースシステムの設計・保守・運用を積極的にを行い、実践的な知識と技術を養っています。また、リーダーシップを身につける努力もしています。



研究テーマ

IoTにおける低消費電力なフォグコンピューティングモデルの提案

募集人員…修士課程75名／博士後期課程4名

(創生科学・経営システム系の合計)

開講形態…昼間開講 キャンパス…小金井

主な進路…パナソニック、三菱電機、ニコン、富士ゼロックス、

横河電機、富士通、日立製作所、大日本印刷、KDDI

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
伊藤 隆一 教授	パーソナリティ、 臨床心理学、産業心理学	投影法やビジネスゲームを用いた パーソナリティ、職業適性の研究 など	産業人間科学特論 1/2
春日 隆 教授	電波天文学、高感度電磁波 検出技術の開発	電波や光による自然現象観測	電波計測光学特論 1/2、 システム理工学特別研究 1/2、 システム理工学特別実験 1/2
金沢 誠 教授	数理論理学、形式言語理論	形式言語のアルゴリズム的学習の 理論、非古典論理、数理言語学	応用論理・数理言語学特論 1/2、 システム理工学特別研究 1/2、 システム理工学特別実験 1/2
呉 暁林 教授	応用経済学、 地域研究（中国経済論）	産業発展の経路依存と経路変更、 製販関係の形成と変動、マーケ ティングと流通チャネルの変動	産業経済分析特論
小林 一行 教授	センシング工学、 センサ信号処理	屋外環境における環境認識、自律 走行	知能化センシングシステム特論、 センサ信号処理特論、 システム理工学特別研究 1/2、 システム理工学特別実験 1/2
佐藤 修一 教授	重力波物理学、相対論実験	レーザー干渉計、精密測距、 重力波物理学、量子光学	時空間物理学特論 1/2、 システム理工学特別研究 1/2、 システム理工学特別実験 1/2
塩谷 勇 教授	グラフ文法、時系列処理、 人工知能	マルチエージェントの協調動作に ついて	言語科学特論2、 エージェント科学特論、 システム理工学特別研究 1/2、 システム理工学特別実験 1/2
鈴木 郁 教授	人間工学	パソコン入力デバイスの改良と 評価、生理指標に基づく負担評価、 各種センサ関連など	人間工学特論、 生体情報信号処理特論、 システム理工学特別研究 1/2、 システム理工学特別実験 1/2
滝沢 誠 教授	情報工学	P2Pネットワークでの信用可能性 の研究、エコ分散システムの研究、 グループ通信プロトコルの研究	分散システム特論 1/2、 システム理工学特別研究 1/2、 システム理工学特別実験 1/2
梨本 邦直 教授	言語学、アイルランド語	音響音声学、認知意味論、アイル ランド語文学、アイルランド語歴 史言語学	言語科学特論 1
福澤 レベッカ 教授	文化人類学、教育社会学	教育と社会階層	フィールドワーク特論、 科学技術英語表現
堀端 康善 教授	数値シミュレーション工学、 数値解析、非線形最適化	数値シミュレーション、 データ同化、非線形最適化	計算工学特論 1/2、 システム理工学特別研究 1/2、 システム理工学特別実験 1/2
松尾 由賀利 教授	レーザー分光、 原子分子物理学、 量子エレクトロニクス	精密レーザー分光を用いた原子 分子物理と原子核への応用	量子エレクトロニクス特論、 原子分子物理特論、 システム理工学特別研究 1/2、 システム理工学特別実験 1/2
三浦 孝夫 教授	データ工学	データベース理論、 データマイニング、 機械学習・知識獲得と知識処理	データサイエンス特論、 システム理工学特別研究 1/2、 システム理工学特別実験 1/2
田中 幹人 准教授	光赤外線観測天文学、 銀河考古学、天文文化論	すばる望遠鏡HSC＋PFSを用い た近傍銀河のビッグデータ解析、 現代版宇宙観の質的研究	銀河考古学特論、天文文化特論、 システム理工学特別研究 1/2、 システム理工学特別実験 1/2
柳川 浩三 准教授	応用言語学	第2言語リスニング分析、 内容言語統合型指導法、 タスク中心指導法と学習者心理	言語能力評価特論

【2019年度】※年度により授業を持たない場合があります。

修士課程

計算工学特論 1 (2)
 計算工学特論 2 (2)
 言語科学特論 1 (2)
 言語科学特論 2 (2)
 エージェント科学特論 (2)
 分散システム特論 1 (2)
 分散システム特論 2 (2)
 応用論理・数理言語学特論 1 (2)
 応用論理・数理言語学特論 2 (2)
 データサイエンス特論 (2)
 最適制御特論 (2)
 システム・モデリング特論 (2)
 知能化センシングシステム特論 (2)
 センサ信号処理特論 (2)
 電波計測光学特論 1 (2)
 電波計測光学特論 2 (2)
 時空間物理学特論 1 (2)
 時空間物理学特論 2 (2)
 銀河考古学特論 (2)
 天文文化特論 (2)
 リスクマネジメント特論 (2)
 水環境特論 (2)
 量子エレクトロニクス特論 (2)
 原子分子物理特論 (2)
 最適化特論 1 (2)
 最適化特論 2 (2)
 人間工学特論 (2)
 生体情報信号処理特論 (2)
 産業人間科学特論 1 (2)
 産業人間科学特論 2 (2)
 産業経済分析特論 (2)
 フィールドワーク特論 (2)
 言語能力評価特論 (2)
 科学技術英語表現 (2)
 知識獲得特論 (2)
 インテリジェントセンシング (2)
 システム診断特論 (2)
 人工知能特論 (2)
 電子回路特論 (2)
 相対性理論 (2)
 標準計測特論 (2)
 固体物性応用 (2)
 量子物性デバイス (2)
 固体物理学特論 (2)
 システム理工学特別研究 1/2 (各3)
 システム理工学特別実験 1/2 (各2)

博士後期課程

計測システム特別研究 1/2/3 (各3)
 計測システム特別実験 1/2/3 (各2)
 数理科学特別研究 1/2/3 (各3)
 数理科学特別実験 1/2/3 (各2)
 制御システム特別研究 1/2/3 (各3)
 制御システム特別実験 1/2/3 (各2)
 計算工学特別研究 1/2/3 (各3)
 計算工学特別実験 1/2/3 (各2)
 物質科学特別研究 1/2/3 (各3)
 物質科学特別実験 1/2/3 (各2)
 水工学特別研究 1/2/3 (各3)
 水工学特別実験 1/2/3 (各2)
 人間システム特別研究 1/2/3 (各3)
 人間システム特別実験 1/2/3 (各2)
 応用統計工学特別研究 1/2/3 (各3)
 応用統計工学特別実験 1/2/3 (各2)
 創生科学博士プロジェクト (2)

【2019年度】※開講科目は年度により異なります。()＝単位数

修士論文の研究テーマ例

- ・ 臼田 64m アンテナ電波天文観測システムの研究
- ・ 変形4脚ロボットの移動制御
- ・ 圧電素子を用いた睡眠状態の推定
- ・ 圧力調整時におけるエネルギー回収システムの開発
- ・ ボテンシャル法とA-star アルゴリズムを組み合わせ
た移動経路計画生成アルゴリズムの一提案
- ・ 変位雑音フリー干渉計を用いた超精密計測の研究
- ・ フォーマーションフライトシミュレータの開発
- ・ レーザー干渉計におけるアライメントの自動制御について
- ・ JAUSに基づく無人システムコントローラの開発
- ・ 全方位カメラ搭載型移動ロボットにおける走行制御
- ・ 携帯情報端末に適した3次元加速度計測法
一歩行分析への適応
- ・ A Process Migration Approach to Energy-
efficient Computation in a Cluster of Servers
- ・ An Accelerated Traffic Resource Utilization

ヒト・モノ・カネをつなぐ「システム」で、無限の可能性を拓く

システム理工学専攻経営システム系では、社会のあらゆる組織の経営に必要とされる能力である、「現状を客観的に理解し、常に新しい事業を計画立案し、実施する」ことができる人材の養成を目的としています。そのための基礎になる数理モデルの構成と適用と評価を、理工学的アプローチで研究します。

物事のメタなることを捉えるために、対象をシステムの的に分析・理解し、さまざまな要素を結合し、今までになかったシステムの構築方法を習得した研究者と、市民としての教養を身に付けた独創性に優れる技術者を養成します。

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)

複雑なシステムを分析の対象とするため、理学、工学、社会科学にわたる幅広い基礎的知識を有する、あるいはそれらに興味を持つ学生の入学が望ましい。急速に変化、進歩する技術とその限界を理解し、社会や企業の要請に応えられるプロジェクトを創り出し、その運営のシステムを構築し、最適なマネジメントを編み出す能力も求められる。また、広範な人材の確保という観点からも、社会人の特別入学制度を設けている。

カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)

複雑なシステムを数理的、工学的に分析するため、修士課程では数学などの基礎から最先端の応用に至る広範な内容を取り扱う講義項目を設けている。博士後期課程については、人間システム、応用統計工学、応用数理工学、応用経済分析の分野について高度な研究能力を養うことを目的にカリキュラムを構成している。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

企業、社会などの複雑なシステムを対象に適切なマネジメントのあり方を探求する。そのためには、システムの数理的構造を理解した上でモデルを構築し、法や制度、財務などの諸制約のもとで最適な解を導くことが必要となる。修士課程では、実際のシステムに関する現実的な解を求めていくセンスを有する管理技術者としての能力を得ていること、博士後期課程では、専門領域において独創的な工夫と創造で解を求めることができる自立的な研究者となることを、学位授与の基本方針とする。

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
磯島 伸 教授	非線形可積分系	超離散化法を用いたセルオートマトンの研究	関数解析特論1/2、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
浦谷 規 教授	金融工学	経済におけるリスクを確率論とコンピュータを用いて研究する。特に金融新商品を新しいアイデアで作り出す能力を身に付けて金融業界に出ることができる。	ファイナンス理論特論、デリバティブ理論特論、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
木村 光宏 教授	信頼性工学、品質管理工学	ソフトウェアプロジェクト評価・信頼性評価に関する研究、信頼性解析に対する機械学習アプローチ	信頼性工学特論、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
五島 洋行 教授	オペレーションズ・リサーチ、経営数理工学	離散事象システムの最適制御とそのスケジューリング問題、時空間データの効率的な格納と計算	数値計算法特論、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
寺杣 友秀 教授	数論的代数幾何、ホッジ理論	代数幾何の不変量として現れる種々のコホモロジーの研究とその数論的応用	符号理論特論1/2、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
中村 洋一 教授	経済工学	実証応用経済、国民経済計算	計量経済学特論、応用経済分析特論、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
宮越 龍義 教授	応用金融分析	金融システムのグローバル化と世界的金融危機	公共経済学特論、応用金融分析特論、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
高澤 兼二郎 准教授	数理計画、離散最適化	離散最適化アルゴリズムの設計、離散システムにおける数理構造の解析	離散最適化特論1/2、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
田村 信幸 准教授	確率システム解析、オペレーションズ・リサーチ	マルコフ決定過程を用いた最適保全政策の解析、劣化モデルの統計的推測	オペレーションズ・リサーチ特論1、確率システム解析特論、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
千葉 英史 准教授	オペレーションズ・リサーチ	Just-In-Timeスケジューリング、製造ラインの効率化、施設配置問題に関する研究	オペレーションズ・リサーチ特論2、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
安田 和弘 准教授	確率解析、数理ファイナンス	確率解析を用いた数理ファイナンスやその周辺に関する研究	確率過程特論1/2、システム理工学特別研究1/2、システム理工学特別実験1/2
作村 建紀 専任講師	社会システム工学・安全システム、統計科学	加速寿命試験データと蓄積疲労の数理モデル 双方向性を持つ適応型CBTによる能力評価とその試験システムの実装	生産情報特論

[2019年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

システム理工学専攻「経営システム系」

募集人員…修士課程75名／博士後期課程4名

(創生科学・経営システム系の合計)

開講形態…昼間開講

キャンパス…小金井

主な進路…アズビル、横河電機、三菱自動車工業、パナソニック、日立製作所、ニコン、ソフトバンクグループ通信

研究室紹介

磯島 伸 教授

デジタルな方程式の数学的基礎と 現象解析への応用

飛び飛びの数字によるモデルで 現象の新しい理解を目指す



物理現象から社会現象まで、世の中の様々な現象を解析するために微分方程式による数理モデルが用いられている。非線形微分方程式は一般には解けるとは限らず、解ける方程式は「可積分系」と呼ばれる。一方、近年のコンピュータの発展に伴って、空間座標・時間・観測量を全て整数値で表すデジタルな方程式、セルオートマトン(CA)を用いた数理モデルの重要性が高まっている。本研究室では差分方程式をCAに変換する「超離散化法」を用いて得られるCAの解析および超離散化法そのものの拡張を、主に可積分系を題材として研究している。将来は非可積分系へ超離散化法を拡張し、非線形現象解析の一般的な手法として確立することを目指している。

学生・修了生の声

鈴木 大庸

修士課程 2017年度修了

世界中の研究者に向けた発表を 通してチャレンジ精神と コミュニケーション力を 学べます



私の研究

数学を用いた交通流モデルの研究を行っています。人や車など、流れている全てのものを粒子とみなし、ある決められたルールで動いていると考え、そのルールを微分方程式としてモデル化します。最終的には車の最適な車間距離・速度を割り出し、一般道などでの渋滞緩和や経済損失の減少を提案します。

大学院の魅力

学問の専門的な領域に触れ、インプットだけではなくアウトプットを行うことができます。論文の投稿をはじめ、国内外の学会に参加できるのも大きな経験です。世界中の研究者に向けた発表の機会を通して、問題点の発見や解決だけでなく、チャレンジ精神とコミュニケーションの重要性を学べます。

研究テーマ

可積分系を応用した交通流モデルの分析と最適化

修士課程

関数解析特論 1 (2)
関数解析特論 2 (2)
確率過程特論 1 (2)
確率過程特論 2 (2)
数値計算法特論 (2)
ファイナンス理論特論 (2)
デリバティブ理論特論 (2)
オペレーションズ・リサーチ特論 1 (2)
オペレーションズ・リサーチ特論 2 (2)
計量経済学特論 (2)
確率システム解析特論 (2)
生産情報特論 (2)
信頼性工学特論 (2)
応用経済分析特論 (2)
符号理論特論 1 (2)
符号理論特論 2 (2)
公共経済学特論 (2)
応用金融分析特論 (2)
離散最適化特論 1 (2)
離散最適化特論 2 (2)
先端経営科学特論 (2)
システム理工学特別研究 1 (3)
システム理工学特別研究 2 (3)
システム理工学特別実験 1 (2)
システム理工学特別実験 2 (2)

博士後期課程

数理科学特別研究 1/2/3 (各3)
数理科学特別実験 1/2/3 (各2)
応用統計工学特別研究 1/2/3 (各3)
応用統計工学特別実験 1/2/3 (各2)
応用数理工学特別研究 1/2/3 (各3)
応用数理工学特別実験 1/2/3 (各2)
応用経済分析特別研究 1/2/3 (各3)
応用経済分析特別実験 1/2/3 (各2)
経営システム工学コアスタディ (2)

[2019年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

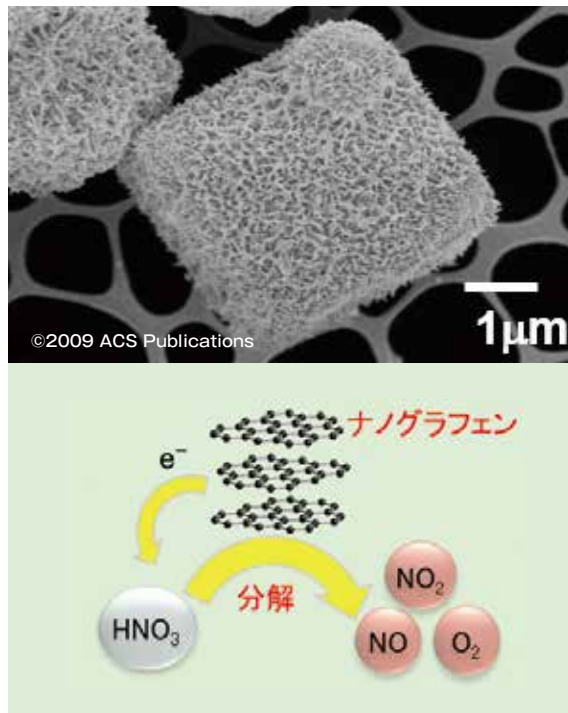
修了論文の研究テーマ例

- ・ 定性的なソフトウェアプロジェクトデータに基づくプロダクト品質予測に関する研究
- ・ 数値標高モデルによる道路縦断勾配を含む道路ネットワークの作成～燃料消費最少経路探索への適用～
- ・ K-S検定を用いた2ユニット並列システムにおける従属故障の検知に関する研究
- ・ 教師なしデータを利用した単語の分散表現と事前学習を用いたWebニュースデータのカテゴリ分類
- ・ ソフトウェア開発プロジェクトの工期と成功可否の関係の研究
- ・ Max-min-plus scalingシステムでのモデル予測制御に基づくスケジューリング方法～滑走路のスケジューリングを例にして～
- ・ Prize Collecting Steiner Tree 問題に対するヒューリスティクス

最先端化学を学び、持続的社會構築に貢献できる 研究開発者・技術者を育成する

現代における重要課題である環境問題の解決や新素材開発において、応用化学の果たす役割は大変重要性を増しています。地球環境における物質循環や生体への影響を俯瞰的に捉え、環境に関わる諸問題に対する化学的アプローチを習得し、持続可能な社会の構築に貢献できる人材が求められています。

本専攻は、物質の持つさまざまな機能の探求と新規機能性物質の創製を目指す「物性化学分野」、低環境負荷型機能性材料の開発を目指す「材料化学分野」、環境に調和する化学プロセスの開発を目指す「化学工学分野」、人間および地球環境の保全や地球資源の有効利用の観点から化学的解決を目指す「環境化学分野」の4研究分野を設置し、化学の諸問題について自ら課題を発見し解決する意欲のある人、化学に関する深い知識および応用技術を身に付け、持続的社會の構築に貢献することができる能力の習得を目指す人を求めています。修了後は、製造業を中心として幅広い産業界および研究機関等において化学の専門的な能力を生かして持続的社會の構築に貢献できる研究開発者・技術者としての活躍が期待されます。



専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
明石 孝也 教授	無機材料化学、固体電気化学	高温用構造材料の耐久性向上、レアメタルの分離・回収技術の開発、高温用強誘電体材料の開発	無機反応化学特論、応用化学特別研究1/2、応用化学特別実験1/2
石垣 隆正 教授	無機合成化学	プラズマ、超音波などの化学プロセスを利用したセラミックス・金属ナノ粒子の環境低負荷合成、ナノ粒子を分散した光・電子・磁性機能材料の作製	無機合成化学特論、高機能セラミックス特論、応用化学特別研究1/2、応用化学特別実験1/2
緒方 啓典 教授	物性化学、機械性材料化学	低環境負荷型高機能性ナノマテリアルの開発とデバイス応用、各種分光学的手法を用いた機能性物質の物性解明	固体分光化学特論、先端材料物性特論、応用化学特別研究1/2、応用化学特別実験1/2
河内 敦 教授	有機典型元素化学、有機金属化学	主に1、2、13および14族を中心とした新規有機典型元素化合物の合成、新規反応の開拓、機能発現および有機合成化学的利用	有機化学反応特論、有機合成化学特論、応用化学特別研究1/2、応用化学特別実験1/2
杉山 賢次 教授	高分子合成化学、有機合成化学	環境応答性インテリジェント・マテリアルの開発、リビング重合法による新規官能基化ポリマーの精密合成	高分子合成化学特論、高分子設計特論、応用化学特別研究1/2、応用化学特別実験1/2
高井 和之 教授	物性物理化学	π 共役物質と異種元素の間における界面相互作用を用いた環境・エネルギー材料の開拓、軽元素を用いた空間空隙制御による次世代型の磁性体・触媒の創製	分子シミュレーション特論、分子分光化学特論、応用化学特別研究1/2、応用化学特別実験1/2
森 隆昌 教授	化学工学、粉体工学	新規スラリー評価技術の開発及び各種湿式成形プロセスの最適化、粒子状物質の新規濡れ性評価技術及び装置の開発、直流電場を利用した液中粒子の凝集・分離技術及び装置の開発	化学装置物性特論、分離工学特論、応用化学特別研究1/2、応用化学特別実験1/2
山下 明泰 教授	生体化学工学	物質移動論に基づく各種人工臓器の設計、製作、評価、膜透過理論に基づく新規ドラッグデリバリーシステムの構築	物質移動特論、反応工学特論、応用化学特別研究1/2、応用化学特別実験1/2
小鍋 哲 准教授	物性理論	ナノカーボン材料や原子層材料の電子・光物性の解明、新規なエネルギー変換機構の開拓	フロンティア化学特論A/B
渡邊 雄二郎 准教授	環境化学、環境材料化学	環境水の分析と資源循環型機能性材料による水質浄化、無機複合体を用いた放射性物質の回収と長期安定化システムの開発、ゼオライト等無機多孔体を用いた環境保全型農業システムの開発	環境科学特論、水環境工学特論、応用化学特別研究1/2、応用化学特別実験1/2

[2019年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

応用化学専攻

Graduate School of Science and Engineering Major in Applied Chemistry

募集人員…修士課程30名／博士後期課程3名
開講形態…昼間開講 キャンパス…小金井
主な進路…TDK、YKK、出光興産、エスケー、オルガノ、京セラ、日産自動車、スズキ、大日本印刷、三井ホーム、三菱マテリアル、明電舎、ヤマザキナビスコ、産業技術総合研究所など

研究室紹介

明石 孝也 教授

高温での無機固体材料の
化学反応をコントロールする

長寿命機能性材料や
リサイクルプロセスの開発を
目指して



材料が500℃～1700℃という高い温度にさらされると、そこで様々な化学反応が起こります。望ましい化学反応は促進させ、望ましくない化学反応は抑制する。熱力学と反応速度論と化学工学を駆使してこれを実現させ、持続可能な社会に貢献できる材料やプロセスの開発に取り組んでいます。例えば、燃料電池では、水素のエネルギーを電気エネルギーに変換する化学反応は促進させ、燃料電池を構成する材料が劣化する化学反応は抑制させます。研究のターゲットは、廃LED素子からの有価金属のリサイクル、火力発電のタービンブレード、人工知能用の非常時作動バッテリーなど、多岐にわたります。高温の固体化学反応に関わるあらゆる分野を開拓していきます。

学生・修了生の声

井坂 琢也

修士課程 2016年度修了

研究を進めるなかで
計画性の大切さと
スケジュール管理能力を
培いました



進学のきっかけ

小学生の頃に地球温暖化によって氷河が溶ける映像を見て衝撃を覚えたことが応用化学を専攻したきっかけ。中学生の頃に初めて化学に触れたことが足がかりになり、より専門性を高めようと考え、大学、そして院への進学を目指ようになりました。今まで培ってきた知識を元に化学の力で環境問題に貢献するため日々頑張っています。

学んだこと、身についたこと

大学院では研究がテーマになり、自分で学問を追求することが求められます。発表し世間に伝えることが一つの目標ですから、期限までに実験や論文執筆を進めなければならず、計画性が求められます。この管理能力は社会人となった今でも役立っており、どんな業種でも必要な能力だと考えています。

研究テーマ

有機合成における酸化グラフェン触媒の構造と反応性の相関

修士課程

分子シミュレーション特論(2)
分子分光光学特論(2)
固体分光光学特論(2)
先端材料物性特論(2)
高分子物理化学特論(2)
無機合成化学特論(2)
高機能セラミックス特論(2)
有機化学反応特論(2)
有機合成化学特論(2)
高エネルギー反応場特論(2)
無機反応化学特論(2)
高分子合成化学特論(2)
高分子設計特論(2)
化学装置物性特論(2)
反応工学特論(2)
物質移動特論(2)
分離工学特論(2)
微粒子材料工学特論(2)
結晶化学工学特論(2)
水環境工学特論(2)
環境計測特論(2)
環境衛生学特論(2)
環境科学特論(2)
起業特論(2)
Conference presentation
in Applied Chemistry
(国際会議化学英語表現法)(2)
フロンティア化学特論A(2)
フロンティア化学特論B(2)
コンピュータ利用化学特論(2)
科学プレゼンテーション演習(2)
サステナビリティ研究入門A(2)
サステナビリティ研究入門B(2)
応用化学特別研究1/2(各3)
応用化学特別実験1/2(各2)

博士後期課程

応用化学発展ゼミナール(2)
先端応用化学特別研究1/2/3(各3)
先端応用化学特別実験1/2/3(各2)

[2019年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修了論文の研究テーマ例

- ・炭素熱還元-酸化法による酸化インジウムおよび酸化ガリウムの分離・回収
- ・コロイドプロセス法を用いたランタンシリケートオキシアパタイトの作製および配向多結晶体の特性評価
- ・ZnO ナノ構造体を電子輸送層に用いたペロブスカイト太陽電池の特性評価
- ・官能性シリルボランの合成と反応
- ・パーフルオロアルコキシシリル基含有ポリマーの合成とフィルムの表面特性
- ・化学修飾によるグラフェンのトポロジー制御と電子構造への影響
- ・粒子状物質の新規濡れ性評価技術及び装置の開発・輸送現象論に基づく人工臓器およびドラッグデリバリーシステムの開発
- ・ゼオライト/アパタイト複合体を用いた放射性セシウムの回収と長期固定化に関する研究

生命機能学専攻

募集人員…修士課程40名／博士後期課程4名
 開講形態…昼間開講 キャンパス…小金井
 主な進路…化学・食品・製薬・農業メーカー、造園会社、
 国家公務員・研究員・技術員・科学ジャーナリストなど

理学と工学を融合し、 21世紀型の生命科学を展開

生命科学分野は、ヒトを含めた各種生物のゲノム全構造の解明により、科学技術の将来の夢を託された21世紀新時代を迎えています。医学・薬学・農学との連携はもとより、工学との連携も始まっています。こうした時代背景を踏まえて、自ら研究課題を設定し、研究活動を実施する創造力、自立力を備えた人材を養成します。

本専攻では、微生物・植物・動物の「細胞個性学」と「分子個性学」を特徴とする新しい生命科学＝「生命機能学」を学習。ゲノム機能・蛋白質機能・細胞機能・生命システム・基盤植物医科・実践植物医科という6つの分野を設定し、教育・研究を行います。

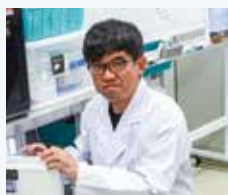
21世紀型の生命科学研究を推進し、社会的貢献ができる、広い視野と教養、確かな技術を有する高度職業人および研究者の養成が目標です。そのために基盤となる専門性を確立させ、その上で学際的な知識・技術を身に付けることを目指します。

研究室紹介

濱本 宏 教授

植物と微生物の戦いを科学する

植物病原細菌が繰り出す戦略と 植物の対抗措置を解明する



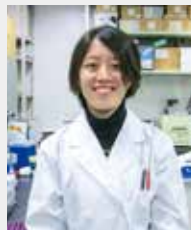
単純な生物に見られがちな植物病原細菌ですが、植物に感染して繁殖(?)するため多様で巧みな戦略を持ちます。ある細菌は土壌中でじっとしながら、作物の植え付けとともに目を覚まします。しかし目覚めてもすぐに病気を起こそうとするわけではありません。数が徐々に増え戦力が整うのを待ち、整ったところで植物に感染し爆発的に増殖しようとします。しかし植物も様々な措置を講じ、時に細菌を押さえつけ時になだめるかのように対抗します。広いフィールドの多様な環境の中で起きる植物と細菌のミクロな戦いであり、その全貌を知ることは容易ではありませんが、分子生物学からマクロな画像解析手法を活用して研究し、病害コントロールに役立てます。

学生・修了生の声

三宅 裕可里

博士後期課程 在学中

研究者として自身の興味を 追求していきたい



進学のきっかけ

学部生の頃からウイルス感染に関する研究に従事し、単純な単細胞生物である細菌に限られた遺伝子で外環境シグナルを感知し、応答していることに強い関心を持ち、大学院への進学を選択しました。現在は大腸菌をモデルとしたゲノム科学研究を行っており、将来は研究者として自身の興味を追求していきたいと考え、博士後期課程への進学を決めました。

私の研究

細菌は単細胞生物ですが、環境の変化を感知し、応答・適応することで生存しています。大腸菌の環境応答システムは約30種類あり、それらの機能がお互いに補完しながら多様な環境変化に適応していると考えられています。環境応答システムの遺伝子群が増殖に与える影響を調べることで、細菌が環境中で安定的に増殖するメカニズムを明らかにすることを目指しています。

研究テーマ

細菌環境応答システムによる増殖への寄与

アドミッション・ポリシー

(学生受け入れ方針)

修士課程では以下に示す学生を受け入れます。

1. 生命機能学研究に必要な基礎学力をもつもの
2. 当該専門分野における知識と技術を学ぶために、一定以上の英語および日本語の運用能力を有するもの
3. 高い志と粘り強さで高度な専門技術者や研究者を目指す意欲あるもの

博士後期課程では以下に示す学生を受け入れます。

1. 生命科学・植物医科学全般の基礎学力を有するもの
2. 生命機能学の特定の専門領域における研究実績を有するもの
3. 当該分野の研究に必要な英語および日本語の運用能力を有するもの
4. 高い志と粘り強さで高度な専門技術者や研究者を目指す意欲あるもの

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施方針)

基礎学力を習得することを目指した「基幹科目群」、専門知識と技術を身につけるための「発展科目群」、そして所属研究室における研究活動や学会活動を通じて技術者・研究者として積極的に社会参加する能力を身につけるための「特別実験」と「特別研究」によってディプロマ・ポリシーを達成します。博士後期課程では、複数の教員が提供する課題への対応や研究課題に対する質疑応答を行う「発展ゼミナール」、および学位論文の執筆とそれにつながる関係学会での研究成果の対外発表を行う「発展特別実験」「発展特別研究」によってディプロマ・ポリシーを達成します。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

生命機能学の専門知識の習得専攻分野に必要とされる専門知識と技術を身につけていること、学位論文執筆の過程を通じて研究内容を自身の言葉で論理的に表現できる能力を身につけていること、所属研究室における研究活動や学会活動を通じて技術者・研究者として積極的に社会参加ができること、これらを満たす者に修士(生命科学)を授与します。博士後期課程では上記に加え、高度な研究企画力を有すること、自立して研究・開発を実践できること、高度な技術者・研究者として国際社会においても活動できることを重視し、これらを満たす者に博士(生命科学)を授与します。

	専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
生命機能学領域	金子 智行 教授	生物物理学、細胞生物学	細胞間コミュニケーションと集団化効果および人工脂質膜小胞を用いた人工細胞の構成的構築に関する研究	細胞生物学特論、生命機能学演習1、生命機能学特別研究1/2、生命機能学特別実験1/2
	川岸 郁朗 教授	分子生物学、生物物理学	細菌の環境応答センサーが刺激を感知するメカニズム、およびセンサーを含む超分子システムによる情報伝達のメカニズムを分子レベルで解明する	生命システム工学特論、生命機能学演習2、生命機能学特別研究1/2、生命機能学特別実験1/2
	佐藤 勉 教授	分子生物学、ゲノム生物学	細菌の細胞分化におけるDNA再編成のメカニズムおよび細胞分化の遺伝子ネットワークの全体像を解明する	ゲノム科学特論、生命機能学演習1、生命機能学特別研究1/2、生命機能学特別実験1/2
	常重 アントニオ 教授	生物物理化学、蛋白質科学、生体分子分光学	蛋白質間、蛋白質－低分子相互作用の熱力学。高分子クラウディング環境における生体高分子の構造－機能相関。蛋白質における水和、溶媒の影響	蛋白質工学特論、生命機能学演習2、生命機能学特別研究1/2、生命機能学特別実験1/2
	廣野 雅文 教授	細胞生物学、分子生物学	中心子と繊維がもつ普遍的構造の構築機構、中心子の細胞分裂における機能発現機構、繊維の運動発生機構の研究	生命システム科学特論、生命機能学演習1、生命機能学特別研究1/2、生命機能学特別実験1/2
	水澤 直樹 教授	光合成生物学	酸素発生型光合成装置の構造と機能、光合成装置の安定化・アセンブリのメカニズムの分子レベルでの解明	細胞工学特論、生命機能学演習2、生命機能学特別研究1/2、生命機能学特別実験1/2
	山本 兼由 教授	分子生物学、ゲノム生物学	環境変化に伴った多様な細菌適応能力について、ゲノム機能の発現ネットワークを中心にその仕組みを包括的に解析する研究	ゲノム工学特論、生命機能学演習2、生命機能学特別研究1/2、生命機能学特別実験1/2
	曾和 義幸 准教授	生物物理学	細菌運動に関わる生体分子モーターの構築機構、力発生機構、高効率エネルギー変換機構の解明	蛋白質科学特論、生命機能学演習1、生命機能学特別研究1/2、生命機能学特別実験1/2
植物医科学領域	石川 成寿 教授	植物臨床医科学	植物病の診断技術を開発するとともに、有用微生物などの収集、評価を行い、環境に配慮した独創的な予防・治療技術開発に取り組む	植物総合診療科学特論、植物医科学演習1、植物医科学特別研究1/2、植物医科学特別実験1/2
	大島 研郎 教授	植物ゲノム医科学	ゲノム解析やトランスクリプトーム解析などの最新技術を活用して病原体の感染メカニズムを解き明かし、植物を病気から守るための新たな分子基盤を構築する	基礎植物医科学特論、植物免疫分子システム学特論、植物医科学演習1、植物医科学特別研究1/2、植物医科学特別実験1/2
	佐野 俊夫 教授	植物栄養生理学	植物無機栄養素の吸収と代謝の分子メカニズムを研究し、植物生理障害の予防と診断技術、および食品機能面での有用作物を開発する	基礎植物医科学特論、生物アシミレーション科学特論、植物医科学演習2、植物医科学特別研究1/2、植物医科学特別実験1/2
	多々良 明夫 教授	植物医科学、応用昆虫学	植物病の原因となる昆虫およびダニ類の分類・生態の解明と防除法の確立ならびに診断技術を開発して、新たな植物臨床医科学体系を構築する	応用生物生態学特論、植物医科学演習1、植物医科学特別研究1/2、植物医科学特別実験1/2
	津田 新哉 教授	植物医科学、植物ウイルス学	植物病原体の伝染環で起こる生命現象を解明し、その反応を制御する環境に優しい防除技術を開発することで持続可能な農作物生産を支援する	応用植物医科学特論、植物医科学演習2、植物医科学特別研究1/2、植物医科学特別実験1/2
	濱本 宏 教授	植物医科学、植物病理学	植物病の診断・治療・予防の基盤技術構築・先端技術開発を行うとともに、バイオテクノロジーを用いた植物病抵抗性育種に取り組む	生物アシミレーション科学特論、植物病先端研究特論、植物医科学演習1、植物医科学特別研究1/2、植物医科学特別実験1/2
	廣岡 裕吏 准教授	植物寄生菌学、菌類分類学、菌類生態学	植物病害菌類の形態学・分子生物学を用いた多面的手法による解明とそれらの病害診断・防除法の開発	応用植物医科学特論、植物総合診療科学特論、植物医科学演習2、植物医科学特別研究1/2、植物医科学特別実験1/2
	鍵和田 聡 専任講師	植物病生理生態学	植物病の診断技術の開発と植物病原微生物の同定法の確立、および微生物が植物に病気を生じさせる際の分子レベルでのメカニズムの解明を行う	植物免疫分子システム学特論、植物病先端研究特論、植物医科学演習2

〔2019年度〕※年度により授業を持たない場合があります。

修士課程

〔基幹科目〕
ゲノム科学特論（2）
蛋白質科学特論（2）
細胞生物学特論（2）
生命システム科学特論（2）
ゲノム工学特論（2）
蛋白質工学特論（2）
細胞工学特論（2）
生命システム工学特論（2）
基礎植物医科学特論（2）
応用植物医科学特論（2）
植物病先端研究特論（2）
植物総合診療科学特論（2）

〔発展科目〕
バイオインフォマティクス特論（2）
生体超分子構造学特論（2）
生体分子設計特論（2）
生体分子計測工学特論（2）
細胞操作工学特論（2）
細胞間コミュニケーション特論（2）
画像工学特論1/2（各2）
分子シミュレーション特論（2）
有機化学反応特論（2）
有機合成化学特論（2）
高分子物理化学特論（2）
反応工学特論（2）
環境科学特論（2）
水環境工学特論（2）
環境計測特論（2）
環境衛生学特論（2）
生物アシミレーション科学特論（2）
植物免疫分子システム学特論（2）
応用生物生態学特論（2）
植物病原学特論（2）
植物薬学総合特論（2）
土壌環境ゲノム科学特論（2）
有用植物開発学特論（2）
生命機能学演習1/2（各2）
植物医科学演習1/2（各2）

〔特別実験・特別研究〕
生命機能学特別研究1/2（各3）
生命機能学特別実験1/2（各2）
植物医科学特別研究1/2（各3）
植物医科学特別実験1/2（各2）

博士後期課程

生命機能学発展特別研究1/2/3（各3）
生命機能学発展特別実験1/2/3（各2）
植物医科学発展特別研究1/2/3（各3）
植物医科学発展特別実験1/2/3（各2）
生命機能学発展ゼミナール（2）
植物医科学発展ゼミナール（2）

〔2019年度〕※開講科目は年度により異なります。（）＝単位数

総合理工学を英語で学ぶ 横断型大学院プログラム

社会活動の急速な拡大とグローバル化が進む現在、諸活動の持続可能な発展をいかに担保するかが重要な課題となっている。総合的な地球規模の問題解決には、科学的基盤に根差した高度なテクノロジーを駆使したデザインと実践が求められる。

IISTは大学院情報科学研究科と理工学研究科が協働し、理系専攻分野の先端的研究を遂行するとともに専攻横断的な研究分野を設け持続可能なグローバル社会の実現に向けた問題解決に取り組むことを目的に2016年9月に設立された。情報系の分野を中心に以下の5分野で構成される。

- ①実世界と同等の文化的・経済的規模を持つサイバーワールドの効率かつセキュアなシステム構築を研究するグローバル情報システム分野 (Global Information Systems)
- ②ミクロなデバイスから宇宙通信まで普遍的に存在する通信技術を研究するユビキタス通信・ネットワークシステム分野 (Ubiquitous Communication Systems)
- ③グローバル経営、イノベーションに欠かせない高度な数理分析手法と実践を扱うグローバル経営情報分野 (Global Business Analyses and Innovation)
- ④様々なメディアやビッグデータ情報処理の手法を研究するメディア・情報処理分野 (Media and Information Processing)
- ⑤人口爆発、高齢化社会に対応する医療・健康・福祉理工学分野 (Medical and Health Care Systems Design)

入学者は理系専攻領域の専門性を身につけた上で、これら横断的な教育研究プログラムにより社会的ニーズの高いグローバルな課題解決の実践的な知識と研究能力を身につけることができる。

※今後、分野は追加される予定である。

アドミッション・ポリシー

(学生受け入れ方針)

グローバル社会において総合理工学分野のリーダーとして活躍する意欲に溢れる学生を広く受け入れる。英語による講義でプログラムが組まれているため日本語能力は要求しないが、日本語運用能力があればさらに幅広い学びが可能となる。入学者はあらかじめ受け入れ担当教員を決め研究計画を提出し、学識審査を経て入学が許可される。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施方針)

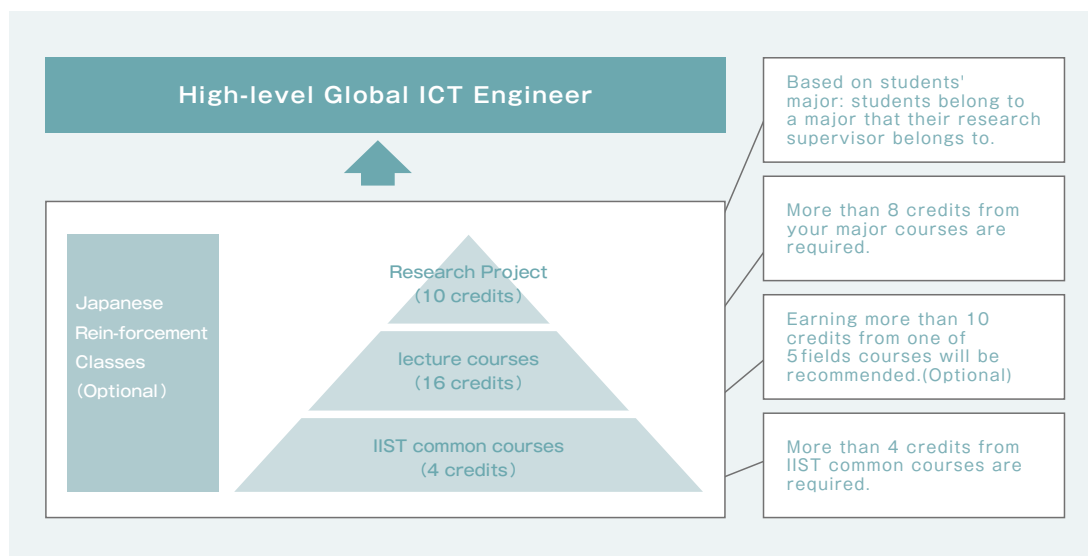
理工系研究科(情報科学または理工学)の各専攻専門領域の教育プログラムと研究科・専攻横断的なフィールドの教育プログラムを統合し、深い専門性と幅広い問題解決能力を身につけることを可能とするカリキュラムを提供する。企業との連携によるインターンシッププログラムを設け実践力の涵養をめざす。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

持続可能なグローバル社会を支える理工学分野の実践知と実行力を有し、グローバル社会でリーダーとして活躍できる高度技術者・研究者としてふさわしい人材に学位を授与する。所定の単位を取得し、修士論文または博士論文を提出、審査に合格することを修了要件とする。

修了要件



専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
周 金佳 准教授	Electrical and Electronic Engineering	Low-power, high-performance, VLSI design, video coding, HEVC, H.264/AVC, compressive sensing, Intelligent Image/Video Processing	Multimedia Signal Coding Algorithms, Multimedia Information Processing, IIST Seminar, Technical Writing Workshop 1/2, Technical Presentation Workshop 1/2, Machine Learning, Digital System Design

※上記の他、情報科学研究科と理工学研究科の各教員が担当する。詳細は<http://iist.hosei.ac.jp/faculties/>を確認のこと。

研究室紹介

石川 成寿 教授

草本から木本まで
さまざまな植物病に関わる
病原菌の生存戦略の解明

植物の病気の約70%を占める
菌類病とその病原菌を理解する
ことで、植物保護に貢献する



植物の病気の約70%は菌類が原因です。私たち研究室は、様々な植物に病気を起こす菌類を顕微鏡観察や遺伝子解析等を用いて特定し、その病原菌の植物に対する病原性や生態、他の生物との相互作用、さらにはゲノムなどを明らかにすることで、最終的に植物保護に貢献することを目指しています。そして、これら研究を通して、国内だけでなく国外の他大学や研究機関、企業等と共同研究を行うことで国際的にも植物医学分野に貢献できる「植物の医師」になれるようサポートしています。

【IIST 科目】

マルチメディア信号符号化論(2)
マルチメディア情報処理技術(2)
機械学習(2)
ネットワーク技術(2)
暗号とその応用(2)
デジタルシステム設計(2)
データベース設計論(2)
先進総合理工学特論1(無線センサーネットワーク入門)(2)
先進総合理工学特論2(先進生体工学)(2)
バイオインフォマティクス入門(2)
IISTセミナー(2)

先進経営科学特論(2)
ニューラルネットワーク理論と応用(2)
深層学習の効率的処理(2)

テクニカルライティングワークショップ1(2)
テクニカルライティングワークショップ2(2)
テクニカルプレゼンテーションワークショップ1(2)
テクニカルプレゼンテーションワークショップ2(2)
日本語コミュニケーション1(2)
日本語コミュニケーション2(2)
日本語コミュニケーション3(2)
日本語コミュニケーション4(2)

※上記以外の各専攻主催科目については、HPを参照のこと。
※日本語コミュニケーション1/2/3/4は修了要件には含まれません。

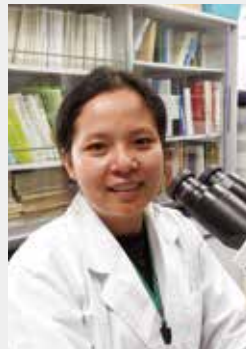
[2019年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

学生・修了生の声

Truong Hong Hanh

博士後期課程 在学中

Study on tropical plant
pathogenic fungi to
contribute towards
agriculture in Vietnam



Motivations for Further Studies

When I was working at Vinh Long Province Department of Agriculture & Rural Development in Vietnam as a technical staff, I tried to control Colletotrichum diseases. However, I failed to do it and thought that I don't have enough knowledge about plant pathology. The best way for me and for farmer is to gain enlarge knowledge. Our department is unique as it focuses on Clinical Plant Science. I believe that I can improve my skills in this Department.

What I'm studying

The Colletotrichum, one of a genus of fungi, includes many plant pathogens. In Hosei University, I study morphological and molecular analyses to identify species of Colletotrichum from symptoms on tropical plants. Also, I learn how to know about pathogenicity of the fungi. I have many friends in my lab and, they are very kind and friendly. They always try to communicate with me by English and give me assistance whenever I face experimental problems.

研究テーマ

Biology, Pathology and control of
Colletotrichum species on Tropical Plants

キャリア形成

法政大学大学院では、キャリアセンターを中心に、きめ細かなサポートを積極的に展開しています。

日常的な就職相談はもちろんのこと、さまざまな形で就職活動を支援する企画・イベントを用意。

学生の持っている資質・能力を最大限に引き出すことができるようなサポート体制をとっています。

OB MESSAGE



小泉 悠馬

情報科学研究科 情報科学専攻
修士課程 2013年度修了

日本電信電話株式会社
NTTメディアインテリジェンス研究所 研究員

音声／音響信号処理技術に加え、周辺分野を広範に学び 最先端技術を実用化する研究を継続

音とコンピュータの関わりに興味があり、情報処理技術や音声／音響信号処理技術に関する高度なスキルを身に付けるために、法政大学 情報科学部から大学院へ進学しました。

情報科学研究科では、研究開発の遂行に必要な課題発見・分析法・解決のための基本スキルとして、統計学や線形代数学、プログラミング、また海外の技術者とコミュニケーションをとるための英会話技術を学びました。これらのスキルを用いて、教授と共に音声／音響信号処理の研究を遂行し、国際会議で発表したり、学会賞を受賞したりすることができました。また教授陣からは、卒業後のキャリアについて貴重な助言をいただきました。就職活動では、インターンシップや海外の大学訪問といった体験を通して、最も適切な進路を選択できたと感じています。

世界的に見れば、研究者にとって博士号の取得は必須です。博士課程への進学と就職では悩みましたが、修士課程卒業後に、働きながら博士号取得を奨励している通信会社に就職し、2017年に博士号を取得しました。今後も研究者としての研鑽を重ね、音声／音響信号処理技術の最先端技術を実用化し、世界中の人々のために役立てていきたいと考えています。

キャリア形成 サポート

キャリアセンターの方々には、就職活動に関するさまざまな相談に乗っていただきました。また、学内企業説明会に参加するなどして、就職活動に対するモチベーションを高めました。

OG MESSAGE



中村 有沙

人文科学研究科 地理学専攻
修士課程 2016年度修了

日本気象環境機関
NHK WORLD 気象アドバイザー担当

湧き起こる知的好奇心から、進学のを決意 大学院での学びが将来の選択肢を広げていく

法政大学人間環境学部の学部生の時に、自然と人間生活の関連性を学んでから、自然地理学に強く興味を惹かれました。周りの友人は皆、就職希望でしたが、私は自然地理学への思いが捨て切れず大学院進学を決めました。大学院では、都心から郊外の気温変化を主に研究しており、気温観測の手法は全て、授業の現地調査で身に付けました。また、人文科学研究科では、生物地理学や気象学の先生による多様な授業があります。授業では、考古学など他分野の研究生や社会人の方と議論を交わしながら、異なった視点からの考え方を得ることができました。

現在はキャスター（気象予報士）のアドバイザーとして、国際放送局に勤務しています。大学院で培った、気候や地理の知識、修士論文、英語力のおかげで、この仕事とご縁がありました。将来的にはキャスターとして、人の生活と密接につながった気象情報を世界に発信していきたいです。

大学院入学時は、地理の知識は、あまりなかったのですが、先生方の高い指導力やOBとの交流の中で、知識だけでなく幅広い考え方や経験を得ることができました。

大学院への進学は少し勇気が必要ですが、大学生も社会人の方も年齢に関係なく、思い切ってチャレンジしてください。大学院は、本当に貴重な学びの場です。

キャリア形成 サポート

就職活動において、キャリアセンターの方々に大変お世話になりました。数多くの情報やアドバイスをいただくと同時に、志望動機などの履歴書を添削していただき非常にありがたかったです。

キャリアセンターの主なサポートプログラム

専門スタッフによる就職個別相談



経験豊富なキャリアセンター職員、キャリアアドバイザーが親身になって、キャリアや就職活動について、1対1の個別相談を行っています。

学内企業説明会



有名企業や優良中堅企業など法政大学・大学院の学生に対し採用意欲の高い企業が年間1,000社以上参加しています。この説明会をきっかけに内定を得た方も数多くいます。

学内で行われる選考会



企業説明会と一次選考に、キャンパス内にて同日で参加できる学内選考会を複数回行っています。開催日時・参加企業などはキャリアセンターホームページにて随時告知をしています。

他大学合同 模擬グループディスカッション



他大学の学生と合同で、グループディスカッションやグループ面接を体験できる、貴重な機会です。法政大学・青山学院大学・上智大学・中央大学・明治大学などが参加しています。

模擬面接会



企業の採用試験で、最も重要視されている面接試験。各業界約70社の人事採用担当者からご協力いただき、実践しながらの面接を行います。採用担当者から直接講評をいただけるため、毎年人気のイベントです。

OB・OG、社会人との交流



「OB・OG 交流会」「OB・OG 座談会」など、卒業生と就活生との交流を促進しています。多くの社会人と接し、業界・企業情報や実際の業務内容、働く上での心得などを身近な距離で学ぶことができます。

法政企業人コミュニティ(法政BPC※)

本学卒業生を中心とした継続的な
キャリア形成支援を実現する
独自のコミュニティを展開

法政BPCは、組織的・持続的な卒業生による学生へのキャリア形成支援と、卒業生同士の交流を目的としたコミュニティとして2012年7月に発足しました。法政大学キャリアセンターと卒業生の代表が事務局を担い、各業界から参画する加盟企業90社の若手・中堅卒業生有志とともに、学生と現役社会人の交流の場を提供しています。

フリートーク形式でざくばらんに仕事や就職について語り合う「プレOB・OG訪問体験会 in 学内」や、座談会形式で業界(企業)について語り合う「業界本音トーク」など、本学独自の学生サポート施策を継続的に実施しています。

※ BPCは、Business Persons Communityの頭文字です。

学校推薦(理工系)

理工系特有の学校推薦応募も実施

学校推薦は理工系特有の応募方法です。企業から大学院へ、研究科・専攻単位で学生の推薦依頼が来る場合があります。こうした企業に対しては、研究科・専攻単位で選考会を行い、企業ごとに推薦する学生を決定します。比較的合格率が高い学校推薦ですが、受験する企業は、第一希望の企業となるため、自由応募以上に企業研究などの準備を行う必要があります。

理工系

大学院進学へのメリット

1 基礎学力・知的体力の向上

大学院での講義および研究を通して、基礎科目・関連科目の本質的な理解や創造性が育成され、多角的な視野から専門分野の知識・理解が深まり、技術者・研究者としての資質が向上します。

2 横断的な学問領域の把握による エンジニア総合力向上

これからの持続可能で環境にやさしい国際的なエンジニアには、専門分野のみならず関連分野の知識や学問領域での実践的経験が必要であり、大学院での学びは必須です。

3 研究に関する専門的およびグローバルな体験

大学院における研究成果の専門・関連分野での国際会議、シンポジウムおよび交流会等でのポスターセッションやプレゼンテーション発表により、国際的な研究交流の体験が可能です。

4 職業選択自由度の向上

大学院での研究や講義による経験を生かすことにより、研究職や技術職へのキャリアパスのチャンスが広がり、専門分野を含む関連企業、各種研究所等、就職の幅が広がります。

5 研究成果の発表および修士・博士論文執筆を通じた、 研究およびキャリアスキルの向上

論文投稿の準備や修士・博士論文作成により、研究力や問題点の把握能力が育成され、また、英語レベル、プレゼンテーション能力やリーダーシップ能力の向上により、就業スキルがアップします。

進路状況

■ 文系就職状況

教育をはじめ、サービス、製造、公務員、情報通信・マスコミなど、進路・就職先業種は多種多様。

各業界の有名企業で活躍する修了生も数多く見られます。

社会人学生の多い本学には、さまざまな環境や分野で経験を積んだ方々が集まり、お互いの知識や情報、意見を交換し合うことで、より高い専門性と広い視野を養っています。

■ 就職内定先一覧 (過去4年間/2014～2017年度) ※名称等は変更になっている場合があります。

■ 教育

愛知県教員、伊勢原市教育委員会、茨城県教育委員会、海城中学高等学校、(学)共立女子学園、(学)駒澤大学、埼玉県教員、(学)尚美学園大学、(学)成城学園 成城大学、(学)中央学院、(学)東京医科大学、(株)ニチイ学館、(学)日本医科大学、(学)日本工業大学、(学)日本体育大学、日体荏原高等学校、(学)法政大学、(株)明光ネットワークジャパン、早稲田大学本庄高等学院

■ 情報通信・マスコミ

(株)NTTデータグローバルソリューションズ、(株)JTBパブリッシング、(株)春秋社、(株)センリンドータコム、(株)ソフテュージング、(株)東証コンピュータシステム、(株)日中新聞社、日本気象環境機関合同会社、日本ビジネスシステムズ(株)、(株)バンダイナムコエンターテインメント、(株)富士経済、(株)プラス、(株)マイナビ、楽天(株)、(株)山川出版社、(株)ワコー

■ 公務・法務

小田原市消防本部、葛飾区役所、川崎市役所、警視庁、厚生労働省、国税庁、埼玉県警察本部、さいたま市役所、島根県庁、千葉県庁、東京都教育庁、東京都福祉保健局、栃木県警察本部、栃木県庁、内閣府、長野県庁、富山県警察本部、法務省、防衛省、目黒区役所、山梨県庁

■ サービス

アクセンチュア(株)、(株)アルプス技研、(株)エス・ティ・ティ・データ経営研究所、(株)くらコーポレーション、(株)サンルートホテルズ、(株)JTB国内旅行企画、(株)すかいらーく、(株)千葉ロッテマリーンズ、日本A.T.M(株)、(株)日本リサーチセンター、(株)野村総合研究所(NRI)、(株)ミキハウス、みずほ情報総研(株)

■ 医療・福祉

あいクリニック、オリックス・リビング(株)、国立精神・神経医療研究センター、相模原市児童相談所、(医社)慈友会 慈友クリニック、千葉県中央障害者相談センター、(福)東京都社会福祉協議会、東京都立松沢病院、(福)福利厚生センター

■ 製造

川重冷熱工業(株)、自動車部品工業(株)、(株)タカラトミー、パナソニックエコシステムズ(株)、不二サッシ(株)、マツダ(株)、(株)村田製作所、理研計器(株)

■ 卸・小売

イオンリテール(株)、伊藤忠アビエーション(株)、シャネル(株)、(株)セブンイレブン・ジャパン、(株)大丸松坂屋百貨店、日本出版販売(株)、(株)ファミリーマート、プラダジャパン(株)、ラオックス(株)

■ 金融・保険

(株)秋田銀行、イオンクレジットサービス(株)、さわかみ投信(株)、城北信用金庫、新生フィナンシャル(株)、(株)東京スター銀行、マネックス証券(株)、三菱UFJ信託銀行(株)、(株)横浜銀行

■ 運輸・公益

ANAエアポートサービス(株)、(株)はとバス

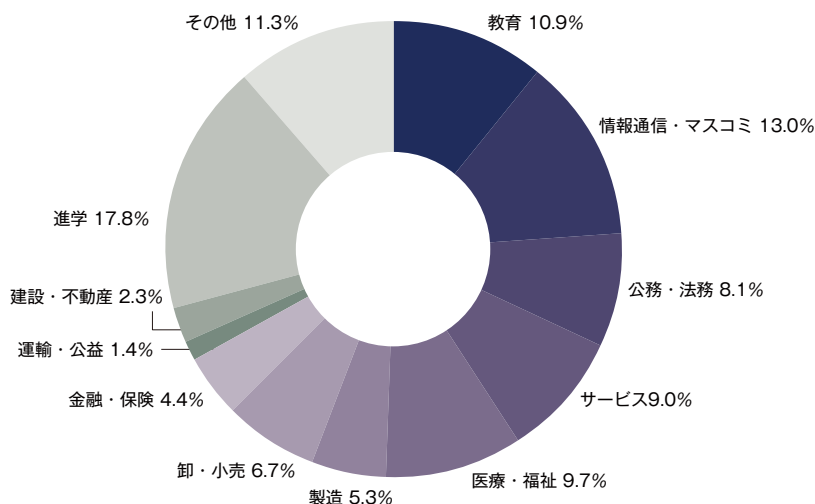
■ 建設・不動産

(株)飯田産業、(株)木下工務店(木下グループ)、(株)共立メンテナンス、(株)ケーマックス、(株)ティーケービー、(株)日本住宅保証検査機構

■ その他

参議院事務局、衆議院事務局、(財)首都圏不燃建築公社、(独)日本芸術文化振興会(国立劇場)、(独)日本スポーツ振興センター、公益(社)能楽協会、野田市郷土博物館、三島市議会

就職内定者業種別割合



在籍者／勤務先

(株)IHII、(株)アサツーディ・ケイ、アサヒビール(株)、アスクル(株)、アステラス製薬(株)、(株)イオン銀行、江戸川区役所、NTTコミュニケーションズ(株)、(株)エヌ・ティ・ティ・データ、オーストラリア航空、大田区立教育センター、外務省、(株)カカココム、川崎商工会議所、(株)グロービス、経済産業省、警視庁、厚生労働省、(独)国際協力機構(JICA)、(独)国立国際医療研究センター、埼玉県庁、(株)JTBコミュニケーションズ、シティバンク銀行(株)、首都高速道路(株)、(学)上智学院、(株)新生銀行、(株)セガエンタテインメント、総務省、ソニー(株)、大日本印刷(株)、デル(株)、TOTO(株)、トレンドマイクロ(株)、内閣府、(株)日経BP、日本通運(株)、日本郵便(株)(日本郵政グループ)、(株)日本経済新聞社、日本生活協同組合連合会、公益(財)日本生産性本部、日本赤十字社、バンク・オブ・アメリカ・エヌ・エイ 東京支店、BNPパリバ証券(株)、東日本旅客鉄道(株)(JR東日本)、(株)ビッカメラ、富士急行(株)、富士通(株)、防衛省、本田技研工業(株)、前田建設工業(株)、みずほ総合研究所(株)、(株)三井住友銀行、三菱UFJ信託銀行(株)、港区役所、文部科学省、横浜市政府、(株)リクルートホールディングス、公益(財)流通経済研究所

理工系就職状況

過去4年間で見ると半数弱(44.4%)が製造業に就職。

主に研究職や開発職などの専門職において、理系ならではの高度な専門知識・技術を発揮しています。

就職内定先一覧 (過去4年間/2014～2017年度) ※名称等は変更になっている場合があります。

教育

神奈川県教員、埼玉県教員、(学)東京電機大学、東京都教員、(学)法政大学、(学)立教学院 立教大学

情報通信・マスコミ

(株)インターネットイニシアティブ、(株)インテック、NECソリューションイノベータ(株)、NEC ネットエスアイ(株)、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)、(株)エヌ・ティ・ティ・データ、NTTデータシステム技術(株)、キャノンソフトウェア(株)、KDDI(株)、(株)講談社、ソフトバンク(株)、(株)デンソーアイセム、ドコモ・システムズ(株)、(株)ダウンゴ、(株)ナビタイム ジャパン、ニッセイ情報テクノロジー(株)、日本アイ・ビー・エム(株)、(株)野村総合研究所、パナソニックシステムデザイン(株)、東日本電信電話(株)(NTT東日本)、(株)日立システムズ、(株)日立ソリューションズ、(株)富士通フサソ、(株)ミクシィ、三菱UFJインフォメーションテクノロジー(株)、三菱電機インフォメーションシステムズ(株)、ヤフー(株)

公務・法務

愛知県庁、神奈川県庁、群馬県庁、国土交通省、埼玉県庁、さいたま市役所、千葉県庁、東京都庁、長野県庁、防衛省、横浜市役所

サービス

アクセンチュア(株)、ANAベースメンテナンステクニクス(株)、NECエンジニアリング(株)、NEC フィールドイング(株)、NTTデータ先端技術(株)、(株)カカクコム、(株)サイバー エージェント、ジェイアール東日本ビルテック(株)、スターツグループ、セコム(株)、総合警備保障(株)、(株)博報堂アイ・スタジオ、(株)ホンダテクノフォート、みずほ情報総研(株)、三菱総研DCS(株)、(株)メイテック、(株)リクルートR&Dスタッフィング

卸・小売

カネコ種苗(株)、(株)セブン&アイ・ネットメディア、ダイワボウ情報システム(株)、パナック(株)、ヤンマーアグリジャパン(株) 関東甲信越カンパニー

金融・保険

(株)あおぞら銀行、(株)新生銀行、三井住友カード(株)、三井住友海上あいおい生命保険(株)、(株)りそな銀行

運輸・公益

小田急電鉄(株)、京王電鉄(株)、京葉ガス(株)、首都高速道路(株)、西濃運輸(株)、東海旅客鉄道(株)(JR東海)、東京地下鉄(株)(東京メトロ)、東京電力(株)、東武鉄道(株)、成田国際空港(株)、日本郵政(株)(日本郵政グループ)、東日本高速道路(株)、東日本旅客鉄道(株)(JR東日本)、北海道旅客鉄道(株)(JR北海道)

製造

アース製薬(株)、(株)IHI、IHI 運搬機械(株)、アイシン・エイ・ダブリュ(株)、アイシン精機(株)、曙ブレーキ工業(株)、アルパイン(株)、いすゞ自動車(株)、出光興産(株)、NTTエレクトロニクス(株)、(株)岡村製作所、(株)おやつカンパニー、オリンパス(株)、カシオ計算機(株)、カンロ(株)、キャノン(株)、クラリオン(株)、コニカミノルタ(株)、(株)小松製作所、JFEエンジニアリング(株)、JRR東日本メカトロニクス(株)、JX金属(株)、シチズン時計(株)、(株)ジャパンディスプレイ、(株)SUBARU、住友重機械工業(株)、セイコーインスツル(株)、セイコーエプソン(株)、ソニー(株)、TDK(株)、大日本印刷(株)、太平洋セメント(株)、テルモ(株)、(株)東芝、東芝機械(株)、(株)東ソー分析センター、トヨタ自動車(株)、トヨタ車体(株)、(株)ニコン、日産自動車(株)、日本電気(株)(NEC)、日本ハム(株)、日本航空電子工業(株)、日本電産(株)、任天堂(株)、パナソニック(株)、パナソニックシステムネットワークス(株)、(株)パロマ、日野自動車(株)、(株)日立製作所、日立造船(株)、ヒロセ電機(株)、富士フイルムメディカル(株)、(株)富士通ゼネラル、(株)平和、本田技研工業(株)、マツダ(株)、マプチモーター(株)、(株)マンダム、三菱化学(株)、三菱自動車工業(株)、三菱製鋼(株)、三菱電機(株)、(株)村田製作所、ライオン(株)、(株)リコー、(株)LIXIL、理想科学工業(株)、横河電機(株)、YKKAP(株)

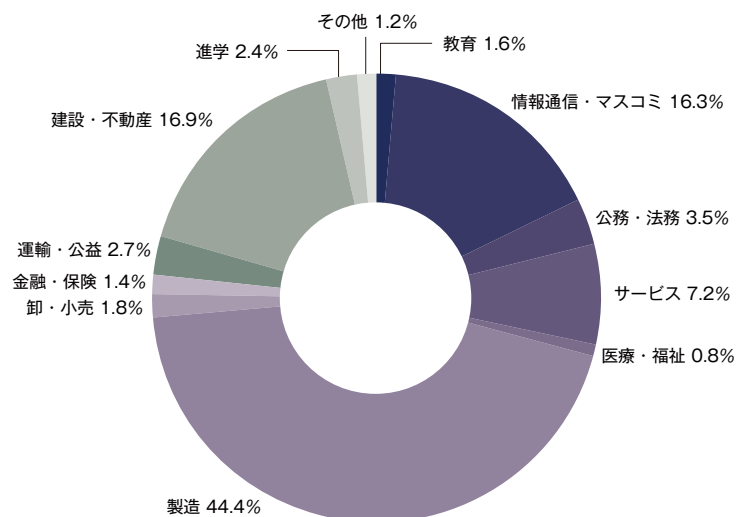
建設・不動産

旭化成ホームズ(株)、(株)安藤・間、伊藤忠ハウジング(株)、(株)大林組、(株)熊谷組、五洋建設(株)、(株)大京、(株)大建設、大成建設(株)、大和ハウス工業(株)、(株)竹中工務店、(株)東急モーズデベロップメント、東急不動産(株)、東京都住宅供給公社、野村不動産(株)、野村不動産パートナーズ(株)、(株)長谷工コーポレーション、(株)日立パワーソリューションズ、(株)フジタ、(株)細田工務店、前田建設工業(株)、三井ホーム(株)、三井住友建設(株)

その他

一般(財)化学物質評価研究機構、埼玉県厚生農業協連(JA埼玉厚生連)、(独)情報処理推進機構、(独)理化学研究所、一般(財)リモートセンシング技術センター

就職内定者業種別割合



科目等履修生

科目等履修制度は、法政大学大学院修士課程が開講する授業を1科目から履修できる制度です。

※一部履修できない科目があります。また、正規生の履修に支障をきたす場合、履修ができません。

科目等履修生は、毎年8月下旬と3月中旬に募集しています。

■ 科目等履修生のメリット

① 大学院進学準備期間として活用

2年間通学できるか心配な方には、大学院通学の疑似体験としても利用できます。どのような授業が行われているか、立地的に問題がないか、体験してみてください。

② 履修した科目は無駄にならない

科目等履修生として取得した単位のうち10単位までは、正規生に入学後、研究科教授会の許可を受けて修了に必要な単位として認められます。よって履修した科目は無駄になりません。

POINT

単位

一年度
12単位以内

費用

＜参考＞文系 4単位科目1科目の場合
登録料 10,000円 + 履修料 60,000円

合計 **7** 万円

本制度利用の目的はさまざまです！

学部で学んだ内容を今一度確認し、資料解釈の幅をさらに広げたい方

☐ 史学専攻 [日本考古学特殊研究Ⅰ・Ⅱ]

企業家としてイノベーションを主導したい方

☐ 経営学専攻 [イノベーション・マネジメント概論]

企業の海外戦略を理論的・実践的に学びたい方

☐ 経営学専攻 [国際経営論]

消費者のニーズを体系的に分析したい方

☐ 経営学専攻 [マーケティング・リサーチ論]

キャリアコンサルタント国家資格化に伴い、専門性の深化した学びを必要としている方

☐ キャリアデザイン学専攻 [キャリアカウンセリング論]

科目等履修生は、学士の学位を得た者が大学院における正規学生の授業に支障のない範囲で授業担当者および当該研究科教授会承認を経て許可されます。ただし、履修できる授業は、正規学生の登録がある修士課程の科目に限ります。科目等履修生の募集受付は、年2回。春学期（通年開講科目、春学期科目）と秋学期（秋学期開講科目）となりますが、1年を通じ12単位までの受講が可能です。「いずれ大学院に進学したいと思うが、今は通学できる時間が十分確保できない」「週1回程度なら受講できる」あるいは「大学院に進学したいと思っているが、研究テーマを絞り切れていない」「大学院の授業についていけるかどうか不安である」等々の理由で大学院進学準備期間として本制度を活用していただくことができます。

本制度の申請受付期間は、春学期は毎年前年度末の3月中下旬、また、秋学期は8月下旬の1週間程度となります。応募資格、申請期間、登録料・受講料、提出書類など詳しい情報に関しては、募集要項にて確認してください。

募集研究科・専攻

研究科名	専攻名
人文科学研究科	哲学専攻・日本文学専攻・英文学専攻・史学専攻・地理学専攻・心理学専攻・国際日本学インスティテュート
国際文化研究科	国際文化専攻
経済学研究科	経済学専攻
法学研究科	法学専攻
政治学研究科	政治学専攻・国際政治学専攻
社会学研究科	社会学専攻
経営学研究科	経営学専攻
キャリアデザイン学研究科	キャリアデザイン学専攻
公共政策研究科	公共政策学専攻・サステナビリティ学専攻
政治学研究科・公共政策研究科	連帯社会インスティテュート
理工学研究科	機械工学専攻・電気電子工学専攻・応用情報工学専攻・システム理工学専攻・応用化学専攻・生命機能学専攻
デザイン工学研究科	建築学専攻・都市環境デザイン工学専攻・システムデザイン専攻
人間社会研究科	福祉社会専攻
スポーツ健康学研究科	スポーツ健康学専攻
政策創造研究科	政策創造専攻

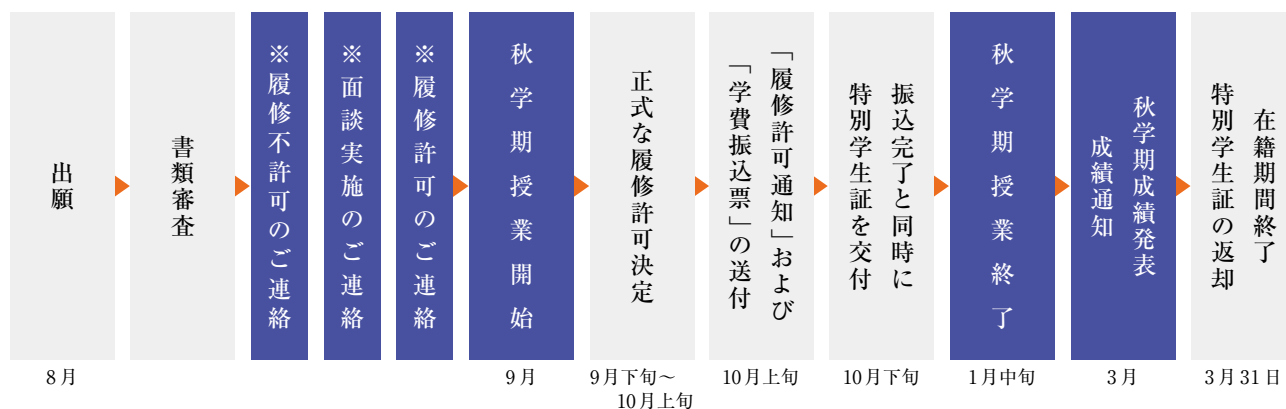
※情報科学研究科 情報科学専攻、人間社会研究科 臨床心理学専攻は、科目等履修生を募集しません。
※経済学（昼間）、社会学、人間社会研究科の授業は、市ヶ谷キャンパスおよび多摩キャンパスで行われますので、時間割に注意してください。なお、理工学研究科の授業は小金井キャンパスで行われます。

履修できる科目

科目等履修生として履修することができるのは、正規学生の履修登録がある修士課程の授業科目のみです。博士後期課程の授業科目は履修できません。併せて、以下の点に注意してください。

- 修士論文の完成を目的とした「論文指導科目」や、在学生の研究発表を目的とした科目は履修できません。専攻によって、論文指導科目を「○○○演習」の名称で表現している場合があります。
- 科目の性格により、受講を認めない場合があります。出願する科目について不明な点がありましたら、担当窓口までお問い合わせください。
- 出願を受け付けた科目については、書類審査を経て受講許可・不許可の判断をいたします。必要に応じて面接を課す場合もあります。授業の性格により、担当教員が受講を許可しない場合がありますので、予めご了承ください。
- 受講許可となった科目でも、正規学生の履修登録がない科目については判明した時点で履修の継続ができません。

出願から在籍期間終了までの流れ <参考>秋学期出願の場合



※研究科によるフローが上記と異なる場合があります。詳しくは募集要項をご覧ください。

2019年度出願資格(抜粋)

- 1 大学を卒業した者
- 2 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者
- 3 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- 4 外国の学校が行う通信教育における授業科目をわが国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- 5 文部科学大臣の指定した者
- 6 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者

※ホームページの募集要項で最新の出願資格を確認してください。
※出願資格の確認が必要な方は、事前に各研究科担当窓口にお問い合わせいただき、指定期日までに、本学所定の履歴書のほか、最終学歴の卒業証明書と成績証明書をご提出ください。なお、研究科によって追加書類の提出を求める場合があります。

学費

登録料	10,000円 ただし、同一年度内に本大学院内(専門職課程含む)の科目等履修生の登録料を納入済みの場合は不要です。
履修料	①人文科学研究科(国際日本学インスティテュートを含む)・国際文化研究科・経済学研究科・法学研究科・政治学研究科・社会学研究科・経営学研究科・キャリアデザイン学研究科・公共政策研究科・連帯社会インスティテュート・人間社会研究科 (1)4単位科目1科目につき60,000円 (2)2単位科目1科目につき30,000円 ②理工学研究科・デザイン工学研究科 (1)4単位科目1科目につき94,000円 (2)2単位科目1科目につき47,000円 ③政策創造研究科 2単位科目1科目につき50,000円 ④スポーツ健康学研究科 (1)4単位科目1科目につき68,000円 (2)2単位科目1科目につき34,000円
その他	上記のほか、授業で利用する教材等で別途料金の負担が必要になることがあります。

2019年度時間割表・シラバス公開

各研究科ホームページで公開しています。

研究科名	時間割表・シラバスの公開
人文科学研究科(国際日本学インスティテュートを含む)・国際文化研究科・経済学研究科・法学研究科・政治学研究科・社会学研究科・経営学研究科・キャリアデザイン学研究科・公共政策研究科・連帯社会インスティテュート	http://www.hosei.ac.jp/gs/jyugyo/ichigaya/
情報科学研究科・理工学研究科	http://www.hosei.ac.jp/gs/jyugyo/koganei/
デザイン工学研究科	http://www.design.hosei.ac.jp/gs/
人間社会研究科	http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/ningenshakai/
スポーツ健康学研究科	http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/sports/
政策創造研究科	http://www.hosei.ac.jp/gs/jyugyo/sozo/

協定大学院・プログラム

教育・研究活動のさらなる充実を目的として、

学外のさまざまな大学院やプログラムと提携しています。

また、外国人学生の受け入れなどにより、学内でも多様な交流を推進しています。

■ 協定大学院・プログラム

他大学院との単位互換について

本学大学院では、相互聴講に関する協定をほかの大学院と締結しています。英文学・地理学・経済学・政治学・社会学・経営学・福祉社会の各専攻では、研究上の必要性により、他大学院の授業科目の聴講を希望する場合、協定校の授業を10単位（経済学・経営学、経営学（夜間）専攻の協定は8単位）まで受講することができます。また専攻の枠を超えて、他大学院で履修できる「首都大学院コンソーシアム」制度を利用することもできます（専攻に限定あり）。他大学院で修得した単位は、一定限度内で本学大学院の修了所要単位として認定されます。

上海外国語大学（中国）との ダブル・ディグリープログラム

人文科学研究科国際日本学インスティテュート（修士課程）では、上海外国語大学（中国）との間でダブル・ディグリープログラムに関する協定を締結し、2019年度からそれぞれの大学から派遣する学生が双方の課程を修了することにより、両者の修士学位を取得することが可能となりました。このプログラムは教育の国際的な展開を図り、本インスティテュートの教育・研究水準向上に寄与するものです。

海外大学院への留学制度について

【大学院学生海外留学制度】

本学と協定を有する外国の大学、または学生の申請に基づき本学が認めた大学、およびその研究機関への留学が可能です。所定の期間内に申請し、留学を許可された者のうち、審査のうえ若干名に補助金を交付します（この補助金は研究者養成のためのものであり、選考の上1名あたり上限100万円を支給）。留学した大学などで履修した科目のうち、専攻教授会が適当と認めた者については、本大学院の課程修了に必要な単位として認定されます。ただし、認定単位は10単位以内です。

【派遣留学制度】

学業成績が優秀で高い外国語能力を持ち、かつ、留学に強い意志を持った学生を海外（20カ国・地域）の協定大学へ派遣する制度です。派遣留学生に選ばれると、留学先大学での学費が免除されます。



2019年度 協定大学院一覧（国内）

●英文学専攻

青山学院大学大学院／上智大学大学院／明治大学大学院／明治学院大学大学院／日本女子大学大学院／立教大学大学院／聖心女子大学大学院／東北学院大学大学院／東京女子大学大学院／東洋大学大学院／津田塾大学大学院

●地理学専攻

駒澤大学大学院／明治大学大学院／専修大学大学院／国士舘大学大学院／日本大学大学院

●経済学専攻

青山学院大学大学院／専修大学大学院／中央大学大学院／東洋大学大学院／日本大学大学院／明治学院大学大学院／明治大学大学院／立教大学大学院

●経済学・経営学専攻

立教大学大学院／明治大学大学院／中央大学大学院／専修大学大学院

●政治学専攻

学習院大学大学院／成蹊大学大学院／中央大学大学院／日本大学大学院／明治大学大学院／立教大学大学院

●社会学専攻

茨城大学大学院／大妻女子大学大学院／駒澤大学大学院／埼玉大学大学院／上智大学大学院／成蹊大学大学院／専修大学大学院／創価大学大学院／大正大学大学院／千葉大学大学院／中央大学大学院／都留文科大学大学院／東洋大学大学院／常盤大学大学院／日本女子大学大学院／日本大学大学院／武蔵大学大学院／明治学院大学大学院／明治大学大学院／立教大学大学院／立正大学大学院／流通経済大学大学院

●経営学専攻（夜間）

関西学院大学専門職大学院

●福祉社会専攻

上智大学大学院／明治学院大学大学院／日本女子大学大学院／東洋大学大学院／淑徳大学大学院／日本社会事業大学大学院／大正大学大学院／立正大学大学院／ルーテル学院大学大学院／関東学院大学大学院／立教大学大学院／日本大学大学院

●首都大学院コンソーシアム

順天堂大学大学院／専修大学大学院／中央大学大学院／東京電機大学大学院／東京理科大学大学院／東洋大学大学院／日本大学大学院／明治大学大学院／共立女子大学大学院／玉川大学大学院

●理工学研究科

総合研究大学院大学物理科学研究科

TOPICS

法政大学では全学的に教育の
グローバル化を推進しています。

① 法政大学スーパーグローバル大学創成支援事業

法政大学は、文部科学省・平成26年度スーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創成支援（タイプB：グローバル化牽引型）」に採択されました。この事業は、「大学改革」と「国際化」を断行し、国際通用性、ひいては国際競争力の強化に取り組む大学の教育環境の整備を目的として、国から重点的に財政支援されるものです。今回採択された本学の構想名は、「課題解決先進国日本から持続可能な社会を構想するグローバル大学の創成」です。世界的な規模で多様な研究を本学に集結させ、自然環境のみならず、高度な教育を通じた安定的な経済社会の持続可能性や、長い歴史と多様な展開をしてきた文化の持続可能性を含め、日本だからこそなし得る「日本発」の持続可能な教育の確立と発信を通じて、わが国社会のグローバル化を牽引する大学を目指します。

理工系の連携大学院

JAXA 宇宙航空研究開発機構

本学とJAXAにて、これまで行ってきた教育研究協力の成果を踏まえ、2010年度に旧研究開発本部とスタートした連携大学院協定は、2014年度には旧航空本部、宇宙科学研究所との協定にも発展し、これまでの活動が実を結び、2019年度からは部門を指定しない「ALL JAXA」との協定となりました。JAXAの職員が客員教員として理工学研究科の学生の研究指導にあたる一方、理工学研究科に在籍する学生がJAXA内で研究指導を受けられるものです。

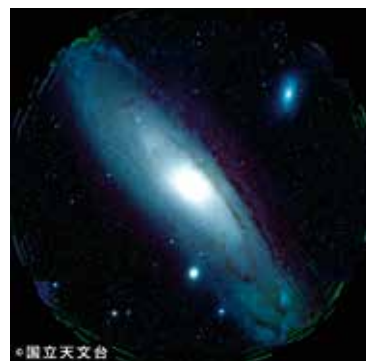
協力体制の確立により、JAXAの優れた研究設備、人材、研究テーマなどを本学大学院研究に活用し、教育研究活動のより一層の充実を図るとともに、新しいミッションの実現を目指した技術開発と研究指導を行い、機構の研究活動を推進し、その成果・普及を更に促進することにより、わが国における宇宙科学、宇宙航空技術分野および宇宙理工学分野の発展に寄与することを目指します。



国立天文台 自然科学研究機構

2014年度より、本学と国立天文台は、連携大学院に関する協定を締結しました。

これまでも本学と国立天文台とは電波天文学、重力波天文学および光赤外線天文学分野で共同研究の実績がありましたが、協定の締結により、これらの3つの分野を中心に、そこに所属する優れた研究者を客員教員として招聘し、国立天文台が保有する最先端の研究設備を共同利用することができます。そこから得られるデータや経験を大学院での教育研究に活用することにより、本学における天文宇宙に関する教育研究活動を一層充実させることが可能となりました。具体的には、すばる望遠鏡を用いた銀河考古学研究や、天文文化研究のフィールドワーク受け入れ先として、学生が参加する共同研究を構築し発展させます。



ダブルディグリープログラム ー中国ソフトウェア学院とのダブルディグリープログラムー

情報科学研究科では、2011年度より中国教育部が所管する模範的ソフトウェア学院連盟（中国国家重点大学を中心にした37大学を統括）と情報科学系大学院生の共同学位プログラム（ダブルディグリープログラム）を継続しています。

本プログラムでは、双方の大学に1年ずつ在籍して英語による講義や研究指導を受けることで、履修単位の相互認定制度により両大学から修士の学位を取得できます。これまでに70名を超えるプログラム修了生があり、国際会議での活躍、博士課程への進学など、教育・研究の両面において大きな成果を上げています。

本学としては、本制度による双方の学生による互いの大学院への留学を始めとして、教育研究の両面で実りあるグローバルな学術交流を推進しています。



② 法政大学グローバルポリシー

本学は2014年7月「法政大学グローバルポリシー」を制定しました。2023年までの10年間をかけて、「世界に開かれた大学」「市民に開かれた大学」「多様な知に開かれた大学」を基本理念に据え、「持続可能で平和な地球社会の構築に貢献する大学」を目指します。

③ 海外との交流も推進

各研究科では外国人留学生に門戸を開いており、複数の専攻で外国人入試を実施しています。また、本学と協定を結んでいる中国、ベトナム、ロシア、イタリアなどの各大学・研究機関から研究員を受け入れ、学術交流を行っています。

スーパーグローバル大学としての取組み

〔海外留学制度の拡充〕

派遣留学制度、スタディ・アブロード(SA)制度を拡充し、単位修得を伴う留学を増加させます。

〔海外協定校を250校に拡大〕

海外協定校を250校に拡大します。

〔海外オフィスの拡充(6拠点の整備)〕

中国、台湾、ベトナム等に海外事務所を展開します。

〔外国人留学生3,000名の実現〕

入試制度の多様化、英語による学位コースの新設等により在留資格「留学」の留学生を2,000名に、短期実践日本語研修・文化体験やフィールド体験学習プログラムの充実等により在留資格「留学」以外の留学生を1,000名にします。

〔国際学生寮等の整備〕

国際学生寮(混住型宿舎)、短期研修専用の教育施設を整備します。

〔文理融合サステナビリティ研究の推進〕

文理融合型の「サステナビリティ研究」を核にして世界水準の研究成果を発信します。

研究所・図書館

■ 附属研究施設

法政大学にはさまざまな分野にわたる附属研究施設が設置されています。いずれも高度な専門研究・調査機関として数多くの実績をあげており、学外の研究者や産業界との共同研究も盛んで、研究・調査活動の成果は叢書や報告書、講演会、シンポジウムなどによって学会や一般に公開されています。また、各研究所の設置や資料・蔵書などは研究者のほか一般にも公開されていることが多く、大学院学生も利用できます。

詳細については、ホームページをご覧ください。

http://www.hosei.ac.jp/kyoiku_kenkyu/kenkyusho/

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| ●大原社会問題研究所 | ●比較経済研究所 |
| ●イオンビーム工学研究所 | ●イノベーション・マネジメント研究センター |
| ●情報メディア教育研究センター | ●国際日本学研究所 |
| ●沖縄文化研究所 | ●サステナビリティ実践知研究機構 |
| ●スポーツ研究センター | 地域研究センター |
| ●ボアソナード記念現代法研究所 | エコ地域デザイン研究センター |
| ●野上記念法政大学能楽研究所 | マイクロ・ナノテクノロジー研究センター |
| ●日本統計研究所 | 江戸東京研究センター |

野上記念法政大学能楽研究所



漱石門下の英文学者で、能楽研究に新生面を開拓した本学元総長・野上豊一郎博士の功績を記念して設立された、わが国有数の能楽総合研究機関です。最大の特色はその豊富な蔵書です。「鴻山文庫」「般若窟文庫」ほか特色ある文庫も含め、室町期以降の写本・版本、明治以降の活字本・雑誌その他、4万冊を数えます。

<http://nohken.ws.hosei.ac.jp/>

法政大学大原社会問題研究所

1919年に設立された本研究所は、多摩キャンパスに置かれ、社会科学の分野では、わが国で最も古い歴史を持つ研究所のひとつとして知られています。現在も、社会労働問題に関する研究調査を進めており、数多くのプロジェクトによる研究成果は、『大原社会問題研究所雑誌』『日本労働年鑑』や『大原社会問題研究所叢書』として発表されています。

研究所所蔵の図書・資料は、社会労働問題関係図書をはじめとする図書約20万冊、その他資料多数にのぼります。インターネットを通じた情報公開と研究支援も展開しています。なお、2013年4月1日より、旧サステナビリティ研究教育機構環境アークが本研究所に統合されました。

<http://oisr-org.ws.hosei.ac.jp/>

法政大学沖縄文化研究所



本研究所は沖縄が日本に復帰した1972年に設立されて以来、沖縄・奄美地域の文化を総合的に研究しています。研究所内には学生や一般の方が利用できる閲覧室があり、沖縄関係の書籍や研究所が所蔵している資料を閲覧することができます。また、毎週金曜日に総合講座「沖縄を考える」を開講し、沖縄県内からも多くの講師をお迎えしています。沖縄研究に関して国内外の研究者を結ぶネットワークの拠点としての役割を担っています。

<http://www.hosei.ac.jp/fujimi/okiken/>

法政大学イオンビーム工学研究所

法政大学創立100周年記念として設立された、2台の加速器を所有する国内の私立大学の中で数少ない研究所です。物質中の元素の深さ分布の定量測定や生体および環境物質中の元素分析が可能な分析用加速器と、半導体などの物質改質用のイオン注入加速器を用いて、国内外の研究者と共同利用研究を実施しています。毎年、学術講演会「イオンビーム工学シンポジウム」を開催しており、国公私立大学、国公立研究所、民間企業の研究機関などから多数の研究者が参加しています。研究成果の一部は「法政大学イオンビーム工学研究所報告（欧文、和文）」として毎年刊行しており、また、イオンビーム利用の科学教育についてNHKの取材にも協力しています。

<http://www.ionbeam.hosei.ac.jp/>

法政大学イノベーション・マネジメント研究センター

イノベーションをキーワードに産学官連携を図り、産業・経営に関する学術交流と研究を行います。社史や各省庁などの発行する「定価のない資料」を中心に、経済系では国内最大の蔵書（約28万点）を公開しています。2009年、流通・消費財産業に特化した流通産業ライブラリーを設立しました。

<http://riim.ws.hosei.ac.jp/>

地域研究センター

企業、地域社会、政府機関、NPOなどとの連携を恒常的に構築し、本学の蓄積された知識を社会のニーズに応じて発信・提供しています。具体的には、地方自治体などへの政策支援、地域経済の基盤となる中小企業の支援、地域住民やNPOへの情報提供や教育支援、海外の地域振興の先進事例の調査・研究、行政機関・地方自治体などの協働による新しい教育実現などさまざまな活動を行っています（全国18の自治体と協定し、多様な事業を展開中）。

<http://kenkai.ws.hosei.ac.jp/hurin.html>

法政大学国際日本学研究所

本研究所は、文部科学省「21世紀COEプログラム」に国際日本学研究が研究プログラムとして採択されたのを機縁に、世界に開かれ、諸学問に開かれた国際日本学の研究拠点として、2002年に設立されました。

グローバル化が進む目下の世界の趨勢の中で新たな日本像を確立させることが本研究所が担う、国際日本学研究所の使命です。

<http://hijas.hosei.ac.jp/>

マイクロ・ナノテクノロジー研究センター

2003年度に、文部科学省の「私立大学学術研究高度化推進事業」ハイテクリサーチセンター整備事業の採択を受けて設立。2013年度に文部科学省の「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」(5年間)に採択された、「グリーンテクノロジーを支える次世代エネルギー変換システム」プロジェクトに基づく研究が進められています。

<http://www.hosei.ac.jp/nano/>

■ 法政大学大学院特定課題研究所

大学院特定課題研究所は、本学専任教員が研究代表者となって、受託研究費などの学外資金により共同研究を行う場合に5年間で限度に設置できる時限的研究所です。既に設置された研究所は30を数え、大学院修了者が共同研究者となっている研究所もあります。

大学院博士後期課程在籍者もリサーチ・アシスタント(R・A)として参加することができるようになっており、大学院の研究機能の強化と併せて、大学院学生の研究能力の向上に資することが期待されています。

■ 図書館

法政大学には、3キャンパスにそれぞれ図書館があります。学習用図書・学術図書・政府刊行物を合計で約176万冊所蔵しています。この他新聞・雑誌・マイクロフィルムなどさまざまな資料があります。この中に、俳人・歌人である正岡子規や梅謙次郎、和辻哲郎、三木清、戸坂潤の蔵書など、貴重なものを多数含んでいます。

平日の開館時間については、市ヶ谷図書館は夜10時まで、多摩・小金井図書館は夜9時まで。土日祝日も開館しており、年間約320日オープンしています。通うキャンパスにかかわらず、いずれの図書館も利用できます。また他のキャンパスの図書館から資料を取り寄せて貸出・返却もでき、各種データベースや電子ジャーナルも利用できます。

また、教育・研究環境の急激な変化に対応し、利用者へのサービス向上をはかるため、山手線沿線の以下の私立大学図書館がコンソーシアムを形成しています。2018年から、関西大学図書館の館内閲覧も可能になりました。

<「山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム」加盟大学図書館>

青山学院大学、学習院大学、國學院大學、東洋大学、法政大学、明治大学、明治学院大学、立教大学



市ヶ谷図書館

市ヶ谷キャンパス「80年館」にあり、地下4階から地上2階までの6フロアで構成されています。また市ヶ谷田町校舎に閲覧室、富士見坂校舎にラーニングcommonsがあります。和・洋図書約750,000冊の他、和・洋雑誌、新聞約9,700タイトルを所蔵しています。



多摩図書館

多摩キャンパスのほぼ中央となる図書館・研究所棟の中にあります。地下2階から地上4階までの合計6フロアで構成されています。和・洋図書約835,000冊の他、和・洋雑誌、新聞約10,500タイトルを所蔵しています。



小金井図書館

小金井キャンパス南館に閲覧室・ラーニングcommons・メディアライブラリー・書庫があり、これらの施設を利用できます。多数の和・洋図書の他、和・洋雑誌、新聞約2,900タイトルを所蔵しています。



デスクに設置されたノートパソコンでネットワークを利用できます。



高層階からの眺望が楽しめる開放的なスペースで、パソコンを利用し自習することができます。



地上27階、地下4階の市ヶ谷キャンパスのシンボル。最新設備の研究施設や教室、食堂などがあります。



870名収容。省エネルギーESCO事業を導入し、講演会・セミナーや進学相談会などが行われます。



就職活動やキャリア形成をサポート。相談ブースや就職資料を閲覧できるコーナーがあります。



留学生の、各種奨学金の申し込みや資格外活動、医療費補助の相談などのサポートを行っています。



国際会議や学会・行事に利用される多機能スペース。同時通訳システムやAVシステムなどの設備があります。

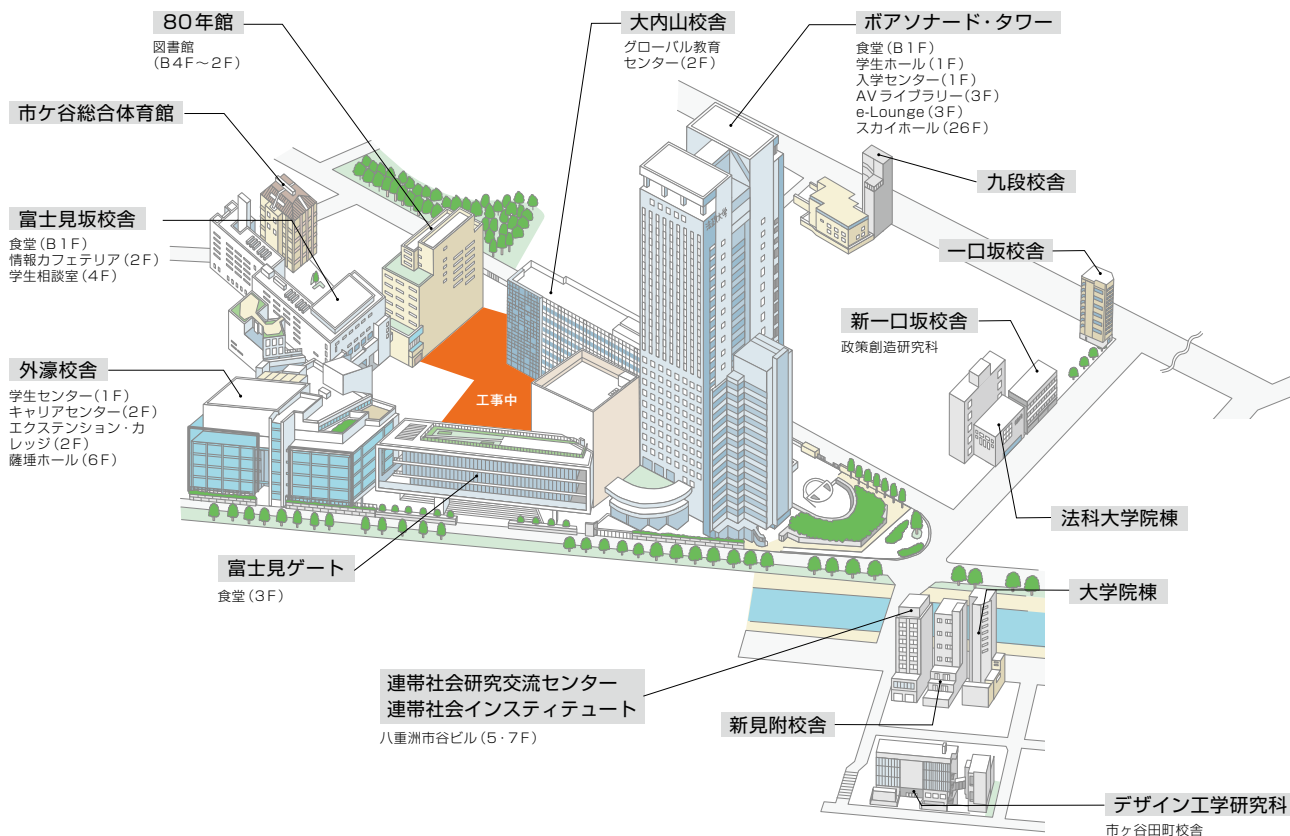


デザイン工学部、デザイン工学研究科の授業が行われており、最新設備を備えたスタジオなどが設置されています。

キャンパス・施設

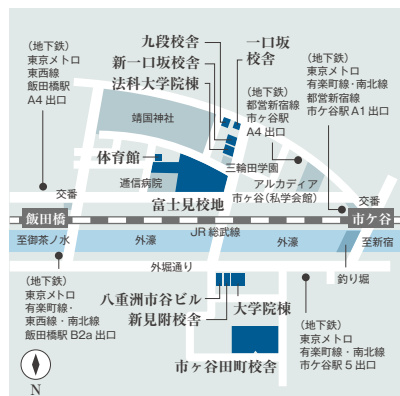
市ヶ谷キャンパス

法政大学のシンボル「ボアソナード・タワー」をはじめ、大学院棟があります。



周辺地図

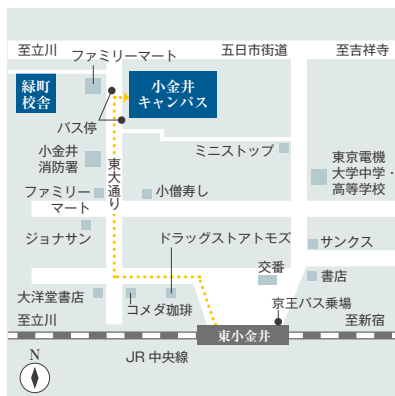
市ヶ谷キャンパス



【JR線】
総武線：市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩 10分

【地下鉄線】
都営新宿線：市ヶ谷駅下車徒歩 10分
東京メトロ有楽町線：市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩 10分
東京メトロ東西線：飯田橋駅下車徒歩 10分
東京メトロ南北線：市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩 10分
都営大江戸線：飯田橋駅下車徒歩 10分

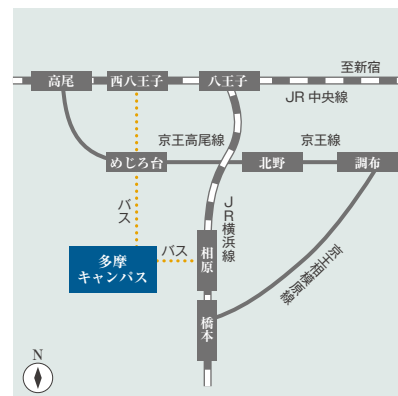
小金井キャンパス



【JR線】
中央線：新宿駅から快速で 21 分、東小金井駅下車、徒歩約 15 分

【バス】東小金井駅から「武蔵小金井駅行」に乗り、「法政大学」下車

多摩キャンパス



【京王線】
新宿駅から特急で 41 分（準特急で 49 分）、めじろ台駅下車、バスで約 10 分

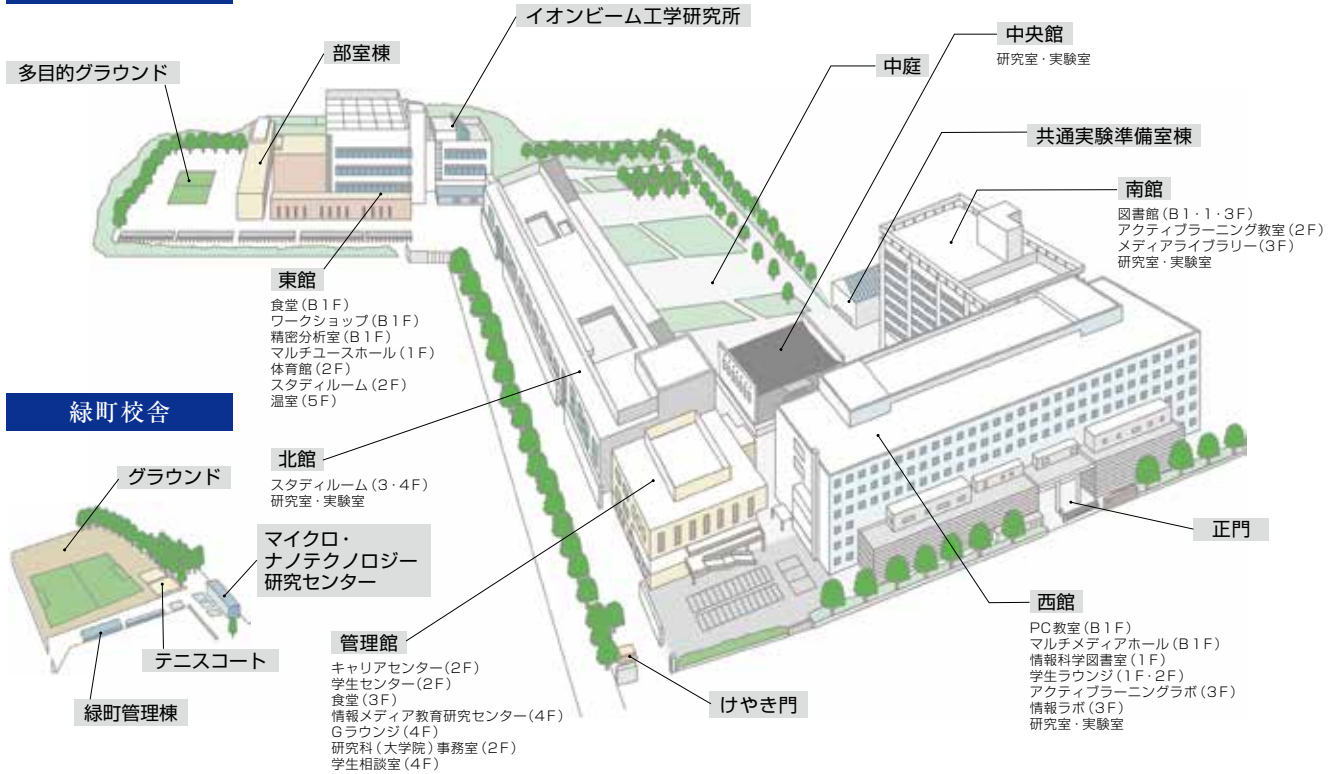
【JR線】
中央線：新宿駅から快速で 50 分（特別快速で 41 分）、西八王子駅下車、バスで約 22 分
横濱線：新横浜駅から快速で 30 分、相模原駅下車、バスで約 13 分

* 上記各バスで「法政大学」下車

■ 小金井キャンパス

自然環境と都心へのアクセスも軽快。最先端科学と技術を学ぶインテリジェント・キャンパス。

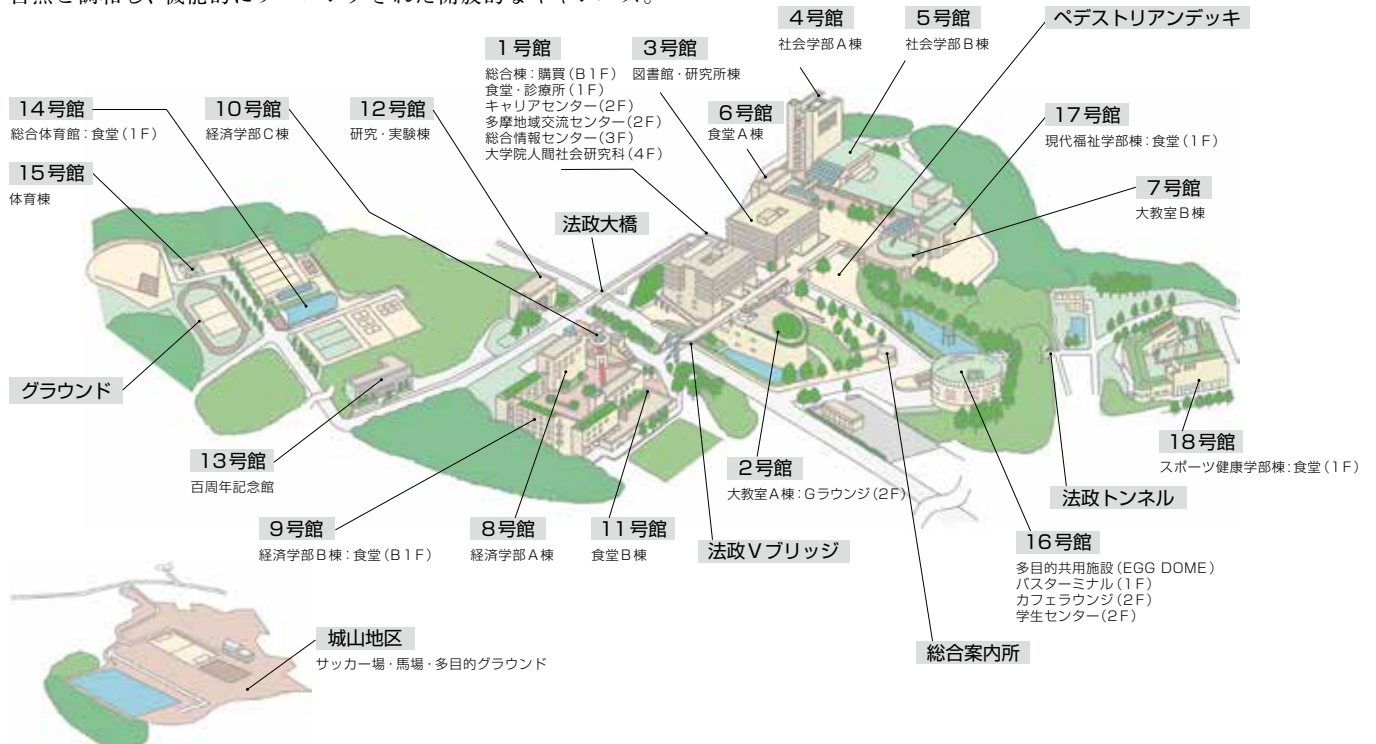
梶野町校舎



緑町校舎

■ 多摩キャンパス

自然と調和し、機能的にゾーニングされた開放的なキャンパス。



学費と各種助成金・奨学金制度

学費

①入学金

本学出身者は無料です。
(政策創造研究科 修士課程は除く)

②授業料

各種助成金・奨学金制度を用意しています。
(下記参照)

(円)

学費一覧（年額） （2020年度予定）		人文科学・国際文化・経済学（注1）・法学・政治学・社会学・経営学・人間社会・公共政策・キャリアデザイン学研究科・連帯社会インスティテュート		スポーツ健康学研究科	情報科学・デザイン工学・理工学研究科・IIST（注2）		政策創造研究科	
		修士	博士後期	修士	修士	博士後期	修士	博士後期
入学金	自校	—	—	—	—	—	135,000	—
	他校	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	270,000	270,000
授業料		570,000	400,000	644,800	770,000	600,000	750,000	750,000
教育充実費		80,000	60,000	100,000	100,000	100,000	135,000	135,000
実験実習費		心理学専攻 臨床心理学専攻 50,000	—	100,000	100,000		—	—
					生命機能学専攻・植物医科学領域のみ 160,000			

授業料等は第一期(春学期)(4月末日まで)・第二期(秋学期)(9月末日まで)の2回に分けて納入していただくことになります。
ただし、1年次(初年度)の第一期分は、入学手続時に納入していただくことになります。

★詳細はお問い合わせください。

※上記のほかに専攻によって2,000～4,000円程度の諸費用が必要。

※年間休学在籍料100,000円。ただし春学期、秋学期休学については半分(2分の1)とする。

※自校とは、本学の学部卒業生または大学院修了者を指し、他校とはその他の者を指す。

(注1)経済学研究科修士1年制コースの授業料は860,000円。入学金、教育充実費は上表のとおり。

(注2)総合理工学インスティテュート(IIST)の授業料は880,000円(修士課程)、600,000円(博士後期課程)、入学金は200,000円(修士・博士後期課程)、教育充実費は100,000円(修士・博士後期課程)、実験実習費は80,000円(修士・博士後期課程。生命機能学専攻植物医科学領域のみ、140,000円)。

修学支援、留学・研究奨励制度

2019年度実施予定の制度です。制度の概要はP.8、9をご覧ください。

名 称	対象者(応募資格)
法政大学100周年記念大学院修士課程奨学金	修士課程在学学生(標準修業年限内)
法政大学大学院博士後期課程研究助成金	博士後期課程在学学生(標準修業年限内)
法政大学大学院海外留学補助金	修士課程・博士後期課程在学学生
法政大学大学院学生論文掲載料補助	
法政大学大学院学会等発表補助金	
法政大学大学院諸外国語による論文等校閲補助	
法政大学大学院学生研究補助金	
法政大学大学院現地調査実施費用補助	修士課程・博士後期課程在学学生(市ヶ谷、多摩キャンパスの研究科)
法政大学大学院優秀博士論文出版助成金	博士後期課程修了生(修了後5年以内)

※在学生について、休学者等は除く。詳細は入学後、募集要項でご確認ください。

■ 教育訓練給付制度（一般教育訓練給付）

下記の専攻は「教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座」の指定を受けています。この制度は、修了後、本人がハローワークへ申請することで、雇用保険の被保険者期間（3年以上または初めて教育訓練給付の支給を受ける方は1年以上）により、教育訓練経費（入学金と初年度授業料）の20%（上限額10万円）の教育訓練給付金が支給されるものです。

< 修士課程 >

- | | | | |
|---------|------------|--------------|-----------------|
| ●国際文化専攻 | ●国際政治学専攻 | ●福祉社会専攻 | ●キャリアデザイン学専攻 |
| ●経済学専攻 | ●社会学専攻 | ●公共政策学専攻 | ●デザイン工学研究科(全専攻) |
| ●政治学専攻 | ●経営学専攻(夜間) | ●サステナビリティ学専攻 | ●理工学研究科(全専攻) |

■ 教育訓練給付制度（専門実践教育訓練給付）

政策創造研究科政策創造専攻（修士課程）は、「専門実践教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座」の指定を受けています。本人が講座受講開始日の1ヵ月前までにハローワークに申請することで、雇用保険の被保険者期間（3年以上または初めて教育訓練給付金の支給を受ける方は2年以上）により、教育訓練経費（入学金と授業料）の50%（年間上限40万円）が2年間、2年間で修了した場合には追加給付として教育訓練経費（入学金と授業料）の20%が支給され、最大112万円の給付金が支給されます。

■ 学外奨学金制度

地方公共団体・民間奨学財団奨学金

不定期であります。各種団体が奨学生を募集しています。
募集の都度、お知らせしています。

〔主な奨学金〕

- ・公益財団法人平和中島財団外国人留学生奨学生
- ・公益信託川嶋章司記念スカラシップ基金奨学助成金
- ・公益財団法人綿貫国際奨学財団奨学生
- ・公益財団法人神林留学生奨学会私費外国人留学生奨学生
- ・公益財団法人日本国際教育支援協会 JEES ドコモ留学生奨学金
- ・一般財団法人守谷育英会

留学生対象の奨学金

文部科学省などの奨学金があります。

〔主な奨学金〕

- ・私費外国人留学生学習奨励費給付制度
- ・文部科学省スーパーグローバル大学創生支援事業
国費外国人留学生

日本学生支援機構奨学金

日本学生支援機構の奨学金は貸与型です。返還の義務がありますので、奨学金を希望する学生は、将来の返済を念頭において出願してください。

出願資格	修士・博士後期課程の在学学生。 ただし、以下の方は資格外です。 (1) 最短修業年限を超えた在学学生 (2) 外国人留学生 (3) 収入基準額を超える者	
	第一種奨学金	無利子
種類	第二種奨学金	①利率固定方式 ②利率見直し方式いずれかの選択 (いずれも利率は年3%上限)
	第一種奨学金	修士課程…50,000円または88,000円 博士後期課程……80,000円または122,000円
貸与月額	第二種奨学金	5万・8万・10万・13万・15万円から選択

(日本学生支援機構による)

入試について・入試日程

■ 入試について

法政大学大学院では、多様な入学試験方式を用意し、
さまざまなバックグラウンドを持つ志願者に広く門戸を開くことに努めています。

一般入試	社会人入試	外国人入試
社会人、外国人に特化した入試ではなく幅広い受験資格により広く門戸を開いた入試方式です。 もちろん社会人、外国人の方も受験できます。 試験は主として 1. 筆記試験（専門・語学） 2. 口述試験 により行われます。	社会人の方を対象とした入試方式です。 試験は主として 口述試験 により行われます。	外国の大学などを卒業した外国人を対象とした入試方式です。 試験は主として 1. 筆記試験 2. 口述試験 により行われます。

■ 2020 年度入試日程 修士課程

* 2011 年度入試より、一部専攻で修士課程と研修生の併願を認めています（実施する専攻は入試要項でご確認ください）。
* 入試の詳細については、研究科により異なりますので、それぞれの入試要項にてご確認ください。

研究科	専攻	入試経路	出願期間	筆記試験日	一次合格発表日	口述試験日	最終合格発表日	入学手続期間
人文科学	哲 学	秋季／一般・社会人	8月28日（水）～9月4日（水）	9月22日（日）	—	9月22日（日）	9月25日（水）	9月26日（木）～10月4日（金）
		春季／一般・社会人	1月1日（水）～1月10日（金）	1月25日（土）	—	1月25日（土）	1月29日（水）	1月30日（木）～2月7日（金）
	日 本 文 学	秋季／一般・外国人・社会人	8月28日（水）～9月4日（水）	9月22日（日）	9月22日（日）	9月22日（日）	9月25日（水）	9月26日（木）～10月4日（金）
		春季／一般・社会人	1月1日（水）～1月8日（水）	1月24日（金）	1月24日（金）	1月24日（金）	1月29日（水）	1月30日（木）～2月7日（金）
		春季／外国人	1月1日（水）～1月8日（水）	1月25日（土）	1月25日（土）	1月25日（土）	1月29日（水）	1月30日（木）～2月7日（金）
	英 文 学	秋季／推薦枠※1	8月28日（水）～9月4日（水）	—	—	9月22日（日）	9月25日（水）	9月26日（木）～10月4日（金）
		秋季／一般	8月28日（水）～9月4日（水）	9月22日（日）	9月22日（日）	9月22日（日）	9月25日（水）	9月26日（木）～10月4日（金）
		秋季／社会人	8月28日（水）～9月4日（水）	9月22日（日）	—	9月22日（日）	9月25日（水）	9月26日（木）～10月4日（金）
		春季／推薦枠※1	1月1日（水）～1月8日（水）	—	—	1月25日（土）	1月29日（水）	1月30日（木）～2月7日（金）
		春季／一般	1月1日（水）～1月8日（水）	1月25日（土）	1月25日（土）	1月25日（土）	1月29日（水）	1月30日（木）～2月7日（金）
		春季／社会人	1月1日（水）～1月8日（水）	1月25日（土）	—	1月25日（土）	1月29日（水）	1月30日（木）～2月7日（金）
	史 学	秋季／一般	8月28日（水）～9月4日（水）	9月22日（日）	9月22日（日）	9月22日（日）	9月25日（水）	9月26日（木）～10月4日（金）
		秋季／社会人	8月28日（水）～9月4日（水）	9月22日（日）	—	9月22日（日）	9月25日（水）	9月26日（木）～10月4日（金）
		春季／一般	1月1日（水）～1月10日（金）	1月25日（土）	1月25日（土）	1月25日（土）	1月29日（水）	1月30日（木）～2月7日（金）
		春季／社会人	1月1日（水）～1月10日（金）	1月25日（土）	—	1月25日（土）	1月29日（水）	1月30日（木）～2月7日（金）
	地 理 学	学内※1	8月28日（水）～9月4日（水）	—	—	9月22日（日）	9月25日（水）	9月26日（木）～10月4日（金）
		秋季／一般	8月28日（水）～9月4日（水）	9月22日（日）	9月22日（日）	9月22日（日）	9月25日（水）	9月26日（木）～10月4日（金）
		秋季／社会人	8月28日（水）～9月4日（水）	9月22日（日）	—	9月22日（日）	9月25日（水）	9月26日（木）～10月4日（金）
		春季／一般	1月1日（水）～1月8日（水）	1月25日（土）	1月25日（土）	1月25日（土）	1月29日（水）	1月30日（木）～2月7日（金）
		春季／社会人	1月1日（水）～1月8日（水）	1月25日（土）	—	1月25日（土）	1月29日（水）	1月30日（木）～2月7日（金）

研究科	専攻	入試経路	出願期間	筆記 試験日	一次合格 発表日	口述試験日	最終合格 発表日	入学手続期間
人文科学	心 理 学	学内※1	6月12日(水)～6月19日(水)	7月6日(土)	7月6日(土)	7月6日(土)	7月10日(水)	7月11日(木)～7月19日(金)
		秋季／一般※2	9月4日(水)～9月11日(水)	10月6日(日)	10月6日(日)	10月6日(日)	10月9日(水)	10月10日(木)～10月18日(金)
		春季／一般※2	1月1日(水)～1月8日(水)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月29日(水)	1月30日(木)～2月7日(金)
	国際日本学 インスティテュート	秋季／一般・外国人	9月4日(水)～9月11日(水)	10月6日(日)	10月6日(日)	10月6日(日)	10月9日(水)	10月10日(木)～10月18日(金)
		秋季／社会人	9月4日(水)～9月11日(水)	—	—	10月6日(日)	10月9日(水)	10月10日(木)～10月18日(金)
		春季／一般・外国人	1月22日(水)～1月29日(水)	2月14日(金)	2月15日(土)	2月15日(土)	2月19日(水)	2月20日(木)～2月28日(金)
		春季／社会人	1月22日(水)～1月29日(水)	—	—	2月15日(土)	2月19日(水)	2月20日(木)～2月28日(金)
国際文化	国際文化	秋季／学内※1	8月28日(水)～9月4日(水)	—	—	9月22日(日)	9月25日(水)	9月26日(木)～10月4日(金)
		秋季／一般・外国人	8月28日(水)～9月4日(水)	9月22日(日)	9月22日(日)	9月22日(日)	9月25日(水)	9月26日(木)～10月4日(金)
		秋季／社会人	8月28日(水)～9月4日(水)	—	—	9月22日(日)	9月25日(水)	9月26日(木)～10月4日(金)
		春季／学内※1	1月1日(水)～1月8日(水)	—	—	1月25日(土)	1月29日(水)	1月30日(木)～2月7日(金)
		春季／一般・外国人	1月1日(水)～1月8日(水)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月29日(水)	1月30日(木)～2月7日(金)
		春季／社会人	1月1日(水)～1月8日(水)	—	—	1月25日(土)	1月29日(水)	1月30日(木)～2月7日(金)
経 済 学	経 済 学	秋季／学内※1	8月28日(水)～9月4日(水)	—	—	10月6日(日)	10月9日(水)	10月10日(木)～10月18日(金)
		秋季／一般・外国人	8月28日(水)～9月4日(水)	10月6日(日)	10月6日(日)	10月6日(日)	10月9日(水)	10月10日(木)～10月18日(金)
		秋季／社会人・ 社会人選抜	8月28日(水)～9月4日(水)	—	—	10月6日(日)	10月9日(水)	10月10日(木)～10月18日(金)
		春季／学内※1・一般※3・ 外国人※4・社会人・社会人選抜	1月22日(水)～1月29日(水)	—	—	2月22日(土)	2月26日(水)	2月27日(木)～3月6日(金)
法 学	法 律 学	秋季／学科内※1	8月28日(水)～9月4日(水)	—	—	9月22日(日)	9月25日(水)	9月26日(木)～10月4日(金)
		秋季／ 一般・外国人・社会人	8月28日(水)～9月4日(水)	9月22日(日)	9月22日(日)	9月22日(日)	9月25日(水)	9月26日(木)～10月4日(金)
		春季／学科内※1	1月22日(水)～1月29日(水)	—	—	2月15日(土)	2月19日(水)	2月20日(木)～2月28日(金)
		春季／ 一般・外国人・社会人	1月22日(水)～1月29日(水)	2月15日(土)	2月15日(土)	2月15日(土)	2月19日(水)	2月20日(木)～2月28日(金)
政 治 学	政 治 学	学内※1	10月23日(水)～10月30日(水)	—	—	11月24日(日)	11月27日(水)	11月28日(木)～12月6日(金)
		一般・外国人	10月23日(水)～10月30日(水)	11月24日(日)	—	11月24日(日)	11月27日(水)	11月28日(木)～12月6日(金)
	国際政治学	学内※1	10月23日(水)～10月30日(水)	—	—	11月24日(日)	11月27日(水)	11月28日(木)～12月6日(金)
		秋季／一般・外国人	10月23日(水)～10月30日(水)	11月24日(日)	—	11月24日(日)	11月27日(水)	11月28日(木)～12月6日(金)
		秋季／社会人	10月23日(水)～10月30日(水)	—	—	11月24日(日)	11月27日(水)	11月28日(木)～12月6日(金)
		春季／一般・外国人	1月22日(水)～1月29日(水)	2月22日(土)	—	2月22日(土)	2月26日(水)	2月27日(木)～3月6日(金)
		春季／社会人	1月22日(水)～1月29日(水)	—	—	2月22日(土)	2月26日(水)	2月27日(木)～3月6日(金)

※1／推薦枠、学内、学科内、学部内入試ご出願の方は大学院HP(http://www.hosei.ac.jp/gs/nyushi/yoko/gakunai_yoko/index.html)で詳細をご確認ください。

※2／14条特例を希望する方は、出願締切の1か月前までに大学院事務部に連絡する必要があります。

※3／春季・一般入試は筆記試験を実施しない代わりに英語能力に関する証明書、経済学検定試験に関する証明書の提出を求めます。

※4／春季・外国人入試は筆記試験を実施しない代わりに日本語能力に関する証明書、経済学検定試験に関する証明書の提出を求めます。

研究科	専攻	入試経路	出願期間	筆記試験日	一次合格発表日	口述試験日	最終合格発表日	入学手続期間
社 会 学	社 会 学	学内※1	10月2日(水)～10月9日(水)	—	—	10月29日(火)	11月6日(水)	11月7日(木)～11月15日(金)
		秋季／ 一般・外国人・社会人	8月28日(水)～9月4日(水)	9月22日(日)	9月22日(日)	9月22日(日)	9月25日(水)	9月26日(木)～10月4日(金)
		春季／ 一般・外国人・社会人	1月1日(水)～1月8日(水)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月29日(水)	1月30日(木)～2月7日(金)
経 営 学	経 営 学	学内※1	10月23日(水)～10月30日(水)	—	—	11月24日(日)	11月27日(水)	11月28日(木)～12月6日(金)
		一般・外国人	10月23日(水)～10月30日(水)	11月17日(日)	11月24日(日)	11月24日(日)	11月27日(水)	11月28日(木)～12月6日(金)
		第1回／社会人	9月4日(水)～9月11日(水)	—	—	10月6日(日)	10月9日(水)	10月10日(木)～10月18日(金)
		第2回／社会人	10月23日(水)～10月30日(水)	—	—	11月24日(日)	11月27日(水)	11月28日(木)～12月6日(金)
		第3回／社会人	1月29日(水)～2月5日(水)	—	—	2月22日(土)	2月26日(水)	2月27日(木)～3月6日(金)
人 間 社 会	福 祉 社 会	学内	6月13日(木)～6月20日(木)	—	—	7月3日(水)	7月12日(金)	8月23日(金)～8月30日(金)
		秋季／一般・社会人 ※5	8月30日(金)～9月6日(金)	9月22日(日)	—	9月22日(日)	10月4日(金)	11月29日(金)～12月6日(金)
		秋季／外国人留学生 ※5	8月23日(金)～8月30日(金)	9月22日(日)	—	9月22日(日)	10月4日(金)	11月29日(金)～12月6日(金)
		春季／一般・社会人 ※5	1月17日(金)～1月24日(金)	2月22日(土)	—	2月22日(土)	2月28日(金)	2月29日(土)～3月7日(土)
		春季／外国人留学生 ※5	1月10日(金)～1月17日(金)	2月22日(土)	—	2月22日(土)	2月28日(金)	2月29日(土)～3月7日(土)
	臨 床 心 理 学	学内	6月13日(木)～6月20日(木)	7月3日(水)	—	7月3日(水)	7月12日(金)	8月23日(金)～8月30日(金)
		秋季／一般※5	8月30日(金)～9月6日(金)	9月22日(日)	9月24日(火)	9月25日(水)	10月4日(金)	11月29日(金)～12月6日(金)
		春季／一般※5	1月17日(金)～1月24日(金)	2月22日(土)	2月24日(月)	2月25日(火)	2月28日(金)	2月29日(土)～3月7日(土)
政 策 創 造	政 策 創 造 ※6	第1回／ 社会人AO・一般	7月29日(月)～8月3日(土)	8月30日(金)	—	8月31日(土)	9月4日(水)	9月4日(水)～9月10日(火)
		第2回／ 社会人AO・一般	10月21日(月)～10月26日(土)	11月9日(土)	—	11月10日(日)	11月13日(水)	11月13日(水)～11月19日(火)
		第3回／ 社会人AO・一般	12月16日(月)～12月21日(土)	1月24日(金)	—	1月25日(土)	1月29日(水)	1月29日(水)～2月4日(火)
		第4回／ 社会人AO・一般	1月27日(月)～2月1日(土)	2月21日(金)	—	2月22日(土)	2月26日(水)	2月26日(水)～3月3日(火)
公 共 政 策	公共政策学 サステイ ナビリティ学	第1回／一般・社会人	9月4日(水)～9月11日(水)	—	—	10月6日(日)	10月9日(水)	10月10日(木)～10月18日(金)
		第2回／一般・社会人	1月22日(水)～1月29日(水)	—	—	2月15日(土)	2月19日(水)	2月20日(木)～2月28日(金)
		第3回／一般・社会人	2月5日(水)～2月12日(水)	—	—	2月29日(土)	3月3日(火)	3月4日(水)～3月12日(木)
キ ャ リ ア デザイン学	キ ャ リ ア デザイン学	秋季／一般	10月30日(水)～11月6日(水)	11月24日(日)	11月24日(日)	11月24日(日)	11月27日(水)	11月28日(木)～12月6日(金)
		春季／一般	2月5日(水)～2月12日(水)	2月29日(土)	2月29日(土)	2月29日(土)	3月3日(火)	3月4日(水)～3月12日(木)
連 帯 社 会 インスティテュート	連 帯 社 会 インスティテュート	秋季／一般・社会人・ 指定団体推薦社会人	10月30日(水)～11月6日(水)	—	—	11月24日(日)	11月27日(水)	11月28日(木)～12月6日(金)
		春季／一般・社会人・ 指定団体推薦社会人	2月5日(水)～2月12日(水)	—	—	2月29日(土)	3月3日(火)	3月4日(水)～3月12日(木)
ス ポ ー ツ 健 康 学	ス ポ ー ツ 健 康 学	学内選抜	8月23日(金)～9月6日(金)	9月19日(木)	—	9月19日(木)	9月26日(木)	9月27日(金)～10月10日(木)
		秋季／一般	10月2日(水)～10月15日(火)	10月27日(日)	—	10月27日(日)	11月7日(木)	11月8日(金)～11月21日(木)
		春季／一般	1月23日(木)～2月6日(木)	2月22日(土)	—	2月22日(土)	3月5日(木)	3月6日(金)～3月13日(金)

※5 / 個別の入学審査の必要書類の提出期限は、出願期間締切日の2ヶ月前(土・日・祝日にあたる場合は翌営業日)必着(また、事前に多摩事務部大学院課人間社会研究科担当に受験資格の確認のための連絡をもらうこととしている)。

※6 / 入試を受ける方は全員出願期間開始前に事前面談が必要。別途、入試要項を確認すること。

研究科	専攻	入試経路	出願期間	筆記 試験日	一次合格 発表日	口述試験日	最終合格 発表日	入学手続期間
情報科学	情報科学	学内推薦※7	5月27日(月)～6月12日(水)	—	—	7月14日(日)	7月18日(木)	11月25日(月)～12月13日(金)
		第1回/ 一般・社会人特別	5月27日(月)～6月12日(水)	7月14日(日)	—	7月14日(日)	7月18日(木)	11月25日(月)～12月13日(金)
		第1回/外国人特別 (9月入学)	4月15日(月)～4月22日(月)	—	—	—	5月27日(月)	5月27日(月)～6月7日(金)
		第2回/ 一般・社会人特別	1月14日(火)～1月24日(金)	—	—	2月18日(火)	2月21日(金)	2月21日(金)～3月2日(月)
		第2回/外国人特別 (4月入学)	10月21日(月)～10月28日(月)	—	—	—	11月29日(金)	11月29日(金)～12月13日(金)
デザイン 工 学	建 築 学	学内特別推薦入試 ※8	6月3日(月)～6月14日(金)	—	—	7月6日(土)※9	7月12日(金)	11月25日(月)～12月13日(金)
		学内推薦※10	6月3日(月)～6月14日(金)	—	—	7月6日(土)	7月12日(金)	11月25日(月)～12月13日(金)
		第1回/一般 ※11※13	6月3日(月)～6月14日(金)	6月29日(土)	—	7月6日(土)	7月12日(金)	11月25日(月)～12月13日(金)
		第1回/社会人特別※13・ 一般推薦	6月3日(月)～6月14日(金)	—	—	7月6日(土)	7月12日(金)	11月25日(月)～12月13日(金)
		第1回/キャリア3年コース 一般入試※13	6月3日(月)～6月14日(金)	6月29日(土)	—	7月6日(土)	7月12日(金)	11月25日(月)～12月13日(金)
		第2回/一般※11※13・ 外国人特別※12	1月15日(水)～1月24日(金)	2月18日(火)	—	2月20日(木)	2月25日(火)	2月25日(火)～3月5日(木)
		第2回/社会人特別 ※13	1月15日(水)～1月24日(金)	—	—	2月20日(木)	2月25日(火)	2月25日(火)～3月5日(木)
		第2回/キャリア3年コース 一般入試※13	1月15日(水)～1月24日(金)	2月18日(火)	—	2月20日(木)	2月25日(火)	2月25日(火)～3月5日(木)
	建 築 学	選抜1年コース 一般入試	6月3日(月)～6月14日(金)	—	6月28日(金)	7月6日(土)	7月12日(金)	11月25日(月)～12月13日(金)
	シ ス テ ム デ ザ イ ン	学内特別推薦入試 ※8	6月3日(月)～6月14日(金)	—	—	—	7月12日(金)	11月25日(月)～12月13日(金)
		学内推薦※16 第1回/社会人特別※15	6月3日(月)～6月14日(金)	—	—	7月6日(土)	7月12日(金)	11月25日(月)～12月13日(金)
		第1回/自己推薦 ※15	6月3日(月)～6月14日(金)	7月6日(土)	—	7月6日(土)	7月12日(金)	11月25日(月)～12月13日(金)
		第2回/自己推薦※15 第1回/一般※15	10月3日(木)～10月11日(金)	10月19日(土)	—	10月19日(土)	10月25日(金)	11月25日(月)～12月13日(金)
		第2回/社会人特別 ※15	10月3日(木)～10月11日(金)	—	—	10月19日(土)	10月25日(金)	11月25日(月)～12月13日(金)
		第2回/一般※15・ 外国人特別※14	1月15日(水)～1月24日(金)	2月20日(木)	—	2月20日(木)	2月25日(火)	2月25日(火)～3月5日(木)
		第3回/社会人特別 ※15	1月15日(水)～1月24日(金)	—	—	2月20日(木)	2月25日(火)	2月25日(火)～3月5日(木)
理 工 学	全 専 攻	学内推薦※17 第1回/社会人特別・ 一般推薦	5月27日(月)～6月12日(水)	—	—	7月7日(日)	7月16日(火)	11月25日(月)～12月13日(金)
		第1回/一般	5月27日(月)～6月12日(水)	7月7日(日)	—	7月7日(日)	7月16日(火)	11月25日(月)～12月13日(金)
		第2回/社会人特別	1月14日(火)～1月24日(金)	—	—	2月18日(火)	2月21日(金)	2月21日(金)～3月2日(月)
		第2回/一般	1月14日(火)～1月24日(金)	2月18日(火)	—	2月18日(火)	2月21日(金)	2月21日(金)～3月2日(月)
		外国人特別	●第1次選考出願期間(書類選考) 11月11日(月)～11月22日(金) ●第2次選考出願期間 1月14日(火)～1月24日(金)	2月18日(火)	—	2月18日(火)	2月21日(金)	2月21日(金)～3月2日(月)

※7 / 学内推薦受験許可申請期間 2019/5/7(火)～5/17(金)、許可者発表日 2019/5/27(月)
 ※8 / 学内特別推薦出願許可申請期間 2019/3/5(火)～3/12日(火)、出願許可者発表 2019/3/22(金)
 ※9 / 口述試験は建築学専攻のみ。
 ※10 / 学内推薦受験許可申請期間 2019/5/7(火)～5/10(金)、受験許可者発表 2019/5/24(金)
 ※11 / 建築学専攻一般入試作品評価型は第1回、第2回共に、筆記試験の同日(第1回:2019/6/29(土)第2回:2020/2/18(火))に「即日設計」・「ポートフォリオ」審査を実施する
 ※12 / 外国人特別入試は事前の第一次審査が必要(出願期間:2019/12/17(火)～12/20(金))
 ※13 / 出願資格により、出願資格審査が必要(2019/5/7(火)～5/10(金)、2019/12/17(火)～12/20(金))
 ※14 / 外国人特別入試は事前の第一次審査が必要(出願期間:2019/12/17(火)～12/20(金))
 ※15 / 出願資格により、出願資格審査が必要(2019/5/7(火)～5/10(金)、2019/9/2(月)～9/6(金)、2019/12/17(火)～12/20(金))
 ※16 / システムデザインは掲示のみ(掲示にてGPA2.5以上と書かれているので、事前資格審査は行わない)
 ※17 / 学内推薦受験許可申請期間 2019/5/7(火)～5/20(月)、許可者発表 2019/5/27(月)

2020 年度入試日程 博士後期課程

研究科	専攻	入試経路	出願期間	筆記試験日	一次合格発表日	口述試験日	最終合格発表日	入学手続期間
人文学	哲学	一般	1月1日(水)～1月10日(金)	1月25日(土)	—	1月25日(土)	1月29日(水)	1月30日(木)～2月7日(金)
	日本文学	一般	1月1日(水)～1月8日(水)	1月24日(金)	1月24日(金)	1月24日(金)	1月29日(水)	1月30日(木)～2月7日(金)
	英文学	一般	1月1日(水)～1月8日(水)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月29日(水)	1月30日(木)～2月7日(金)
	史学	一般・社会人	1月1日(水)～1月10日(金)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月29日(水)	1月30日(木)～2月7日(金)
	地理学	一般	1月1日(水)～1月8日(水)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月29日(水)	1月30日(木)～2月7日(金)
	心理学	一般※1	1月1日(水)～1月8日(水)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月29日(水)	1月30日(木)～2月7日(金)
	国際日本学 インスティテュート	秋季／一般 春季／一般	9月4日(水)～9月11日(水) 1月22日(水)～1月29日(水)	10月6日(日) 2月14日(金)	10月6日(日) 2月15日(土)	10月6日(日) 2月15日(土)	10月9日(水) 2月19日(水)	10月10日(木)～10月18日(金) 2月20日(木)～2月28日(金)
	国際文化	一般・外国人 社会人	1月1日(水)～1月8日(水) 1月1日(水)～1月8日(水)	1月25日(土) —	1月25日(土) —	1月25日(土) 1月25日(土)	1月29日(水) 1月29日(水)	1月30日(木)～2月7日(金) 1月30日(木)～2月7日(金)
経済学	経済学	一般・社会人	1月1日(水)～1月8日(水)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月29日(水)	1月30日(木)～2月7日(金)
法学	法学	一般	1月22日(水)～1月29日(水)	2月15日(土)	2月15日(土)	2月15日(土)	2月19日(水)	2月20日(木)～2月28日(金)
政治学	政治学	一般	10月23日(水)～10月30日(水)	11月24日(日)	—	11月24日(日)	11月27日(水)	11月28日(木)～12月6日(金)
社会学	社会学	一般	1月1日(水)～1月8日(水)	1月25日(土)	1月25日(土)	2月22日(土)	2月26日(水)	2月27日(木)～3月6日(金)
経営学	経営学	一般・社会人	1月22日(水)～1月29日(水)	2月15日(土)	2月15日(土)	2月15日(土)	2月19日(水)	2月20日(木)～2月28日(金)
人間社会	人間福祉※2	春季／一般※2	1月17日(金)～1月24日(金)	2月22日(土)	—	2月22日(土)	2月28日(金)	2月29日(土)～3月7日(土)
政策創造	政策創造 ※3	第1回／社会人AO・一般	7月29日(月)～8月3日(土)	8月30日(金)	—	8月31日(土)	9月4日(水)	9月4日(水)～9月10日(火)
		第2回／社会人AO・一般	10月21日(月)～10月26日(土)	11月9日(土)	—	11月10日(日)	11月13日(水)	11月13日(水)～11月19日(火)
		第3回／社会人AO・一般	12月16日(月)～12月21(土)	1月24日(金)	—	1月25日(土)	1月29日(水)	1月29日(水)～2月4日(火)
		第4回／社会人AO・一般	1月27日(月)～2月1日(土)	2月21日(金)	—	2月22日(土)	2月26日(水)	2月26日(水)～3月3日(火)
公共政策	公共政策学 マシナリビリティ学	一般・社会人	1月22日(水)～1月29日(水)	—	—	2月15日(土)	2月19日(水)	2月20日(木)～2月28日(金)
情報科学	情報科学	第1回／外国人特別(9月入学)	4月15日(月)～4月22日(月)	—	—	—	5月27日(月)	5月27日(月)～6月7日(金)
		学内推薦(9月入学)※4	5月27日(月)～6月12日(水)	—	—	7月14日(日)	7月18日(木)	7月18日(木)～7月31日(水)
		学内推薦(4月入学)※4	5月27日(月)～6月12日(水)	—	—	7月14日(日)	7月18日(木)	11月25日(月)～12月13日(金)
		第1回／一般・社会人特別	5月27日(月)～6月12日(水)	7月14日(日)	—	7月14日(日)	7月18日(木)	11月25日(月)～12月13日(金)
		第2回／外国人特別(4月入学)	10月21日(月)～10月28日(月)	—	—	—	11月29日(金)	11月29日(金)～12月13日(金)
		第2回／一般・社会人特別	1月14日(火)～1月24日(金)	—	—	2月18日(火)	2月21日(金)	2月21日(金)～3月2日(月)
デザイン工	建築学	第1回／学内推薦※5・一般推薦・社会人特別※7	6月3日(月)～6月14日(金)	—	—	7月6日(土)	7月12日(金)	11月25日(月)～12月13日(金)
		第1回／一般※7	6月3日(月)～6月14日(金)	6月29日(土)	—	7月6日(土)	7月12日(金)	11月25日(月)～12月13日(金)
		第2回／学内推薦※5・一般推薦・社会人特別※7	1月15日(水)～1月24日(金)	—	—	2月20日(木)	2月25日(火)	2月25日(火)～3月5日(木)
		第2回／一般※7	1月15日(水)～1月24日(金)	2月18日(火)	—	2月20日(木)	2月25日(火)	2月25日(火)～3月5日(木)
		第1回／自己推薦※8	6月3日(月)～6月14日(金)	7月6日(土)	—	7月6日(土)	7月12日(金)	11月25日(月)～12月13日(金)
	システム デザイン	第1回／社会人特別※8	6月3日(月)～6月14日(金)	—	—	7月6日(土)	7月12日(金)	11月25日(月)～12月13日(金)
		第2回／自己推薦※8・第1回／一般※8	10月3日(水)～10月11日(金)	10月19日(土)	—	10月19日(土)	10月25日(金)	11月25日(月)～12月13日(金)
		第2回／社会人特別※8	10月3日(水)～10月11日(金)	—	—	10月19日(土)	10月25日(金)	11月25日(月)～12月13日(金)
		第2回／一般※8	1月15日(水)～1月24日(金)	2月20日(木)	—	2月20日(木)	2月25日(火)	2月25日(火)～3月5日(木)
		第3回／社会人特別※8・外国人特別※6	1月15日(水)～1月24日(金)	—	—	2月20日(木)	2月25日(火)	2月25日(火)～3月5日(木)
理工学	全専攻	第1回／学内推薦※9・一般推薦・社会人特別	5月27日(月)～6月12日(水)	—	—	7月7日(日)	7月16日(火)	11月25日(月)～12月13日(金)
		第1回／一般	5月27日(月)～6月12日(水)	7月7日(日)	—	7月7日(日)	7月16日(火)	11月25日(月)～12月13日(金)
		第2回／学内推薦※10・一般推薦・社会人特別	1月14日(火)～1月24日(金)	—	—	2月18日(火)	2月21日(金)	2月21日(金)～3月2日(月)
		第2回／一般	1月14日(火)～1月24日(金)	2月18日(火)	—	2月18日(火)	2月21日(金)	2月21日(金)～3月2日(月)
		外国人特別	●第1次選考出願期間(書類選考) 11月11日(月)～11月22日(金)	—	—	—	—	—
			●第2次選考出願期間 1月14日(火)～1月24日(金)	—	—	2月18日(火)	2月21日(金)	2月21日(金)～3月2日(月)

- ※1 / 14条特例を希望する方は、出願締切の1ヶ月前までに大学院事務部に連絡する必要があります。
- ※2 / 個別の入学審査の必要書類の提出期限は、出願期間締切日の2ヶ月前(土・日・祝日にあたる場合は翌営業日)必着。(また、事前に多摩事務部大学院課人間社会研究科担当に受験資格の確認のための連絡をもらうこととしている)
- ※3 / 入試を受ける方は全員出願期間開始前に事前面談が必要。別途、入試要項を確認すること。
- ※4 / 学内推薦受験許可申請期間 2019/5/7(火)～5/17(金)、許可者発表日 2019/5/27(月)
- ※5 / 学内推薦受験許可申請期間(2019/5/7(火)～5/10(金)、受験許可者発表 2019/5/24(金)、2019/11/21(木)～2020/1/8(水)、受験許可者発表 2020/1/10(金))

- ※6 / 外国人特別入試は事前の第一次審査が必要(出願期間:2019/12/17(火)～12/20(金))
- ※7 / 出願資格により、出願資格審査が必要(2019/5/7(火)～5/10(金)、2019/12/17(火)～12/20(金))
- ※8 / 出願資格により、出願資格審査が必要(2019/5/7(火)～5/10(金)、2019/9/2(月)～9/6(金)、2019/12/17(火)～12/20(金))
- ※9 / 第1回:学内推薦受験許可申請期間 2019/5/7(火)～5/20(月)、許可者発表 2019/5/27(月)
- ※10 / 第2回:学内推薦受験許可申請期間 2019/11/14(木)～11/25(月)、許可者発表 2019/12/23(月)

2020 年度入試日程 研修生

研究科	専攻	入試経路	出願期間	筆記試験日	一次合格発表日	口述試験日	最終合格発表日	入学手続期間
人文学	哲学	研修生	1月1日(水)～1月10日(金)	1月25日(土)	—	1月25日(土)	1月29日(水)	1月30日(木)～2月7日(金)
	日本文学	研修生	1月1日(水)～1月8日(水)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月29日(水)	1月30日(木)～2月7日(金)
	英文学	研修生	1月1日(水)～1月8日(水)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月29日(水)	1月30日(木)～2月7日(金)
	史学	研修生	1月1日(水)～1月10日(金)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月29日(水)	1月30日(木)～2月7日(金)
	地理学	研修生	1月1日(水)～1月8日(水)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月29日(水)	1月30日(木)～2月7日(金)
	心理学	研修生	1月1日(水)～1月8日(水)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月29日(水)	1月30日(木)～2月7日(金)
	国際日本学 インスティテュート	研修生	1月22日(水)～1月29日(水)	—	—	2月15日(土)	2月19日(水)	2月20日(木)～2月28日(金)
	国際文化	研修生	1月1日(水)～1月8日(水)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月29日(水)	1月30日(木)～2月7日(金)
経済学	経済学	研修生	1月22日(水)～1月29日(水)	—	—	2月22日(土)	2月26日(水)	2月27日(木)～3月6日(金)
法学	法学	秋季・研修生	8月28日(水)～9月4日(水)	9月22日(日)	9月22日(日)	9月22日(日)	9月25日(水)	9月26日(木)～10月4日(金)
		春季・研修生	1月22日(水)～1月29日(水)	2月15日(土)	2月15日(土)	2月15日(土)	2月19日(水)	2月20日(木)～2月28日(金)
政治学	政治学	研修生	10月23日(水)～10月30日(水)	11月24日(日)	—	11月24日(日)	11月27日(水)	11月28日(木)～12月6日(金)
	国際政治学	秋季・研修生	10月23日(水)～10月30日(水)	11月24日(日)	—	11月24日(日)	11月27日(水)	11月28日(木)～12月6日(金)
		春季・研修生	1月22日(水)～1月29日(水)	2月22日(土)	—	2月22日(土)	2月26日(水)	2月27日(木)～3月6日(金)
社会学	社会学	研修生	1月1日(水)～1月8日(水)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月25日(土)	1月29日(水)	1月30日(木)～2月7日(金)
経営学	経営学	研修生	10月23日(水)～10月30日(水)	11月24日(日)	—	11月24日(日)	11月27日(水)	11月28日(木)～12月6日(金)
人間社会※1	福祉社会	春季	1月10日(金)～1月17日(金)	2月22日(土)	—	2月22日(土)	2月28日(金)	2月29日(土)～3月7日(土)
デザイン工学※2	全専攻	研修生	2月25日(火)～2月28日(金)	—	—	3月5日(木)	3月9日(月)	3月9日(月)～3月13日(金)
理工学	全専攻	研修生	2月17日(月)～2月22日(土)	3月6日(金)	—	3月6日(金)	3月10日(火)	3月10日(火)～3月16日(月)

- ※1 / 個別の入学審査の必要書類の提出期限は、出願期間締切日の2ヶ月前(土・日・祝日にあたる場合は翌営業日)必着。(また、事前に多摩事務部大学院課人間社会研究科担当に受験資格の確認のための連絡をもらうこととしている)
- ※2 / 出願資格審査 2019/12/17(火)～12/20(金)、結果発表 1月上旬を予定

入試結果

2019年度入試結果

注1：下段は外国籍の学生で、内数。 注2：博士後期課程の一般には学内入試・外国人入試を含む。

注3：協定による外国人入試および上海外国語大学とのダブル・ディグリー・プログラム、博士論文研究基礎力審査(QE)による入学者は含まない。

注4：秋季入学者(2018年9月入学)向け入試を含む。 注5：総合理工学インスティテュート(IIST)の一般には指定校推薦入試を含む。

研究科	専攻／ インスティテュート	修士課程										博士後期課程					
		志願者					合格者					志願者			合格者		
		学内	一般	外国人	社会人	計	学内	一般	外国人	社会人	計	一般	社会人	計	一般	社会人	計
人 文 科 学	哲 学		10		5	15 (0)		7		4	11 (0)	1		1 (0)			0 (0)
	日 本 文 学		8	28 (28)	5	41 (28)		6	4 (4)	3	13 (4)	5		5 (3)	4		4 (2)
	英 文 学		2		2	4 (0)		2		2	4 (0)	2		2 (0)	2		2 (0)
	史 学		7 (1)		8	15 (1)		5		5	10 (0)		3	3 (0)		3	3 (0)
	地 理 学		7 (1)		3	10 (1)		6 (1)		2	8 (1)	3 (1)		3 (1)	3 (1)		3 (1)
	心 理 学	2	29 (4)			31 (4)	2	8			10 (0)	2		2 (0)	1		1 (0)
	小 計	2 (0)	63 (6)	28 (28)	23 (0)	116 (34)	2 (0)	34 (4)	4 (0)	16 (0)	56 (5)	13 (4)	3 (0)	16 (4)	10 (3)	3 (0)	13 (3)
	国際日本学 インスティテュート		2 (1)	59 (59)	7 (1)	68 (61)		2 (1)	14 (14)	2	18 (15)	6 (5)		6 (5)	4 (3)		4 (3)
国際文化	国際文化	2	9 (3)	13 (13)	4	28 (16)	1	2	7 (7)	3	13 (7)	1	1	2 (0)	1		1 (0)
経 済 学	経 済 学		32 (31)	119 (119)	4	155 (150)		6 (5)	15 (15)	3	24 (20)			0 (0)			0 (0)
法 学	法 律 学	6	2 (1)	37 (37)	3	48 (38)	6		4 (4)	2	12 (4)	3 (1)		3 (1)	2		2 (0)
政 治 学	政 治 学	1	3	3 (3)		7 (3)		2			2 (0)			0 (0)			0 (0)
	国際政治学	2 (1)	4 (2)	12 (12)	2 (1)	20 (16)	1		4 (4)	1	6 (4)						
	小 計	3 (1)	7 (2)	15 (15)	2 (1)	27 (19)	1 (0)	2 (0)	4 (4)	1 (0)	8 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
社 会 学	社 会 学	1	15 (9)	94 (94)	3	113 (103)		1	6 (6)	1	8 (6)	9 (6)		9 (6)	2		2 (0)
経 営 学	経 営 学	1	63 (63)	9 (9)	50 (4)	123 (76)		9 (9)	1 (1)	34 (3)	44 (13)	3 (2)	8	11 (2)		4	4 (0)
人 間 社 会	福 祉 社 会	2	2 (2)	8 (8)	6	18 (10)	2	1 (1)	3 (3)	2	8 (4)						
	臨床心理学	21	51 (4)			72 (4)	8	11			19 (0)						
	人 間 福 祉											1		1 (0)			0 (0)
	小 計	23 (0)	53 (6)	8 (8)	6 (0)	90 (14)	10 (0)	12 (1)	3 (3)	2 (0)	27 (4)	1 (0)		1 (0)	0 (0)		0 (0)
政 策 創 造	政 策 創 造		107 (96)		32 (2)	139 (98)			34 (24)	26	60 (24)	1 (1)	9	10 (1)	1 (1)	7	8 (1)
公 共 政 策	公 共 政 策 学		18 (11)		10 (1)	28 (12)		5		7 (1)	12 (1)	1	10	11 (0)		4	4 (0)
	サステナビリティ学		8 (7)		12 (7)	20 (7)		2 (1)		10	12 (1)	1	7	8 (0)		5	5 (0)
	小 計	0 (0)	26 (18)	0 (0)	22 (1)	48 (19)	0 (0)	7 (1)	0 (0)	17 (1)	24 (2)	2 (0)	17 (0)	19 (0)	0 (0)	9 (0)	9 (0)
キャリアデザイン学	キャリアデザイン学		31 (3)			31 (3)		20			20 (0)						
連 帯 社 会 インスティテュート	連 帯 社 会 インスティテュート		1		8	9 (0)		1		8	9 (0)						
スポーツ健康学	スポーツ健康学	5 (0)	6 (3)			11 (3)	5 (0)	4 (2)			9 (2)						
情 報 科 学	情 報 科 学	16	5 (1)			22 (1)	15	3 (1)			19 (1)			0 (0)			0 (0)
デ ザ イ ン 学	建 築 学	30 (1)	43 (6)	10 (10)	2 (1)	85 (18)	30 (1)	34 (6)	4 (4)	2 (1)	70 (12)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)
	都 市 環 境 デザイン工学	18 (0)	6 (0)	3 (3)	0 (0)	27 (3)	18 (0)	4 (0)	1 (1)	0 (0)	23 (1)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)
	システムデザイン	7 (1)	13 (0)	1 (1)	0 (0)	21 (2)	7 (1)	13 (0)	1 (1)	0 (0)	21 (2)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	小 計	55 (2)	62 (6)	14 (14)	2 (1)	133 (23)	55 (2)	51 (6)	6 (6)	2 (1)	114 (15)	2 (0)	2 (0)	4 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)
	機 械 工 学	20 (4)	26 (4)	1 (1)		47 (5)	20 (4)	26			46 (4)	1 (0)		1 (0)	1		1 (0)
理 工 学	電気電子工学	22 (1)	11			33 (1)	22	10			32 (0)	2		2 (0)	2		2 (0)
	応用情報工学	26 (4)	17			43 (4)	26	15 (3)			41 (3)	2		2 (0)	2		2 (0)
	システム理工学	14 (3)	13 (2)	2 (2)	1	30 (5)	14 (3)	12 (2)	2 (2)	1	29 (5)			0 (0)			0 (0)
	応 用 化 学	14 (2)	9 (2)	1 (1)		24 (3)	14	9 (2)			23 (2)			0 (0)			0 (0)
	生 命 機 能 学	3	15 (3)			18 (3)	3	15 (3)			18 (3)	2		2 (0)	2		2 (0)
	小 計	99 (0)	91 (17)	4 (4)	1 (0)	195 (21)	99 (0)	87 (15)	2 (2)	1 (0)	189 (17)	7 (0)	0 (0)	7 (0)	7 (0)	0 (0)	7 (0)
	総合理工学 インスティテュート		12 (12)			12 (12)		12 (12)			12 (12)	3 (3)		3 (3)	3		3 (3)
全 研 究 科 総 計		213 (3)	587 (277)	401 (401)	167 (10)	1368 (691)	194 (2)	287 (77)	67 (67)	118 (5)	666 (151)	51 (22)	40 (0)	91 (22)	31 (10)	24 (0)	55 (10)

進学相談会・公開セミナー

進学相談会

< 2019年度実施日程 > ※都合により変更する場合がありますので事前に必ずHPでご確認ください。

進学相談会を6月下旬から実施いたします。法政大学大学院の全体説明、各研究科の教員による個別相談の二部構成となっております。また、経営学研究科、キャリアデザイン学研究科では個別にセミナーを開催いたします。皆様のご参加をお待ちしています。

開催日	時間	内容	会場 (すべて市ヶ谷キャンパス)
2019年 6月22日(土)	12:00～	全体説明会	富士見ゲート G403教室
	13:00～	経済学研究科を知らう	富士見ゲート G402教室
	13:00～14:30	国際日本学インスティテュート／経済学研究科／政治学研究科(政治学・国際政治学専攻)／公共政策研究科(公共政策学・サステイナビリティ学専攻)／政策創造研究科／人間社会研究科	外濠校舎 薩埵ホール
2019年 7月20日(土)	12:00～	全体説明会	富士見ゲート G402教室
	13:00～14:30	人文科学研究科(哲学・日本文学・英文学・史学・地理学・心理学専攻)／国際日本学インスティテュート／国際文化研究科／法学研究科／政治学研究科(政治学・国際政治学専攻)／社会学研究科／公共政策研究科(公共政策学・サステイナビリティ学専攻)／政策創造研究科／連帯社会インスティテュート／人間社会研究科／スポーツ健康学研究科	外濠校舎 薩埵ホール
	13:30～17:00	経営学研究科 MBAセミナー 13:30～15:10	富士見ゲート G401教室
		15:20～15:50 コース別模擬授業 16:00～17:00 教員による個別相談会	外濠校舎 S602・603教室、他
2019年 10月19日(土)	13:30～17:00	経営学研究科 MBAセミナー 13:30～15:10	富士見ゲート G402教室
		15:20～15:50 コース別模擬授業 16:00～17:00 教員による個別相談会	外濠校舎 S602・603教室、他
	13:30～17:30	キャリアデザイン学研究科 セミナーおよび進学相談会 13:30～16:10 セミナー	富士見ゲート G401教室
		16:30～17:30 教員による個別相談会	
2019年 11月9日(土)	11:15～12:00	国際日本学インスティテュート進学ミニ講演会 「国際日本学へのいざない」(講演会後個別の進学相談も行います)	富士見ゲート G401教室
	12:00～	全体説明会	富士見ゲート G402教室
	13:00～14:30	人文科学研究科(哲学・日本文学・英文学・史学・地理学・心理学専攻)／国際文化研究科／公共政策研究科(公共政策学・サステイナビリティ学専攻)／政策創造研究科／連帯社会インスティテュート／人間社会研究科／デザイン工学研究科	外濠校舎 薩埵ホール
2019年 12月7日(土)	12:00～	全体説明会	富士見ゲート棟 G403教室
	13:00～	経済学研究科を知らう	富士見ゲート棟 G401教室
	13:00～	キャリアデザイン学研究科研究計画書に関する説明会	富士見ゲート棟 G402教室
	13:00～14:30	国際日本学インスティテュート／経済学研究科／法学研究科／社会学研究科／経営学研究科／キャリアデザイン学研究科／公共政策研究科(公共政策学・サステイナビリティ学専攻)／政策創造研究科／連帯社会インスティテュート／スポーツ健康学研究科／人間社会研究科	外濠校舎 薩埵ホール

公開セミナー

知の社会還元および社会に開かれた大学院を目指して、毎年各種の公開講座・シンポジウム・セミナーなどを開催しています。
※本年度の予定は順次HPに掲載いたしますのでご確認ください。皆様のご参加をお待ちしています。

<実績>

まちづくりセミナー 2019年度 10月開催予定

1977年から40年以上にわたって続いている伝統あるセミナーです。地域の課題を地域で解決していく取り組みに焦点をあてた企画です。自治体関係者・大学院学生らの根強い支持があり、毎年多くの受講者を集めています。

- 2018年度：縮退時代の都市空間 ひとのつながりと居場所を問いなおすー
- 2017年度：都市縮退時代の郊外を考える
- 2016年度：地域を営営する ー多様な主体によるローカルガバナンスに向けてー

MBAセミナー

- キャリアに役立つ法政大学MBA
- 私が法政大学MBAをオススメする理由
- HBSで何を学び、どう活かすか

キャリアデザイン学研究科セミナー

- 高校・大学・社会をつなぐ

Q&A

Q&A

以下はよくある質問の一例です。詳しくはこちらのURLから「大学院入試に関するQ&A」をご確認ください。
<http://www.hosei.ac.jp/gs/nyushi/faq/index.html>

出願について

Q 出願にあたり「入学後の希望指導教員」やその他の教員に連絡をする必要がありますか。

A. 専攻により異なりますので、入試要項(募集要項)をご確認ください。入試要項に特段の記載がない場合は、事前の連絡や研究室訪問は必要ありません。なお、研究生や科目等履修生への出願を検討されている場合は別途、各研究科担当窓口へお問い合わせください。

Q 私は「留学」の在留資格をもっています。この資格があればすべての専攻に出願が可能ですか。

A. 専攻により入学を認めていない場合があります。詳しくは入試要項をご確認ください。

入学試験について

Q 過去問題集はどのように入手できますか。

A. HP「資料請求」から請求、進学相談会の会場で入手、大学院の窓口で入手の3つの方法で入手できます。専攻により過去問題集を作成していないものもあります。なお、過去問題集は「受験者がいなかった場合」「口述試験のみで筆記試験が実施されなかった場合」には、その問題が掲載されていないのでご注意ください。

Q 秋季入試(もしくは第1回目入試)で不合格でした。この場合、春季入試(もしくは第2回目入試)に出願はできますか。

A. 可能です。出願期間内に書類をご提出ください。

Q 秋季入試(もしくは第1回目入試)で多数の合格者がいた場合、春季入試(もしくは第2回目入試)を実施しない可能性はありますか。

A. ありません。合格者数にかかわらず、予め定められた入試日程に則って試験を実施します。なお、入試日ごとの募集定員や合格者数の速報値については回答できかねますのでご了承ください。

Q 口述試験とはどのようなものですか。過去問題はありますか。

A. 口述試験の過去問題はありません。なお、口述試験の内容については、各研究科・専攻によって異なります。一人あたりの試験時間が約20分で面接委員が4~5名のケース、専攻の担当教員全員が出席するケース、グループ面接を実施するケース、プレゼンテーションを実施するケースなど、内容はさまざまです。

Q 研修生との併願制度とはどのようなものですか。

A. 修士課程入試で不合格になった方を対象に、修士課程入試結果を使って、同時に研修生としての合否判定を行う制度です(出願時の申請が必要です)。合格の場合、研修生として1年間、在籍することができます。※志望する研究科・専攻に併願制度があるかどうかは、必ず入試要項をご確認ください(全専攻で実施しているわけではありません)。

学業・学生生活について

Q 授業はすべて日本語で行われますか。

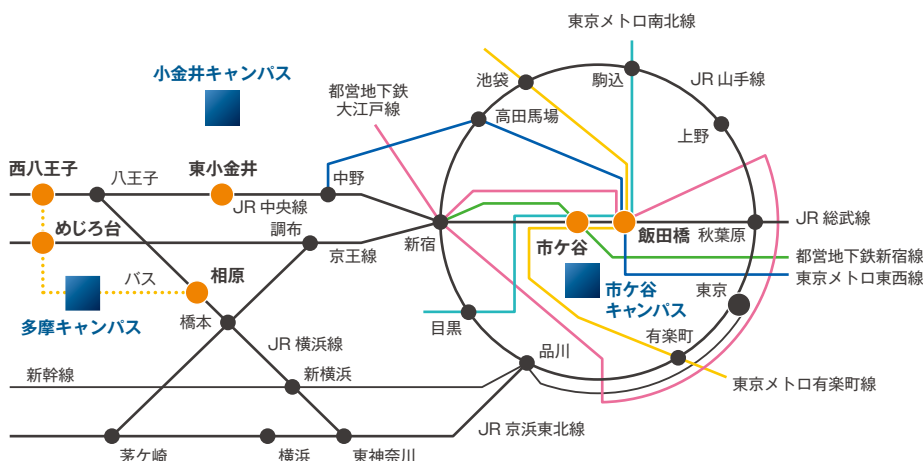
A. 原則としてすべて日本語で行います。入学試験の際には日本語能力を示す証明書の提出、筆記試験、面接などで、日本語の能力を判断することがあります。

※サステイナビリティ専攻博士後期課程Global Sustainability Program、情報科学研究科ダブルディグリープログラム、総合理工学インスティテュート(IIST)、専門職大学院イノベーション・マネジメント専攻Global MBA Programを除く。

Q 外国人ですが、「留学ビザ」の取得について教えてください。

A. 入学試験に合格し入学手続が完了した方に、入学許可書を発行します。その後の「留学ビザ」取得手続きは原則としてすべて個人で行っていただきます。詳細は入国管理局で確認してください。

■ キャンパス交通案内



最寄り駅のご案内

市ヶ谷キャンパス

JR総武線・東京メトロ/
市ヶ谷駅または飯田橋駅から徒歩約10分

多摩キャンパス

京王線/めじろ台駅からバスで約10分
JR中央線/西八王子駅からバスで約22分
JR横浜線/相原駅からバスで約13分

小金井キャンパス

JR中央線/東小金井駅から徒歩約15分

資料請求・問い合わせ先

【市ヶ谷キャンパス】

人文科学研究科・国際文化研究科
経済学研究科・法学研究科
政治学研究科・社会学研究科
経営学研究科・公共政策研究科
キャリアデザイン学研究科
連帯社会インスティテュート

大学院事務部 大学院課
〒162-0843 東京都新宿区市谷田町2-15-2
TEL:03-6228-0551/FAX:03-6228-0555
E-mail:i.hgs@ml.hosei.ac.jp

政策創造研究科

大学院事務部 大学院課
政策創造研究科担当
〒102-0073 東京都千代田区九段北3-3-9
TEL:03-3264-6630/FAX:03-3264-3990
E-mail:rpd-j@hosei.ac.jp

デザイン工学研究科

大学院事務部 大学院課
デザイン工学研究科担当
〒162-0843 東京都新宿区市谷田町2-33
TEL:03-6228-1429/FAX:03-6228-3491
E-mail:jed@hosei.ac.jp

【多摩キャンパス】

人間社会研究科

多摩事務部 大学院課 人間社会研究科担当
〒194-0298 東京都町田市相原町4342
TEL:042-783-4047/FAX:042-783-2908
E-mail:fukushi@hosei.ac.jp

スポーツ健康学研究科

多摩事務部 大学院課 スポーツ健康学研究科担当
〒194-0298 東京都町田市相原町4342
TEL:042-783-3003/FAX:042-783-3009
E-mail:sports@hosei.ac.jp

【小金井キャンパス】

情報科学研究科・理工学研究科 総合理工学インスティテュート(IIST)

小金井事務部 大学院課
〒184-8584 東京都小金井市観野町3-7-2
TEL:042-387-6014/FAX:042-387-6048
E-mail:hge@hosei.ac.jp

【専門職大学院】

法務研究科

大学院事務部 専門職大学院課
法科大学院担当
〒102-0073 東京都千代田区九段北3-3-12
TEL:03-3264-9928/FAX:03-3264-9885

イノベーション・マネジメント研究科

大学院事務部 専門職大学院課
イノベーション・マネジメント専攻担当
〒102-0073 東京都千代田区九段北3-3-9
TEL:03-3264-4341/FAX:03-3264-3990

入試要項・過去問題集は無料です。ご請求は大学院HPの資料請求フォームからお申し込みください。

<http://www.hosei.ac.jp/gs/>

HPをご覧いただけない方は、それぞれの研究科担当へお問い合わせ願います。